徳島県バドミントン協会

60周年記念誌

C O N T E N T S

ごあいさつ

ご 挨 拶 徳島県バドミントン協会 会長 西 野 昌 明 …… 1
祝　　辞 日本バドミントン協会 会長 綿 貫 民 輔 …… 2
祝　　辞 徳島県知事 飯 泉 嘉 門 …… 3
祝　　辞 徳島県教育委員会 教育長 佐 野 義 行 …… 4
歴代会長 …… 5
歴代理事長 …… 6

県協会の歩み

昭和30年代～40年代 …… 9
昭和50年代 …… 10
昭和60年代～平成25年 …… 12
表彰 …… 14

発刊によせて

バドミントンと私 徳島県バドミントン協会 顧問 新 見 泰 志 …… 17
シャトルと出合い60年 徳島県バドミントン協会参与 吉 田 泰 造 …… 18
私のバドミントン今昔―昔の日の思い出と最近感じること― 牛 川　　務 …… 20
60周年記念誌に寄せて 西 野 昌 明 …… 21
"東四国国体回顧録" 参与 牛 川　　務・副会長 河 野 幸 男 …… 24
ゼロからのスタート 元阿波農業高等学校バドミントン部 顧問 大 野 利 春 …… 26
徳島県バドミントン協会60周年によせて～中体連専門部より～ 八万中学校 伊 藤 浩 二 …… 28
あの日の感動を忘れない 富田中学校教諭 大 阪 真智子 …… 30
「藍住エンジェルスポーツ少年団の歴史、育て方、今後の抱負等について」
藍住エンジェルスポーツ少年団 監督 藤 本　　伸 …… 32
前だけを向いて 阪急電鉄㈱ 大 阪 あ や …… 34
私とバドミントン 日本ユニシス 松 友 美佐紀 …… 35
私とバドミントン 立命館大学 水 口 恭 兵 …… 36
一生忘れる事が出来ない新潟ときめき国体(4位入賞) 鳴門病院 宮 崎 友 望 …… 37

各団体の歩み

徳島市バドミントン協会の歩み 徳島市バドミントン協会 理事長 輝 尾 明 人 …… 39
鳴門市バドミントン協会の歩み 鳴門市バドミントン協会 理事長 戸 崎　　義 …… 41
阿南市バドミントン協会の経緯 阿南市協会副会長 江 川 正 治 …… 43
徳島県実業団連盟の歩み 会長 久次米 慶 二 …… 45
徳島県レディースバドミントン連盟の歩み レディース連盟理事長 高 田 由紀江 …… 47
徳島県高体連専門部のあゆみ
徳島県高等学校体育連盟バドミントン専門部 副委員長 岡佐古 拓 也(城東高等学校) …… 48
徳島県中学校体育連盟バドミントン専門部の歩み 富田中学校教諭 大 阪 真智子 …… 49
徳島県小学生バドミントン連盟の歩み 徳島県小学生バドミントン連盟 加 藤 真 人 …… 54

その他

クラブ紹介 …… 57
過去の大会成績 …… 95
徳島県バドミントン協会 規約 …… 169
徳島県バドミントン協会役員名簿 …… 171
編集後記

徳島県バドミントン協会創立50周年記念式典・祝賀会

（平成16年５月26日：徳島プリンスホテル）



西谷会長のあいさつ



遠井　日本バドミントン協会専務理事の祝辞



特別功労賞受賞者（敬称略）
左より　小椋　貞和
平岡　壽泰
江川　正治
吉田　栄助
森　茂行
仲澤　俊代



120名出席
祝賀ムードいっぱいの会場

徳島県バドミントン協会創立60周年記念式典・祝賀会

（平成26年３月１日：徳島グランヴィリオホテル）



西野会長のあいさつ



佐野　徳島県教育長の祝辞

【受賞者】

感謝状（日本バドミントン協会）

西野　昌明、藤本　孝彰、吉田　泰造

特別功労賞

藤本　孝彰、新見　泰志、吉田　泰造

功労賞

大野　利春、寺内　智子

団体賞

徳島県少年女子、徳島中学校、
藍住エンジェルスポーツ少年団　他



会場風景

全国で活躍するジュニア、中学生



徳島中学校
平成13年度 第31回全国中学校大会 女子団体 準優勝



徳島中学校
平成14年度 第32回全国中学校大会 女子団体 準優勝



徳島中学校
平成15年度 第33回全国中学校大会 女子団体 準優勝



大阪 あや(徳島中学校)
平成15年度 第33回全国中学校大会
女子単 優勝



松友美佐紀(徳島中学校)
平成18年度 第36回全国中学校大会
女子単 優勝

その他
平成15年度 第17回全国小学生バドミントン選手権大会
6年生以下 単 優勝 他
平成17年度 第24回全日本ジュニア選手権大会
新人の部 女子単 優勝

中学生の活躍



徳島中学校
平成18年度
第36回全国中学校大会
女子団体 優勝

小・中・高生の活躍



徳島県女子代表
平成15年度
第2回日本バドミントン
ジュニアグランプリ
女子団体 優勝



徳島県女子チーム
平成21年度 第64回国民体育大会
第４位

小学生の活躍



平成13年度
第17回若葉カップ全国小学生大会
女子の部 優勝
藍住エンジェル



平成15年度
第19回若葉カップ全国小学生大会
女子の部 優勝
藍住エンジェル



平成26年度
第16回全国小学生ABC大会
女子Cグループ 優勝
樋口吹羽（藍住エンジェル）

国際大会

■ 第27回 日韓戦 徳島大会

（平成22年５月30日）



開始式風景



観客席風景



活躍する高橋選手（左）、松友選手（右）



開場を待つ行列

海外遠征

■ 中国広東省 東莞市遠征の中・高生

（平成21年12月28日～22年１月２日）





全国大会の開催





平成12年11月 第17回全日本シニアバドミントン選手権大会
三宅 日本バドミントン協会副会長のあいさつ





頑張る 徳島県選手



平成９年11月
バドミントン日本リーグ徳島大会



平成14年12月
バドミントン日本リーグ徳島大会



平成17年９月
第24回全日本ジュニアバドミントン選手権大会



平成20年12月
バドミントン日本リーグ徳島大会

ご 挨 拶



徳島県バドミントン協会 会長

西 野 昌 明

徳島県バドミントン協会は昭和30年、全国で43番目に創立されました。

先に創立30年誌を発刊しておりますが、60年という節目に記念誌を刊行出来ることは誠に意義深く、この時に会長職にあります事を大変光栄に思っております。

スタート以来競技レベルや運営態勢で牛歩にも似たスローペースで推移して来ましたが、歴代会長、理事長はじめ多くの役員、会員の努力により近年は順調に発展してまいりました。また、日頃何かとご指導いただいております公益財団法人日本バドミントン協会、徳島県教育委員会、公益財団法人徳島県体育協会をはじめとする多くの方々に厚く御礼申し上げます。

競技人口や指導者の大変少ない本県ですが、小・中・高の流れがスムーズに行き、全国小学生バドミントン選手権大会や全国中学校バドミントン大会等々ではジュニア女子の頑張りで、優勝、準優勝も飾れるようになりました。その他長年参加するだけであった国民体育大会では平成21年度に少年女子が第４位入賞と夢のような結果が出ております。また、徳島県出身の女子選手が現在日本のトップレベルのプレイヤーとしても活躍しており誠に頼もしい限りです。

今後も役員一同バドミントン人口の増加、普及や競技力向上を地道に進めてまいりますので、関係各位の一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに本誌発刊にご尽力くださいました多くの関係者の方々に対しまして深甚なる感謝の気持ちを込めてご挨拶といたします。

祝　　辞



日本バドミントン協会 会長
綿貫 民輔

徳島県バドミントン協会が、この度創立60周年を迎えられたこと、誠におめでとうございます。

貴協会が60年にわたり、選手の育成・強化、並びにバドミントン競技の普及に努力され、今日の成果を挙げられましたことは、会員一同の皆様におかれまして感慨無量のことであろうとご推察いたします。

また、この期に数々の記念行事の一環として、60年誌の刊行をみるに至りましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴協会が昭和30年に創立されて以来、役員各位と会員の皆様が心を一つにして、幾多の困難と障害を克服し、今日の確固たる基盤を築かれ、今や会員数が1600名を超え、全国的にも有数の協会に成長されましたことは、誠に喜ばしい限りと存じます。

また、創立から今日まで営々として、バドミントンの普及発展に類い希なる情熱を傾け、限りないご尽力をなされました役員各位に対しまして深く敬意を表するものであります。

申すまでもなく、日本バドミントン協会の発展は、都道府県協会の充実、発展がその礎であり、貴協会の今日までの輝かしい60年の歴史は、誠に意義深く、本協会としても感謝にたえないところであります。

今後も、60周年を一つの節目として、さらなる底辺の拡大、組織の充実などに努められ、学校スポーツから一般スポーツに至るまで、バドミントン競技が幅広く徳島の地で強化、普及され、貴協会が日本のバドミントン界のリーダー的存在として、ますますご躍進されますことを、心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

祝　　辞



徳島県知事

飯泉　嘉門

このたび、徳島県バドミントン協会におかれましては、栄えある創立60周年を迎えられ、その記念誌が発刊されますことを心からお慶び申し上げます。

貴協会は、昭和30年の創立以来、半世紀余りという永きにわたり、会員相互の固い結束のもと、各種大会や競技会の開催などを通じて、バドミントン競技の普及・発展はもとより、県民の皆様の体力向上や本県のスポーツ振興に、多大なご貢献をいただいております。

また近年は、ジュニアからの一環した競技力向上に努められ、全国大会において非常に優秀な成績を収める選手を輩出するなど、その指導方針や育成体制は、県内外から注目を集めているところであります。

これもひとえに、歴代会長並びに役員の方々をはじめ、会員の皆様のご熱意と不断のご尽力の賜と、改めて深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、近年、余暇時間の増大や高齢化の一層の進行等に伴い、県民の皆様のスポーツに対する関心は、より一層高まっており、特に年齢や性別を問わずに楽しめ、また、私たちの生活の中に深くとけ込み、多くの皆様に親しまれているバドミントン競技に対する期待は、ますます大きくなってきております。

こうした中、本県では、県政運営の指針である「いけるよ！徳島・行動計画」におきまして、県民の皆様に、自らの生活や生きがいを重視し、健康で豊かな生活をお送りいただくよう、「スポーツ王国とくしまづくり」を重点施策に掲げ、年齢や体力に応じて身近にスポーツを楽しめる生涯スポーツ社会づくりや、スポーツを通じた活力ある地域づくりを積極的に推進しているところであります。

どうか、貴協会におかれましては、このたびの佳節を契機とされまして、更に活発にご活動いただき、本県におけるバドミントンの競技力向上や、一層の振興を図られますとともに、明るく活力に満ちた生涯スポーツ社会の実現のため、これまで以上にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びといたしまして、徳島県バドミントン協会の更なるご発展と、会員の皆様の今後ますますのご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

祝　　辞



徳島県教育委員会教育長

佐野　義行

このたび徳島県バドミントン協会が創立60周年を迎えられ、その記念誌が発刊されますことを心からお喜び申し上げます。

貴協会は、昭和30年に設立され、バドミントン競技の普及発展はもとより、徳島県の学校体育や競技スポーツの充実に大きく貢献してこられました。これまでお世話いただいた歴代役員をはじめ会員の皆様の御努力に対しまして、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

学校体育の分野においては、平成18年８月には第36回全国中学校バドミントン大会の徳島開催に御尽力をいただき、その競技会運営が全国的にも高く評価されるとともに、この大会では、徳島中学校が女子団体で、松友美佐紀（徳島中）さんが個人シングルスで優勝する快挙を達成し、県民のバドミントン競技への注目度がこれまで以上に大きくなりました。

また、高等学校でも、競技力向上スポーツ指定校である城東高等学校女子バドミントン部の近年の活躍は目覚ましく、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）で平成19年度から４年連続ベスト16、平成21年度国民体育大会（新潟国体）では、同校選手で編成した少年女子チームが４位入賞を果たすなど、競技力の面においても徳島県スポーツの牽引役を果たしてこられました。

平成18年度に開始した「競技力向上スポーツ指定校事業」は、全国大会での上位入賞を増やすなど、成果を踏まえて、より高いレベルで競技力向上をめざす事業の展開に向け、鋭意努力しているところです。また、平成24年度から中学校で、平成25年度から高等学校で実施される新しい学習指導要領においても、部活動の意義が明確に示されたところであり、貴協会におかれましては、今後とも本県の学校体育・スポーツの振興に御尽力いただきますようお願い申し上げる次第です。

貴協会では、これまでもジュニアから成人に至る各年齢層において競技普及や競技力向上に計画的に取り組まれ、そのシステムづくりは他の競技団体の模範となってきたところです。

徳島県におきましても、平成20年度から、県教育委員会と文化スポーツ立県局県民スポーツ課が連携しながら、より専門性を発揮することにより、「学校における体育・スポーツ」「競技スポーツ」「生涯スポーツ」の各事業の活性化に向けて取り組んでおり、特に、競技力向上については、校種による切れ目のない一貫指導を基本的理念として、各種事業を推進しているところであり、今後一層各競技団体の自律的な活動を支援してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、記念誌発刊を契機とした、徳島県バドミントン協会の今後ますますの御発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

歴代会長



初代
藤井二男
昭和30年～昭和52年3月



2代
内藤　健
昭和52年4月～昭和55年3月



3代
黒川　勉
昭和55年4月～平成元年3月



4代
西谷　功
平成元年4月～平成17年3月



5代
西野昌明
平成17年4月～現在

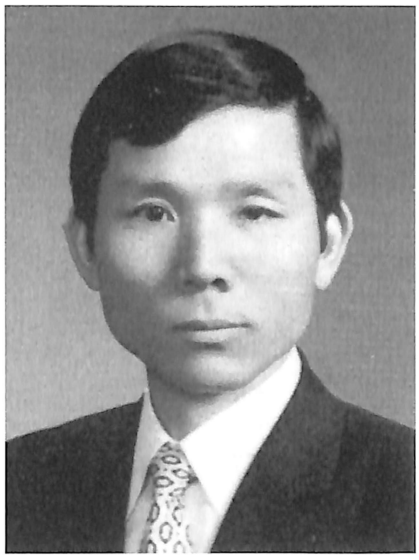
歴代理事長



初代
大西正義
昭和30年～昭和33年3月



2代
新見泰志
昭和33年4月～昭和53年3月



3代
富田善明
昭和53年4月～平成元年3月



4代
西野昌明
平成元年4月1日～平成16年3月31日

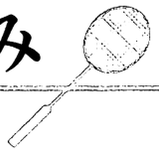


5代
河野幸男
平成16年4月1日～平成21年3月



6代
杉内邦弘
平成21年4月～現在

県協会の歩み



昭和30年代～40年代

協会創立

本県のバドミントン協会創立は、四国四県は勿論全国でも一番遅い昭和30年４月でした。香川・愛媛・高知の各県は昭和25年迄に県協会を創立しており、昭和28年に国民体育大会バドミントン競技が香川県善通寺市で開催されるので周辺は大いに盛り上がっていた。協会のない本県だけが蚊帳の外でした。こうした状況下、昭和28年に徳島市会議員　藤井二男と徳島市役所国保課長の木下晋が高松市との親善野球大会に出場した際、初めてバドミントンに接した事に始まる。帰県後徳島市役所社会教育課の大西正義と三木恒男に話を持ち込み動き出した。

昭和28年善通寺市で行われた国民体育大会の見学や指導を受けたのち、同年香川県バドミントン協会理事長　佐藤実一を徳島市役所に招いて初めての講習会が行われた。

徳島で初めて行われた大会は県協会創立直前の昭和29年富田小学校の講堂で行われ、徳島市役所、裁判所、徳島大学、助任小学校、貯金局、阿波銀行、日和佐高校のチームが参加した。

県協会創立時のメンバーは、徳島市役所（大西、三木、東条嘉男、中山実太郎）、助任小学校（新見泰志）、阿波銀行（越後禎之、吉田泰造、西野昌明）であり、初代会長　藤井二男、理事長　大西正義でスタートした。会長、理事長以外は全員25才以下、社会的にも未熟な若者の集団であったが遮二無二動きまわった。ただちに県体協に加盟した。尚4年後に新見泰志が理事長を引き継いでいる。

学校地域の動き

（高校） 昭和28年当時富岡西高校の教員　野村淳平、仁木義顕が徳島市役所大西の講習を受けたのが最初で、翌29年日和佐高校に仁木が転勤と同時に同好会、そして創部した。高体連に専門部が出来たのは昭和41年です。専門部長に野村淳平（小松島高校）が就任したが、それまでの長期間仁木一人で県高校界を支え多くの名選手を育てた。その功績は皆様御承知のところです。日和佐中学校にも部を創り、中・高一環体制を築いた事は当時非常に珍しい事でした。退職後も70才半ばまで選手作りに励まれました。

其の他、八万中学時代に力をつけ部活動の無い徳島商業高校進学の森茂行（自営業）は同好の友を集め、顧問の先生を探し同好会を創り、弟森治郎（阿波銀行）が入学し正式の部とした等先輩達は大変なご苦労されている事忘れてはなりません。

（大学） 職場のスポーツとして佐藤信行（徳島大学）は協会創立時から活動していたが、日和佐高校から入学した向井田肇が昭和33年に同好会を創り昭和35年に部に昇格させた。この年に日和佐高校から灘勝が入部、昭和36年には県外から医学部へ鳥巣隆資、福田隆了、谷上安駿らが入部、昭和37年入部の中島幹夫も加わり、昭和44年頃迄は徳大男子バドミントン部の黄金時代であった。鳥巣・中島は県協会運営にも積極的に参加、そして両名共国体選手としても県協会に大きく貢献した。

（阿南市） 昭和33年に阿南市役所の岡久吉隆、長田千鶴子らが職場のチームを作った。昭和36年になって江川正治、中村白が阿南市役所に就職、昭和38年に阿南市バドミントン連盟の発足、昭和45年に阿南市バドミントン協会とした。富岡西高校、富岡東高校の大幅なレベルアップ、そして阿南工業高校、新野高校に部を創ったりと頑張った江川の努力は素晴らしかった。この地域には阿南工業高校から戎野祐二、富岡東高校から超有名選手神野安朗が出ています。

（実業団連盟） 協会創立に関わった者イコール実業団メンバー、昭和31年より阿波銀行、徳島市役所両チームは全国実業団大会に参加していた。県協会が体制作りに躍進一途の昭和38年、新見泰志理事長、越後禎之副理事長は側面から県協会を支える実業団チームの整備を考え、会長　大串博昭（日本資糧工業）理事長　新見匡弘（日本資糧工業）で県実業団連盟を発足させた。然し昭和43年に日本資

糧工業、阿波銀行の主力選手が相次ぎ退職、その上県外に転勤者が出て、昭和55年復活まで休止状態となった。

（中学校） 新見泰志が勤務していた助任小学校は早くからバドミントンの練習場として阿波銀行、徳島市役所チームに体育館を開放していた。いつも話題は早く中学校に専門部を創ろうであった。こうして中学校への働きかけは新見の職場の同僚、小椋貞和が昭和37年徳島中学校に転勤し一気に動いた。小椋は中学校に同好会をただちに創り翌年部に昇格させた。又同窓生であった門田喬（県中体連理事長）に専門部創設を依頼。一方新見は大学の同窓生　山本圭二（小松島中学）そして小川眞澄（八万中学）大西順子（富田中学）田中実（城東中学）、教員以外では川内中学に部を創り先生に渡した越後禎之（阿波銀行）が既に活動していた日和佐中学校と共に昭和38年バドミントン専門部とし中体連に加えられた。

（小学校） 昭和39年東京オリンピックを契機にスポーツの早期教育がさけばれる様になり少年に対する各種スポーツがさかんになって来ました。少年スポーツ教室が開かれたり、徳島市内のバドミントン愛好者によって、小学生を対象としたバドミントンクラブが生まれました。津田小学校、福島小学校が県内では最初に組織化した団体として誕生しました。５年後に内町小学校の保護者が子どもの体力づくりの一貫として、学校と関連をもちながら発展して来ました。又、那賀郡上那賀町では小学生の体力づくりとして、男子はサッカー、女子はバドミントンということでスタートしましたが、現在は小学校の統廃合が進みバドミントンが減少しています。

（徳島市） 徳島市バドミントン協会の創立は昭和47年夏、新見泰志理事長の努力で発足、初代会長は県バドミントン協会長と兼任　藤井二男、理事長は大西正義であった。

（其の他）鳴門市協会、家庭婦人連盟（現レディース連盟）は昭和50年代に、小学生連盟は平成スタートで今日に至っております。

協会運営等

常任理事をお願いしたいが年間8,000円を県協会に寄附していただきたい。

この時代苦労した事は、練習場所の確保と、協会の運営資金作りであった。練習場所を探すために小学校や高校へと何度も足を運んだ。しかし、木造で天井の低い体育館ばかりで、バドミントンコートはどこにもない状態であった。そのため学校に手作りの支柱と巻尺を持ってコートを作り、ラインはチョークで引いた。しかも、４年に一度の四国大会運営資金がなく、年令的にも社会的にも未熟な少数の役員が資金集めに企業まわりをしたり、シャトルをメーカーから直接購入することで販売差益が生まれ、それも大きな収入源の一つであった。しかし、運転資金に常時50万円は必要で、この資金は経理担当者が一人で工面していた。昭和35年から以後６年間もの期間続いた。

特筆すべきは、○○さん常任理事をお願いしたいが、年間8,000円を県協会に寄附していただきたいとの勝手な申し出を快諾していただき、その寄附は３年間続けられた。当時、高卒初任給が7,000円前後の時代である。

昭和50年代

高校生の活躍

県協会発足３年目の昭和33年から20年間、２代目理事長として組織作りから小・中・高校のチーム作りと東奔西走していた新見泰志理事長が退き、昭和53年４月に富田善明（城東高校）が理事長を引

き継いだ。理事長が高校教員なので、高校の大会参加校増加に、２代目高校専門部長板東輝雄（小松島西高校）と力を合わせ活動した。勿論最初から参加の仁木義顕（日和佐高校）の力も非常に大きかった。

昭和41年に高体連専門部に加入。男女共々６校でスタートした。昭和59年には、男子参加校が20校を超え、女子参加校を少し上まわった。

対外的な試合、戦績も上昇し、四国高等学校バドミントン選手権大会で、昭和51年に日和佐高校女子チームが団体優勝、個人戦女子ダブルスでも寺上、井口（日和佐高校）が優勝した。四国大会参加24年目のことである。この大会、男子では昭和60年に初めて神野安朗（富岡東高校）がシングルス優勝、準優勝は昭和52年戎野祐二（日和佐高校)、昭和61年に吉岡努（城東高校）となった。

もう一つの四国大会、全国高等学校選抜バドミントン四国予選会が昭和47年に第一回大会としてスタート、昭和58年男子シングルスに浜松栄二（徳島商業高校)、翌59年に神野安朗が夫々優勝した。

神野選手は富岡東高校で初めてラケットを握り、四国大会で優勝しています。福井中学時代バレーのセッターを務めていたというバネは他の選手の追随を許さず観客の目を引きつけた。その後、日本大学に進み、全日本総合選手権大会ダブルス第４位と大活躍しました。神野選手を育てたのは富岡東高校の神崎祥治監督と外部コーチの四宮澄夫（小学校教員）です。四宮先生は日和佐高校時代に仁木義顕先生に指導を受けており、現在まで外部コーチとして頑張っています。

高校生が四国で勝てる様になった原因の一つに社会人の指導があります。

福井県出身で結婚を機に来徳した増金秀行（関西大学)、彼は関西地区No.1選手として有名で、唸る様なスピード感いっぱいのスマッシュを持ち、指導力は抜群で高校生だけでなく、社会人のレベルアップにも貢献した。その他、玉田耕司（京都産業大学)、岡田友一（日本交通公社）が徳島商業高校、城南高校へと熱心に足を運んでいた。

四国の状況では、中学・高校共毎年殆ど香川県が上位を独占していますが、昭和28年の第一回四国高等学校選手権では高知県男子が団体優勝、愛媛県が団体準優勝。女子は優勝香川県、準優勝愛媛県でした。その後、各種目共、殆ど香川県が独占しており、時折り、高知県勢や愛媛県勢が顔を出していました。徳島県だけが蚊帳の外状態です。

その他

（中学校）川内、城東、徳島、八万、日和佐の各中学校を中心として活動していたが、四国で勝ち全国大会にも出場したいとの気概を持った先生方が少なく、社会人も中学生の指導まで考える人もいないため、四国大会は出場しても早々に敗退を繰り返していた。然しこのままでは大変という事で、徳島中学周辺が動き出し着々と手は打っていた。

（小学校）昭和50年代になり、当時の新見泰志理事長が、徳島市内の内町、福島、津田の各小学校及び転勤先の那賀郡山間部の小学校にチームを作りました。特に山間部では小規模校という事で、野球とかバレー等団体競技は人数不足で難しい所に着目。男子は、剣道、女子はバドミントンとして動いていた。最近、山間部の学校は統廃合が進みチーム数が激減している。

（家庭婦人連盟）現レディス連盟は、他県に比べスタートが大変遅れましたが、関係者の努力により昭和57年に山本幸子理事長で発足しました。大会参加者も50人足らずから100人、100人から200人と活発的な活動が印象に残っております。

昭和60年代～平成25年

中学生、小学生が全国大会で優勝

（中学校）四国大会では負けてばかりの徳島県勢を変えなければと、昭和57年に徳島中学校の外部コーチになったのが、当時県協会副理事長の西野昌明です。やがて、平成元年の四国大会女子シングルスで、徳島中学校の中山佐知子（ヤマハ、ベスト電器）が優勝、全国中学校バドミントン大会シングルスで、ベスト８となった。又、最近の四国大会。平成13年から25年の13年間で女子団体優勝８回、準優勝３回、個人戦だけの出場が２回となり、全中出場の常連校となっています。全国大会でも優勝、準優勝していますが、詳細は「あの日の感激を忘れない」「徳島県中学校体育連盟の歩み」大阪真智子。「私とバドミントン」松友美佐紀。「前だけを向いて」大阪あや。等々本書にあるので省略いたします。

（小学校）当時20才半ば、現役選手としてこれからという時に、選手生活を退き、小学生の指導一筋、今日まで頑張っている藤本伸（徳島商業高校・藍住町役場）の貢献度は素晴らしいです。彼は地元藍住町にバドミントンがないので、競技する人が出来、楽しみも知ってもらいたいとの一念から指導者の道に入り、藍住エンジェルスポーツ少年団をスタートさせました。昭和60年に東小学校を対象として親子の指導から始め、10年を過ぎる頃には全町内の小学校にまで幅を拡げレベルアップして行きました。県大会の優勝から全国大会の出場とその間多くの選手を育てています。平成13年と15年に若葉カップ全国小学生大会女子の部で団体優勝、平成15年には全国小学生バドミントン選手権大会女子シングルス優勝松友美佐紀は皆様、御存知の通りです。彼の情熱いっぱいの指導は厳しいものがありますが、基本を大切にし、継続して反復練習を積み重ねています。丁寧な指導者で、ラケットの扱い方、手足の動作と基本十分な選手が多く、いつも感心して見ております。小学生の指導者では、今年82才になっても毎日、助任小学校と内町小学校に顔を出している吉田泰造（小学生連盟副会長）が居ります。阿波銀行を退職後、58才から今日まで温厚な人柄とわかりやすい指導で保護者の信頼も厚く、素晴らしい選手を校区の徳島中学校に送りこんでいます。

少年女子が国民体育大会で第４位

（高等学校）男子は昭和60年に四国高校選手権で優勝して以来ずっと勝てなかった。平成22年になってダブルスで庄野正博、齋藤裕進（徳島商業高校）が準優勝。高校選抜四国予選会で、齋藤選手がシングルス優勝、翌年の四国高校選手権で齋藤選手がシングルス準優勝、団体戦は徳島商業高校準優勝となった。女子は中学校で力をつけた選手が、城東高校に集まり出した。平成３年の四国大会から団体、個人とほぼ毎年準優勝が続き、平成18年には優勝者が出るようになった。この年城東高校女子バドミントンが強化指定校となり、経験豊富な小寺由香先生が顧問に、その後岡佐古拓也先生も赴任、万全の体勢が出来上がった。

四国での優勝・準優勝は数が多いので優勝者のみ抽出しました。

四国高校選手権　団体優勝城東高校（19年、21年、22年）、シングルス優勝　水口愛梨（20年、21年連続）、前里愛子（22年）、ダブルス國安香好、水口愛梨（19年）、水口愛梨、若田美沙（20年、21年連続）、高校選抜四国予選会　シングルス　水口愛梨（19年、20年連続）、ダブルス　松友仁美、久次米佐和子（18年）、水口愛梨、若田美沙（19年、20年）。

特筆すべきは、昭和30年に国民体育大会に初参加、以来殆どが初戦敗退をくり返して来た徳島県ですが、平成21年になって高校生チームが第64回国体で堂々の第４位、競技人口の少ない当県としては夢のような話です。メンバーは監督　杉内邦弘、選手　水口愛梨、若田美沙　宮崎友望です。

城東高校が勝てるようになったのは、以上のような事ですが、外部コーチの杉内邦弘（現協会理事

長）及び息子の杉内一浩（金沢学院大学）の積極的な指導も忘れてはなりません。

（その他）全国大会……平成になってからの全国大会は、平成17年に第24回全日本ジュニアバドミントン選手権大会を、平成18年には第36回全国中学校バドミントン大会を開催しました。この大会では女子団体及びシングルス優勝と徳島中学勢が輝かしい成績を納めました。社会人では平成12年に第17回全日本シニアバドミントン大会の開催、平成９年、14年、20年、23年と日本リーグの開催。国際大会……平成20年、22年、26年と日韓バドミントン競技徳島大会を開催。特に平成22年の大会では、日本ユニシスチームから松友選手及び人気度No.1の潮田玲子選手が出場したこともあり、バドミントンを見たことない人も来場。超満員の会場を沸かせました。海外遠征……平成24年１月に県内の中・高生を連れて、中国広東省東莞市に遠征。４月には東莞市体育学校のチームが来徳、交流を深めました。

おわりに

協会創立当初は、競技人口を増やそうと少人数の役員が穴吹や池田方面まで定期巡回講習会を行ったり、中・高生の強化講習会を行っていました。（現在も同じですが…）しかし受け皿となる学校の指導者が少なく、開催してもその場限りの状態が続いていました。歩みは大変遅いものでしたが、関係者の努力で、昭和50年代にはいり、高校生が四国大会で優勝、平成になり中学生が全国中学校バドミントン大会で優勝。小学生も同様、全国大会で優勝者を出しております。

しかし、まだまだ私共の力不足もあり、他県に比べ登録人口がいつも全国ワースト５以内である事。もう一つの大きな問題は教員の指導者が余りにも少ないと思います。他県の状況を見たとき国民体育大会バドミントン競技開催をするたびに、教員の採用や適正配置をしていますが徳島県では国民体育大会が行われていないためにこういった面で遅れていること、また、私立中高にチームがないのも原因かと思います。

以上のような状況ですが、県協会役員は更なる努力が必要で、一歩一歩前進するのみです。

御協力、御支援宜しくお願い致します。

文部科学大臣表彰

平成19年２月
大阪　真智子

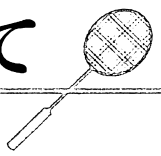
日本バドミントン協会表彰

感謝状	平成25年	西野	昌明	吉田　泰造	藤本　孝彰
功労賞	昭和40年	藤井	二男		
	昭和45年	新見	泰志		
	平成２年	富田	善明		
	平成18年	西野	昌明		
顕讃賞	平成２年	仁木	義顕		
	平成２年	吉田	泰造		
	平成３年	藤本	孝彰		
	平成５年	板東	輝雄		
	平成25年	久次米慶二		牛川　務	

徳島県体育功労者表彰者一覧表

昭和32年	藤井　二男	平成元年	山本　幸子
昭和39年	新見　泰志	平成２年	久次米慶二
	越後　禎之	平成３年	牛川　務
昭和40年	西野　昌明	平成５年	土井　公子
昭和41年	中山　忠男	平成６年	森　茂行
昭和48年	新居　弘之	平成７年	今出　幸男
昭和50年	吉田　泰造	平成８年	増金　秀行
昭和51年	小椋　貞和	平成11年	宮本　博子
昭和52年	藤本　孝彰	平成12年	仲澤　俊代
昭和53年	富田　善明	平成13年	伊藤　浩二
昭和54年	平岡　嘉泰	平成14年	藤本　伸
昭和55年	山本　圭治	平成15年	植田　宏和
昭和56年	村瀬　章	平成16年	大野　利春
昭和57年	加林　章	平成18年	大阪真智子
昭和58年	谷川　浩三	平成19年	杉内　邦弘
昭和59年	吉田　栄助	平成20年	井貝　辰男
昭和60年	中川　豊	平成21年	佃　善博
昭和61年	山本　英男	平成22年	鎌倉　準
昭和62年	石川　和幸	平成23年	吉岡　努
昭和63年	谷本　清	平成25年	桒原　孝司
		平成26年	多田　巧

発刊に寄せて



バドミントンと私

徳島県バドミントン協会 顧問 新見泰志



昭和27年であったと思うが、徳島市の社会教育課に大西主事がいらして、振興スポーツとしてバドミントンを紹介された。めずらしいのでそれに参加したのがバドミントンとつながりを持ったきっかけとなった。

昭和29年に助任小学校に転勤したところ、徳島市では最初に体育館が建てられた。勤務している者にとっては、健康の為にスポーツをするには夜間しか出来ないが、バドミントンは夜間出来るスポーツなのでこれは良いことと思い、ルールブックを読んで勉強し、コートを作製した。裁判所の方々がいち早くバドミントンを取り入れていた。助任小学校に裁判所や阿波銀行の人達が夜集まってきた。これは、運動場や体育館を住民に開放するような規約が出来たからである。

「国体予選があるので出場しませんか。」と言われたので出場した。当時は３位までが国民体育大会に出場できるようなシステムになっていた。何度か国民体育大会に出場しているうちに、技術も年齢とともに低下していった。その時「ぜひ監督をやっていただけませんか。」と声がかかり、引き受けることとなった。その後は大部分が監督としての出場し、国体出場が10回を過ぎてしまった。

昭和45年11月１日、当時の全国バドミントン協会長の本田弘敏氏により、功労者として全国表彰していただいた。これは、役員及び選手の方々の後押しがあったことと感謝している。また、忘れてはならないのは会長を辞任した後、どうしたらよいか悩んでいた時、近くにおいでた県会議員をされていた内藤健氏に会長をお願いすることを考え自宅へお伺いし、県バドミントン協会の会長職をお願いしたところ、引き受けてくださったことである。

それと、八万中学校の体育館が出来たことで、バドミントンの大会を多く開催した。内藤会長にも参加して頂き、またそれがきっかけで八万中学校でバドミントン大会を数多くするようになった。

八万中学校が実力を出すようになったのは、大会も多く持つようになった為である。

シャトルと出合い60年

徳島県バドミントン協会参与 吉田泰造



徳島県バドミントン協会設立60周年を心からお慶び申し上げます。

私のバドミントンとの出合いは（1955）昭和30年でした。

当時、阿波商業銀行に勤務しており、当時の銀行仲間の越後、西野、新居、篠原、山田等にてバドミントン部をスタート、しかし、バドミントンの知識は浅く試行錯誤しながらゼロからのスタートでした。

その頃、徳島県においてはバドミントンの愛好者は徳島市内で数名でした。バドミントンの知識を広めるために県内各地を廻り講習会を開催して底辺の拡大に努めバドミントン愛好者を育ててまいりました。

昭和30年代半ばには、各小、中学校に体育館が建設されはじめました。でもその頃の体育館にはポールもコートラインもない状態でした。手作りの支柱で白墨でコートを引き練習やゲームに使用したものです。

（1956）昭和31年、実業団連盟が発足し連盟には当時、徳島地方裁判所、貯金局、日本専売公社池田、徳島市役所、阿南市役所、日本資糧工業㈱、徳島大学事務局、日本電信電話公社徳島、阿波商業銀行のチームが実業団大会に参加しておりました。

当時は、ラケットが木製で強くガットを張ると反り曲がりゆがむので、ラケットのヘッド部を両面からプレスして挟み、固定して試合や練習に持歩いていました。

又、四国大会、全国大会出場の折には、プレスしたラケットを持ち、当時は自家用車も少なく、新幹線もなく各駅停車の汽車での移動で、ラケットが重く感じられましたことも今なお懐かしい思い出です。

その後（1974）昭和49年より県バドミントン協会常任理事として協会運営にも関わって来ました。会計を20年間、副理事長を15年間努め平成６年参与就任、その間（1978）昭和53年10月第８回世界女子バドミントン選手権大会（ユーバ杯）出場の日本代表選手を招待。湯木博恵、近藤小織、植野恵美子、米倉よし子４名の選手を招待し、徳島市立体育館において模範演技を披露され、感銘を受けました。

県協会においてはその後、日本リーグ徳島大会の開催、第17回全日本ジュニア選手権大会の開催、第36回全国中学校バドミントン大会の開催等、徳島市において全国大会を開催する迄に発展してまいりました。

尚、現在は徳島県小学生連盟加入の小学生クラブ、助任ジュニア、内町ジュニアの指導、育成に平成７年より活動しております。現在は全国的に小学生のバドミントンの技術も身体の向上と共にレベルアップが著しいものがあります。

私の競技記録には13年前になりますが平成12年11月徳島県開催の第17回全国シニア選手権大会において、65才以上男子(単)５位でした（当時67才）。

終りに今後とも徳島県バドミントン協会および各諸団体の役員選手の皆様の健康と益々の発展、ご活躍を心からお祈り致します。

受　賞

（1981）昭和56年５月９日　徳島市体育協会　体育功労賞
（2013）平成25年２月24日　日本スポーツ少年団50周年記念事業　功労賞
（2014）平成26年３月１日　徳島県バドミントン協会　特別功労賞

小学生の活動状況　最近の記録

若葉カップ全国大会出場の足跡　開催地　京都府長岡京市

平成16年８月　第20回大会
助任ジュニア選手（９名）　山本　杏子、國安　涼可、山本　桜子、有井奈々彩、岡野　詩央
田岡　千波、小川　文子、尾崎　由美、金澤　加奈

平成17年８月　第21回大会
助任ジュニア選手（10名）　國安　涼可、山本　桜子、田岡　千波、岡野　詩央、有井奈々彩
尾崎　由美、悦田まゆこ、久田　佳奈、金澤　加奈、桑原　未彩

平成19年８月　第23回大会
助任ジュニア選手（８名）　金澤　加奈、桑原　未彩、武田　佳奈、尾崎　真美、上平　怜奈
貴虎　世奈、亀島　珠美、植田　菜月

平成20年８月　第24回大会
内町ジュニア選手（10名）　森　隆子、露口　有香、庄司　佳奈、佐野絵理奈、谷崎　文香
多田　早希、岸　菜々海、村岡　宝音、四宮　菜帆、岡田　彩衣

＜助任ジュニア部員名簿＞
亀島　珠美、植田　菜月、猪井　美沙、森上　紗衣、柳本　瑞季、春本　ゆき、田辺　梨子
前田　海成、猪井　翔吾、植田　真以、斉賀　美紀、雑賀　稔弥、吉岡　壮馬、春本　桂佑

＜内町ジュニア部員名簿＞
岸　菜々海、多田　早希、村岡　宝音、四宮　菜帆、岡田　彩衣、蔵本理沙子、横田　百香

平成25年８月　第29回大会
助任ジュニア(男子)選手(8名)　吉岡　壮馬、雑賀　稔弥、中塩　佑哉、松原　佳慧、佃　康平
田辺　陸人、蛯原　健心、川原　光騎

終わりに、今後とも徳島県バドミントン協会および各諸団体の役員、選手の皆様の健康と益々の発展ご活躍を心からお祈り致します。

私のバドミントン今昔－昔日の思い出と最近感じること－

鳴門市バドミントン協会副会長　牛川　務



私がバドミントンを知ったのは、昭和40年代初め頃、ちょうど大学受験前の時期である。勉強の合間の息抜きに遊び感覚で始めたのがきっかけで、そのおもしろさに完全にはまり、大学入学（県外）と同時に即バドミントン部入部となった。

今の軽くて変形しないラケットに比べ、当時のラケットは木製でしかも130グラム前後の重さであった。フレームのねじれを防ぐため、使わないときは（その名前は忘れたが）台形の木枠でフレーム部をネジ止め固定保護していた。上級生はラケットを２～３本重ねて保持できるものを使っており、今思うと可笑しいが新入生はそれに憧れた。ガットも自分で手張りせねばならず、先輩から張り方を教わりテンションも感覚で調整していた。

大学入学後１年間はちょうど体育館の新築工事のため、練習は屋外での素振り、フットワーク、ランニング等が主体で、週１回の公立体育館を借りてシャトルを打てる練習が楽しみであった。そんなわけで、新体育館完成後は水を得た魚の如く、勉学よりもラケットを握る時間が長かったように思う。練習後、下宿に帰るとバタンキュウーの状態でたちまち寝入ってしまう。しかし、２時間もすれば部員仲間がそろって押しかけて来て、今度は朝方まで麻雀で戦うことになる。毎日の練習、大会前の強化練習、長期休暇時の合宿、１日10試合もこなした大会等、“ようやったなあ”で苦しく、かつ楽しい思い出である。結局、４年では遊び足りず、また２年間大学に残った。

卒業後、鳴門市内で生活をするようになり、今度は楽しいバドミントンを続けようと社会人クラブを探したが、当時鳴門市内には、バドミントンが競技スポーツであることすら知っている人が少なく、唯一市役所クラブが民間メンバーも含め10数名で活動しているような状態であった。これが運命か、選択の余地はなかったのである。

（以後の活動は本誌の鳴門市協会での活動記録にお任せする）

現在は指導的立場でバドミントンに係わっているが、約45年のバドミントン人生を振り返ると、用具の変遷、それに伴う練習方法の変化、根性論に替わる科学的な体力強化方法の導入など、他の競技も同様と思うが、競技力の向上や事故防止のために常に最新の効果的な練習方法が求められるようになった。ルールもしかりであるが、旧ルールでの経験が長いほど、現ルールへの指導対応（特に作戦面）への切替えに時間を要する。また最近は70グラム台ラケットの出現などで、用具の近代化に伴う練習方法の改良等、指導者にも最善の指導方法が要求されていると思う。しかし全てに新しいものが一番とは思わない。競技歴の短い人は理解できないと思うが、平成18年のラリーポイント制への変更で、膝を壊したことも重なり、プレーから遠ざかってしまった。

60周年記念誌に寄せて

徳島県バドミントン協会会長　西野昌明

徳島県バドミントン協会創立60周年、おめでとうございます。

昭和30年県バドミントン協会が発足、その時私は選手兼県協会常任理事、二足のわらじをはき、以来今迄バドミントン一筋気がつけば60年にもなります。協会設立に多少なりとも関わった一人としては感慨無量です。長い間御指導いただいたり、大変お世話になった方々に心よりお礼申し上げます。昭和30年、この時代は輸出の好調に支えられ「もはや“戦後”ではない今後の成長は近代化によって支えられる」と云われた時代で有史以来の好況という意味を込めて「神武景気」と呼ばれこれは昭和29年12月から昭和32年６月まで31ヶ月続きました。

●練習場所探し

さて選手として一番困った事は練習場所探しでした。助任小学校の新見泰志先生に無理を云って土・日と毎週の様に体育館を使用させていただきました。

其の後城北高校の体育館（木造で天井の低いもの）へ朝６時から１時間半出勤前の練習場所に使わせてもらったり（一般にはオートバイも買えない時代なので５時起き、自転車で体育館へ）。やがて中体連が出来八万中学校に二代目藤本孝彰先生が赴任、土・日には半分は中学生の指導と云った形でお世話になりました。藤本先生は、シャトルもラケットも仲々買えない時代でシャトルを又ラケットを忘れて帰る様半強制的に脅され？良く忘れて帰ったものです。其の他、藤本先生は富田中学校へ転勤の辞令が出るやただちに、まだ赴任もしていない中学校体育館のライン引きをしたり、管理職になっても中体連専門部長を務めたり、そして副会長職の現在に至っても大きな相談事には気持ち良く応じてくれたりとお世話になっている。

其の他、城東中学校、徳島中学校、川内中学校、小松島中学校は練習場所として良く利用させて貰いました。

●県協会常任理事　私の仕事は…

大会の都度人より１時間前に会場入り、コートのない体育館にチョークでライン引き手製のポール持参でコート作り。大会が終れば会場の後始末。勿論大会の収支事務もやりました。

やがて協会の金不足への対応、当時20才～25才の私達阿波銀行のメンバーだけで中小企業をまわり広告集めをしたり、その上会計を担当していたのでメーカーから直接シャトルを仕入れ販売で利益を作りました。

●仁木先生のこと

昭和29年私がはじめて出場した大会に仁木先生率いる日和佐高校生と対戦以来何かとお世話になりました。平成になってはコーチをしている徳島中学生と共に日和佐高校生の合宿に何回も呼んでいただき力をつけることが出来ました。

日和佐高校が全国大会に出場するたびに新しい練習方法を持ち帰り、周辺校や県協会指導者に教えていました。昭和41年「フットワークと云う練習方法を習った、大変良い練習方法なので是非日和佐に来て欲しい」との電話があり日和佐迄汽車で行ったことも懐かしい思い出である。

●東四国国体について

６年前から少年少女予備軍の小・中学生の強化に専念しました。徳島中学生をベースに校区内の内町小学校にも足を運びました。四国No.1香川県チームの胸を借り又香川・岡山と遠征も重ねるうちに香川県と互角に戦える様になり平成３年・４年と全国中学生大会に団体戦・個人戦に出場５年には個人戦出場と全国大会常連校となりました。この時のメンバーは宮本真希、坂本美幸、石井愛子、堤あずさ、岡本綾子、赤岩幸子等で全員高校バドミントン指定校の城東高校へ送り出しました。この時アドバイザーコーチとしてヨネックスの梅野尾昌一氏にお願いもしました。又県外遠征時には会社勤

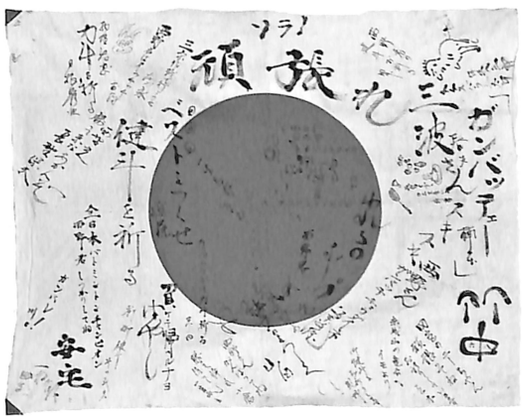
めで動けないため吉田泰造氏（阿波銀行、現在小学生連盟副会長）に代行をお願いしていました。中学生の強化殆んど私一人でやっていたので男子にまで手がまわらず何も出来なかった事申し訳なく思っています。

次いで成年男・女についてはどうしても強力なメンバーが必要で日体大、日大へ選手のお願いに行き深瀬潤二（日体大－現ウルスラ学院英智高校）。高校へは当時日本一の四条畷学園高校の片岡監督の所へ足を運び三ツ川貴子、少し後になって長崎由香（日体大－現城東高）各氏の来徳が決定し地元の選手と併せて強力なチームが出来ました。

戦力的には相当なものであったが東四国国体と云いながら、開催地は香川県、対戦相手も厳しくいづれも初戦敗退残念な結果にとなりましたが、一生懸命やった事でありこの努力が後々に大きな財産として残り満足しております。

●昔の国体風景

成年男子の部は当初四国予選が無かった為に、大した力もない私が国体10回出場することが出来ました。当時開催地が遠方の場合は四国四県の選手が全員同じ列車で何輌も連ねて国体列車として参加していました。秋田県の時は２昼夜48時間もかけて到着でした。列車を使う時私達のグループはいつも、むしろと二枚の板持参です。むしろは座席の下に敷き夜に２人が座席の下にはいって寝る、板は腰を掛ける座席に橋渡しをしてその上に２人が寝ていました。色々な工夫で面白い思い出です。当時は国体選手と云う事で職場の上司や同僚が日の丸の旗に寄せ書きして徳島駅で万歳万歳と見送ってくれたり、到着した会場では地域をあげた歓迎で市中行進をしたりと最近とはかなり様子が違います。





全国中学校バドミントン大会で二冠を制して

平成18年８月17日から20日までの間、徳島市立体育館で第36回全国中学校バドミントン大会が開催され、念願の女子団体優勝、女子シングルス優勝（松友美佐紀）、そして女子ダブルスベスト８（神原靖奈、水口愛梨）という快挙を成し遂げる事が出来ました。地元開催での優勝は26年前熊本県開催の時、熊本信愛女学院中学校以来の事です。

【何故勝てたか】

人材と環境に恵まれました。ここ５年間で団体準優勝３回、第３位１回、ベスト８　１回、個人シングルスでは平成15年に大阪あやが優勝しておりました。

下地は充分出来ていましたが、あと一歩の詰めが甘く、もやもやしていたのですが、スーパー選手松友美佐紀ほか、レベルの高い選手が揃いました。もう一つは熱心な大阪先生がおられた事です。専門はバレーですが勝負に対する執念、選手の日常生活指導や勉強、礼儀作法等厳しく、また女性らしく細やかな指導振りを目の当たりにし、私自身多くのことを学ばせて貰いました。体育館の方も週一日の休養日を除き毎日練習が出来、学校あげての応援がありました。地元開催も大きく味方したと思います。

【苦労したこと】

選手を本当にその気にさせる事です。教える方に選手以上の熱意がなければついてきません。また、身体の成長途上の子供ですから、怪我対策に毎年苦しんでおります。平成17年の全日本ジュニア女子新人の部で優勝を含めベスト８に３名入った時には、全国優勝に向けての確かな手応えがありましたが、全中開催年の７月の県大会予選１週間前になっても、故障から練習の出来ない主力選手がおりました。この期間、レギュラー全員が何らかの故障を起こして、最後になって私の調整ミスかと大きなプレッシャーを感じておりました。

【私の取り組んで来た事】

県外に一歩出ると、小学生から社会人まであまりにも低レベル。何年経っても一向にレベルが上がらない徳島県バドミントン。ジュニア層の強化の必要性は充分認識していました。中・高校の教員にやってやるといった人があまり見当たらない。県協会のメンバーも時折話題にするが誰も動かない。大きな危機感を持ち、①私は地元の徳島中学校へ押しかけコーチとして入り、気がつけば優勝までに25年もかかりました。徳島中学校のコーチスタートは46歳、県協会副理事長の私でした。②先ず最初当時全国中学校体育大会女子団体で三連覇の香川第一中学校、新建二先生の所に何回も何回も通い指導を仰いで、其の後も玉藻中学校木太中学校と香川県の力を借り少しずつ力をつけていった。③週２日の夜間練習・・・・。69歳まで民間会社に勤務していたため、土曜・日曜・祝祭日だけの練習では成果が出ないと考え、月曜・水曜の夜間練習を実施しました。今年で徳島中学校のコーチ34年にもなりますが、この間、仕事で都合の悪い日を除きほぼ100％無欠勤です。④校区内の助任小学校と内町小学校に、経験豊富な吉田泰造氏をコーチとしてお願いした事も大きな成果です。

【終わりに】

私は、ボランティアで部活動を手伝っているという気持ちは少しもありません。ただこの子供達を大きな舞台（全国大会）に連れて行き、思い切り演技・試合をさせたい一心で今日まで取り組んできました。ここ数年は、素晴らしい中学生達が私を大きな舞台に連れて行ってくれるようになり、感謝の毎日です。

競技人口の少ない県です。大きな目標を作り、何とかやってやろうと云った教員の指導者もあまりいない現状ですが、小学生の熱心な指導者が出てくるようになりました。小・中・高の流れを作り、競技力の向上に努めたく思っております。

“東四国国体回顧録”

参与 牛川　務・副会長 河野幸男

第48回国民体育大会が東四国国体として香川県との共同開催が内定後、県体育協会からの要請による最初の取り組みが、補強の効かない少年選手の育成でした。すでに県内でも小学生大会が開催されており、徳島市内や那賀郡内にはジュニア(小学生)チームが結成され活動していましたが、若葉カップ以外に全国大会が開催されていなかったことや指導者不足等から低レベルでした。

国体開催決定後には、成年選手の補強や組み合わせに影響力のある中央競技団体とのパイプ作りが要望されました。さらに競技力の向上を絡めてアドバイザーコーチの選任が行われ、本県は当時日本代表の女子監督・コーチを務めていた栂野尾昌一氏(ヨネックス)に就任を依頼し快諾を得ました。

また、平成元年には経済界から西谷功会長、久岡副会長を迎え、資金面でのご協力をいただきました。特に西谷会長には16年の永きにわたりご指導をいただきました。

強化練習は、役員から要望あり練習会場を確保しましたが出席者が私と増金氏の外選手が0～2名の参加状況でスタートしました。翌年から徳島中学校に会場を移転しましたが会場に来るのは監督、コーチが大半という状況が続きました。現状を打破し強化を軌道に乗せたい一心から、平成元年4月9日(日)徳島市立体育館にヤマハバドミントンチーム(飯野監督、元世界チャンピオン辜家明選手、銭萍選手)を招聘し、当時大学生であった神野安朗選手(富岡東高－日本大学)・高橋英治選手(日本大学)ペア、県内社会人の福家秋男選手(エイワ)、玉田耕司選手(徳島クラブ)とのエキジビションマッチを開催しました。この後、神野選手が帰県したことから強化事業が順調に進行するようになりました。

強化事業の柱は夜間練習と県外遠征で、そのほかに現在も継続しているお盆の強化練習、国体後休止した徳島オープン(鳴門オープンと併設)を開催していました。夜間練習は全種別合同で徳島中学校と小松島高校で毎週3日間、遠征は成年男子が月1回程度、直前になって有望選手を獲得した成年女子は国体直前は毎週のように実業団チームの練習に参加していました。

東四国大会では香川県を除く3県での予選となるため、少年男女、成年男女の4種別の全種目出場と天皇杯得点の獲得を2大目標に掲げて強化事業に取り組んで参りました。少年男子は各県代表、成年男女は選手補強が成功していたため安全圏でしたが少年女子は直前になっても予選突破が困難な状況でした。このため、少年女子の堤選手には厳しく指導するとともに予選突破のためコート配置を工夫いたしました。

四国予選当日は戦前の予想通り、成年2種別は早々とブロック代表権を獲得しましたが、少年女子は初戦敗退し絶体絶命の危機の中、最終戦の結果次第で予選突破の可能性が残りました。この厳しい状況の下、堤選手が獅子奮迅の活躍で逆転勝利を収めたことに感服しました。

本大会では、成年2種別に入賞の期待がかかりましたが、ともに組み合わせにも恵まれず大激戦の末敗れ、念願の天皇杯得点の獲得は適いませんでした。

最後に、東四国大会まで永年にわたり強化を担当された役員、選手、保護者並びに関係各位の皆様のご労苦に感謝いたしますとともに、今も一丸となって“挑戦”しておりますことをご報告いたします。

●東四国国体役員

強化部長	今出　幸男（兼：国体審判）
強化事務担当者	牛川　　務
総 監 督	増金　秀行
アドバイザーコーチ	栂野尾昌一（ヨネックス）

●東四国国体選手団

	監　督	コーチ	選　手		
成年男子	吉田　泰造	今出　幸男	神野　安朗	深瀬　潤二	吉岡　　努
成年女子	植田　宏和	生田　泰之	三ツ川貴子	長崎　由香	宮本　靖子
少年男子	板東　輝雄	竹内　憲明	栗栖　　理	上野　友裕	尾形　隆平
少年女子	鎌田　章良	玉田　耕司	堤　あずさ	宮本　真希	坂本　美幸

第48回国民体育大会四国地区大会（バドミントン競技）

期日：平成５年８月29日（日）午前９時～　　会場：鳴門県民体育館第２競技場

●成年男子（リーグ戦）

	愛媛県	高知県	徳島県	勝数	取得マッチ率	順位
愛媛県		1－2	0－2	0		3
高知県	2－1		0－2	1		2
徳島県	2－0	2－0		2		1

＊徳島県が出場

●成年女子（リーグ戦）

	高知県	徳島県	愛媛県	勝数	取得マッチ率	順位
高知県		0－2	1－2	0		3
徳島県	2－0		2－0	2		1
愛媛県	2－1	0－2		1		2

＊徳島県が出場

●少年女子（リーグ戦）

	愛媛県	高知県	徳島県	勝数	取得マッチ率	順位
愛媛県		0－2	2－1	1	0.4000	3
高知県	2－0		0－2	1	0.5000	2
徳島県	1－2	2－0		1	0.6000	1

＊徳島県が出場
注）国体は香川県坂出市で開催のため、香川県を除く３県で実施

第48回国民体育大会

期日：平成５年10月25日～28日　　会場：香川県坂出市

●成年男子（１回戦）

徳島県		1 － 2		三重県
神野　安朗　深瀬　潤二	0	4 － 15 3 － 15	2	中川　健　吉田　義利
神野　安朗	2	15 － 12 15 － 4	0	磯部　昌弘
深瀬　潤二	1	7 － 15 15 － 12 10 － 15	2	吉田　義利

●成年女子（１回戦）

徳島県		1 － 2		静岡県
三ツ川貴子　長崎　由香	0	5 － 15 8 － 15	2	平野　智子　山内美奈子
三ツ川貴子	2	11 － 9 11 － 5	0	二見　恭子
長崎　由香	0	1 － 11 7 － 11	2	山内美奈子

●少年男子（１回戦）

徳島県		0 － 2		宮崎県
栗栖　理　上野　友裕	0	6 － 15 11 － 15	2	藤田　黒田
尾形　隆平	1	8 － 15 15 － 11 3 － 15	2	山内　勉

●少年女子（１回戦）

徳島県		0 － 2		埼玉県
宮本　真希　堤　あずさ	0	4 － 15 2 － 15	2	伊藤さおり　横山　エミ
坂本　美幸	0	1 － 11 4 － 11	2	宮本　久美

ゼロからのスタート

元阿波農業高等学校バドミントン部 顧問　大野利春



昭和52年、新任の勝浦園芸（現勝浦高校）ではバドミントンは体育館の都合で活動できず、女子ソフトテニス部の顧問として活動していた。昭和54年、三高校による親善バトミントン大会があった。私がバドミントンを少々やっているということがわかり、勧めもあり国体の予選に出場し、優勝。その結果４位の平岡先生が監督、四宮先生、福岡先生と私の４名が宮崎国体に参加することになった。これが教員最後の大会ということで47都道府県から参加した。

昭和57年、三好農林（現三好高校）に赴任し、１年目にバドミントン（同好会として発足）と女子バレー部の顧問を掛け持ちした。バレー部とバドミントン同好会の間で葛藤していたのを覚えている。２年目にはバドミントンだけの指導となった。普通に練習をしていたにもかかわらず、７名いた部員も平岡一人になった。平岡相手の早朝練習は体育館が２階にあり、シャトルの音が反響してとても寒々しいものであった。彼は中学校はバレー部の補欠で動作も遅く、なににつけても不器用だったが素直な性格で頑張り屋でした。３年最後の総体であと一点で負けるという状況で、平岡が打ったヘアピンがネット上で一瞬止まって見えたが、そっと相手のコートに入っていった。逆に、次のラリーで相手の打ったヘアピンがネット上で一瞬迷った様に見えたが、結局自分のコートにぽとりと落ちていった。後は連続ポイントで勝利した。思った通り１回戦が山で２回戦、３回戦を勝ちぬき４回戦は浜松弟に破れはしたものの５点とることができた。当時はサービス権の移動があったために点を取ることは大変であった。三好農林の３年間の活動が実り４年目には部活動に昇格した。

昭和61年、阿北高校に赴任すると同時に男子バドミントン部が発足（体育館も部費もあり）し、部員も８名に。ところが素振りの練習を始めたら次々とやめていって、フットワークをする頃には一人になっていた。その岡本が２年に進級し、岡本相手に練習をしていると、隣で女子バレー部に混じって２名の男子が練習していた。声をかけると、女子バレー部の練習が終わる６時ぐらいから、バドミントンの練習に来るようになった。初めて夏休みの合宿を部員３名でやることになった。夏休みが終わって宮島が正式にバドミントン部に入部、藤本は男子バレー部を作りたいということで頑張っていた。結局、藤本も10月には男子バレー部をあきらめてバドミントン部に入ってきた。練習は基本的なことを中心にこなした後で、８時くらいまでみっちりと行うため着実に実力が付いてきて、対外練習や各種大会にも積極的に連れて行った。

平成元年、３年の国体予選で藤本、宮島とも森野（市立）には敗れたものの別宮（市立）には勝って、二人とも北海道で開催された「はまなす国体」に出場した。私は監督として初めて北海道の土を踏んだ。兵庫県が相手で練習を見る限り徳島県の方が基本の打ち方もきれいし、こちらの方に分があるように見えたのだが、相手の方が粘り強く負けてしまった。また、ダブルスの試合がこちらのフットフォールトで終わったのは恥ずかしい思いをした。シングルスの試合も最後まで足が地にが付いていないという感じだった。

平成４年、県総体で井上がシングルスで優勝し、宮崎インターハイに出場。勿論阿北高校始まって以来の快挙であった。井上は中学時代はソフトテニス部の選手でしたが、脚力には定評があり、郡陸では走り幅跳びで３位になったこともあったそうである。

平成５年、高校総体で栗栖・上野組が準優勝し栃木インターハイに出場。また、その年の48国体では成年男女・少年女子が四国の予選を突破、少年男子は栗栖と上野が県予選を突破し県単位出場。私は部員を引き連れて坂出の会場まで応援に出かけた。成年男女・少年男女の全種目で出場ということで、徳島県バドミントン協会の面目躍如といったところで本当に嬉しく思った。

平成６年、三好高校に再赴任。バドミントン部は３年生の女子部員だけで活動していて、まさに消

滅の危機に瀕していた。翌年積極的に１年生に働きかけ７名の男子部員が集まってきた。部員たちは素直で熱心に練習に取り組み着実に実力をつけていった。

平成９年、阿波農に再赴任した後も、３年生になった三好高校の向井は藤本先輩を慕って三好から電車に揺られ鴨島まで来て何度も練習を見てもらうなど、努力をしたことが報われて大阪国体に出場することができた。ちなみに、向井はけん玉が得意と話していた。

平成12年、私は徳大薬学部に１年間の長期研修に出ていて、学校に復帰すると部員はゼロになっていた。しかし、シャトルは買いだめしてくれていた。初めは３万ぐらいだった部費も20万ぐらいになっていたのでそのシャトルの多さにびっくりした。

平成14年、阿北・阿波農を通じて初めて、バドミントン経験者を迎え入れた。といっても少しやっていたぐらいで、ラケットを背中に通学してくる姿が新鮮であった。しかし、３年生の総体で山本は総体直前の合宿で激しく足を痛め、ドクターストップがかかった状態で４回戦まで進んだ。４回戦では準優勝した選手に立ち向かっていったが、私としては早く試合が終わってくれと祈っていた。

平成19年、久しぶりにやる気のある７名が入ってきた。そのうち笹川とそのパートナーは、上背、スマッシュの速さ、フットワークの軽快さと飲み込みの早さと、どれをとっても将来を期待させた。しかし、そのパートナーは１年の途中で退部した。笹川は２年の総体は順調に４回戦まで進んだが新人戦の前で退部。そして、３年の総体前に復帰とかき回された。最後のチャンスと思って指導していたが、がっかりであった。現在、阿波農と鴨島商業の合併により活動の場所を吉野川高校に移してＯＢの指導の下頑張っている。

48国体の前、指導者養成のために全日本選手権シングルスで８回の優勝を誇る小島一平さんを徳島県に招いて実技講習をしていただいたときに、一平さんはバドミントンには竹のようにしなやかな体が大切であり、より早く、より高く、より前で打つことがバドミントンの鉄則である。と言っていたが、私はそれに、より正確にという言葉を付け加えたいと思っている。

現在は高校生も昔と違って実力がついてきて、社会人相手に互角または互角以上の試合が出来るようになってきた。これも徳島県バドミントンの競技力向上に向けての取り組みの成果と思う。徳島県バドミントン協会の益々の御発展を祈念致します。

徳島県バドミントン協会60周年によせて～中体連専門部より～

八万中学校　伊藤浩二



徳島県バドミントン協会60周年おめでとうございます。私が県バドミントン協会の一員となったのは、平成７年に川内中学校の藤本校長先生からお話をいただいて転勤し、県中学校体育連盟の専門部長を引き受けたのがきっかけでした。その後19年間協会に関わってきました。60年の中では３分の１ほどですが、思い出しながら書いていこうと思います。

川内中学校に赴任する前は９年間卓球部やソフトテニス部の顧問をしており、自分自身も定期的に練習することもなく、バドミントンから遠ざかっていました。ソフトテニス部の方は四国大会や全国大会にも出場できるようになり、たくさんの先生にもお世話になって「このままソフトテニスを続けようか」とも考えていました。しかし、年齢的にも30代も半ばになり「生徒と一緒にできるのは今しかない」と思いバドミントンに戻ったのでした。

驚いたのは、専門部長の引き継ぎで渡されたのが10枚の審判ボードで、文書などは全くありませんでした。お手伝いいただける顧問はいますが、専門部の決まったスタッフはなく、県バドミントン協会にお世話になっているという状態でした。中学校の大会は、西野会長（当時理事長）が徳島中学校の生徒と運営していたと記憶しています。最初の１年間は、川内中学校の部活動顧問がファイルしていた案内や要項をもとに、総体のシード案の規約など、新しく多くの文書をつくったように思います。

私は、６年間専門部長をして生田先生（当時羽ノ浦中）に引き継ぎました。その間に、藍住や那賀奥などジュニアが盛んに活動していた地域の中学校に新しくバドミントン部ができ、県総体の参加校が女子で12校（団体）くらいから16校くらいに増えました。男子についても少ないながらも徐々に学校数が増えました。その後、生徒数の減少により中学校で新しい部ができにくい状況となっており頭打ちであったのが、近年、鳴門や北島、板野など新チームが生まれたのは、県協会やジュニア指導者の努力によるものだと思います。現在八万中学校に勤務していますが、生徒数の減少は教員数の減少や各部活動の部員数の減少を招いています。その中で新しい部をつくるということは、練習場所や予算の配分など乗り越えなくてはならない問題も山積しています。また、部員が少なくなったからといってすぐに廃部にできるものではありません。現在県内ではチーム競技で選手数が足りず、合同チームが次々と生まれています。それぞれの競技が生き残りをかけて競い合っている状況だといえます。

私は専門部長になって、選手強化のために度々徳島中学校へお邪魔するようになりました。県内では徳島中学校が圧倒的な強さを誇っていましたが、四国大会では香川、愛媛の壁が厚く悔しい思いをしていました。そんな時、ジュニアが盛んで新しく部ができた相生中学校に赴任する話があり、時間はかかりましたが３年間お世話になることになりました。ジュニア経験者を指導することが初めてだったので、平野スポーツ少年団の中澤さんをはじめいろいろな方にお世話になり、指導法など大変勉強をさせていただきました。また、これまで考えていたことなども実際に試すことができ、私にとってはとても有意義な時期だったと思います。相生中学２年目に県中体連専門部長は交代しましたが、副専門部長として協会には引き続き残り今日に至っています。相生中学校の３年間では、井村・大谷組、舛田・松本組、井上・小川組とダブルスで県総体３連覇するとともに、高校生を制して全日本ジュニアにも出場したことが心に残っています。また、徳島中学校、藍住東中学校などと県内で競い合う状況が生まれたことは徳島県のレベルアップに少しは貢献できたのではないかと思っています。ただ、地域的な問題もあり育てた選手が県外の高校に進学したことは残念でした。

次の富田中学校では男子の顧問をさせてもらいました。女子は徳島中学校が全国レベルを維持しており、ジュニアでも藍住エンジェルが全国で大活躍していました。それに比べ男子は選手数も少なく、レベルも低い状態で、男子のレベルアップと初心者の指導を自分なりの目標にしていました。富田中

学校を中心にして度々合同練習や「初心者をどう指導するか」をテーマにして指導者講習会を開催してきました。個人的には「初心者が2年生の終わりには経験者に勝てるように」と思いやっていましたが、さあこれからという時にはもう3年の夏という状態でした。卒業生は高校でがんばってくれているのでうれしいのですが、初心者で中学校の四国大会で活躍できる選手を育てるというのはなかなか難しいと実感しました。6年間自分なりに努力したつもりですが、他校の選手でも少なくとも週に1～2回は指導できないとレベルアップさせることはできないように思います。やはり指導者を育てることが大切なのだと痛感しています。

この頃に徳島県で全日本ジュニアや全中を開催し、徳島中学校が大活躍しました。少ない人数での大会運営には苦労しましたが、中体連専門部の組織は充実したと思います。

その後の3年間は、三好市の山城小学校に勤務となり、日常的に生徒を指導することがなくなってしまい、寂しい思いをしています。また、母校の八万中学校にお世話になってからも、バドミントン部の顧問という立場ではないので、これまでとは違ったサポートの仕方を考えていく必要があると思っています。

現在の中体連専門部は、私が専門部長になった頃と比べ、大阪先生を中心に組織も安定し、大会運営もスムーズになったと思います。ただ、どの競技にもいえることですが、中心となって活動していただいている先生のほとんどがベテランで、若い力にどう引き継いでいくのかが大きな課題となっています。学校の先生の年齢構成がそうなっているのですから当たり前なのですが、このままいくと5～10年後には大変な事態となってしまいます。若い指導者の育成が急務といえます。私はバドミントンの他に卓球やソフトテニスの顧問も経験してきました。その中で思ったのは、バドミントン競技はショットの種類が多く、技術的に指導すべきことが圧倒的に多いということです。もちろんどの競技も突き詰めていけばさらに深いのでしょうが、初めの入りやすさに比べ一応の形ができるまでに必要なことがたくさんあるように思います。競技経験のない顧問が、初心者をどう指導したらいいのか悩むのは当然といえます。また逆に競技経験があれば指導できるかというと、そうでもないというところがあります。競技経験は1つ1つの技術指導の場面ではないよりはあった方がいいですが、生徒を長期的な観点で育成し部活動を発展させていくためには、「自分が打てる」ということがマイナスに働くこともあるように思います。教師になってすぐの私自身がそうだったように思います。9年間別の競技を経験して、指導者としての自覚や謙虚に学ぶ大切さを知ることができました。競技はできても指導者として一人前になるための道は長いです。

中学校の部活動顧問として、また、中体連専門部長として県バドミントン協会にお世話になったわけですが、中学校部活動の発展は県協会の多年にわたるご支援ご指導によると感謝しています。私は教員ですから仕事の一部としてバドミントンに携わっていますが、協会の多くの方々はボランティアで熱心に中学生の指導やバドミントンの発展のために努力してくださっています。顧問の先生や中学生には感謝の気持ちを持って精一杯活動して欲しいと願っています。

あの日の感動を忘れない

富田中学校教諭 大 阪 真智子



「やっと、できた！」平成18年８月19日、徳島市立体育館が張り裂けんばかりの声援や拍手の中、選手たちと肩を抱き合い共に喜んだ、あの日の感動は一生忘れることはない。第36回全国中学校バドミントン大会団体優勝を果たした瞬間であった。

私が徳島中学校に赴任し、バドミントン部の顧問になったのは、平成９年４月のことだった。未経験から顧問を引き受けることに思案していると、「コーチが指導してくれるから・・・。」との言葉から気軽に引き受けてしまった。引き受けたものの、当時、県中体連の新体操専門部長として、新体操の全国大会やインターハイの審判などに追われ、なかなか顧問として責任を果たすことができなかった。

しかし、平成13年春、大阪あや（娘）が徳島中学校に入学し、バドミントン部に入部してきた。というより入部させたと言った方が正解である。それまで有望な選手が揃っていたものの、なかなか全国大会に出場できなかったチームが、娘と娘の同級生たちで一気に活気付いた。娘がいた３年間、娘の存在が足の重い先輩たちに刺激を与え、同級生や後輩を引っ張っていった。それが少しずつ積み重なって、３年連続全国大会団体準優勝をはじめ、単個人優勝、複個人第５位という素晴らしい結果に繋がったと思う。母親としては、こんなことを記述するのはとてもおこがましいことではあるが、娘なくしては語れないことである。仕事場に娘がいるということは、すべてが管理できてプラスの面もあるが、なかなかやり辛いこともあった。娘自身も心の中でいろいろ葛藤していたようだ。

29年前からずっと徳島中学校バドミントン部に指導に来てくださっている西野昌明氏(県協会会長)、小学校からずっと指導してくださっている吉田泰造氏（内町小・助任小ジュニアチーム監督）のお陰で、徳島中学校バドミントン部は全国に名を轟かせることができたのである。お二人は暑い日も寒い日も必ず体育館へ足を運んでくださり、休日はもちろん、月・水曜日は午後７時から10時まで身を粉にして熱心な指導をしてくださった。選手たちは感謝の気持ちを一日たりとも忘れることなく、期待に応えられるよう日々精進し続けた。保護者もバックアップしてくれた。そんな心と心の繋がりがあって、徳島県バドミントン競技はじまって以来の快挙を成し遂げることができたのだと思う。



平成16年春には、娘たちと入れ替わり、松友美佐紀らが徳島中学校に入学してきた。団体での全国制覇、できることなら３冠を達成するための、また新たなる挑戦が始まった。順位は落としたものの、松友らの活躍で団体３位（H16）、松友個人３位（H17）他、松友の好成績には目を見張るものがあった。松友は、行動や生活など一度注意したことは二度と私の口から同じ注意をさせなかった。また、試合ごとに進化していく様子に感心した。平成18年６月には日本バドミントン協会からの派遣で、松友は42日間中国合宿に参加し、大きな怪我もなく帰国したが、このことが優勝への手がかりとなったことを覚えている。彼女が留守の間は他の選手たちにとってプレッシャーとなったが、「美佐紀が帰ってくるまでにレベルアップしよう。」と更に努力し、他の選手たちも成長したように思う。しかし、全国大会当日が近づくにつれて、選手たちはプレッシャーを強く感じていた。私は運営準備に忙しくしていて、コーチにすべてを任せっぱなしでいたことに気がついた。大会前日、私は大きな声で選手たちを叱ったことを思い出す。会場準備の動きが一瞬止まるほどの勢いで、スタッフにも気合を入



れてしまったようであった。

私が出来る指導といったら、日頃の生活指導をはじめ、メンタルや筋力トレーニング、学業との両立をさせること等である。学生時代バレーボールで培った経験を活かし、選手たちに少しでもプラスになるように努力した。体育館が使えない日は、陸上部に間違えられるほどのランニングやダッシュをさせ、また校舎内の長い廊下を利用して、フットワークや下半身強化練習を重ねた。松友らと夜の練習前に一緒に食事をしたり、英語が苦手な選手に自主学習をさせたりと、練習以外にも指導をした。また、チームに必要なこととして、人を思いやり、支え合い、そして競い合えることが大切なことを語り続けた。私流の指導が実ったことを実感している。時には私自身、毎日の練習に挫折することもあったが、コーチの西野氏・吉田氏の熱心な指導の支えが大きな力となった。

この様な結果が残せたのは、人と人との出会いがあって信頼感で強く結ばれ、絆が大きな輪となって広がったからである。素晴らしいコーチ、指導してくださった方々、弱音を吐かずついてきた選手たち、保護者の方々は私にとって大きな財産であり、体育教師冥利に尽きる。選手たちも一生涯誇りに思い、それぞれの道に向かって生きていってほしい。

松友選手には世界に飛翔し、ますますの活躍を期待したい。

平成18年第36回全国中学校バドミントン大会（徳島県開催）を成功できたこと、また、念願の全国制覇を達成できたことは、県協会の方々をはじめ、県中体連他ご協力していただいた皆様のお陰と感謝申し上げて、筆を置きたいと思う。

「藍住エンジェルスポーツ少年団の歴史、育て方、今後の抱負等について」

藍住エンジェルスポーツ少年団 監督 藤本　伸

藍住エンジェルスポーツ少年団として設立されてから、早いもので28年が経過しようとしています。現在では小学１年生から６年生・中学生の男女十数名を指導しています。設立当初は、県内で１勝することを目標としていたことが、現在では全国でも通用する選手を育成することへ大きく変化してきています。

バドミントンと言えば、一般的に個人競技というイメージがありますが、チーム一丸となって戦う団体戦を、私は常々重要だと考えています。特に若葉カップ全国小学生バドミントン大会では、県代表として何度となく戦ってきましたが、その度に予選リーグ敗退という悔しい思いばかりでした。その気持ちから、選手、保護者、指導者が、一体となって練習した結果が、若葉カップ女子の部で、第15回大会（平成11年度）第３位となり、全国でも戦える気運がそれぞれに芽生え、女子の部で第17回大会（平成13年度）と第19回大会（平成15年度）の２度全国優勝できたことが、今でも一番の思い出となっています。しかし、忘れることのできない苦い経験もあります。それは、平成12年度の若葉カップ女子の部予選でよもやの敗退。大会当初は前年度の優勝チームということで、その年も上位を狙っての出場でした。団体戦はオーダーによって試合が左右されるため、相手チームの分析や戦略が重要となります。ところが、予選リーグ１試合目で大勝したため、次の２試合目を安易に考えて十分な準備をしないままに臨んだ結果、予選リーグ敗退という結果になってしまいました。当然監督のオーダーミスと、相手チームを軽視した報いだと思います。試合後、子供達や応援をしていただいた保護者の方達に涙の謝罪をしたことが思い出されます。そして、今でも団体戦のオーダーを考えるとき必ず思い出すこと、それは、十分な準備と相手チームの分析なくして勝利はないということです。

また、県大会の小学生対抗バドミントン大会（団体戦）では、８連覇を含む10回の優勝をしており、県内のチームから目標とされるまでになってきました。

「教えることは学ぶこと」「情熱だけでコーチは務まらない。知恵（知識と技能）に支えられた情熱でなければならない」この言葉は、公認Ｃ級コーチ養成講習会での、当時筑波大学の教授であった阿部一佳先生の言葉です。その言葉は、今でも座右の銘として指導する礎となっています。

指導内容としては、特に低学年のときは基本（ラケットスィング・フットワーク）がしっかりできるよう、繰り返し何度でも行います。例えば、新聞紙を丸めての新聞投げやタオルを使用してのスイングなど、また子供達は競争がとても好きなので、チームに分かれてのリレーを取り入れることにより、チームワークや競争意識を持つように子供達に意識付けをさせています。なお、冬場の練習では、縄跳び（２重跳び）で飛んだ回数や1000メートル走のタイムを競い合わせることにより、持久力や体力強化に取り組んでいます。昨夏のインターハイで２年生として３冠を達成した松友美佐紀（聖ウルスラ学院英智－日本ユニシス）は、当時、縄跳びや1000メートル走でも常に１番でした。私は彼女を小学１年生から卒業までずっと見てきましたが、私が今まで指導してきた子供達の中では、フィジカル（身体的）、テクニカル（技術的）、タクティカル（戦術的）、プシケー（精神的）どれも優れていました。それは、聴く力、考える力、行動する力、そしてバドミントンが好きなことが彼女の競技力につながっていると思います。近い将来、必ず日本代表として、オリンピックの檜舞台に立って、メダルを取ってもらいたいです。

思い出に残る選手として男子では、正木智也、今村俊之、小梯信介、世戸洋輔（平成６年度卒団）、渡越総一郎（平成９年度卒団）、森本亮（平成14年度卒団）、金森優太（平成15年度卒団）、女子では、岡本亜耶子（平成２年度卒団）、味岡杏奈（平成３年度卒団）、矢野久美子（平成４年度卒団）、羽里麻夏、森睦美（平成８年度卒団）、篠原ちあき（平成９年度卒団）、羽里華（平成11年度卒団）、松友仁美、羽里直緒、久次米佐和子、氏家由香利（平成13年度卒団）、松友美佐紀、神原靖奈、水口愛梨、

藤本香那（平成15年度卒団）藤本陽奈（平成17年度卒団）と数え切れない選手が藍住エンジェルスポーツ少年団を巣立っています。今後、彼らにバドミントンを通じて、社会に役立つ大人になってもらうことを切に願うところです。

指導者として大切なことは、指導者と子供達と対話をすることだと考えています。練習や大会では、指導者からだけの一方通行となって、子供達から何か言いたくても言葉で十分に表現できません。エンジェルでは、それぞれにノートを持たせて、指導者のアドバイスや自分の感想を書き留めて、練習試合や大会が終了したときに提出してもらっています。それが、子供達との唯一の本音で語れる場所だと思います。

現在は、現役から20年余り公式戦から遠ざかっており、また、体力的にもきつい年齢ではありますが、毎回の練習では子供達と一緒に汗を流して、少しでも子供達に試合の厳しさや試合運びを学んでもらうために、コートに入ってゲーム練習を行っています。

今後の目標としては、現在県小学生連盟理事長として、チームだけが強くなるのではなく、平成17年度から取り組んでいる県内小学生を対象とした、選抜選手による毎月１回行っている強化練習会を、さらに中学生、高校生、また大学生、社会人を含めた合同練習会にすることにより、一貫した指導体制を確立することで、県内バドミントン全体のレベルアップを図っていきたいと考えているところです。そして将来は、国内や世界で戦える選手を育ててみたいと思っています。

前だけを向いて

阪急電鉄株式会社 大阪あや

徳島中学校に入学して、中学生として新たに始まったバドミントン部での部活動。今思えば、全て3年最後の全国中学校バドミントン大会に向けて進んでいたのではないかと思う。初めのころは、部に慣れるので精一杯。新しい生活にあたふたしながら、ばたばたと過ごす毎日だった。トレーニングも日々きつくなっていき、3年の夏前には、城山での持久走が部の日課になっていた。チームが2年連続で全国2位という悔しい思いをしていたことが、最後の全中に向けての追い込みに拍車をかけていた。

一方、その頃の私は、これまで明かすことはなかったが、のんきすぎるほどの精神状態であった。城山で走っているときも、苦しすぎてそのまま抜け道を通り家に逃げ帰ろうとか、わざと転んで怪我をして走れないと言おうかとか、そんなことばかり考えていた。しかし、矛盾はするが、チームメイトに負けるのが嫌で、どんなに苦しくても持久走だけは必ず1番でゴールした。この積み重ねが、夏の暑い中でのプレーに役立ったと思っている。

緊張でかちかちになりながら戦った四国大会は、今でも記憶に鮮明に残っている。小学校から勝てなかった香川の選手に、中学になって勝つようにはなったが、やはりいつまでたっても苦手意識が抜けなかった。序盤にリードされ負けそうになったときに、ふと大阪先生の「頭の中で考えて、あとは、前だけ向いて何事もやりな！」という言葉が浮かんだ。私が勝って当然だと思っている周囲のプレッシャーから硬くなっていた私は、一気に力が抜け、なんとか優勝することができた。

いよいよ本番の北海道に乗り込むという1週間前、最後という思いの中で練習に全身全霊を傾けていたとき、肩が上がらなくなった。筋肉疲労によるものであったが、なかなか痛みがとれず、ついに練習を休むはめになってしまった。普通は最後なのにと焦るはずなのだが、私はこのときものんきであった。こののんきさがなんとか全中までにシャトルを打てるまでに回復させたのだと思う。

痛み止めを飲みながらの試合が続いたが、若かったからだろうか、試合中は完全に痛みを忘れていた。団体戦のときはひたすら自分の前にいる相手を倒すことを考えた。シングルスではほどよい疲れもあり、緊張することなく勝ち進んでいけた。しかし、準決勝のとき、またも自分の苦手とする香川の選手と対戦することになった。これまでは大阪先生に後についていてもらっていたが、このときは「ひとりでいける！！」と決意し、サイドコーチなしでコートに立った。先生は正直かなり不安だったと思うが、2階席では西野コーチやチームメイトが見守ってくれていたのでなんとか頑張れた。迎えた決勝戦、熊本の藤井選手（ロンドンオリンピック女子複 銀メダリスト）との対戦だった。小学校からまだ1回も勝ったことがなかった。試合が始まり、相手の球さばきについていけず、自分に腹が立った。この会場のなかで一番努力してきたのは自分だ。自分が勝てないはずがない、と必死にシャトルを追いかけ、ラリーを心がけた。藤井選手は準決勝で奥選手と戦い、疲労がたまっているはずだからだ。相手の足がつったこともあるが、しっかりとラリーをし、最後は得意のリバースショットで決めて終わった。嬉しさというよりは、今まで支えていただいた西野コーチや吉田コーチ、大阪先生、家族そして友達に感謝の気持ちでいっぱいだった。そして、自分から努力したことは絶対に裏切らないということを、自分の身をもって体験することができたことに対して喜びを感じた。

練習がしんどくて何度もやめようと思ったバドミントン。人によっては楽しくてしかたないという人もいるが、私にとってバドミントンは人格形成の場であり、人間としての幅を広げ、より心の大きな人間へと成長するためのものであったと思う。生活の半分以上をバドミントンに捧げてきた。そこにはいつもコーチが来てくださり、チームメイトがいて共に切磋琢磨し、家に帰ると家族が迎えてくれた。当たり前のようで決して当たり前でない幸せに、私は幸運にも恵まれていたのだ。一度しかない人生において、本当に良い経験ができたと振り返って思う。今後は何か少しでも徳島県のバドミントン強化に貢献していければと切に願っている。

（平成21年 関西学院大学3回生時に執筆）

私とバドミントン

日本ユニシス　松 友 美佐紀

「オリンピックでメダルをとる」。これが今の私の夢であり、最大の目標です。現在は徳島県を離れ、宮城県の聖ウルスラ学院英智高校で、夢に向かって一生懸命頑張っています。

母、そして2歳上の姉がバドミントンをやっていて、私は幼稚園児の時に初めてラケットを握りました。この時から楽しくて楽しくて仕方なかった感覚は、今でも全く変わっていません。そんな私は、小学校入学と同時に地元の「藍住エンジェルスポーツ少年団」に入部しました。私のバドミントン生活の始まりです。

藍住エンジェルでは、監督も保護者の方もとても熱心に指導してくださり、そのおかげで基本からきっちりと学ぶことができました。低学年の頃から私は、新しい技や考え方を教えてもらったり、上手な人のプレーをまねすることが好きでした。また、本当に負けず嫌いで、試合に負けると必ず大泣きしていたと思います。

そんな小学3年生の夏、初めて全国大会に出場しました。3・4年生の部に出場し、準々決勝で福井県の選手に全く歯が立たずに完敗し、悔しさでいっぱいでした。しかし、この大会をきっかけに、私の目標は県で一番から全国優勝へと変わっていったのです。

その翌年の夏、小学校時代の中で一番思い出の深い、若葉カップというチーム対抗の全国大会がありました。5種目の内、3種目とれば勝利というもので、私は4年生ながら、5年生以下のシングルスに出場させてもらいました。そこで私は全勝し、チームも創部以来、初優勝することができました。年上の選手に勝利できたことは本当に嬉しく、自信になったと思います。そして、その後行われた全国小学生ＡＢＣ大会のＢクラス（3・4年生部）で、個人戦初優勝をすることができました。団体戦とは違う喜びを感じ、この頃から常に高いところへ意識を置いていたと思います。

そして、小学生の中では一番大きな大会である、全国小学生選手権大会では、4・5・6年生の部で優勝し、3連覇を達成しました。

その後、私はさらなる上を目指し、徳島中学校に入学しました。中学生活3年間で、精神的にも身体的にも、また人として大切な礼儀、全てにおいて成長できたような気がします。

中学生活の中で一番の思い出と言えば、やはり地元徳島県で開催された全中です。団体、個人女子シングルスで優勝することができたのですが、あの観客席からの声援がなければ、絶対勝つことはできなかったと思います。地元開催ということで、たくさんの方々が応援に来てくださいました。ピンチの時にも上を見上げれば、「次一本！」「いけるよ」など多くの言葉をかけていただき、心強かったこと。私が決めたときには、上の皆も自分のことのように喜んでくれたこと。あの光景は今でも鮮明に覚えています。私はたくさんの方々に支えてもらい、プレーできてきているということを、改めて感じることのできた大会でした。そうして中学生活は、最高の形で幕を閉じることができました。

このように、徳島でバドミントンをやった9年間のことを思い出していると、次から次へと頭に浮かび、懐かしい気持ちでいっぱいになります。

たくさんの思い出のつまった故郷を離れ、聖ウルスラ学院英智へ入学した理由は、将来の夢に少しでも近づけるよう、厳しい環境の中で自分を鍛えたいと思ったからです。その成果は少しずつ出ていると自分では思います。2009年のインターハイで3冠を達成し、その年の全日本総合の女子ダブルスで3位入賞、これからも上を目指して頑張りたいと思っています。

私は指導者の方々、たくさんの仲間に恵まれ幸せです。今の私があるのも、小さい頃からバドミントンの魅力を多くの方々に教えていただいたからです。苦しいときや落ち込んだ時には、必ず徳島でのことを思い出します。徳島県で学んだことは、私の中で本当に大きな支えです。

これからは、お世話になった徳島県協会をはじめ、私に関わってくださった全ての方々へ、少しでも恩返しをしていきたいと思っています。同時に、夢を叶えるためにこれからも努力していきますので、今後ともよろしくお願いします。

（平成21年 執筆）

私とバドミントン

立命館大学　水口恭兵

私は、小学一年生からバドミントンを始めました。最初は違う競技をしようと思っていたのですが、四歳上の姉がしていたこともあり、自分もということになりました。日々、練習を重ねていくなかで、指導者・先輩・仲間・家族の支えがあり、バドミントンの楽しさに触れ、いつの間にか夢中になっていました。そこからはいつも以上に真剣に練習に取り組み、小学一年で、全国小学ＡＢＣバドミントン大会に出場し、毎回全国大会に行くようになりました。

しかし、四国大会では、常に同じ選手に決勝で敗れ、第二代表でした。いつからか全国大会に出場するよりもまず、四国大会で優勝し全国に行こうという目標ができ、一層練習に励みました。しかし、小学校の間では一度も勝つことができず中学へ。

中学へは、姉も通っていた徳島中学校へと進学しました。自分より強い選手、姉も指導して頂いた西野コーチ、何より今まで以上に技術、体力、精神力を磨きたいと思い進学しました。中学二年には、どうにか全国中学バドミントン大会に出場することができたのですが、四国大会ではまたもや小学生の時と同じ選手に負け、第二代表で終わってしまいました。

そして中学最後の総体、今まで支えてくださった方々のためにも、何より自分のためにも四国大会優勝という最大も目標を叶えようと決して一戦目から楽な試合ではなかったのですが、三年間の集大成と思い、皆の声援を背に受けながら試合に挑み、優勝することができました。本当に私を色んな面で指導し、見守って頂いた方々に感謝しています。

高校は、今よりも上を目指そうと思い兵庫県の村野工業高校に進学しました。徳島での経験が活き、高校一年生からインターハイにも出場することができ、三年生では県総体で三冠を達成し、インターハイへ。兵庫県代表ですが国民体育大会にも出場することができました。兵庫県で三年間やってこれたのも、小学・中学で徳島での様々な経験や沢山の方々の支えがあったからです。

また、この先私は、バドミントン競技も勉強もしっかりやり、今以上に大きく成長したいと思っています。そしていつかは、徳島県代表となり国体に出場したいと思っています。こんな私ですが、徳島県のバドミントンに携わり、少しでも役に立てればと思っています。そのためにも大学で多くの経験を得て自分自身のものとし、将来、徳島の選手に少しでもそれを伝えられるようにしたいと思っています。

最後になりましたが、私にこれまで数え切れないほどのご指導頂きありがとうございました。これからも、自分自身のためにも、支えてくださった方々のためにも精一杯頑張っていきます。

一生忘れる事が出来ない新潟ときめき国体(4位入賞)

鳴門病院　宮崎友望



第64回ときめき新潟国体に出場し、４位に入賞することができました。私にとっては、初めて出場する国体ということもあり、緊張と楽しみで胸がいっぱいでした。１回戦は熊本県、２回戦は大阪府、準決勝は、青森県、３位決定戦は富山県とたくさんの強豪チームと戦いました。チームで「楽しむこと・最後まで諦めない」ということを目標とし、１試合１試合全力で勝利を信じ戦った結果、チームが一つになったと感じた瞬間でした。

ここまで支えてもらい、応援してくれた杉内監督やコーチ、バドミントン関係者や家族や友人で勝ちとった４位だと思います。これからも、国体での経験を活かし、感謝の気持ちを忘れずバドミントンを続けていきたいです。

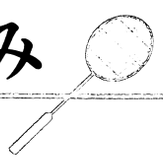
杉内監督「一回戦は熊本県に崖っぷちからはい上がり勝利した（ベスト８）。準々決勝は大阪府の強豪高校に、勢いで圧勝した（ベスト４）。準決勝は優勝候補の青森県と最後まで、もつれ込み互角の試合で敗戦。三位決定戦は、富山県に集中力がきれ敗戦した（県過去最高の第四位）。

一戦ごとに強くなり勝負は最後まで、諦めずに戦えば、何かが起こることを選手たちが私に教えてくれた最高の戦いであった。また、全国制覇してもおかしくない戦いをし、最強のチームに感謝している。」

水口愛梨「インターハイでは、結果が出ませんでしたが、高校最後の国体で結果が残せて今までお世話になった方への恩返しができたのでよかったです。」

若田美沙「どんな相手との勝負でも、諦めずに勝利を信じてチャレンジすることで結果を出すことが出来ました。また、周りの方のサポートがその原動力となりました。これからも感謝の気持ちを忘れず、前進し続けたいと思います。」

各団体の歩み



徳島市バドミントン協会の歩み

徳島市バドミントン協会 理事長 輝尾明人

○ 設立まで

昭和28年春、徳島市会議員の藤井二男氏、徳島市役所の木下晋氏が、高松市との親善野球大会に出場した際に初めてバドミントンに接し、その手軽さ、将来性に着目し、帰県後すぐに徳島市役所の大西正義氏と三木恒夫氏に話を持ち込み、徳島市バドミントン同好会が結成された。

○ 設立当時

徳島市バドミントン協会の正式な設立は、昭和47年当時県バドミントン協会の理事長であった新見泰志氏の努力によって発足し、徳島市体育協会の専門部として加入が認められた。初代理事長は、現在の会長でもある小椋貞和氏である。

設立当初は、市協会役員も県協会役員との兼任が多く、市協会としての行事は少なく、かつ県協会の行事を優先することが多く、活発な活動はできなかったが、市教育委員会主催の『市民バドミントン大会』の主管、また市教育委員会の依頼を受け、『市民バドミントン教室』を続けて開催した。これらが、市民のバドミントンに対する関心と、基礎技術の向上に役立ったものと考えられる。その結果、東部バドミントンクラブなどの愛好者による活動が始まり、その後の地域におけるクラブ活動発展の緒となったとすれば、当初の活動にも大きな意義があったと思われる。

昭和59年４月より、市協会役員も若い世代に一新し、大会の内容も充実し、全てに画期的な発展を見せていった。実施する大会も、◇市長杯大会　◇市会長杯大会　◇市選手権大会　◇ミックス大会　◇Ｂ＆Ｇ杯大会　◇市民体育祭大会　◇丸亀市協会との交流大会と、年間７大会を開催するまでに盛会となっていった。またこの頃より、次の世代の発展を目指して、小・中学生のバドミントンスクール（市教委・市体協・市体育　振興公社との共催）を主管実施し、ジュニアの技術の向上に努めていった。大会も、小・中・高生の大会を新設し、◇ジュニア選手権大会　◇小学・中学・高校選手権大会を開催し、レベルアップを目指して運営を進めていった。

平成に入ると、地域の体協もジュニアの育成に力を入れ始め、平成10年頃には、小・中学生のレベルアップがめざましく進み、協会の運営としては、小・中・高生の大会を一般の大会に吸収し、一般と競わせることで更なるレベルアップを目指した。また、参加人数の増加が進まない一般競技者を対象としてミックス大会を増やし、愛好者の試合参加の増大と競技底辺の拡大、ジュニアのレベルアップを目指して協会運営を推し進めていった。

○ 現　在

平成20年現在、◇市長杯大会　◇ミックス大会　◇団体ミックス大会　◇協会長杯大会　◇小学校ＰＴＡ学校対抗大会　◇団体大会　◇選手権大会の年間７大会を開催し、協会設立当初から親交を深めている丸亀市協会との定期戦も続けられている。協会の３大大会（市長杯・協会長杯・選手権）は、ジュニアと一般との統合化や、初心者クラスの普及も合わせ、種目を１部から４部に分けていることもあり参加人数も多く、延べ300組を超えることも少なくなく、大会を２日に渡り開催している。ルールの変更もあり、試合時間は短くなったが、依然として１日で大会を終了するのは困難な状況である。

○ 今後の展望

市協会役員も、少しずつ世代交代は進んできているが、やはりより多くの人員を必要としている。役員を増やすことにより、効率のよい大会運営や、協会としての機能の充実が望まれている。今後は、大会の運営のみならず、初級者やジュニアを対象とした講習会の開催、また、初心者が気軽にバドミントンを始められる場の提供も今後の課題と考えている。

参考文献：徳島県バドミントン協会30年誌

年　度	会　長　名	理　事　長　名
昭和47年	新見　泰志	小椋　貞和
昭和59年	新見　泰志	森　　茂行
昭和60年	新見　泰志	森　　茂行
昭和61年	新見　泰志	河野　幸男
昭和62年	黒川　　勉	河野　幸男
昭和63年	黒川　　勉	増金　秀行
平成１年	小椋　貞和	増金　秀行
平成２年	小椋　貞和	吉川　恭弘
平成３年	小椋　貞和	福山　雅史
平成４年～平成18年	小椋　貞和	福山　雅史
平成19年～	福山　雅史～	輝尾　明人～

鳴門市バドミントン協会の歩み

鳴門市バドミントン協会 理事長 戸崎　義



1　鳴門市バドミントン協会設立前の市内における活動状況

鳴門市におけるバドミントンの歴史は比較的浅く、昭和40年代後半に市役所職員と市内の数社の民間事業所に勤務する愛好者15名程が、週２～３回市民会館で互いに練習し始めたことで、その後の発展につながった。学生時代の経験者数名により希望者を募り、初心者を指導しながら愛好者を増やしていった。昭和50年代に入り、広く市民に呼びかけ徐々に愛好者が増え約30名に達し、昭和53年に鳴門バドミントンクラブが発足した。その後部員は50名に増え、市民会館の４面のコートでは満足に練習できなくなり、２班に分け片班ずつ羽根を打ち、その間別班は運動公園（現鳴門・大塚スポーツパーク）まで往復約２ｋｍをランニングするということもあった。また、このような満足に羽根が打てない状況ではレベルの向上も期待できないことから、鳴門市立工業高校の体育館も借りて練習していた。しかし、いずれの練習場にも当時はバドミントンのコートラインはなく、ただポールを立てるだけでコートのコーナー等の要所にチョークで印を書き、目視でシャトルのイン・アウトを判断していた。昭和55年７月、大桑島にバドミントンコート３面を有する市の勤労者体育センターが完成し（コートラインは１面のみ）、市立工業高校高体育館に代え練習会場とした。このような状況の下、部員からは満足な練習条件の整備、大会の開催等の要望が強くなってきたため昭和57年２月、６名の発起人による協会設立の発起人会を持った。

2　鳴門市バドミントン協会設立経過

昭和57年２月19日、次の６名の有志により鳴門市におけるバドミントン活動を主導する団体を創るべく団体発起人会を開催し、引き続き設立総会に移り鳴門市バドミントン協会が誕生した。

発起人：池田　政文、牛川　　務、小川　仁志、鎌倉　　準、喜田　展行、斎藤　　太

同年４月３日に設立後初の総会を開催し、初代会長に藤田義行鳴門市議会議員、理事長に牛川務を選任し承認された。同時に、協会規約、予算、行事予定が決定し、以後の活動が開始されることになった。

会　長　昭和57年４月～藤田　義行
　　平成２年４月～福島　慧雄
　　平成11年11月～西條　一夫
　　平成14年４月～横井　茂樹
　　平成25年４月～泉　　理彦

理事長　昭和57年４月～牛川　　務
　　平成11年11月～戸崎　　義

3　協会活動

○　鳴門市体育協会への加盟

設立後の昭和57年３月１日に、鳴門市体育協会への加盟申請を行い、６月の体育協会総会において協会設立・加盟理由等を説明した。そして１年間の活動状況を見てもらい、翌年の総会において加盟が承認された。鳴門市体育協会構成団体として、昭和58年度より体協理事・評議員を選出し、その後総会に出席している。

また、市体育協会より日頃のバドミントン普及・競技力向上に対して表彰していただいている。

＜財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者表彰＞

平成16年　牛川　　務

＜体育功労章＞

昭和61年	牛川	務	平成15年	一森	啓次
昭和63年	池田	政文	平成16年	高月	育雄
平成２年	鎌倉	準	平成19年	竹田	峰子
平成４年	西條	一夫	平成21年	戸崎	義
平成８年	山下	美代			

○ 事業について

設立当初は、市内における愛好者の拡大、その後競技力向上など協会の目的を遂行するため、競技会の開催、講習会の実施等を開始した。愛好者を増やすため、年数回の講習会を実施し、参加者は皆熱心に受講した。互いに活動条件が一致するメンバーが集まり、３つの団体が発足。スミレクラブ、コスモスクラブ、スズランクラブでその後活動が続けられた。また、初心者にも参加しやすくするため、市民大会を開催した。

現在では鳴門市各地に愛好者が増え、鳴門市協会に登録している団体も10団体（約160名）を超えてきている。市協会に登録していない団体を合わせると相当な競技人口になると思われ、鳴門市におけるバドミントンの普及も進み、各クラブで熱心に練習に励んでいることは大変喜ばしいことである。また、競技力向上のため、市協会主催大会を年５回（鳴門市会長杯大会、真理子杯大会、鳴門市民体育祭、鳴門市フェスティバル大会）開催している。

県大会等への参加と併せ、市民のみの大会でなく広く県内・県外選手との試合もしたいという要望もあり、昭和58年７月にオープン大会を設けた。第１回のこの大会には市外の団体からの参加者を含めて36名の大会であった。その後、大会名を鳴門オープンバドミントン選手権大会とし、毎年２月に開催し徐々に県内外にもこの大会が知られ、第５回大会には135名の参加を得て開催。第６回大会から会場を鳴門県民体育館に移し、第８回大会から10回大会までは東四国国体前の徳島県選手の強化も併せて、県協会との共催で、香川、広島、京都等多くの県外選手の参加があった。

現在では、第31回を迎え400名を超える参加者があり、盛大に開催されている。

阿南市バドミントン協会の経緯

阿南市協会副会長 江 川 正 治



阿南市のバドミントンの始まりは、徳島市役所、故大西正義（県バドミントン協会理事長）から是非共阿南市の方もお願いしたいとの話があり、阿南市職員の岡久吉隆、湯浅アキノ、山下喜美恵、板垣タカノ、長田千鶴子達数名のグループでバドミントンが始まった。

昭和36年になり、江川正治、中村白が阿南市役所に就職一段と活気づいた。この年阿南市役所バドミントン部が正式に発足した。体育館がなく不十分な施設阿南市教育委員会の分館ホールで週に５～６日の練習を行った。

当時は、県下においては選手人口やクラブも数少なく、技術力はもとより維持管理面、特にハード面においては練習の場が少なく苦慮した時代であり、また他のスポーツをされている方でもバドミントン競技に対する評価が低く、底辺の拡大には程遠い時期でありました。

昭和38年待望のスポーツセンターが完成、クラブも阿南市バドミントン連盟として再出発しました。江川等が一番力を入れたのは将来に続く若い力を育てたいと富岡東高校や阿南工業高校のクラブ設立に深くかかわり、又、高校生の指導に熱中しました。その結果、富岡東高校（Ｓ38年）を皮切りに、富岡西高校（Ｓ39)、阿南工業高校（Ｓ41）と年ごとにクラブ化することができました。後になって最後の一校、新野高校（Ｓ54）も足並みを揃えるに至りました。けれども、中学校については当時諸条件が整わず時期尚早の感がありましたが、一応底辺拡大の基礎ができました。

この頃の思い出の一つに、県下の新人大会を毎年市スポーツセンターで開催することができたことがあげられます。数年後には参加人口が次第に増加し、富西で女子、阿工で男子と大会を２会場で行うことになり、阿南市の高校、一般の競技者にとって一層の励みとなりました。また、全県下の底辺拡大と相俟って、念願の徳島県官公庁バドミントン連盟（Ｓ58）を結成することができました（年に夏と冬の２回の大会)。皆様の心が一つになって前進した結果であると感謝致しております。前後して、市内各地では体育館の建設ブームと同時に、クラブ数も増加の一途をたどりました（現在中高で６校、一般20チーム)。また実績面でも高校、一般共に素晴らしい成績を残していただきました。

競技人口、協会の組織も充実し、ハード面でも完備され、やっと成熟期を迎えることができたことは、一重に熱心に取り組んでいただいた皆様や、各関係機関の方々の賜物であると深く感謝申し上げます。平成13年３月に阿南スポーツ総合センターが、県内最大（バドミントンコート12面）のスポーツの殿堂とも言える体育館が完成し、年間協会主催、共催を合わせ12大会を開催することができ、一層の拍車をかけることになりました。県下一円の皆様にも御参加をいただき、盛大な大会行うことができ、ありがたく思っております。

活躍した選手達

団体選手として阿南市役所の江川正治（Ｓ40～41年）県農協資料の吉田栄助（Ｓ40～46年)、神崎製紙の星加忠弘（Ｓ44～45年）四国エンジニアリングの戎野裕二（Ｓ54年）新王子製紙の神野安朗（Ｈ５年）富岡東高校の大形和美、杉本洋子、市瀬ゆかり（Ｓ57年）が阿南勢の意地を見せた。

昭和59年の夏には、富岡東高校神野安朗選手が、四国高校選抜大会で優勝し、昭和60年には全国高校選抜大会シングルス第８位、夏のインターハイ四国大会シングルス優勝を遂げた。この時期富岡東高校へは非常に熱心に指導優秀選手を多数育てた富岡東高校の神崎先生が居られました。

平成14年９月の四国総合選手権男子シングルスで六連覇を達成した戎野裕二等々「県南であの人有り」と名を高くした選手が多くいます。

歴代役員

初代会長 仁 木 斐 一

二代目会長　近　藤　治　郎（現在に至る）
初代理事長　江　川　正　治
２代理事長　笹　野　　哲
３代理事長　小　林　洋　一（現在に至る）

スポーツを愛し仲間と共に楽しみよりよく生きるため、豊かな心身の維持増進をしていくうえで、前向きに取り組んでいくことが望まれる今、幅広い年齢層の人たちに参加していただくために、地域の生涯スポーツとしてシャトルに慣れ親しんでいただき、多様な要求に応えられるよう（公式戦は別として）ルールの多少の変更や競技形式の工夫をするなど、活動のサポートをしていくことが、私たちに託された課題であるのではと考え、結びと致します。

徳島県実業団連盟の歩み

会長 久次米 慶 二

○設立まで

昭和31年より徳島市役所、阿波銀行が全国大会に挑戦。昭和40年より徳島市役所、阿波銀行、阿南市役所が四国大会に参加、県のレベル向上に貢献（30年誌より）。残念ながら参加記録、栄光などは残っていない。昭和38年に会長 大串博昭（故人、当時日本飼料工業）、理事長 新見匡弘（日本飼料工業）、総務 越後禎之（阿波銀行）で設立された。しかしながら昭和43年、選手の退職、県外への転勤などで自然消滅した。

○設　立

現在の実業団連盟は、再結成された連盟である。昭和55年、西野昌明（現県協会会長）、吉田泰造（元県協会会計）、村瀬章（元ＮＴＴ徳島）、今出幸男（現県協会副会長河野）、吉田栄助、木下一重（元農協飼料）によって検討され、再スタートされた。昭和55年、夏休みに第１回大会が城東高校の旧体育館（国道11号線沿い）で団体戦が開催された。参加チームも少なく、学生時代の未経験者が半数を占め、試合中、雷の影響で停電などのハプニングの中スタート。昭和56年より夏季、冬季の年２回の団体戦が開催された。昭和57年より参加チームを増やすためとレベルの差があり、参加に躊躇すると村瀬氏より意見があり、阿波銀行本店西側の喫茶店にて西野氏、河野氏、村瀬氏、吉田氏、久次米が集まり検討の結果、６チームを１つの部とし、下部クラスを増やしていく方向が決定された（初参加は最下部）。また、大会を四国、全国に合わせて、春季大会を設けて個人戦とし、現在の体制に至る。平成に入り参加チームも増加、男子は28チーム５部までできる状態となった。

参加条件は厳しく、失業保険または健康保険がかけられていること。しかし、徳島県独自で臨時社員、アルバイトも認め（正社員と同じ勤務）、教職員も生徒への指導を期待し、参加を認めた。一方、女子はレベルの差が大きく６～７チーム推移し、１部の参加チームが少なく、不戦勝が続く平成10年度あたりから参加チームが減少し始める。若い人の入社が少なく、趣味の多様化が影響している。最近は新しい企業からの参加も出てきているのは喜ぶべきことである。

四国大会は、昭和39年より始まっているようである。記録が残っているのは第19回大会（昭和58年２月高松市開催）からであり、大塚製薬の１部にての準優勝が最高成績である。女子は参加チームが少なく、いかに増やすかが課題である。



第29回徳島県冬季実業団バドミントン大会　開会式（2009年12月19日）

○今後の展望

レベルアップと参加チームを増やすこと、特に女子チームについては四国大会でも議題になっている。現在はルール改正により、男女の得点差はなくなっているので良い機会かもしれない。県においては人数のそろわないチーム、年齢の高いチームは女子との混合で参加を認めている。四国、全国大会には参加できないが、痴呆防止には一つの方法と思われる。

全国実業団のチームは減少している。特に女子チームについては半減している。参加条件の変更で、他県社員との合同、ＮＰＯ法人など、一部企業として首をかしげるが、アマチュアかプロかは難しい問題である。





第30回徳島県夏季実業団バドミントン大会 試合風景（2009年７月26日）

○役　員

会　長　　久次米慶二
理事長　　吉岡　　努
監　事　　天野　　一　　佐幸　直也

稲田　雅史（大塚製薬）　細東　和弘（徳島県庁）　小林　敏秀（徳島市役所）
松下　幸介（日亜化学）　神野　博吉（四国電気保安協会）　秦野　智宏（四国電力阿南）
松本　　裕（四国電力徳島）　吉田　　格（四国電力徳島）　北本　昌之（王子製紙）
近藤　貴資（大塚製薬鷲敷）　林　　茂樹（大塚製薬板野）　松田　夏城（ＪＲ四国）
小林　和生（徳島教育航空群）　輝尾　明人（徳島県教育委員会）　宮本　　祥（喜多機械産業）
杉内　邦弘（ＮＴＴ四国）　井上　善博（ＡＬＳＯＫ）　曽我井昭男（三洋電機）

○歴代会長及び理事長

会　長	昭和38年４月～	大串　博昭	理事長	昭和38年４月～	新見　匡弘
	昭和55年４月～	黒川　　勉		昭和55年４月～	西野　昌明
	平成３年４月～	大西　　保		昭和63年４月～	久次米慶二
	平成８年４月～	藤本　孝彰			
	平成16年４月～	久次米慶二		平成16年４月～	吉岡　　努

※昭和43年４月～昭和55年３月　一時中断

徳島県レディースバドミントン連盟の歩み

徳島県レディース連盟理事長 高 田 由紀江



創立60周年おめでとうございます。

徳島市立体育館や、福島小学校、助任小学校体育館でバドミントンを楽しんでいた女性達が県協会主催の大会にも出場できるレベルに達したいと当時の県協会理事長　富田善明氏や今出幸男氏（現河野県協会副会長）及び福島小学校で子供向けの指導をしていた地元の藤本孝彰氏（県協会副会長）に相談、指導を受け県家庭婦人連盟設立に動き出した。設立１年前に大会実施。これで一気に前進。昭和57年４月１日に徳島県家庭婦人連盟がスタートした。

設立にかかわった人々は初代理事長山本幸子氏（末広町）魚野澄子氏（中吉野町）土井公子氏（徳島大学職員）であり全員30才台。競技人口増加のため積極的に各クラブをまわっていた。又、大会内容を常に考え１部～４部制やリーグ戦等を取り入れ参加者を増やしていきました。

その他競技力向上のため、定期的に県協会から指導を受けたり、数年後には全日本、西日本家庭婦人大会に参加の腕をみがきました。

当初からの大きな目標の一つに参加者を100人にする事でしたが、結成後３年目に21クラブ110人が参加しました。

次は200人大会とし平成14年度には40クラブ200人を越える大会となり大喜びしたものです。しかし、ここ最近は、そういう微笑ましい姿も減り参加者の人数にも減少が目立つようになりました。そこで打開策の一つとして全国大会の誘致を県協会からも云われ続け、なかなか実現には到りませんでしたが、平成24年12月、「第７回全日本レディースバドミントン競技会」（個人戦）を、県協会、四国レディース連盟の協力を頂き開催することが出来ました。全国41都道府県から724名の選手を迎え、鳴門会場、徳島会場に分かれ２日間の熱戦を繰り広げ、盛況のうちに無事終えることが出来ました。これを機に徳島レディースにも活気をと期待しましたが、なかなか歯止めにはならないようです。レディースという利点を活かし、お母さんの楽しいプレイを見てお子さんがジュニアでも活躍したり、親子で大会に出場し家族の和をもたらすなど、そういう愛好家をたくさん大会に出てもらう。一方選手の強化の一つとして若手の育成も急務だと考えます。全日本レディース連盟は本年度より、中学校教育課程修了者で、年度内他の連盟に所属していない者、と資格の規約が改訂になります。徳島から全国に繋がる選手を！を目標に、尚一層の努力をして行きたいと役員一同頑張っております。





徳島県高体連専門部のあゆみ

徳島県高等学校体育連盟バドミントン専門部 副委員長 岡佐古 拓 也(城東高等学校)



徳島県高体連にバドミントン部が設置されたのは、昭和41年である。これまでの活動状況を、過去の専門委員長である、野村淳平部長、平岡嘉泰委員長の稿を参考にさせてもらいながらまとめることとする。

本県の高校に初めて部が創設されたのは、昭和29年県立日和佐高校においてであった。唯一の活動校として、31年32年に全国・国体四国予選・西日本の各大会に参加したが、いずれも初戦突破をすることが出来なかった。これではということで出場を見合わせ、資質の向上に努めることにしたというのが、バドミントン部創設期の話である。39年同好会を含めて県下で５校となったのを機に、県総体オープン参加。40年準専門部を経て、41年専門部に昇格となり、待望の正式活動のスタートを切った。

本県の高校バドミントンは、日和佐高校を抜きにして語ることはできない。県総体だけに限定しても、団体優勝回数は男子13回女子18回に及んでいる。この輝かしい業績は、ひとえに仁木義顕教諭の卓越した指導力に負うものである。氏は日和佐高校へ転任した29年に部を創設し、以来営々と部の育成に尽力し、限りない情熱をバドミントンに注いできたのである。氏の指導下の日和佐高校の活動が、直接的にも間接的にも本県バドミントン競技の発展に寄与したことはいうまでもない。

専門部設置の41年は男女各６校であったが、60年には男子19校女子18校、平成20年には男子25校女子24校となった。この普及は、選手たちが卒業後も地域社会で同好の士を集め、プレーを楽しんだことや、県協会の地道な普及活動が功を奏したといえる。

ここに過去43年間の県総体優勝校回数を挙げると、

《男子》　日和佐高校13回　城東高校10回　徳島商業高校10回　徳島市立高校５回
小松島西高校１回　阿南工業高校１回　小松島高校１回
富岡西高校１回　城南高校１回

《女子》　日和佐高校18回　城東高校17回　徳島商業高校３回　小松島西高校２回
富岡東高校１回　富岡西高校１回　徳島北高校１回

となっている。平成５年の四国国体を機に選手強化のため、高校入試で城東高校男女バドミントン部にスポーツ推薦制度を導入し、また、平成18年度からは城東高校女子バドミントン部がスポーツ強化指定校に指定され、同校が浮上し現在に至っている。

平成12年から県内の主力中学生の入部、そして経験豊富な小寺由香先生が配属され着実にレベルアップしました。更に平成12年から外部コーチの杉内邦弘氏が加わり、城東高校女子チームの活躍はめざましく、平成19年には四国高等学校バドミントン選手権大会で31年ぶりの優勝を飾り、また、平成19年度全国選抜大会では女子ダブルスで水口・若田組がベスト８に入賞するなど、全国レベルに通じるレベルアップを果たしている。

今後の課題については、少子化とともに部活動人口の減少が嘆かれる中で、バドミントン人口の増加を図りながら、男子部員の強化による全国上位レベルに通じるレベルアップを果たしていく必要性を強く実感しており、大きな課題となっている。

徳島県高等学校体育連盟 バドミントン専門部 歴代委員長

昭和41年度～昭和53年度	野村　淳平	小松島高等学校
昭和54年度～平成７年度	板東　輝雄	小松島高等学校、小松島西高等学校
平成８年度～平成11年度	平岡　嘉泰	城北高等学校
平成12年度～平成14年度	寺内　智子	盲学校
平成15年度～平成19年度	多田　　功	徳島市立高等学校、鳴門高等学校
平成20年度～平成24年度	岡佐古拓也	城東高等学校
平成25年度～	澤田　慎也	徳島科学技術高等学校

徳島県中学校体育連盟バドミントン専門部の歩み

富田中学校教諭 大 阪 真智子

1 創成期

徳島県中学校体育連盟の専門部にバドミントン競技が加えられることになったのが、昭和38年である。当時の徳島県総合体育大会の参加校数は、徳島市内５校、徳島市外の２校の計７校からの出発であった。

昭和45年まで専門部長を務めた山本圭二先生を中心に、県協会役員の方々や各中学校のバドミントン部顧問の熱心な指導により、次第に中学生の実力を蓄えていった。代表的な学校や指導者を挙げると、まず、日和佐中学校である。故仁木義顕先生が中高一貫の指導者として６年間を通しての指導体系を確立し、輝かしい実績を残している。次に小松島中学校では、専門部長である山本圭二先生が好選手を育成した。徳島市内勢では、新見泰志氏（当時県協会副会長）を軸として小川真澄先生・藤本孝彰先生らの熱心な指導のもと、県史に残る選手を八万中学校から輩出、八万中黄金時代を築き上げた。また、城東中学校の田中実先生、徳島中学校の小椋貞和先生、富田中学校の大西順子先生、川内中学校の住友良一先生・谷川浩三先生。各先生方の努力と熱意が、徳島県の中学校バドミントン競技の隆盛をもたらす原動力となり、今日の県中体連バドミントン専門部の育成に大きく貢献した。

2 発展期Ⅰ（昭和40年代）

この時期、指導者、関係者の努力が徐々に成果を実らせ、県総体への参加校数も次第に増え、競技力も向上し、優秀な選手も続々と生まれた。

男子では、昭和40年代前半、日和佐中学校の仁木・野村・杉内・川島・戎野と続いた。それに負けじと、第二期黄金時代を築いた八万中学校の森（治）・杉本・藤本・谷田・森（学）が活躍した。女子では、八万中学校の島田、川内中学校の安宅・中瀬・松尾、日和佐中学校の長井・灘・井口。城東中学校の増金（敏）・黒崎。やや年代が上下することもあると思うが、高校生なみの実力を身に着けるほどの実績であった。

昭和46年に第１回全国中学校バドミントン大会が東京都立体育館で開催された。男子は八万中学校、女子は川内中学校と八万中学校の合同チームで参加した記念すべき大会であった。各県男女各１チームの参加で、団体戦は１複２単での試合形式だった。結果は、男子チームが３回戦まで勝ち進み、準優勝した奈良県チームとの対戦であったが、大差はなく互角で試合することができた。惜しくも１対２で敗戦したものの、手応えのある大会であった。女子は、１回戦に完全優勝した大阪代表チームと対戦し、惨敗した結果となった。

その後、全国大会の開催地は名古屋、三重、仙台、神戸と開催され、我が県も毎年参加するものの、１回戦突破の壁は厚く、日和佐中学校女子の２回戦進出止まりとなった。

3 発展期Ⅱ（昭和50年代）

昭和52年の四国中学校総合体育大会からバドミントン競技の加入が認められ、第１回大会開催地が香川県で行われた。愛媛県の加入が遅れ、３県での対抗戦であった。以後四国総体での結果は、香川県が他県より技術・体力・精神ともに群を抜いて強く、男女ともに優位がゆるぐことはなかった。

全国大会の出場が各県からできなくなり、四国から１チームの割り当てになった。この制度になってからは、徳島県の選手が四国大会で勝ち、全国大会に出場する選手の姿が消えてしまった。

「香川に追いつけ、追い越せ！」と立ち上がった川内中学校の盛龍一先生や徳島中学校のコーチの西野昌明氏（現県協会会長）や岩田吉紀氏等が選手を引き連れ、香川県の強化練習会に参加した。また、県外対抗試合にも引率するなど、強豪香川の実力や実状を知るため、並々ならぬ努力を積み重ね

徳島県の中学校バドミントンの競技力向上に全力を尽くしてこられた。この方々のご尽力があったからこそ、現在の功績があるといえる。

県中体連に加わってから22年が経過した。ここにこれまでに県総体に参加し、活躍した校名を記しておきたいと思う。

南より、常勝伝統の日和佐中学校、時折大型選手の出てくる坂野中学校。小松島中学校、阿南中学校、津田中学校、富田中学校。すばらしい先輩を有する八万中学校、実力アップの徳島中学校、附属中学校、徳島文理中学校、城東中学校、加茂名中学校、多くの名選手を生んだ川内中学校。鳴門第一中学校、瀬戸中学校、井川中学校。

（昭和46年～昭和60年中体連バドミントン専門部長　藤本孝彰先生
県バドミントン協会30年史　参考）

4　発展期Ⅲ（昭和60年代・平成元年～平成12年）

この時期の専門部長の先生を明記すると

昭和61年・62年	谷川　浩三先生	当時（八万中）
昭和63年	石川　和幸先生	当時（附属中）
平成元年	藤原恵美子先生	当時（富田中）
平成２年	中山　千尋先生	当時（八万中）
平成３年～６年	金森　映人先生	当時（徳島中）
平成７年～12年	伊藤　浩二先生	当時（川内中）
平成13年～18年	生田　泰之先生	当時（羽ノ浦中）
平成19年～	大阪真智子	（富田中）

この時期、昭和62年から長年にわたって、県内では無敵といわれる徳島中学校女子の黄金時代となる。当時、徳島中学校校区のジュニアチーム（内町小ジュニア・助任小ジュニア）の小学生強化に注目し、保護者との協力体制を確立したことが実を結び、徳島中学校女子の原動力となったことは事実であり、また、同じく徳島中学校区の渭北体協の協力を得て、西野昌明氏、吉田泰造氏（徳島中学校外部コーチ）の熱心な指導を受け、部活動以外での技術指導や練習量の増加が競技力向上へと繋がった。長年にわたるその指導の積み重ねが、全国に通じる数々の選手を育成し、好成績を残した。四国でも徳島県優位の時代を築いていくことになり、現在では全国出場常連校にまで成長している。

まず、徳島中学校の中山佐知子が平成元年、四国大会で香川勢を抑え優勝（女子単）。念願の全国大会（山口市）に出場し、全中大会でも５位入賞を果たすことができた。その後、実業団（ヤマハを経てベスト電器）で活躍し、徳島市立体育館で行われた実業団日本リーグ戦ではダブルスの試合に出場し、その活躍ぶりに県関係者一同感動したことは記憶に新しい。バドミントンで実業団に就職した選手１号となった。


男女を通じて初の四国制覇シングルス優勝の中山選手

平成３年、熊本開催の全中大会に徳島中学校の宮本・赤岩・石井・堤・坂本が出場した。続いて、平成４年に行われた高岡大会にも徳島中学校の坂本・石井・岡本・浜尾・堤・勝瀬が出場した。団体戦のメンバー全員が四国大会の個人戦にも出場し、岡本・浜尾組は３位決定戦まで進むことができた。この２年間に育った選手たちは城東高校へと進学し、後に徳島県を代表する国体選手として活躍した。その後は四国を突破する選手を生むことができず、苦渋の８年間となる。

平成５年、松前が加わり、平成６年から団体戦の出場枠が１県２校となった。同６・７年には、西岡がシングルスで３位決定戦に進出。平成９年には、愛媛県新居浜市で全中大会が行われた。四国地

区開催ということで、徳島中学校の久次米・林・阿部・蔭山・柳本らが何とか全中出場を目標に挑んだ大会だった。近県の強豪校との練習試合や強化練習会を積み重ねたが、健闘むなしく目標を達成することができなかった。

その原因の一つが「外部コーチのみの指導だけでは四国は突破できない。香川県・愛媛県ともに中学校の顧問教員が、バドミントンの専門でなくても、部活動に携わり、熱心な指導をしている。」と、当時徳島中学校外部コーチの漏らしたことばに集約される。さらに、県1位を保ってはいるが、選手一人一人の資質を考えると、学校生活とバドミントンの様子に大差があること、また、精神力の弱さなど他県の強豪校の選手との違いも挙げられる。県中体連としても、バスケットボールやバレーボールに比べ、バドミントン専門の体育教師が全く採用されていないことや、体育教師の顧問も配置できない現状があった。

平成10年のことであったが、徳島中学校の県総体連覇が途絶え、団体戦に藍住中学校、平谷中学校の2校が四国大会に出場した。この時期、県内では平谷中学校の横田・湯原、藍住中学校の羽里・森、徳島中学校の井村浩子・井村桂子・谷らの活躍が目立った。

男子は、昭和62年の全国大会（春日井）に、城東中学校の永野（単）が出場することができた。当時、県総体で城東中学校男子の別宮は、団体・単・複の3冠を達成したものの、四国大会で勝ち進むことができず、一方、永野は県総体を単2位で通過したが、念願の全中大会に出場を果たすことができた。しかし、健闘むなしく滋賀県日吉中と対戦し、1回戦敗退という結果となった。

その後の男子の四国大会出場回数を調べてみると、（平成6年からは2校の出場枠）城東中学校は9回出場という常連校になり、富田中学校3回、日和佐中学校は2回、平成7年～9年の3年間は藍住中学校、平成10年～12年の3年間は加茂名学校が出場した。しかし、上位進出が果たせず、やはり男子においては香川の壁が厚かった。個人戦（単）では、平成9年八万中学校の谷、平成10年には同じく八万中学校の松原も第3位決定戦に進出したものの、惜しくも敗退した。この原因としては、ジュニアチームに男子選手の所属が少ないことが挙げられる。徳島県は昔から男子は野球やサッカーを好み、なかなかバドミントンに興味をもつ男子がいない。中学校に入学してからバドミントンを始めるケースが多いため、他県に追いつくにはまだまだ時間がかかりそうである。

5　充実期(平成13年～20年)

この時期は、まさにジュニア強化が花を開き、徳島中学校女子団体が四国大会6連覇を果たし、団体・個人ともに各全中大会で華々しい活躍ぶりであった。ジュニアでの選手の育成に加え、学校現場との一体化が選手たちの技術・精神力向上の成果として表れ、実を結んだといえる。また、平成18年には徳島市立体育館で全中大会が開催され、少ないスタッフが信頼と結束を高め、一致団結し、身を粉にして運営して得た栄えある大会となった。地元開催とあってプレッシャーもひときわ大きかったが、団体・個人単の2冠全国制覇という輝かしい結果を残すことができた。

全中大会の実行委員長を務めた（県専門部長平成13年～18年）生田泰之先生は、平成18年4月、徳島中学校に設置された全中事務局室に毎日通われ、膨大な事務をはじめスタッフの指揮を執り、諸関係者へのあいさつなど、多面において手際よく計画や実践をされていた。時には、夜が明けるまで会議や作業を行うなど、昼夜を問わず大会成功のために尽力された。

平成13年、内町小ジュニアから大阪（全小3位）・仁木（全小16強）が徳島中学校に入学し、チームの雰囲気が一変して活気づき、当時在学中の3年生の麻植・井村桂（滋賀女子・神戸学院大学出身）・中川・近住、2年生の前田（新田高校・日本福祉大学出身）ら上級生たちの潜在能力を引き出した。この年、徳島県初の全中大会（広島大会）では団体準優勝を成し遂げた。また、個人戦では麻植（聖ウルスラ高・立命館大学出身）・大阪あや（聖ウルスラ高・関西学院大学出身）組（複）の5位入賞が徳島県内を騒がせた。まさに徳島県人にバドミントン競技を知らしめることとなった。

平成13年、この年の四国大会は徳島市立体育館で行われ、相生中学校が予選リーグの団体戦で香川・愛媛の強豪校に競り勝つなど、すばらしいチーム力を見せた。しかし、決勝トーナメントの準決勝で

徳島中学校と対戦し、接戦の末惜しくも敗退した。決着がついたのは午後９時前で、熱くて長い戦いであった。相生中学校の監督は、平成７年～12年まで専門部長を務めた伊藤浩二先生で、恵まれない練習環境の中、熱心で地道な練習を積み重ね、結果を残した。伊藤先生においては専門部長時代、献身的な仕事ぶりで、一人で県中体連バドミントン専門部を背負って来たといっても過言ではない。まさしく伊藤先生なくしては語れないぐらいの、なくてはならない存在である。

平成14年には、昨年の徳島中学校チームに西紗由美（愛媛大学出身）がメンバーに加わり、またしても全中大会（大津大会）団体準優勝、個人（単）大阪の５位。相生中学校の井上・小川組も初めて全中大会に出場した。

平成15年、徳島中学校は立川（城東高校・関西大学出身）を加え、北海道旭川で行われた全中大会で、３年連続団体戦準優勝という結果を残した。好成績ではあったが、またしても一歩及ばずと関係者一同ため息を漏らした。しかし、大阪あやが個人（単）で全国優勝を果たし、仁木純子（城東高校・愛媛大学出身）・西紗由美の個人（複）は５位入賞と健闘した。この時、３年後の徳島大会での悲願の団体優勝を夢見て、会場を後にした。

平成20年、インターハイで団体・単・複の３冠という輝かしい徳島県初の快挙を為し得たのは松友美佐紀（聖ウルスラ高校･日本ユニシス）である。松友は、神原靖奈（聖ウルスラ高校･日本福祉大学）、水口愛梨（城東高校･百十四銀行）、藤本香奈（徳島北高校･龍谷大学）らと平成16年に徳島中学校に入学し、松友を中心とし、当時３年の姉松友仁美と久次米・２年の國安、１年の神原で平成16年、全中（茨城）大会団体第３位。団体の順位は一つ落としたものの、個人では松友(仁)・久次米組は第５位と健闘した。また、藍住東中学校の羽里･氏家組も四国大会を２位で通過して同大会に出場した。



第34回 全国中学校バドミントン大会 平成16年8月22～25日 土浦市民会館･霞ヶ浦文化体育会館

平成17年の全中(岐阜)大会では、水口がメンバーに加わり団体第５位。しかし、松友が個人戦(単)第３位に入賞することができ、いよいよ平成18年の徳島（全中）大会での頂点をめざし、徳島中学校の再スタートとなった。

阿波踊りの熱気も吹き飛ばす勢いで、平成18年８月17日を迎えた。会場は徳島中学校にとって校区でもある徳島市立体育館、いわゆるホームでの全中大会であり集大成であった。開催県枠として、相生中学校も出場し、同学校の樫栄・宮崎組が四国大会を２位で通過して個人戦に挑んだ。男子も同じく開催県枠で城東中学校の庄野、東口、東田、川内中学校の金森が出場した。徳島中学校の選手たちは、献身的に運営してくれているスタッフ全員の期待に応え、順調に勝ち進み、みごと団体で全国の頂点に立つことができた。決勝は、３年前に負けた宮城県の聖ウルスラ学院英智中学校とのリベンジ戦であった。松友が単で圧勝し、神原・水口組で念願の優勝を決めた。藤本・山本杏組もねばりのある白熱したすばらしい試合だった。個人でも松友（単）の優勝。(複）神原・水口組は第５位。徳島県２人目の単優勝、団体悲願の全国制覇を果たした。開催県ならではの達成感であった。先にも述べたように、松友はインターハイトップ校の聖ウルスラ学院英智高校に進学し、１年から主力選手とな

り、数々の大会に常に上位を保ち、活躍している。平成20年度インターハイでは、３冠を達成した。（団体・個人単・複）。平成21年度インターハイでは惜しくも準優勝（個人単）となったが、12月に開催された第63回全日本総合バドミントン選手権大会では、高校生としては６年ぶりに個人単で４強入りを成し遂げた。高校卒業後は、日本ユニシスに入社し、2016年のリオデジャネイロオリンピックでは、メダルを獲得することを期待したい。

男子選手を明記すると、

平成11年　杉内一浩（八万中－城東高－金沢学院大）
12年　笠井飛鳥（加茂名中－城東高－徳島大学医学部）
杉本健一（加茂名中－徳商高－金沢学院大）
13年　日和佐中が四国大会決勝トーナメント進出
川島誠吾（日和佐中－徳商高－大阪経済大）
椎野隆大（八万中－城南高－関西大）
14年　武田直也（日和佐中－徳商高－京都産業大）
15年　大倉弘樹（藍住東中－新田高－京都産業大）
福家康記（八万中－城南高－同志社大）
16年　中山　慧（川内中－城東高－尾道大学）
17年　森本　亮（藍住東中－柏原高）
鏡　裕樹（藍住東中－徳商高）
土橋拓弥（藍住中－板野高）
森本・鏡組が全中大会（岐阜）個人複に出場
18年　金森優太（川内中－新田高－法政大）
19年　福家匠麻（八万中－城南高－同志社大）庄野正博（城東中－徳商高）
20年　齋藤裕進（加茂名中－徳商高）木村友輔（藍住中－村野工業）
21年　水口恭兵（徳島中－村野工業高）四国単（準優勝）、全中出場
22年　水口恭兵（徳島中－村野工業高）四国単（優勝）、全中出場
23年　吉岡和真（徳島中－聖ウルスラ学院英智）、新田将大（徳島中－城東高）（複）、全中出場
樫山哲也（城東中－徳商高）
24年　川崎右京（城東中－徳商高）、佐藤侑紀（藍住東中－徳北高）
25年　岡　蒼太（城東中－徳商高）

が挙げられる。

平成20年には、徳島中学校の藤本陽奈（単）をはじめ、國安涼可・山本桜子（複）、金森望（単）らが四国大会で３冠を果たし、全中大会（福島）に出場。

平成21年には、同じく徳島中学校の、金森望（四国大会優勝（単）、塚本祥子、久田佳奈、金澤加奈、四宮詩織で四国第２代表として全中大会（長崎）に出場。

平成22年　金澤加奈、四宮詩織（徳島中）四国出場
23年　鶴熊美樹、森　隆子、山下華奈、露口有香（徳島中）、岩崎遥香（羽ノ浦中）
四国第３位、全中出場
24年　亀島珠美、廣田美柚（徳島中）、四国出場
京野沙耶、岩﨑楓由（徳島中）（複）全中出場
25年　京野沙耶、岩﨑楓由　全中複　第９位。四国優勝

今後は、更に中学生の育成に携わる熱心な指導者が育ち、バドミントン競技の向上に繋がることを期待したい。

徳島県小学生バドミントン連盟の歩み

徳島県小学生バドミントン連盟 加藤真人

徳島県小学生バドミントン連盟は、日本ジュニアバドミントン連盟が設立され、全国各地にジュニアバドミントン連盟が発足したことを受け、平成９年４月１日に設立され、会長に藤本孝彰、副会長に吉田泰造・山本英男、理事長に植田宏和という役員体制でスタートした。藤本氏は中学校教員という立場から、赴任先の中学校にバドミントン部を創設し指導にあたられる等、バドミントン競技人口の増加・底辺拡大にご尽力いただいた。吉田氏は地元である渭北およびその周辺地域でバドミントンの普及につとめられ、また植田氏は、小学校教員として小学生にバドミントンの楽しさを説きながら自身もジュニアクラブの指導者として活躍された。

発足当時の加盟クラブ数は10クラブで、登録人数は104名であった。加盟クラブの所在地は県内でも二極化され、徳島市および藍住町といった徳島市内周辺地域と那賀郡および海部郡日和佐町（現在の美波町）といった県南部で連盟が発足する以前から盛んに活動が行われていた。

連盟が発足する以前は、小学生の大会は徳島県バドミントン協会の主催で行われていたが、平成９年の連盟設立をきっかけに小学生連盟の主催のもと行われるものとなった（徳島ジュニアオープン・全国小学生ＡＢＣバドミントン大会県予選は現在も徳島県協会主催）。

平成10年度には、日本ジュニアバドミントン連盟が日本小学生バドミントン連盟と改称したことに伴い、本県でも平成11年より徳島県小学生バドミントン連盟と改称し、現在に至っている。

それぞれのクラブでの精力的な指導者のもと、選手たちは力をつけ、平成10年度には第３回全国小学生都道府県対抗バドミントン大会で徳島県代表選手の井村桂子（内町バドミントンクラブ）・兼市加奈・原野安由美（ともに赤松スポーツ少年団）の活躍により、３位入賞を果たした。

徳島県女子は３チームでの予選リーグを１勝１敗ながら得失点差で１位となり決勝トーナメントに進出。２回戦で滋賀県を２－１で破り、準決勝で福岡県に０－２で敗れたが堂々の３位入賞であった。この結果に県内の多くの小学生が刺激を受け、全国というより高いレベルを目指すようになった。この点においては、三人の残した功績は成績以上のものではなかろうかと思われる。そして翌年の平成11年度には藍住エンジェルがクラブチームの団体対抗戦である第15回若葉カップ全国小学生バドミントン大会において、３位入賞となった。

昭和63年に創設された藍住エンジェルは創部当時から監督である藤本伸が常に全国を意識した指導をし、よく県外への遠征も行っていた。それは「常に全国のレベルを見せ、体感させること」によって、選手の練習への意識を高めることに目的があった。また、指導者・保護者・選手全体が「全国」という目標に向かってひとつになっていたとも語っている。それらの要素が実を結んだ快挙であった。

その後も藍住エンジェルの活躍は続き、平成13年の第17回若葉カップ全国小学生バドミントン大会において悲願の初優勝を果たした。３チームでの予選リーグを２勝で１位通過すると決勝トーナメントも順調に勝ち進み、準決勝では三重ジュニアクラブ（三重県）を３－０、決勝では橿原ジュニア（奈良県）を３－１で下しての初優勝であった。

また、藍住エンジェルは第19回大会において２度目の優勝を果たすことになった。この大会でも予選リーグを２勝で１位通過すると決勝トーナメント準決勝では皇徳寺ジュニア（鹿児島県）を３－２で下した。決勝では第17回大会と同じく橿原ジュニアとの対戦となったが、３－２で勝利を飾り、２度目の優勝となった。

また、個人レベルにおいても県勢は活躍した。平成12年度にはこの年から開催された第１回全国小学生ＡＢＣバドミントン大会において、女子Ａの部（小学５・６年）では内町ジュニアの大阪あや、また女子Ｂの部（小学３・４年）では藍住エンジェルの松友美佐紀がともに５位に入賞した。また第９回全国小学生バドミントン選手権大会では、６年生以下女子シングルスで大阪あや、４年生以下女

子ダブルスで赤松スポーツ少年団の丸山詩織・林田夏奈組が３位入賞を果たすなど、徳島県の小学生バドミントンのレベルアップが目立つようになってきた。

平成13年度から15年度にかけては、徳島県勢の全国での活躍は素晴らしく、平成13年度の第２回全国小学生ＡＢＣバドミントン大会女子Ｂの部及び第10回全国小学生バドミントン選手権大会４年生以下シングルスで松友美佐紀が優勝、また同選手権大会４年生以下女子ダブルスで藍住エンジェルの水口愛梨・藤本香那組が準優勝した。続く平成14年度の第11回全国小学生バドミントン選手権大会では、松友美佐紀と同じく藍住エンジェルの神原靖奈が全国大会の決勝で顔を合わせると、翌年の第４回全国小学生ＡＢＣバドミントン大会においても同じ顔合わせで決勝の舞台に立つことになった。

また第12回全国小学生バドミントン選手権大会女子団体では松友美佐紀・神原靖奈・水口愛梨・藤本香那・宮崎友望（以上藍住エンジェル）・田上祐子（桜谷スポーツ少年団）の徳島県女子チームが見事優勝に輝いた。また同大会個人戦においても６年生以下女子シングルスで松友美佐紀が優勝、６年生以下女子ダブルスで水口愛梨・藤本香那組が３位入賞を果たすなど素晴らしい活躍であった。

しかし平成16年以降になると成績は低迷してしまう。それまでの活躍とはうらはらに、全国でなかなか勝てない状況が続いていく。

そして平成15年度末をもって植田宏和が理事長を退任し、事務局長であった藤本伸が新理事長となった。そしてこの時期より合同での強化練習会を月１回定期的に開催することになった。

それまで選手の指導・強化は各クラブまかせであったのだが、月１回でも他のクラブの選手と合同で練習し、選手同士で切磋琢磨しながら徳島県小学生全体のレベルアップを計ることを目的として開催されたものである。

先にも述べたが、平成９年に徳島県ジュニアバドミントン連盟が発足した当時、加盟団体は10クラブ104名であった。現在の加盟団体は15クラブ、約180名で、ここ数年クラブ数が増えたこともあり登録人数も200名に近づいている。以前は活動が盛んであった県南部においても、児童の活動の多様化の影響か年々競技人口は減少し、活動を停止したクラブも少なくないが、新たに活動を始めた所もあり、多少の増減はあるものの競技人口は増加の傾向にある。ただ、全国的にみればまだまだ多いとは言えないのが現状である。

これから小学生連盟として早急に進めていきたいのが登録人口の増加と徳島県の競技力の向上の二つである。登録人口の増加についてはまず、多くの小学生にバドミントンの楽しさを伝えていく方策を考えていかなければならない。うまくバドミントンの楽しさ・魅力を上手に伝えていくことができたなら、これからの競技人口は更に増加していくことも十分考えられる。しかし現在ではまだ子どもがバドミントンをしたいと思っても、身近にクラブやスポーツ少年団がない地域も沢山ある。他競技のスポーツ少年団のように子どもがバドミントンをしたい・始めたいと思った時、気軽に地元のバドミントンクラブに入部することができる。将来的にはそういった環境づくりを目指して、普及・啓発活動を県内全域で続けていく必要があると思われる。

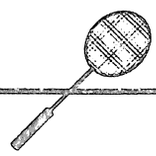
また、競技力向上についても現在行われている強化練習をはじめとして、各クラブと連携を密にして連盟全体が同じ目標に向かって進んでいく必要があるのではないかと考える。

平成15年度以降しばらく入賞がなかった若葉カップにおいて、平成18年度の第22回大会で福島ラビット、平成20年度の第24回大会では内町ジュニアが予選リーグを突破し９位に入賞した。また第９回全国小学生ＡＢＣバドミントン大会においては内町ジュニアの森隆子が５位に入賞する健闘を見せ、平成22年度第19回全国小学生バドミントン選手権大会女子団体では、４大会ぶりに３回戦進出を果たした。

先述した平成10年度の徳島県女子チームが全国大会で３位入賞して県内の小学生に刺激を与え、以後好成績を収めたように今後、徳島県の小学生が再び全国で活躍し、また、ひとりでも多くの子どもたちにバドミントンを通じて、心身ともに成長してもらいたいと願っている。

平成23年度からは、藤本孝彰を顧問、徳島県バドミントン協会副会長の牛川務を新会長として、今後も普及活動・競技力向上に力を注ぎ、徳島県のバドミントン競技の発展に尽力する所存である

その他



渭北体協



設立年　昭和56年
代表者　吉岡　　努
登録者数　男子20人・女子５人
連絡先　事務局/〒770-0816
徳島市助任本町3丁目1-3
☎088-625-0309

クラブ創設のあゆみ

昭和42年発足した徳島市渭北体育協会内での組織で昭和56年にバドミントン部が発足。

毎週月金曜日の週２回練習を行い、月曜日が技術練習／トレーニングを中心とした基礎体力作りに専念している。

金曜日は老若男女問わずゲーム練習で汗を流すと共に試合の感覚を磨いている。

又、若手中心で練習不足にならないよう練習前にはランニング更にトレーニング、フットワークと妥協を許さないほど練習に取り組んでいる。

中学生／高校生も受入、社会人がヒッテングパートナーを務め選手の育成にも力を注いでいる。

バドミントンを通じて、人と人とのつながりを大切にし、バドミントンの技だけでなく心も磨いていけるようなクラブを目指している。

大塚製薬バドミントンクラブ



設立年　昭和59年
代表者　稲田　雅史
登録者数　男子20人・女子６人
連絡先　事務局/〒770-0928
徳島市川内町加賀須野463-10
☎088-665-2126

クラブ創設のあゆみ

1984年大塚製薬株式会社が認め正式に発足しました。

それまでは、個人的に所属のグループ会社名を使用して参加、山下哲男氏の県選手権大会に連続優勝など結果を残し。社会人から始めた者も成果を収めた。

再発足した実業団大会が開始されると、学生時代の未経験者が参加、グループ会社の社員も集まり会社の体育館での練習も盛んになり、実業団大会で５チームも参加できるほど盛り上がった。

またグループ各社対抗試合を実施。

現在は大塚製薬株式会社の社内大会に多くのグループ社員が参加しています。

大塚製薬ワジキ工場バドミントン部

設立年　1991年４月１日
代表者　近藤　貴資
登録者数　男子22人・女子５人
連絡先　〒774-0003
阿南市畭町新はり201-12

Otsuka 大塚製薬



クラブ創設のあゆみ

1991年４月１日　同好会として発足
1992年４月１日　正式なクラブとして社内で承認される
部員は、大塚製薬ワジキ工場社員とＯＢで構成され、それぞれの目的で和気藹々と活動しています。
那賀町民体育館　毎週水曜日　午後６時～８時

Sea Dragon(シードラゴン)

設立年　昭和57年
代表者　佃　　善博
登録者数　男子10人・女子７人
連絡先　事務局/〒771-4264
徳島市多家良町池谷190



クラブ創設のあゆみ

ＮＴＴ体育館のこけら落としと共にＮＴＴ徳島バドミントンクラブを立ち上げ当初、よちよち歩きのクラブ発足しました。その後も部員不足でバドミントンの未経験者が大半で、大会参加より旅行目的を兼ねたクラブでした。

「来るものは拒まず、去るものは追わず」誰でも入部「ＯＫ」のもと、活動を続ける中で、自前体育館の廃止(Ｈ13)その後、運営費用等で練習場所を幾つか変更するなどいろいろな出来事を受け入れてきました。

現在、練習仲間も20名を超えるクラブとなっています。チーム名もＮＴＴ職員の減少から公募により「シードラゴン」と改名し気持ち新たに再出発したところです。地元より県外の試合に行くことが多く、バドミントンを通じた輪も広がり恒例的(試合)に出向くようにもなりました。比較的年齢層も高く、パワーよりテクニック重視で日々がんばっています。「Ｓea　Dragon」をよろしく!

津田体育協会

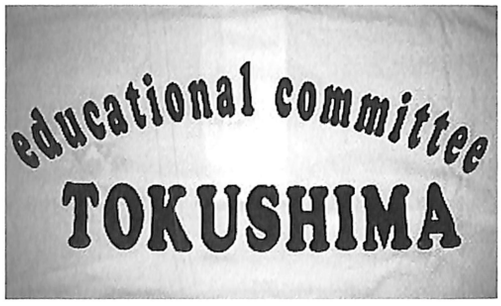


設立年　昭和58年
代表者　米澤　博己
登録者数　男子13人・女子22人
連絡先　事務局/〒770-8002
徳島市津田町2-7-43-16
☎088-663-4020

クラブ創設のあゆみ

約30年前に、ＰＴＡ活動から発足。
10年後津田体育協会バドミントン結成それ以来の活動です。
男子13名、女子22名、大人子供合わせての地域スポーツ活動としてみんなで楽しんでいます。

徳島県教育委員会



設立年　平成元年４月１日
代表者　森田　　茂（不動中学校長）
登録者数　男子８人・女子１人
連絡先　事務局/〒770-0002
徳島市春日1丁目7番72号
輝尾 明人
☎090-4500-8485

クラブ創設のあゆみ

平成元年４月に、当時の新見泰志校長が発起人となり、徳島県教職員バドミントン連盟が発足しました。これは、県下の教職員メンバーにより全日本教職員バドミントン大会出場に向けて創設されました。それと同時に、指導者・プレイヤーとしてのレベルの保持・向上に向けて、県内の実業団大会に限り、実業団連盟への仲間入りをさせていただきました。名称については、実業団規則にある「１つの事業所」というしばりから、新見泰志元校長につけていただきました。あれから25年が経ち当時のメンバーで現役でプレーしている人は数少なくなり、世代交代の必要な時期に来ています。若い世代の方々には、全国大会に向けて他の実業団チームの方々としのぎを削り、レベルの向上を目指してほしいと思います。熟年世代の方々には、全国出場はもちろんのこと、健康の保持や指導者としての情報交換の場として、男女を問わず入会していただけることを望んでいます。

徳島県庁バドミントンクラブ



設立年　昭和57年
代表者　牛川　　務
登録者数　男子29人・女子６人
連絡先　〒770-8024
徳島市西須賀町東開48-7
☎090-8756-9078

クラブ創設のあゆみ

当クラブが産声を上げたのは昭和57年で、産婆さんは西野昌明・県バドミントン協会会長（当時：阿波銀行県庁出張所長）でした。

旧県庁の中庭で昼休みのレクリエーションに興じていた競技歴が皆無の創生期メンバーを、いきなり「県冬期実業団大会」に引っ張り出したのです。結果は散々なものでしたが、その後、長年に渡り部長を務めた牛川務氏が加わり、また、昭和59年度には練習拠点となる「徳島県職員会館」が完成するなど、少しずつ充実してきました。

結成30年余り、県や四国の「実業団大会」をはじめ、今は無き県「官公庁大会」、香川県庁・和歌山県庁との「三県対抗大会」、県庁内の職場対抗「職員大会」など、まずまずの活動内容ではないかと思います。これからも、積極的に活動していきたいと思います。

鳴門バドミントンクラブ



設立年　昭和53年
代表者　松田めぐみ
登録者数　男子８人・女子１人
連絡先　事務局/〒772-0053
鳴門市鳴門町黒山246-31
☎088-687-0431

クラブ創設のあゆみ

徳島県バドミントン協会創立60周年、おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

鳴門バドミントンクラブは、昭和40年代後半に、市役所職員と市内の民間事業場に勤務する愛好者15名ほどが週２、３回鳴門市民会館で練習を開始したのが始まりで、学生時代の経験者が初心者を指導しながら徐々に愛好者を増やしていき、昭和53年に発足しました。その後部員は約50名までに増え、試合に出場するだけでなく様々な行事を催して親睦を深め、アットホームな雰囲気で活動してきました。

今現在、クラブ設立時のメンバーはすべてクラブを離れ、練習に参加するのは社会人数名と鳴門高校生合わせて10人前後になりましたが、毎週水曜日アミノバリューホールで練習に励んでいます。

日亜化学工業バドミントン部

設立年　2002年１月
代表者　六車　和也
登録者数　男子３人
連絡先　〒774-8601
徳島県阿南市上中町岡491番地
☎0884-22-2311(代)

NICHIA

クラブ創設のあゆみ

私たち日亜化学バドミントン部は男子30名女子４名で活動し初心者から経験者まで楽しく一緒に練習しています。

主な活動は徳島県実業団選手権を始め徳島県内の大会に多く参加しています。
創立当初は人数も少なく、なかなか勝てない日々がありましたが今では人数も増え徳島県実業団選手権で団体・ダブルスで優勝するなどレベルも高くなってきています。

また、最近では日亜化学バドミントン部が主催の大会【日亜カップ】なるものを年２回開催し近隣のクラブチームの方にも参加してもらい交流を深めています。

これからも県内で積極的に活動していきたいと思います。

八万体協バドミントン部

設立年　昭和50年頃
代表者　福家　秋男
登録者数　男子15人・女子12人
連絡先　事務局/〒770-8073
徳島市八万町上福万181-2
☎088-668-3345



クラブ創設のあゆみ

創立60周年おめでとうございます！！

我が八万体協は徳島県の中でも最古参に近いクラブです。現在男女共に、徳島県のトップクラスの選手達が集まり互いに切磋琢磨しながら更なる技術を磨いております。生涯スポーツのバドミントンである為、トップ選手だけでなく老若男女も混じりながら伝統を絶やさぬよう頑張っております！！

BACCHUS(バッカス)



設立年　平成13年
代表者　加藤　真人
連絡先　事務局/〒773-0023
徳島県小松島市坂野町目佐23-1
☎090-8972-4431

クラブ創設のあゆみ

徳島県バドミントン協会創立60周年、おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

バッカスは2001年、小松島勤労青少年ホームに集まって練習をしていたメンバーで立ち上げ、キャプテン加藤を中心に活動を開始しました。

勝つことよりも練習に対する熱意や礼儀、チームワークを尊重し、“走り出せば間に合う”をモットーに、火木の週２回坂野中学校体育館で練習しています。

県大会などの個人戦・団体戦に積極的に参加し、メンバーそれぞれが経験を積み、2012年には「第58回徳島県クラブ対抗大会」で初優勝しました。

今後も“団体戦で優勝すること”“四国総合選手権大会に出場し勝利すること”を目標に、練習に励んでいきたいと思います。

松茂体協



設立年　昭和54年
代表者　久次米慶二
登録者数　男子32人・女子８人
連絡先　事務局/〒771-0218
松茂町住吉字住吉開拓92-3
☎088-699-4669

クラブ創設のあゆみ

設立は1979年12月松茂町総合体育館の完成と同時に発足。
地域住民の生涯スポーツの一つとして承認された。
練習は火・木曜日の20時より続いている。

四国大学バドミントンクラブ



設立年　昭和46年

代表者　学　長：松重　和美
　　顧　問：山本　光憲・山根　文彦

登録者数　男子８人・女子７人

連絡先　事務局/〒771-1192
　　徳島市応神町古川字戎子野123-1
　　四国大学内
　　☎088-665-1300

クラブ創設のあゆみ

四国大学バドミントンクラブは、女子大学時代の昭和46年に創設されました。平成４年の全学男女共学化に伴い初の男子部員が誕生し、多くの方のご支援をいただきながら、昨年40周年を迎えました。主に徳島県内の大会を中心に活動しており、各大会において数々の好成績を収めています。

四国地区大学総合体育大会では、昭和61年に初めて３位に入り、平成20年に女子シングル準優勝、21年には女子ダブルスが準優勝しています。また、21年に行われた中四国学生バドミントン選手権大会では、女子ダブルスが初出場で３位と好成績を収め、同年から２年連続で全国大会出場を果たしています。

現在、部員数は15名とピーク時の３分の１になっていますが、諸先輩の成績を超えられるよう部員一丸となって日々練習に取り組んでいます。

徳島文理大学バドミントン部

クラブ創設のあゆみ



徳島文理大学バドミントン部は少ない人数ではありますが日々練習に取り組んでいます。大会では目立つような成績を納めてはいませんが、各自がそれぞれの目標をもち、自分に合った練習を自主的に行っています。バドミントンに対して熱い思いをもった人が非常に多いですし、みんな共通でとてもバドミントンが大好きです。チームの雰囲気もよく、体育館の設備も整っているので練習する環境はとても素晴らしいです。大学生活でバドミントンをするという経験を各部員の人生の糧になるような部活になっていけばいいと思います。県外の大会にも積極的に参加し、良い結果がでなくても、県外の選手のプレーを見て、自分の動きに合わせこれからの練習につなげていきたいと思います。そして、だれもがバドミントンを楽しく続けてほしいと思っています。

鳴門教育大学バドミントン部



代表者　学校長：田中　雄三

登録者数　男子15人・女子14人

連絡先　学生課　学生生活支援チーム
〒772-0051
徳島県鳴門市鳴門町高島中島748
鳴門教育大学内
☎088-687-6117

クラブPR

クラブ活動を通して、部員の体力向上に努め、スポーツマンシップおよび協調性を育むことを部の目標としています。

男女共に、仲良く、楽しく、そして強く、上手くなるために、日々練習しています。経験者も初心者も活躍しており、経験、未経験と関係なく頑張っています。

四国インカレでは、準優勝したダブルスもあり、本気の人もたくさんいます。

主な活動は春季・冬季徳島県四大学合同定期戦、四国インカレ、ＯＢ戦、全国教育系大学バドミントン選手権大会、徳島県内各種大会　等への出場としています。

穴吹高等学校バドミントン部



設立年　昭和53年度

代表者　学校長：中妻　敬二
顧　問：松浦　喜代・新名　和美

登録者数　女子14人

連絡先　美馬市穴吹町穴吹字岡33

クラブ創設のあゆみ

私たち穴吹高校のバドミントン部は、部員の全員が高校へ入学してからバドミントンを始め、これまで運動部に所属していなかった部員も多くいます。また、なかなか時間のとれないなか、週４日から５日の練習で、ランニングから始まり素振り、フットワーク、基礎打ちと主に基本的練習を中心に行っています。３年生が引退して実質的には７名ですが、少人数で先輩後輩の関係なく和気藹々と仲良くできるので楽しみながら練習に参加しています。

県大会では、なかなか勝ち進むことはできません。練習や練習試合を多く経験する中で、一つでも多く勝てるよう、メリハリのある練習や決して諦めない粘り強さを身につけられるように日々練習に頑張っています。

阿南工業高等学校バドミントン部



設立年　昭和41年

代表者　吉成　克則
顧　問：宮北　美穂・高城　幸大

登録者数　男子28人

連絡先　事務局／〒774-0045
徳島県阿南市宝田町今市中新開10の6
☎0884-22-1408

クラブ創設のあゆみ

阿南工業は歴史と伝統のあるチームです。県総体でバドミントン競技の団体戦が始まった当初から参加しています。阿南工業は昭和50年前後の黄金期を経て、戦績に浮き沈みはあるものの「継続は力なり」「基本を大切に」と基礎・基本を大切に今も練習に励んできました。バドミントン協会の運営にも支えられ、いろいろな相手との試合を経験しながら、徐々に成長してきています。現在、専門の指導者はいません。部員のほとんどは未経験者で、なかなか思うようにプレーすることができず、挫折しかかったことが何度もあります。その都度、ＤＶＤを見たり、練習本を見たりし、試行錯誤しながら部員一丸となって練習に取り組み、乗り切ってまいりました。今後も「創造・飛躍」の校訓のもと、更に上を目指し頑張っていきます。

新野高等学校バドミントン部

設立年　昭和29年
代表者　朝日　絢子
登録者数　女子６人
連絡先　事務局/☎0884-36-3215



クラブ創設のあゆみ

徳島県バドミントン協会創立60周年、おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。現在、新野高校のバドミントン部は高校からバドミントンを始めた初心者がほとんどです。女子６名と少ない人数ですが、バドミントンが好きで一勝でも多く試合に勝ちたいという気持ちで毎日の練習に取り組んでいます。これからも今の気持ちを大切に、一日一日前進していけるよう頑張りますので今後ともご指導よろしくお願い致します。

最後になりましたが、徳島県バドミントン協会のますますのご発展をお祈りいたします。

板野高等学校バドミントン部

代表者　学校長：小島　　稔
顧　問：船越　崇嗣・篠原　有里
コーチ：吉田　　格
登録者数　男子10人・女子７人
連絡先　事務局/〒779-0102
徳島県板野郡板野町川端字関ノ本47
徳島県立板野高等学校
☎088-672-1101



クラブ創設のあゆみ

徳島県立板野高等学校バドミントン部は、本年度男子10名、女子７名で活動を行っています。小・中学校からバドミントンを続けてきた部員もいますが、高校に入ってからバドミントンを始めた部員も多くいます。毎日基礎的な練習を中心に、少しずつ技術のレベルアップを目指しています。チーム内では男子と女子の仲も良く、互いにアドバイスをしあいながらお互いを高めあうことを目標にしています。時にはきつい練習もありますが、大会での上位への進出を目指してこれからも練習に励んでいきたいと思っています。

海部高等学校バドミントン部



設立年　平成16年

代表者　学校長：佐々矢寸志
顧　問：寺内　伸好・松岡　洋介

登録者数　男子１人・女子６人

連絡先　事務局/〒775-0203
徳島県海部郡海陽町大里字古畑58-２
海部高校　☎0884-73-1371

クラブ創設のあゆみ

海部高校は、県最南端に位置し、旧の日和佐高校、海南高校、宍喰商業が統合し誕生した学校で、今年度創立10周年を迎えました。バドミントン部も創立と同時に誕生し、まだ歴史の新しいチームです。部員の多くは、地元の海部郡内の各中学校出身者で占められています。ほとんどの生徒は、バドミントンは高校始めですが、毎日、熱心に練習に取り組んでいます。地理的な要因もあり、練習試合がなかなか行えない、遅くまで練習できないといった問題点もありますが、限られた時間の中で内容の濃い練習を日々行っています。３年生が引退し、現在は男子１名、女子６名と少し寂しい状況ですが、今後も日々練習に精進していきたいと思います。

小松島高等学校バドミントン部



設立年　学校長：出口　健一

代表者　顧　問：西堀　孝幸・原井　千聡

登録者数　男子７人・女子15人

連絡先　事務局/〒773-0010
小松島市日開野町字高須47-1
小松島高校
☎0885-32-2166

クラブ創設のあゆみ

小松島高校バドミントン部は、創立年は不明ですが、昭和42年の総体で女子団体第３位という記録が残っています。今年度は男子７名、女子15名の計22名で活動し、６月の総体で３年生が引退したあとは12名での活動となりました。現在の２年生は４名と少ないながら、部の中心となって活動を引っ張っています。最近では経験者の入部が少なく、初心者で入部する部員が多くいます。初心者として一からフットワークや打ち方を覚えるのは時間がかかりますが、一生懸命練習に励んでいます。地道に練習することで、初心者から始めた部員も試合で勝つことができるようになっています。また、部員同士で練習内容を考えたり、お互いできていないところを指摘し合ったりして、全員で練習に参加できる雰囲気作りを心掛けています。これからもバドミントンを続けることで、技術向上だけでなく、努力することや礼儀を重んじることを大事にしていきたいです。

小松島西高等学校バドミントン部



設立年　昭和41年

代表者　学校長：岩浅　芳行
顧　問：大西はつき・亀島木綿子・伊勢　真里

登録者数　男子５人・女子10人

連絡先　事務局/〒773-0015
徳島県小松島市中田町字原の下28の1
☎0885-32-0129

クラブ創設のあゆみ

小松島西高校バドミントン部は、昭和41年に誕生し、昭和43年度には男子が、昭和44年度・48年度には女子が県総体で団体優勝という実績のある部ですが、近年部員不足で苦しい時期もあったようです。最近でも部員が少なく練習が困難な年もありましたが、どうにか今に至っています。

現在は、他の部活動との関係で毎日体育館は使用できませんが、体育館では基礎的な練習を中心に、体育館外では、ランニングなど体力トレーニングを中心に、工夫して活動しています。

バドミントンを通して、心身を鍛えるとともに、先輩達が築いてきた伝統を守り、発展させたいという想いを胸に、日々地道に練習に励んでいます。

城西高等学校神山分校バドミントン部

設立年　不明

代表者　中川　　望

登録者数　男子４人

連絡先　事務局/〒771-3311
徳島県名西郡神山町神領字北399
☎088-676-0029

クラブ創設のあゆみ

現在４名の部員で放課後活動しています。初心者が多く、試合にはなかなか出場できませんが、毎日一生懸命練習に励んでいます。

城東高等学校バドミントン部



代表者　校　長：尾崎　好秋
登録者数　男子７人・女子11人
連絡先　事務局/〒770-0853
徳島市中徳島町1丁目5番地
☎088-653-9111　FAX088-653-3103

クラブ創設のあゆみ

徳島県バドミントン協会創立60周年おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

城東高校バドミントン部は、創部以来、県高校バドミントン界をリードするべく数々の実績を残してきました。男子は、県総体で団体優勝すること11回、女子は22回にのぼり、今年度はインターハイ10年連続出場の功績を讃えられ、全国高体連より表彰されました。また、全国大会においても、インターハイ学校対抗ベスト16、全国選抜大会個人ダブルスベスト８、国民体育大会４位に入賞するなどの好成績を遂げています。

現在、部員は男子７名、女子11名と少人数ですが、さらなる全国上位を目指し、また、校訓である「文武両道」を胸に日々の練習に励んでいます。

城南高等学校バドミントン部



設立年　昭和42年
代表者　泉　　始位・丹羽　　薫・安藝　恭子・
澤田　知佳
登録者数　男子19人・女子24人
連絡先　徳島県立城南高等学校
徳島市城南町二丁目2番88号
☎088-652-8151

クラブ創設のあゆみ

城南高等学校バドミントン部は「楽しく・元気に・一球懸命」をモットーに活動しています。創部から約半世紀を迎え、先輩方の活躍を礎に新たな歴史を刻めるよう日々活動しています。

部員は初心者から経験者までと様々ですが、各自の目標に向け練習に励んでいます。３年前に念願の男女アベック四国高等学校総合体育大会大会出場を果たして以来、毎年男女揃って県大会ベスト４入りを果たしています。また、過去には全国高等学校総合体育大会に出場した部員もいます。部員同士互いに切磋琢磨することで、技術面のみならず精神面の強化にも努めています。

「文武両道」を目指す城南健児として、指導・応援してくださる皆さんへの感謝の気持ちを忘れることなく、今後もチーム一丸となって活動していこうと思っています。

城ノ内高等学校バドミントン部



設立年　昭和55年

代表者　学校長：岩崎　　洋
顧　問：平田　義明・野口　　洋

登録者数　男子16人・女子16人

連絡先　事務局／〒770-0003
徳島県徳島市北田宮1丁目9番30号
☎088-632-3711

クラブ創設のあゆみ

城ノ内高等学校は昭和55年に開校しましたが、開校時からバドミントン部が発足しており、以後現在まで継続して活動しています。平成17年に四国大会に出場して以来、上位進出から遠ざかっていますが、日々「自ら考えて取り組む」ことをモットーに地道に練習に励んでいます。競技力の向上だけでなく、チームとしての一体感も大切にする伝統で、部員同士の仲も良く、一人一人を大切にし、全員の上達を目標に頑張っております。

城北高等学校バドミントン部



設立年　昭和49年

代表者　学校長：天羽　俊夫
顧　問：砂田　恵梨・福本　　恵

登録者数　男子11人・女子19人

連絡先　事務局／〒770-0003
徳島市北田宮4丁目13番6号
城北高校　☎088-631-8105

クラブ創設のあゆみ

徳島県バドミントン協会創立60周年、おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

城北高校は平成24年に創立70周年を迎えて、バドミントン部もより活発に活動しています。現在城北高校バドミントン部は、３年生引退後、男女計19名で日々練習に励んでいます。所属している部員の約半数がバドミントン初心者ということもあり、日頃は体力づくりのためのトレーニングやフットワークといった基礎的なメニューを重点的に取り入れて、練習を行っています。県の大会で勝利することは難しいところもありますが、男女とも四国大会出場を目標として、部員全員が一丸となり、日々努力を重ねています。

今後も、城北高校バドミントン部を支えてくださっている顧問の先生方、コーチに部員一同感謝の気持ちを忘れず、目標に向かって頑張っていきますので、ご指導よろしくお願いします。

徳島科学技術高等学校バドミントン部



設立年　平成21年

代表者　校　長：加渡　義治
顧　問：藪内　彰人・篠山　美紀・澤田　慎也

登録者数　男子27名

連絡先　事務局/〒770-0006
徳島県徳島市北矢三町2-1-1
☎088-631-4185

クラブ創設のあゆみ

徳島科学技術高校は平成21年に徳島工業、徳島東工業、水産が合併してできた創立５年目の高校です。現在は部員数が27名と多く、練習コートの確保が難しい状況です。練習では高校に入ってから始めた人も多いので、素振りやフットワークなど基本練習に時間をかけています。練習時間も短く、場所も限られているので、練習への集中や練習の目的・意義を考えて取り組むようにしています。旧徳島工業、旧徳島東工業のバドミントン部ではインターハイや四国大会への出場も果たしており、我々も先輩方に負けないように四国大会、全国大会への出場をめざし、部員一丸となって練習に取り組んでいきたいです。

徳島北高等学校バドミントン部



設立年　平成15年

代表者　笹田　貴志・田上　智裕

登録者数　男子18人・女子11人

連絡先　☎088-698-8004

クラブ創設のあゆみ

昨年の総体では、一人一人が全力でプレーした結果、悔いのない試合をすることができ、最高の思い出を作ることができました。四国総体に出場することを目標に、部員が一丸となり周りの方々への感謝の気持ちを持って精一杯努力していきたいと思ってます。

徳島商業高等学校バドミントン部

設立年　昭和48年



クラブ創設のあゆみ

徳島商業高校バドミントン部は、同好会として発足し昭和48年に部に昇格しました。当初から全国大会に出場するなど徳島県のバドミントン界をリードしてきました。しかし、四国での大会で勝利することは非常に難しいですが、あきらめずに上位を目指して日々努力しています。

現在、県大会２回戦進出が目標とする選手から、全国での勝利を目標とする選手など幅広い選手層がいるなか、部員同士、試行錯誤しながら「己に勝つこと」をモットーとし、プレーの技術向上はもちろん何事にも全力を尽くす練習を行い、精神面の成長、努力することを大切にして練習に励んでいます。

勝つことを最大の課題としながら、まずは伝統ある徳島商業で一番の部活になることをめざして部員一同切磋琢磨しながら練習に励んでいます。

徳島市立高等学校

設立年　昭和36年

代表者　宮城　真人

登録者数　男子10人・女子21人

連絡先　事務局／〒770-0872
徳島市北沖洲1丁目15番60号



クラブ創設のあゆみ

徳島市立高校は創立50周年を迎え、新校舎も完成し新たなスタートをきりました。体育館のサブアリーナを中心に毎日練習に励んでいます。創部以来、自主自律の校風のもと、キャプテンを中心に部員たち自らが練習内容を考え、体力と技術力の向上に努めています。今年度は新入生の入部が多く、部全体が活気づきました。高校からバドミントンを始めた１年生も多くいますが、互いに練習や試合の様子をチェックし合い、アドバイスし合って、早く追いつけるように懸命に練習に取り組んでいます。その様子が上級生や経験者にもいい刺激になっています。そしてこれからも、先輩方がつないでこられた良き伝統を引き継ぎながら、自分たちの特徴を出していけるよう地道に努力を重ねられるバドミントン部を目指していきたいと思います。

富岡西高等学校

設立年　不明
代表者　顧　問：中川慎一郎
登録者数　56人
連絡先　事務局/〒774-0030
徳島県阿南市富岡町小山18-3
☎0884-22-0041　FAX0884-23-4579



クラブ創設のあゆみ

富岡西高校バドミントン部は男子33名女子23名で活動しています。未経験のものが多く、メニューも自分たちで考えて練習に励んでいます。大人数のため練習場所と時間を確保するのは大変ですが、多くの仲間とふれあうことでよい刺激となっています。

日々の練習や各大会を通して技術や精神を高めていきたいと思っていますのでどうぞよろしくお願いします。

富岡東高等学校羽ノ浦校バドミントン部

設立年　不明
代表者　学校長：中原　和人
顧　問：富永　保典・岡久くみ子
登録者数　女子８人
連絡先　事務局/〒779-1101
阿南市羽ノ浦町中庄市50番地1
☎0884-44-2054



クラブ創設のあゆみ

徳島県バドミントン協会設立60周年おめでとうございます。

私たちバドミントン部は少人数ながら毎日いきいきと練習に取り組んでいます。専門的な指導を行える顧問の先生がいないので、経験者を中心に、フットワークや基礎打ちなど基本的な練習を中心に行っています。また、自分たちで改善すべき点を注意しあいながら、技術向上を目指しています。勉強との両立は難しいですが、一人一人が学習面においても部活動面においても一生懸命取り組んでいます。そして、楽しくみんなで協力し合って、良い雰囲気で練習をしています。たまに、ガールズトークで盛り上がり、時間を無駄にしてしまうこともありますが、これからも、試合で自分たちの力を精一杯発揮できるよう頑張っていきたいです。

那賀高等学校

設立年　2003年
代表者　戸川　祐樹
登録者数　男子５人・女子５人
連絡先　☎0884-62-1151



クラブ創設のあゆみ

那賀高校バドミントン部は平成15年に同好会として発足し、平成17年に部活動へと昇格しました。本校が所在する那賀地区は、近隣にバドミントンが盛んな中学校が数校あり、バドミントンへの情熱をもった生徒のはたらきかけによって、部の歴史がスタートしました。創部間もないですが、同好会の時期を含め、これまでに４度の四国大会出場を果たすなど輝かしい成績をおさめてきました。

普段の練習は、学校から約３kmほど離れたＢ＆Ｇ体育館で行っており、トレーニングをかねて部員はランニングで練習場へと向かっています。近年は競技経験者が少なく、高校からはじめてラケットを握った部員も多くいるため、基礎的な練習を中心に行っています。部員たちは、それぞれの目標にむかって、向上心をもち、日々練習に取り組んでいます。

鳴門渦潮高等学校バドミントン部

設立年　2002年４月１日（旧鳴門第一高校より）
代表者　藤川　侑也（２年次生　キャプテン）
登録者数　男子６人・女子11人
連絡先　〒771-1311
徳島県鳴門市撫養町南浜字馬目木58
☎088-685-1107　FAX088-685-0049



クラブ創設のあゆみ

私たちバドミントン部は、週５～６日、本校の体育館で練習しています。顧問は、新見先生と渡辺先生です。二人とも私たちをあたたかく、時に厳しく見守ってくれています。

三年生が引退してからは、男子６名、女子６名で練習しています。人数は、減ってしまいましたが、基礎練習やゲーム練習等、工夫して取り組んでいます。

バドミントンを始めた頃は、一つ勝つことも難しく、「勝利」をとても遠くに感じていました。しかし、最近では、自分のプレイのできていないところや、相手に狙われているところが少しですがわかってきたように思います。私たちの目標は、試合で全力を出し切り、一回戦で負けないことです。粘り強く、我慢強いバドミントンができるようこれからも頑張っていきたいと思っています。そして、一つ一つのプレーに集中し、勝利を勝ち取っていきたいです。みなさん、応援よろしくお願いします。

鳴門高等学校バドミントン部



設立年　男　子：昭和59年　女　子：平成元年

代表者　学校長：佐光　康彦
顧　問：多田　　巧・北池　直美・木下　広幸
コーチ：戸崎　　義・松田めぐみ
男子主将：中島　良介　女子主将：髙島　早加

登録者数　男子16人・女子13人

連絡先　事務局/〒772-0002
鳴門市撫養町斎田字岩崎135-1
鳴門高等学校
☎088-685-3217

クラブ創設のあゆみ

鳴門高校バドミントン部は、男子は昭和59年、女子は平成元年に創部されました。当初は練習場所に恵まれず、また鳴門市内の中学校にバドミントン部がなく、高校入学後に競技を始めた者ばかりで、目立った成績は残せていませんでした。しかし、「とにかく強くなりたい」という精神が引き継がれた結果、平成８年度に男子、女子ともに団体で四国選手権大会出場という成績を修めることができました。男子はその後３年連続して四国選手権大会出場を果たしています。近年競技成績は、少し低迷していましたが、鳴門市第一・第二中学校でバドミントン部が創部されたことや、藍住方面からの入学生増加により、経験者が入部するようになって活動が活発化してきました。その結果、本年度（平成25年度）は、女子団体で17年ぶりに四国選手権大会に出場することもできました。現在、『明るく・楽しく・元気よく』をモットーに、四国・全国大会出場を目指すチームとして日々の練習に励んでいます。

吉野川高等学校バドミントン部



設立年　平成24年４月（開校　平成24年４月）

登録者数　12人

クラブ創設のあゆみ

平成24年の学校再編により、阿波農業高校と鴨島商業高校を前身として開校した学校であり、バドミントン部は阿波農業高校バドミントン部を母体としてスタートしました。

経験・未経験を問わず、広く門戸を広げ、バドミントンの楽しさを味わってもらうため活動しています。現在の部員の目標は個人差はあるものの、公式戦での勝利を目指して日々練習に汗を流しています。

藍住中学校バドミントン部


練習風景

1993年度以前は同好会でしたが、1994年度より部となり、活動を続けてきました。部活動としては、19年目になります。活動当初は女子部員がほとんどでしたが、1997年度より男子バドミントン部もつくられ、男女ともに地道な活動を続けてきました。しかし、その後、男子部員が減少し、再び女子のみの活動をしていました。現在では男子部員も増え、男子と女子がともに頑張っています。

これまでの試合結果で、2005年度四国総合体育大会個人戦では、男子シングルス土橋拓弥が３位、全国大会出場という成績を残しています。2013年度徳島県総合体育大会で、男女ともに団体戦３位という成績を収めることができました。また、個人戦では男子ダブルス徳元聖樹・大寺航が３位となり、四国大会へ出場することができました。

練習では、外部コーチが毎週土日に指導をしてくれています。中学校から始める生徒がほとんどで、基礎基本からの指導や体力づくりなど、生徒の能力を引き出す指導を行ってくれます。その中で、小学校からクラブチームに参加していた生徒も数名いるので、技術面を伸ばすように、それぞれの個に応じた練習指導も心がけてくれています。

また、時間が合うときに陸上部の練習に参加しています。バドミントン部以外の他の部活動も参加し、合同練習を行っています。陸上部の練習メニューを行うことで、持久力や下半身の強化をしています。その他の活動では、学校の除草作業や、アドプト事業で学校近くを流れる正法寺川の清掃活動に参加し、学校周辺の環境整備を行っています。

これからも外部コーチと協力し、結果を残していけるような練習指導を行うとともに、個々の能力を伸ばしながら部員全員が前向きに努力できる部活動を行っていきたいと思います。

藍住東中学校バドミントン部



藍住東中学校バドミントン部の歴史のスタートは、20年前の1993年でした。

当時は部活動の運動部としてではなく、バドミントン同好会でした。1996年、３年間の同好会を経て、正式に部活動としての活動が始まりました。当初は女子のみの活動でしたが、少ない部員で励まし合い切磋琢磨しながら努力をしていました。

そして、女子に遅れること３年。1999年には男子部も誕生し部員数も増えました。男女とも町内のジュニアバドミントンクラブからの経験者を中心に、熱心な外部コーチの方のご指導をいただき活動を重ねてきました。

そのような地道な取り組みのおかげで、各種大会での成果も現れており、板野郡総合体育大会をはじめ、徳島県中学校総合体育大会などでは団体・個人とも常に上位の結果を収めるなど、板野郡、そして徳島県のバドミントン競技をリードする学校に成長することができたように思います。

このような歴史がある藍住東中学校バドミントン部も、年を重ねるごとに部員数も増えており、今年度（2013年）の部員数は64名というたいへん多い人数の部となりました。また中学校からバドミントンを始める部員も今では９割を超えています。部員数が多くなったことの悩みは、毎日の練習において全員が満足に活動できる場所を確保しづらいということです。特にシャトル打ちにかける時間が満足に取れないことも悩みのひとつです。

さまざまな課題は残されていますが、目標をしっかりと持ち、基礎を大切にした練習を中心に努力を続けていこうと思います。また、中学校の部活動、そして競技者としての行動やマナーなど、バドミントンを通して人間的な成長もできることを願っています。これからも部員全員で協力し、互いに切磋琢磨し合いながら伸びていける部を目標に、何事にも一生懸命努力していきます。

板野中学校バドミントン部

クラブ創設のあゆみ

板野中学校バドミントン部は、2006年度に同好会として発足し、2010年度に正式な部活動として新たに活動をはじめました。「バドミントンは楽しい！」ということをモットーに日々の練習に励んでいます。部員は中学校からバドミントンをはじめた者がほとんどです。同好会の当初は、バドミントン経験がある保護者が度々指導にきてくれており、バドミントンの楽しさを教えてくださっていました。しかし、大会に参加する中でどうしても選手達が「勝ちたい」という、競技としてのバドミントンをしたいということから、フットワークを中心とした、基礎・基本の練習を繰り返し行っています。また、正式に部活動に登録するにあたって、本校の部活動規定の遵守や礼儀、マナーの向上を部の方針としています。スポーツ競技をする者として、わきまえなければいけない礼節の育成をしています。まだまた発足して間もないところですが、バドミントンが好きであるという気持ちは、どの学校にも負けないようにしたいと思っています。

上勝中学校バドミントン部

クラブ創設のあゆみ



上勝中学校は勝浦郡上勝町の山間、標高277メートル地点に位置する全校生徒32名、教職員13名の小規模校である。1999(平成11)年4月、福原中学校と高鉾中学校が統合し、上勝中学校となった。木の香り漂う現校舎は、福原中学校跡に2000(平成12)年8月に完成したものである。また、2007(平成19)年の冬から、各教室に設置された薪ストーブが本格的に稼働している。2010(平成22)年9月には、太陽光発電システムが導入され、発電及び電力の使用供給が始まった。木質バイオマスエネルギーの利用が、二酸化炭素排出抑制による地球温暖化防止に役立つことや、太陽光発電システムの導入利用を通じて消費電力量のより一層の削減を目指すなど、環境問題学習に力を入れている。

バドミントン部は今年度創部したての部活動である。部員は女子のみで、3年生1名、2年生2名、1年生2名の計5名で活動している。初心者ばかりではあるが、生徒達は元気に声を出して意欲的に練習に取り組むことができている。休日には積極的に練習試合にも参加し、様々な学校との交流を深めると共にマナーや技術力の向上を目指し、日々切磋琢磨している。

上那賀中学校バドミントン部

顧　　問　本田　晴啓


奥が上那賀中学校、手前が体育館

クラブ創設のあゆみ

上那賀中学校は、那賀郡の中央部に位置し、満天の星空と、初夏にはホタルが乱舞する自然豊かな地域です。また、校区が広く遠隔地生徒は、路線バスで通学しています。

2004年4月に平谷中学校と宮浜中学校が統合になり、上那賀中学校として開校しました。今年度で10年目になります。聞くところによりますと宮浜中学校には、バドミントン部がなかったのですが、平谷中学校には、バドミントン部があり、強い時期があったと聞きます。

今年度、部員は3年生2人、2年生1人、1年生1人の計4人でスタートしましたが、夏の総体が終わり、現在、部員2人で活動をしています。日々の練習は、部員が少ない以外は、体育館も自由に使え、環境も良いですが、試合となれば大変です。試合会場が徳島市内や鳴門ならば、6時には学校を出発しなければ、間に合いません。当然、生徒は5時過ぎには家を出ます。そんな中での試合結果。中々いい結果に繋がりませんが、生徒・保護者・学校が協力し、努力しています。生徒数が減っていく中、バドミントン部が存続できるよう、また1つでも多く試合を勝ち進めるよう頑張っています。

加茂名中学校バドミントン部

クラブ創設のあゆみ

加茂名中学校バドミントン部は現在男子８名、女子18名で活動をしています。女子バドミントン部として1985年、男子は1994年に創立された伝統ある部です。近年では、2009年、2010年、そして昨年度と徳島県総合体育大会男子バドミントンで団体優勝をすることができました。個人でも徳島県代表として四国大会に出場し、好成績を残すことのできる選手もいました。

現在は男女とも県大会優勝を目指し、毎日の練習に励んでいます。体育館を使うことのできる日も限られており、練習環境として決して恵まれているわけではありませんが、そんな中で部員１人１人がそれぞれの目標を持って頑張っています。技術面だけではなく、仲間との絆を大切にした活動を通して、心身ともに大きく成長していきたいと思っています。

川内中学校バドミントン部

顧　問　滝川　尚・北田　昇

クラブ創設のあゆみ

本校バドミントン部は、歴史も古く昭和41年に創設され、先輩たちが四国大会第２位を最高に県・市優勝の実績を持つ部である。

現在部員は、男女あわせて68名（３年17名、２年26名、25名）で、熱心に練習に励んでいる。活動場所は体育館（土・日・月）とスポーツセンター（水・金）である。部員のほとんどが中学校からバドミントンを始めた者であるが、県総体で悔いのない試合ができるように精神力・体力・技術力に磨きをかけながらがんばっている。

また、バドミントンを通じて、挨拶や礼儀の大切さ・感謝する心を育み、協調性や協力する気持ちや自主的、自発的に行動する態度や習慣を養うなどの人間性を伸ばすことを目指している。

北島町立北島中学校バドミントン部

監　督　大阪真智子



本校の全生徒数は630名を超え、在校生徒の70％以上が部活動に所属し、どの部においても活発に活動している。校舎は3年前に新築し素晴らしい教育環境であるが、体育館は手狭なため練習環境は良好といえず、室内競技の部は学校外の施設を借用しての活動である。

バドミントン部は2013年（平成25年）、4月に創部した。前年度の1年間は、同好会として部員と保護者が東亜合成体育館を使用しての活動だった。

バドミントン部の部員は現在26名（3年女1名、2年女3名、1年女19名、男3名）が所属し、北島バンビ（ジュニアチーム）での経験者が2名（男1名、女1名）、その他の部員は初心者である。体育館はコート2面しかないスペースを上手く利用して、日々基本練習を繰り返している。今後はバドミントンの経験の有無に関係なく各種大会に全員が参加し、団体・個人ともに上位入賞を目指して活動を続けていきたい。そして、伝統ある部としてこれから繁栄していけるよう努力したい。

来年度以降もジュニアチームで経験した選手が入部予定である。小、中一貫としての指導を積み重ね徳島県代表となる選手の育成や、生涯においてバドミントンを楽しめる選手を数多く育てていくことが今後の目標である。

平成25年度の主な成績

板野郡中学校総合体育大会（団体女子　第3位）

小籔翔真（1年北島バンビ出身）
- 県中学校選手権大会（単男子　第3位）
- 板野郡中学校総合体育大会（単男子　優勝）
- 県中学校総合体育大会（単男子　準優勝）
- 四国大会出場

小松島中学校バドミントン部

顧　　問　中山　久美・濵井　洋典

部　　員　59人



クラブ創設のあゆみ

本校バドミントン部の歴史は古く、女子の部で県大会優勝を成し遂げたこともある。現在は、男子の部員数も増えており、男女とも、県大会での上位入賞を目指して、日々練習に励んでいる。

平成25年度の部員数は、3年生21名、2年生15名、1年生23名の計59名で、学年の枠をこえて、部員同士力を合わせ、励まし合い、チームづくりに取り組んでいる。体育館を使用できるのは、2日に一回となっており、練習場所の確保が難しいという悩みを抱えている。しかし、外での練習にも積極的に取り組み、日々努力を積み重ねている。

坂野中学校バドミントン部

顧　　問　桂　　由美

部　　員　20人



クラブ創設のあゆみ

本校バドミントン部は昭和45年に創部されました。創部以来全国大会出場など輝かしい歴史を誇っていました。最近では、一昨年・昨年と四国の舞台に立つことができました。また、しばらく女子だけの部でしたが、平成22年度に男子が入部し、久しぶりに県大会団体戦に出場することができました。

現在の部員は2年生7名、1年生8名です。小松島市がバドミントンの盛んな地域であり、色々な場所で技や知恵に触れることのできる環境なので、意欲的に練習しています。また、駅伝シーズンにはその練習にもかり出され、朝練から始まるハードなスケジュールをこなしています。なお、現在は体育館が補修工事中のため、市立体育館や他校に移動しての活動が主です。忙しいですがそんな中でも、周囲の方々の暖かいご支援を受けて、頑張っています。

四国大会に出場した卒業生は、現部員の目標です。日々の練習を大切にして、一歩でも多く近づけるように励みたいと思っております。

城東中学校バドミントン部

顧　問　笠井　雅子



クラブ創設のあゆみ

城東中学校区は、徳島市東部の吉野川と新町川に挟まれた沖積地の大部分を占め、沖洲川・住吉川によって沖洲・福島・城東の3地区に分けられている。各地区の体協やスポーツ少年団などでバドミントンが盛んに行われている校区である。

本校は、生徒数802名の県下一の大規模校である。生徒たちは、全般的に明朗快活で部活動や生徒会活動も盛んであり、行事への取り組みにも大変熱心である。

本校バドミントン部の歴史は古く、中体連の歴史とともに歩んできている。昭和38年の発足以来、城東中女子部の活躍にはすばらしいものがあり県総体では昭和40・44・45・47・49・50・51・55・57・60年に団体優勝という輝かしい戦績と伝統を残している。また男子部も昭和53年に県総体の団体で初優勝し、その後昭和55・56・57・62・63・平成3・6・10・18・23年と計11回優勝と立派な成果をあげている。

近年では男子部が平成18年に全国総体に団体出場、女子部が平成18・19年全国総体に個人出場、平成20年に団体出場をはたしている。またＪＯＣジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアバドミントン選手権大会・日本バドミントンジュニアグランプリ・全日本中学生バドミントン選手権大会などの全国大会へ出場する選手を多数輩出している。

本年度の部員は男子部が3年生11名・2年生4名・1年生5名、女子部が3年生13名・2年生15名・1年生6名の計54名である。体育館での練習は月・水・土・日曜日に2時間ずつ行っている。先輩方の伝統を受け継ぐべく、毎日練習に熱心に取り組んでいる。

徳島県立富岡東中学校バドミントン部

クラブ創設のあゆみ



本校は、2010年４月、徳島県立富岡東高校に併設された中高一貫校として開校されました。そして、同時に中学校のバドミントン部も誕生し、活動を開始しました。初年度の部員は、初心者ばかり９名でした。高校生の先輩たちから基本を教わり、一生懸命練習しましたが、試合に出てもなかなか勝てない日々が２年間ほど続きました。しかし、３年目に入ると、少しずつ県大会で勝てるようになり、４年目の今年の県総体では、ベスト８に入ることができました。

現在の部員は、１年生６名、２年生７名の計13名です。ふだんの練習では、高校生の先輩が多数活動しており、体育館の３面のコートを約40名ほどで使っています。そのため、中学生がコートを使って練習できる時間がとても短いので、その時間、しっかり集中して練習するように心がけています。コートの使用時間は短いですが、その反面、高校生の先輩たちに基礎打ちを一緒にしてもらったり、試合前は、練習試合をしてもらったりできるのは、大きなメリットです。中学生たちは、あこがれの先輩たちのようにバドミントンが上手くなるようにと、目標をもって、日々練習に励んでいます。

徳島中学校バトミントン部

顧　　問　村田　留美・岩根　初絵

部　　員　13人



クラブ創設のあゆみ

本校バドミントン部は、昭和37年に助任小学校から転勤してきた小椋貞和先生が同好会チームとして立ち上げ、翌年に中体連に正式加入し、八万中・城東中とともに徳島市内では最も古いチームとして今日まで活動してきた。その後、平成18年度第36回全国中学校バドミントン大会での団体優勝に代表されるように、発足以来輝かしい戦績と伝統を残している。代々語り継がれている先輩たちを目標に、部員は県協会会長西野昌明氏の指導のもと、日々練習に熱心に取り組んでいる。以下、近年でとくに優れた成績をおさめた選手を紹介する。

平成21年度四国総合体育大会では、女子団体が準優勝、女子シングルスで金森望が優勝した。また、男子シングルスでは第3位に2年生の水口恭兵が入り、全国大会出場を果たした。翌22年には、水口は徳島県男子では念願の四国制覇を果たし、全中でもベスト16に入った。

平成23年度四国総合体育大会は徳島県開催であった。地元開催で、多くの方々の声援に励まされ、選手たちは力を発揮することができた。女子団体戦の決勝戦では第1ダブルスの森隆子・山下華奈ペアと第2ダブルスの鶴熊美樹・露口有香ペアが勝利し、新居浜市立中萩中学校(愛媛県)を2-1で下し、優勝することができた。個人戦でも、女子ダブルスで森・山下ペアが優勝し、男子ダブルスで、吉岡和真・新田将大ペアが第3位に輝き、全中出場を果たした。森・山下ペアは、全中(滋賀大会)でも、2回戦で近畿ブロック代表、3回戦で中国ブロック代表に競い勝ち、ベスト4進出をかけた青森山田中のペアとの試合では敗れたものの、ファイナルでもお互いに譲らない大接戦となった。

平成24年度四国総合体育大会では、2年生ながら岩崎楓由・京野沙耶ペアが準優勝となり、全中出場を果たした。しかし、初戦は突破したものの関東ブロック代表のペアとの力の差を見せつけられた苦い経験でもあった。その後、「もう一度全中に行く」という目標をもとに、さらに自分を追い込んで練習に取り組んだ2人の秋から翌年の春にかけての成長には目を見張るものがあった。とくに、レシーブ力の向上に磨きをかけた2人。翌25年には、念願の四国制覇を果たし、全中でもベスト16に入った。

岩崎・京野の活躍の背景には、同学年の中瀬・四宮・森上の存在も大きい。競い合う相手としてだけではなく、同学年での横のつながりがしっかりとできていたことは、喜びを分かちあい、苦しさを乗り越える力になったと考える。周囲への感謝の心を忘れず、チーム力(チームとしてのまとまり)を築く、後輩たちにも受け継いでもらいたい伝統の1つである。

昭和37年に建設された徳島中学校の体育館は、来年度初めには歴史に幕を下ろし、新体育館に生まれ変わる。現部員には、多くの選手たちが汗と涙を流したこの体育館の歴史を胸に刻み、さらに自分に厳しく鍛錬を積んで欲しい。そして、本校バドミントン部に関わる、すべての指導者の願いでもある、競技を通して心身ともにたくましく成長した1人の人間として、巣立ってほしいと願っている。

富田中学校バドミントン部

顧　　問　藤本ひとみ

部　　員　46人

富田中学校は、昭和22年４月に創立され、昭和46年からバドミントン部が創部された。今年で創部42年の伝統ある部活動である。創部以来、県大会では上位に入賞したり、四国大会に出場したりと県内では好成績を残すことができた年もある。

今年度、富田中学校バドミントン部は、男子は３年生５名、２年生９名、１年生４名、女子は３年生８名、２年生10名、１年生10名の46名で練習に励んでいる。体育館で練習できるのは、週４回程度で３コートしか使えないことが多い。全員が一斉にコートに入って練習することが難しいので、練習メニューや時間を有効に使えるように工夫している。一人一人がコートに入れる時間が少ないという厳しい環境であるが、「バドミントンは楽しい！」と言う生徒も多く、意欲的に練習に取り組んでいる。全員が中学校から始めたので、基本練習を大切にしながら、しんどいときに声をかけ合って一緒に頑張れるチーム作りを目指している。

県総体の団体戦では、男女ともベスト８だった。来年度はこの結果を上回るよう、基礎練習や体力づくりに励み、バドミントン部の一層の発展をはかっていきたい。

鳴門二中バドミントン部

設　部　平成21年４月

部　員　平成25年度　男子３人・女子10人

練　習　月・火・金、アミノバリューホールで放課後練習しています。
夏休み・冬休み・春休みには、早朝トレーニングで基礎体力を鍛えています。



活　動

私たち鳴門二中バドミントン部は、平成21年４月、社会体育として創部しました。部員３人からの出発でした。外部コーチの方々や保護者の方々、学校の先生方に御協力していただきながら、週３回という限られた時間の中で一生懸命練習しています。最初はなかなか試合にも勝てませんでしたが、年々部員が増え、経験を重ねて、団体戦でも個人戦でも少しずつ成果を出せるようになってきました。日々の練習は厳しいですが、部員たちは男女・先輩後輩、みんな仲が良く、協力して練習しています。

これからの目標は、チームワークを大切に活動することです。そして、練習したことを一人一人が試合で発揮できるよう、技術面や精神面を強く鍛え、一つでも多く試合に勝つことです。

八万中学校バドミントン部

顧　問　吉田　則子・日置　佑佳

部　員　男子27人、女子21人

クラブ創設のあゆみ

八万中学校男子バドミントン部は、創部50余年を超え、県下でも有数の強豪校として、県総体優勝、四国総体、全中出場といった、数々の戦績を残している。本年度の部員数は３年生15名、２年生２名、１年生10名の総勢27名を数える。小学生の頃からジュニアで活躍してきた選手が多い中、中学校に入学してからバドミントンを始めた部員がほとんどで、サーキット、素振り、基礎打ち、フットワークといった基本的な練習を中心に行っている。体育館の割り当てが平日は週３日なので、外練の日は、校舎の周りや眉山を走ったりと、ランニングの時間を多くとり、体力作りを中心とした練習を実施している。



愛媛県西条総合体育館内にて

第67回徳島県中学校総合体育大会では、11年ぶり17度目の団体優勝を果たし、第51回四国中学校総合体育大会出場を決めた（右写真）。主力選手のほとんどが中学入学後にバドミントンを始めた者ばかりである。今後も日々の練習で自分がどれだけ真剣に取り組むことができるか、その大切さを実感させていきたい。先輩達の残した実績を守り、さらなる戦績をあげるために部員は日々、練習に打ち込み、頑張っている。

八万中学校女子バドミントン部は、本年度３年生３名、２年生９名、３年生９名の21名で活動を行ってきた。平日は男女合わせて３コートを使用している。また、男子と同様週に２日は外練習で筋力や体力、瞬発力の向上を目指したトレーニングを行っている。限られた時間と場所の中、しっかりと活動できるように「けじめと集中力」を部の目標として掲げ、高め合っていける雰囲気を大切にしている。毎日の練習の中で成果と課題を明確にしたり、試合ごとのゲームレポートを残したりして、技術面・精神面共に全体としても個としても成長できる部を目指す。前向きな気持ちや粘り強さを持ち、仲間や周囲の環境に対する感謝の気持ちを表していけるように、互いに声を出して励まし合って活動している。

これからの試合を充実したものとし、少しでもよい戦績を残していけるよう頑張っていきたい。

羽ノ浦中学校バドミントン部

顧　　問　橋本　千恵

部　　員　31人

本校バドミントン部は、平成３年４月、生田泰之先生が創部し、１年生16名からスタートした。その後部員数は順調に増え、常に30名以上で活動してきた。練習場である体育館は、平成18年の市町村合併からは阿南市の管理となり、練習時間が限られる場合もできてきたが、その中で練習方法を工夫して活動してきた。平成23年には、全国中学校総合体育大会に岩崎遥香選手（城東高）が出場した。

現在は１、２年生21名で練習をしている。初心者ばかりであるが、先輩が後輩を指導し、ルールやマナー、技術を伝えている。中学で初めてラケットを持った生徒が、卒業後もバドミントン競技を続けていることも多く、喜ばしいことである。

日和佐中学校バドミントン部

顧　　問　丸岡由紀子

部　　員　６人





クラブ創設のあゆみ

日和佐中学校バドミントン部は、昭和38年に発足し、伝統のある部となっています。現在は、女子のみの活動となっています。部員数は、1年生3人、2年生3人の計6人と少数で、ほとんどが初心者ですが、教師を含めみんながとてもバドミントンを愛しています。なので、部員全員が毎日休むことなく生き生きと練習をしています。さらに、部員同士の仲が大変良く、助け合いながら活動している姿がよく見られます。

日々の練習においては、バドミントン部全員が駅伝部にも所属しており、毎朝の5キロのランニングで試合に通用する持久力をつけています。放課後の練習では、体育館を使用する部活動はバレーボール部とバドミントン部しかないため、毎日ネットを使用しての練習ができます。練習メニューは、体操、ランニング、トレーニング、基礎打ち、パターン練習、ノック、試合など日々工夫したメニューに取り組んでいます。

また、近隣の大会にも積極的に参加しており、いろいろな相手と試合をして、経験を積み重ねています。

これからも日々の練習に全力で取り組み、練習の成果が試合で生かされるよう努力していきたいと思います。そして、バドミントンをとおして、心も体も成長していきたいと思います。

不動中学校バドミントン部

クラブ創設のあゆみ

不動中学校バドミントン部は1996年に創部されました。創部された当時は、女子５人だけでした。他の部活動との関係で、中学校の体育館が使える日が限られており、週２日小学校の体育館に行って練習をしていました。男子も何名か入部してくるようになって今のようなかたちになりました。個人戦では、1998年の学年別新人戦でダブルス第３位に、団体戦では2003年県中新人戦で第３位に市総合体育大会では、第３位に何度かなっています。



フットワークの様子ノックの様子

現在のバドミントン部は男子１人、女子８人で活動をしています。男子が１人だけと少し寂しいですが、毎日楽しく練習に取り組んでいます。不動中学校では、基本練習を大切にしておりフットワーク、ノックで練習時間のほとんどを費やしています。昨年度より、いい成績を収めることができるように一所懸命に日々頑張っています。

藍住エンジェルスポーツ少年団



設立年　昭和60年
代表者　藤本　　伸
登録者数　男子９人・女子17人
連絡先　事務局/〒771－1273
徳島県板野郡藍住町勝瑞字正喜地196-１

クラブ創設のあゆみ

昭和60年に設立してから、早いもので30年が経ちました。

設立当初は、県内で一勝すること目標としていたことが、現在では、全国でも通用する選手を育成することへと大きく目標が変化しました。

藍住エンジェルスポーツ少年団の中から一人でも多く、世界へ羽ばたける選手として、育っていってもらうことを願っています。

Angel
藍住エンジェルクラブ

相生Ｂ．Ｃ



設立年　平成13年
代表者　井上　幸信
登録者数　女子６人
連絡先　事務局/〒771-5325
那賀郡那賀町平野字岡田36
☎0884-62-3213

クラブ創設のあゆみ

30年ほど前、平野スポーツ少年団バドミントン部としてクラブが創設されました。

平成13年、４つの小学校が統合し、クラブ名が相生Ｂ．Ｃと変更になりました。

クラブ創設以来、県内大会はもとより、全国大会への出場選手を輩出し、卒団後もなおいっそう活躍されている先輩方もいます。

現在、部員６名と少人数のクラブですが、自分で考え・きびきびとした行動を心がけ、日々の練習に一生懸命取り組んでいます。

先輩たちに一歩でも近づき、追い越そうと、大会で良い結果を残せるように明るく・楽しくをもっとうに、さらなる技術向上を目指し、活動しています。

内町ジュニアバドミントンクラブ



設立年　昭和58年
代表者　蔵本　　享
登録者数　男子２人・女子４人
連絡先　事務局/〒770-0003
徳島市北田宮2-10-43
☎090-9451-5242

クラブ創設のあゆみ

昭和58年に発足した、伝統あるバドミントンクラブです。

過去には若葉カップやＡＢＣバドミントン大会で全国大会に出場経験のある先輩もたくさんいます。

現在は最高学年が３年生という大変若々しいクラブで、和気あいあいとした雰囲気です。少人数ですがその分一人一人に合わせた練習を行うことができています。

小さい身体で、上手くなりたい、試合に勝ちたいと大きな夢を持ち、熱心に練習に励んでいます。

上板Jr.バドミントンクラブ



設立年　平成25年
代表者　樽尾　貴博
登録者数　男子３人・女子５人
連絡先　事務局/〒771-1311
徳島県板野郡上板町引野字東原14-25
☎088-694-6093

クラブ創設のあゆみ

2013年５月に上板町を拠点として発足しました。

勝ち負けだけではなく心の成長と考える力を大切にし基礎的な運動能力や習慣を身につけ生涯にわたってスポーツを楽しむ基盤を作ってほしいと願っています。

上板レインボーズ



設立年　平成21年
代表者　長原　章博
登録者数　男子４人・女子２人
連絡先　事務局／〒771-1310
徳島県板野郡上板町泉谷字砂コウ40-1
☎080-3926-6763（長原）

クラブ創設のあゆみ

それまで本格的に活動するクラブが無かった上板町内において「バドミントンの普及」と「子どもの健全育成」を目標に活動を開始。

2012年は、全国小学生ＡＢＣ大会、全国小学生バドミントン選手権大会に部員が出場。2013年は、中学部を設け、念願の中学生の活動を開始。

「挨拶・返事・整理整頓＞＞＞感謝の気持ち」を忘れず「①心、②体、③技」を大切に、楽しく時に厳しく、子ども達と共にあゆんでいます。

■ホームページ
http : //kamiitabad.web.fc2. com/

加茂名ジュニア



設立年　平成12年
代表者　宮本　　茂
登録者数　男子５人・女子10人
連絡先　事務局／〒770-0046
徳島市鮎喰町2丁目55-39
☎090-4976-9470

クラブ創設のあゆみ

2000年に発足し、小学生を中心に活動してきました。

その後、活動の幅を広げ中学生も参加するようになり、主に県内大会に出場しています。

現在では、高校生や大学生・社会人でＯＢが活躍しています。

北島Bambiバドミントンクラブ



設立年　平成22年
代表者　宮本　弘恵
登録者数　男子11人・女子15人
連絡先　事務局/〒771-0206
徳島県板野郡北島町高房字百広花13-12
☎088-683-2253

クラブ創設のあゆみ

平成22年、北島町内外の子供達を募集し、ジュニアの競技力向上を掲げ、部員20数名でスタートしました。

当初は子供達の指導方法もよくわからず、迷う事も多々ありましたが、小学生連盟の理事の皆様のお力もお借りし、翌年の新人大会には、ほぼ全員の子供達がコートに立てるまでになりました。

その後、全小、ジュニアグランプリ、ジュニアオリンピック等、全国大会に参加できる優秀な選手を輩出し現在に至っております。

また、今年度のＡＢＣ大会にも１年生女子の出場が決まっており、練習にも力が入っています。

これからも、日々ご協力頂いているコーチー陣、またご父兄の皆様が両輪の輪となって、子供達の指導に取り組んで参りたいと思っております。

後になりましたが、徳島県バドミントン協会の今後益々のご発展をお祈りいたします。

小松島ジュニア



設立年　平成13年
代表者　加藤　真人
登録者数　男子12人・女子14人
連絡先　事務局/〒773-0023
徳島県小松島市坂野町目佐23番地１
☎090-8972-4431

クラブ創設のあゆみ

それまで小松島市にジュニアチームが無く、バドミントンの楽しさを多くの子どもたちに伝えようと、2001年に部員３人で活動を開始。

次第に人数も増え、少しずつだが力のある選手も育っていて、平成21年度に初めて全国大会に出場、24年度ジュニアグランプリ大会、ＡＢＣ大会に出場。更なるステップアップと普及を目標に、コーチ、父兄と共に奮闘中。

「挨拶、感謝の気持ち、向上心、やればできる」を合言葉に努力を続けていきたいと思います。

KOMATSUSHIMA 小松島 Jr. BADMINTON CLUB 退かぬ

桜谷スポーツ少年団



設立年　昭和52年
代表者　大田　昭彦
登録者数　女子４人
連絡先　事務局／〒771-5503
那賀郡那賀町小浜215
☎0884-66-0502

クラブ創設のあゆみ

昭和52年に桜谷少女バドミントンクラブを結成し小学生が練習を行うようになりました。

その後、スポーツ少年団に加入し、桜谷スポーツ少年団として活動を続け昭和62年に藍青賞を受賞しました。また、現在は、県大会等に出場し後一歩のところまできています。

女子部員４名の少数のクラブですが、日々がんばって練習を励んでいます。

（経　歴）　昭和52年　発足
昭和55年　第２回県下子どもバドミントン大会　優勝
昭和60年　第４回小学生対抗大会　優勝
昭和62年　第６回県下小学生大会　優勝
平成５年　第12回県下小学生対抗大会　優勝
平成８年　第14回県下小学生対抗大会　優勝

等数多くの実績が残されています。

宍喰ジュニア



設立年　平成24年
代表者　和田　洋希
登録者数　男子２人・女子９人
連絡先　事務局／〒775-0007
徳島県海部郡牟岐町大字内妻字大畑34-1
☎080-3925-3085

クラブ創設のあゆみ

元々は１対１で行っていた練習でしたが、次第に仲間が集まり、24年12月にひとつのチームとして活動を開始しました。コーチを含め、チーム、選手共々まだまだ駆け出しですが、バドミントンの楽しさをより多くの子どもたちに知ってもらいたいと願いながら、日々練習に励んでいます。

未熟者ではありますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

助任ジュニアバドミントンクラブ

設立年　昭和63年
代表者　吉田　泰造
登録者数　男子９人・女子９人
連絡先　事務局/〒770-0816
徳島市助任本町3丁目1-3
☎088-625-0309



クラブ創設のあゆみ

昭和63年（1988年）助任小学校新体育館が完成した機会に渭北体協　渭北少年団　助任ジュニアバドミントンクラブ創設。指導者として津田信吾氏が指導。平成11年（1999年）徳島県小学生バドミントン連盟設立と共に、監督として吉田泰造氏が就任。

全国的に小学生のバドミントンの技術、身体の向上と共にレベルアップが著しく、助任ジュニアにおいても週３回（木／土／日）に３時間の練習に取り組んでおります。

助任ジュニアからの徳島県大会を制し、全国大会出場記録

八万ジュニアバドミントンスクール

設立年　平成10年
代表者　福家　秋男
登録者数　男子３人・女子８人
連絡先　事務局/〒770-8073
徳島市八万町上福万181-２
☎088-668-3345



クラブ創設のあゆみ

創立60周年おめでとうございます！！

平成10年にＪｒ スクールを開始しました。我がスクールの良い点は小学校を卒業して中学、高校になっても練習に参加出来る事です。ジュニアで学んだことを後輩たちにも引き継いで行けるそんなジュニアクラブを目指し、コーチ・保護者達と日々精進しています。ＯＢの中には県のチャンピオンもいますが一時期部員が不足していました。しかし、県チャンピオンを輩出する日もそう遠くないかも？

林崎ジュニアバドミントンクラブ

設立年　平成19年
代表者　細川　光代
登録者数　男子３人・女子５人
連絡先　事務局/〒772-0014
鳴門市撫養町弁財天字ハマ38-５



クラブ創設のあゆみ

当時、鳴門市には、ジュニアのクラブが無く、地域の子供が地元の小学校で活動しないと根付かないと考え、2007年、僅か週１時間から練習をスタートしました。

現在は、週３回になり、中学、高校と続けていくための基礎練習を中心に行っています。

春、夏、冬休み朝練、ＯＢ中学生との合同練習、保護者交流練習会　お楽しみ会等、また大会出場、他クラブとの交流など、対外活動もすすめています。

今日に至るまで、たくさんの方々にご協力を頂きました。これからも感謝の気持ちを忘れず、つながりを大切にし、素直でたくましい子供たちと感動を共にしていこうと思います。

福島ラビットバドミントンクラブ

設立年　昭和53年
代表者　山本　聖彦
登録者数　男子４人・女子７人
連絡先　事務局/〒770-0868
徳島市立福島小学校
☎088-622-8197



クラブ創設のあゆみ

スポーツを通して、子供達の健全な心と体の成長を育み、仲間との友情・絆を深め、明るい地域づくりを目的に、福島スポーツ少年団バドミントン部として発足しました。

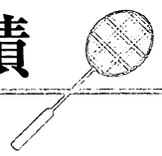
そして、現在の福島ラビットバドミントンクラブとなり、競技力向上も目指し、水・金・土・日の週４回、福島小学校体育館でコートを走り回り、シャトルを打ち合っています。

約35年もの長きの間、活動を継続し、中学・高校・大学等に多数の選手を輩出して来ました。

これも一重に、支えていただいている地域の皆さんや、代々引き継いで来られた保護者・指導者の方々のご努力と熱意の賜物だと思います。

そして、この伝統を受け継ぎ、さらなる飛躍を目指し今後も活動を続けて行きます。

過去の大会成績



一般の部

国民体育大会

年度	回数	開催地	成績	種目	監督名 勤務先	選手名 勤務先		
昭和30年 (1955)	10	神奈川県横浜市	入賞無し	一般男子	大西 正義 徳島市教委	眞島 福司 牟岐簡易裁判所	東條 嘉男 徳島市役所	越後 禎之 阿波商業銀行
昭和31年 (1956)	11	兵庫県神戸市	入賞無し	一般男子	大西 正義 徳島市教委	越後 禎之 阿波商業銀行	西野 昌明 阿波商業銀行	中山 実太郎 徳島市役所
昭和32年 (1957)	12	静岡県富士市	入賞無し	一般男子	三木 恒男 徳島市教委	越後 禎之 阿波商業銀行	西野 昌明 阿波商業銀行	新居 泰志 助任小学校
昭和33年 (1958)	13	富山県高岡市	入賞無し	一般男子	東條 嘉男 徳島市役所	西野 昌明 阿波商業銀行	越後 禎之 阿波商業銀行	中山 実太郎 徳島市役所
昭和34年 (1959)	14	東京都	入賞無し	一般男子	中山 忠男 阿波商業銀行	越後 禎之 阿波商業銀行	西野 昌明 阿波商業銀行	新居 弘之 阿波商業銀行
昭和35年 (1960)	15	熊本県菊地市	入賞無し	一般男子	新見 泰志 助任小学校	西野 昌明 阿波商業銀行	越後 禎之 阿波商業銀行	中山 実太郎 徳島市役所
昭和36年 (1961)	16	秋田県象潟市	入賞無し	一般男子	新見 泰志 助任小学校	西野 昌明 阿波商業銀行	越後 禎之 阿波商業銀行	中山 実太郎 徳島市役所
昭和37年 (1962)	17	岡山県倉敷市	入賞無し	一般男子	新見 泰志 助任小学校	西野 昌明 阿波商業銀行	越後 禎之 阿波商業銀行	新居 弘之 阿波商業銀行
昭和38年 (1963)	18	山口県下関市	入賞無し	一般男子	山本 圭治 小松島中学校	西野 昌明 阿波商業銀行	越後 禎之 阿波商業銀行	新居 弘之 阿波商業銀行
昭和39年 (1964)	19	新潟県三条市	入賞無し	一般男子	新見 泰志 上八万小学校	大島 敏夫 四国化成	西野 昌明 阿波商業銀行	越後 禎之 阿波商業銀行
昭和40年 (1965)	20	岐阜県岐阜市	入賞無し	一般男子	小川 真澄 城東小学校	西野 昌明 阿波商業銀行	吉田 栄作 自営業	江川 正治 阿南市役所
昭和41年 (1966)	21	大分県日田市	入賞無し	一般男子	新見 泰志 上八万小学校	吉田 栄作 県農協飼料	吉坂 喜起 自営業	江川 正治 阿南市役所
昭和42年 (1967)	22	埼玉県越谷市	入賞無し	一般男子	山本 圭治 小松島中学校	吉田 栄作 県農協飼料	鳥巣 隆資 徳島大学医学部	吉坂 嘉起 日和佐農協
昭和43年 (1968)	23	福井県勝山市	入賞無し	一般男子	新見 泰志 昭和小学校	吉田 栄作 県農協飼料	鳥巣 隆資 徳島大学医学部	中島 幹夫 徳島大学医学部
昭和44年 (1969)	24	長崎県諫早市	入賞無し	一般男子	野村 純平 小松島高校	吉田 栄作 県農協飼料	吉坂 嘉起 日和佐農協	星加 忠弘 神崎製紙
昭和45年 (1970)	25	岩手県釜石市	入賞無し	一般男子	新見 泰志 西納小学校	吉田 栄作 県農協飼料	星加 忠弘 神崎製紙	佐藤 正俊 四国建通
昭和46年 (1971)	26	和歌山県湯浅市	入賞無し	一般男子	新見 泰志 西納小学校	吉田 栄作 県農協飼料	松原 利行 自営業	吉本 正幸 自営業
昭和47年 (1972)	27	鹿児島県鹿児島市	入賞無し	一般男子	新見 泰志 津田小学校	山下 哲男 大塚化学	松原 利行 自営業	吉本 正幸 自営業
昭和48年 (1973)	28	沖縄県石垣市	入賞無し	一般男子	吉田 泰造 阿波銀行	山下 哲男 大塚化学	吉本 正幸 自営業	小浜 洋 ナショナル製販
昭和49年 (1974)	29	茨城県石岡市	入賞無し	一般男子	新見 泰志 津田小学校	森 茂行 森建材	山下 哲男 大塚化学	勢喜 雅章 阿波銀行
昭和50年 (1975)	30	三重県松阪市	入賞無し	成年男子	藤本 孝彰 富田中学校	山下 哲男 大塚化学	森 茂行 森建材	勢喜 雅章 阿波銀行
昭和51年 (1976)	31	佐賀県牛津市	入賞無し	成年男子	小椋 貞和 加茂名中学校	山下 哲男 大塚化学	森 茂行 森建材	森 治郎 阿波銀行
昭和52年 (1977)	32	青森県浪岡市	入賞無し	成年男子	新見 泰志 津田小学校	山下 哲男 大塚化学	勢喜 雅章 阿波銀行	吉本 正幸 自営業
昭和53年 (1978)	33	長野県塩尻市	入賞無し	成年男子	富田 善明 城東高校	勢喜 雅章 阿波銀行	森 茂行 森建材	戎野 裕二 四電ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ
昭和54年 (1979)	34	宮崎県西都市	入賞無し	成年男子	加林 章 県教育ｾﾝﾀｰ	増金 秀行 増金商会	戎野 裕二 四国ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ	勢喜 雅章 阿波銀行
			入賞無し	教員の部	平岡 嘉泰 小松島高校	福岡 卓一 小松島高校	松本 利春 勝浦園芸高校	四宮 澄夫 桜谷小学校
昭和55年 (1980)	35	栃木県真岡市	入賞無し	成年女子	今出 幸男 徳島市役所	菅原 珠美 徳大付属病院	島本 あさえ 徳大付属病院	檜山 文子 新居伝
昭和56年 (1981)	36	滋賀県大津市	入賞無し	少年男子	野村 淳平 小松島高校	浜松 裕司 城南高校	清水 裕 日和佐高校	山本 聖彦 徳島市立高校
昭和57年 (1982)	37	島根県大東町	入賞無し	少年女子	神崎 祥治 富岡東高校	大形 和美 富岡東高校	杉本 洋子 富岡東高校	市瀬 ゆかり 富岡東高校
昭和58年 (1983)	38	群馬県桐生市	入賞無し	成年男子	盛 龍一 農業	勢喜 雅章 阿波銀行	戎野 裕二 四国ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ	戎野 統 自営業
昭和59年 (1984)	39	奈良県田原本町	入賞無し	成年女子	吉田 栄作 県農協飼料	株本 珠美 タツエスポーツ	中島 睦紀 鳴門病院	湯浅 真弓 羽ノ浦病院
昭和60年 (1985)	40	鳥取県大栄町	入賞無し	少年男子	板東 輝雄 小松島西高校	神野 安朗 富岡東高校	岩崎 道範 徳島商業高校	吉岡 努 城東高校
昭和61年 (1986)	41	山梨県勝沼町	入賞無し	少年女子	平岡 嘉泰 城北高校	春川 法子 日和佐高校	宮本 靖子 徳島商業高校	山本 久美子 小松島西高校
昭和62年 (1987)	42	沖縄県糸満市	入賞無し	成年男子	富田 善明 城東高校	増金 秀行 増金商会	湯浅 賢一 徳島大学	福家 秋男 エイワ

年度	回数	開催地	成績	種目	監督名 勤務先	選手名 勤務先		
昭和63年 (1988)	43	京都府長岡京市	入賞無し	成年女子	牛川 務 徳島県庁	株本 珠美 大神子小松島病院	宇田 睦紀 鳴門病院	吉井 香 県信用保証協会
平成1年 (1989)	44	北海道登別市	入賞無し	少年男子	大野 利春 阿北高校	森野 浩和 徳島市立高校	宮島 健 阿北高校	藤本 芳美 阿北高校
平成2年 (1990)	45	福岡県筑紫野市	入賞無し	少年女子	金子 里 日和佐高校	秋本 美紀 日和佐高校	岡本 めぐみ 日和佐高校	富永 美和 日和佐高校
平成3年 (1991)	46	石川県美川町	入賞無し	成年男子	藤本 伸 藍住町役場	福家 秋男 エイワ	神野 安朗 神崎製紙	深瀬 潤二 県ｽﾎﾟｰﾂ振興事業団
平成4年 (1992)	47	山形県新庄市	入賞無し	成年男子	藤本 伸 藍住町役場	神野 安朗 神崎製紙	深瀬 潤二 県ｽﾎﾟｰﾂ振興事業団	吉岡 努 大塚化学
			入賞無し	成年女子	増金 秀行 増金商会	株本 珠美 大神子小松島病院	宮本 靖子 大塚化学	原西 みつる 丸久
平成5年 (1993)	48	香川県坂出市	入賞無し	成年男子	吉田 泰造	神野 安朗 新王子製紙	深瀬 潤二 県ｽﾎﾟｰﾂ振興事業団	吉岡 努 大塚化学
			入賞無し	成年女子	植田 宏和 立江小学校	三ツ川 貴子 県ｽﾎﾟｰﾂ振興事業団	長崎 由香 県ｽﾎﾟｰﾂ振興事業団	宮本 靖子 大塚化学
			入賞無し	少年男子	板東 輝雄 小松島高校	尾形 隆平 城東高校	栗栖 理 阿北高校	上野 友裕 阿北高校
			入賞無し	少年女子	鎌田 章良 城東高校	宮本 真希 城東高校	堤 あずさ 城東高校	坂本 美幸 城東高校
平成6年 (1994)	49	愛知県大府市	入賞無し	少年女子	鎌田 章良 城東高校	堤 あずさ 城東高校	坂本 美幸 城東高校	石井 愛子 城東高校
平成7年 (1995)	50	福島県白河市	入賞無し	成年男子	板東 輝雄 小松島高校	神野 安朗 新王子製紙	深瀬 潤二 県ｽﾎﾟｰﾂ振興事業団	福家 秋男 エイワ
平成8年 (1996)	51	広島県三原市	入賞無し	成年女子	西野 昌明 喜多機械産業	長崎 由香 県ｽﾎﾟｰﾂ振興事業団	宮本 真希 高知大学	八田 晶子 徳島ﾄﾗﾍﾞﾙ
平成9年 (1997)	52	大阪府大東市	入賞無し	少年男子	吉岡 努 大塚化学	蔭山 弘明 城東高校	藤川 薫 城東高校	向井 健太 三好高校
平成10年 (1998)	53	神奈川県大和市	入賞無し	少年女子	平岡 嘉泰 城北高校	枝元 亮子 城東高校	久次米 美季 城東高校	玉西 令奈 城東高校
平成11年 (1999)	54	熊本県八代市	入賞無し	成年男子	伊藤 浩二 川内中学	吉岡 努 大塚化学	山田 博文 阿南市役所	真鍋 和也 第一経済大学
平成12年 (2000)	55	富山県高岡市	入賞無し	成年男子	増金 秀行 自営業	吉岡 努 大塚化学	山田 博文 阿南市役所	真鍋 和也 (株)マスカネ
			入賞無し	少年女子	植田 宏和 北小松島小学校	蔭山 真理 城東高校	久次米 美季 城東高校	横田 陽子 城東高校
平成13年 (2001)	56	宮城県塩竈市	入賞無し	成年女子	植田 宏和 北小松島小学校	中山 佐知子 丸善建設	久次米 美季 徳島文理大学	石井 愛子 大島器械
			入賞無し	少年男子	杉内 邦弘 NTT松山	岡田 昂之 城東高校	笠井 飛鳥 城東高校	杉内 一浩 城東高校
平成14年 (2002)	57	高知県南国市	入賞無し	成年男子	吉岡 努 大塚化学	真鍋 和也 徳島県漁連	中田 昌章 トヨタカローラ徳島	谷 耕平 龍谷大学
			入賞無し	少年女子	植田 宏和 北小松島小学校	岡本 万輝 城東高校	篠原 ちあき 徳島北高校	大谷 恵 富岡西高校
平成15年 (2003)	58	静岡県富士宮市	入賞無し	成年女子	吉岡 努 大塚化学	宮本 真希 四国ガス	石井 愛子 大島器械	横田 陽子 東京女子体育大学
			入賞無し	少年男子	杉内 邦弘 NTTﾈｵﾒｲﾄ四国	杉本 健一 徳島商業高校	川島 誠悟 徳島商業高校	武田 直也 徳島商業高校
平成16年 (2004)	59	埼玉県久喜市	入賞無し	成年男子	吉岡 努 大塚化学	真鍋 和也 徳島県漁連	西岡 宏記 日本青果包装	谷 耕平 龍谷大学
			入賞無し	少年女子	杉内 邦弘 NTTﾈｵﾒｲﾄ四国	藤本 ひとみ 城東高校	仁木 純子 城東高校	立川 ゆかり 城東高校
平成17年 (2005)	60	岡山県岡山市	入賞無し	成年女子	吉岡 努 大塚化学	井村 浩子 徳島美容専門学校	麻植 まさよ 立命館大学	松本 彩佳 九州国際大学
			入賞無し	少年男子	澤田 慎也 徳島中央高校	武田 直也 徳島商業高校	松村 恭平 徳島商業高校	福家 康記 城南高校
平成18年 (2006)	61	兵庫県宝塚市	入賞無し	成年男子	山田 博文 阿南市役所	真鍋 和也 徳島県漁連	谷 耕平 三菱自動車	武田 直也 龍谷大学
平成19年 (2007)	62	秋田県美郷町	入賞無し	成年女子	吉岡 努 大塚化学	小川 静香 立命館大学	大阪 あや 関西学院大学	仁木 純子 愛媛大学
平成20年 (2008)	63	大分県日田市	入賞無し	成年男子	山田 博文 阿南市役所	武田 直也 京都産業大学	大倉 弘樹 京都産業大学	福家 康記 同志社大学
			入賞無し	少年女子	杉内 邦弘 NTT西日本	國安 香好 城東高校	水口 愛梨 城東高校	若田 美沙 城東高校
平成21年 (2009)	64	新潟県五泉市	入賞無し	成年女子	吉岡 努 大塚化学	小川 静香 立命館大学	大阪 あや 関西学院大学	久次米 佐和子 神戸学院大学
			入賞無し	少年男子	福家 秋男 アスティス	庄野 正博 徳島商業高校	東田 直樹 徳島科学技術高校	齋藤 裕進 徳島商業高校
			4位入賞	少年女子	杉内 邦弘 NTT西日本	水口 愛梨 城東高校	若田 美沙 城東高校	宮崎 友望 城東高校

年度	回数	開催地	成績	種目	監督名 勤務先	選手名 勤務先		
平成22年 (2010)	65	千葉県野田市	入賞無し	成年男子	杉内　邦弘 NTT西日本	谷　耕平 徳島健祥会福祉専門学校	福家　康記 同志社大学	金森　俊太 法政大学
			入賞無し	成年女子	吉岡　努 大塚化学	小川　静香 竹中工務店	大阪　あや 関西学院大学	若田　美沙 関西学院大学
			入賞無し	少年女子	岡佐古　拓也 城東高校	山本　杏子 城東高校	前里　愛子 城東高校	樫山　実穂 徳島商業高校
平成23年 (2011)	66	山口県光市	入賞無し	成年女子	杉内　邦弘 NTT西日本ホームテクノ西日本	若田　美沙 関西学院大学	樫栄　祥子 同志社大学	宮崎　友望 徳島文理大学
			入賞無し	少年男子	山崎　茂喜 徳島商業高校	齋藤　裕進 徳島商業高校	小笠　宙生 城南高校	松崎　慎也 城東高校
平成24年 (2012)	67	岐阜県池田町	入賞無し	少年女子	小寺　由香 城東高校	塚本　祥子 城東高校	久田　佳奈 城東高校	岩崎　遙香 城東高校
平成25年 (2013)	68	東京都町田市	入賞無し	成年女子	加藤　真人 和田島小学校	若田　美沙 関西学院大学	樫栄　祥子 同志社大学	前里　愛子 京都産業大学
			入賞無し	少年男子	岡佐古　拓也 城東高校	野村　陸人 城東高校	樫山　哲也 徳島商業高校	大前　勇斗 徳島商業高校
平成26年 (2014)	69	長崎県長崎市	入賞無し	成年男子	福家　秋男 アスティス	金森　俊太 法政大学	福家　匠麻 同志社大学	小笠　宙生 愛媛大学
			入賞無し	少年女子	小寺　由香 城東高校	岩崎　遙香 城東高校	山下　華奈 城東高校	永原　舞子 城東高校

徳島県総合選手権大会

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和30年 (1955)	一般男子複	青木・板東 裁判所	西野・越後 阿波銀行		
	一般男子単	西山 日和佐高	越後 阿波銀行		
昭和31年 (1956)	一般男子複	西野・越後 阿波銀行	蔵田・灘 日和佐高		
	一般男子単	蔵田 日和佐高	西野 阿波銀行		
昭和32年 (1957)	一般男子複	西野・越後 阿波銀行	東条・中山 徳島市役所		
	一般男子単	西野 阿波銀行	岩村 日和佐高OB		
昭和33年 (1958)	一般男子複	西野・越後 阿波銀行	東条・中山 徳島市役所		
	一般男子単	岩村 日和佐高OB	新居 阿波銀行		
昭和34年 (1959)	一般男子複	春川・岩村 日和佐高・日和佐高OB	東条・中山 徳島市役所		
	一般男子単	岩村 日和佐高OB	西野 阿波銀行		
昭和35年 (1960)	一般男子複	向井田・灘 徳島大	中山・新見 徳島市役所・助任小		
	一般男子単	西野 阿波銀行	新居 阿波銀行		
昭和36年 (1961)	一般男子複	灘・向井田 徳島大	中山・新見 徳島市役所・助任小		
	一般男子単	西野 阿波銀行	新居 阿波銀行		
昭和37年 (1962)	一般男子複	西野・新居 阿波銀行	吉坂・流田 日和佐高		
	一般女子複	中井・吉岡 日和佐	長田・湯浅 阿南市		
	一般男子単	西野 阿波銀行	越後 阿波銀行		
	一般女子単	中井 日和佐高	長田 阿南市		
昭和38年 (1963)	一般男子複	吉坂・流田 日和佐高	西野・新居 阿波銀行		
	一般女子複	中井・吉岡 日和佐	長田・山下 阿南市		
	一般男子単	吉坂 日和佐高	西野 阿波銀行		
	一般女子単	中井 日和佐高	吉岡 日和佐高		
昭和39年 (1964)	一般男子複	岡本・井内 日和佐高	鳥巣・福田 徳島大		
	一般女子複	中井・吉岡 日和佐	松坂・由岐中 日和佐高		
	一般男子単	鳥巣 徳島大	吉田 阿南市		
	一般女子単	中井 日和佐高	吉岡 日和佐高		
昭和40年 (1965)	一般男子複	鳥巣・中島 徳島大	西野・新居 阿波銀行		
	一般女子複	中井・多田 日和佐高	由岐中・橋本 日和佐高		
	一般男子単	鳥巣 徳島大	吉田 阿南市		
	一般女子単	吉岡 日和佐高	由岐中 日和佐高		
昭和41年 (1966)	一般男子複	野村・吉坂 日和佐高	鳥巣・中島 徳島大		
	一般女子複	小久見・増田 富岡東	野田・片 日和佐高		
	一般男子単	星加 徳島大	鳥巣 徳島大		
	一般女子単	由岐中 日和佐高	橋本 日和佐高		

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和42年 (1967)	一般男子複	向井田・吉岡 日和佐高	吉坂・吉坂 日和佐高OB		
	一般女子複	野田・片 日和佐高	枡田・田中 日和佐高		
	一般男子単	鳥巣 徳島大	星加 徳島大		
	一般女子単	野田 日和佐高	枡田 日和佐高		
昭和43年 (1968)	一般男子複	松原・米沢 小松島西高	星加・和泉 徳島大		
	一般女子複	由岐中・片山 日和佐高	丸山・大西 日和佐高		
	一般男子単	松原 小松島西高	星加 徳島大		
	一般女子単	由岐中 日和佐高	片山 日和佐高		
昭和44年 (1969)	一般男子複	星加・和泉 徳島大	吉本・福本 小松島西高		
	一般女子複	尾崎・平山 小松島西高	丸山・大西 日和佐高		
	一般男子単	松原 小松島西高OB	吉本 小松島西高		
	一般女子単	丸山 日和佐高	大西 日和佐高		
昭和45年 (1970)	一般男子複	伊達・畑野 徳島大	前島・小浜 小松島西高		
	一般女子複	西川・吉岡 日和佐高	小泉・春木 日和佐高		
	一般男子単	杉内 日和佐高	畑野 徳島大		
	一般女子単	春木 日和佐高	伊勢 小松島高		
昭和46年 (1971)	一般男子複	山下・和泉 大塚製薬・徳島大	伊達・畑野 徳島大		
	一般女子複	小泉・春木 日和佐高	仁木・伊勢 小松島高		
	一般男子単	杉内 日和佐高	和佐 日和佐高		
	一般女子単	小泉 日和佐高	分木 小松島高		
昭和47年 (1972)	一般男子複	杉内・和佐 日和佐高	吉兼・中林 日和佐高		
	一般女子複	西崎・竹田 小松島西高	永井・橋本 日和佐高		
	一般男子単	杉内 日和佐高	吉兼 日和佐高		
	一般女子単	一山 日和佐高	長井 日和佐高		
昭和48年 (1973)	一般男子複	森・森 森建材・阿波銀行	吉本・小浜 ナショナル製販		
	一般女子複	西崎・竹田 小松島西高	橋本・馬見 日和佐高		
	一般男子単	山下 大塚製薬	森 森建材		
	一般女子単	西崎 小松島西高	香川 小松島高		
昭和49年 (1974)	一般男子複	森・山下 森建材・大塚製薬	森・勢喜 阿波銀行		
	一般女子複	橋本・馬見 日和佐高	灘・長井 日和佐高		
	一般男子単	勢喜 阿波銀行	山下 大塚製薬		
	一般女子単	詫間 徳島文理大	前田 小松島高		
昭和50年 (1975)	一般男子複	山下・森 大塚製薬・森建材	戎野・亀井 阿南工業高OB		
	一般女子複	灘・長井 日和佐高	山下・篠原 日和佐高		
	一般男子単	山下 大塚製薬	吉兼 日和佐高		
	一般女子単	長井 日和佐高	寺上 日和佐高		

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和51年 (1976)	一般男子複	仁木・吉兼 日和佐高	森・勢喜 阿波銀行		
	一般女子複	瀧・長井 日和佐高	井口・中島 日和佐高		
	一般男子単	山下 大塚製薬	勢喜 阿波銀行		
	一般女子単	井口 日和佐高	中島 日和佐高		
昭和52年 (1977)	一般男子複	山下・杉本 大塚製薬・徳島大	森・森 森建材		
	一般女子複	菅原・島本 徳島大	井口・大地 日和佐高		
	一般男子単	勢喜 阿波銀行	山下 大塚製薬		
	一般女子単	菅原 徳島大	井口 日和佐高		
昭和53年 (1978)	一般男子複	横岑・戎野 日和佐高	森・戎野 森建材・四電ｴﾝｼﾞﾆｱ		
	一般女子複	菅原・湯浅 徳島大・小松島西高OB	泉・増金 徳島商業高		
	一般男子単	森 森建材	山下 大塚製薬		
	一般女子単	菅原 徳島大	泉 徳島商業高		
昭和54年 (1979)	一般男子複	岡田・増金 八万クラブ	森・戎野 八万クラブ		
	一般女子複	浜・武田 日和佐高	菅原・島本 タツエクラブ・徳島大		
	一般男子単	勢喜 阿波銀行	戎野 八万クラブ		
	一般女子単	菅原 タツエクラブ	浜 日和佐高		
昭和55年 (1980)	一般男子複	岡田・増金 八万クラブ	戎野・今出 八万クラブ		
	一般女子複	菅原・島本 徳島大学病院	原田・武田 日和佐高		
	一般男子単	増金 八万クラブ	戎野 八万クラブ		
	一般女子単	菅原 徳島大学病院	武田 日和佐高		
昭和56年 (1981)	一般男子複	岡田・増金 八万クラブ	伊藤・田原 徳島大		
	一般女子複	菅原・湯浅 タツエクラブ	中川・内輪 川内ク・徳島市立高		
	一般男子単	増金 八万クラブ	岡田 八万クラブ		
	一般女子単	菅原 タツエクラブ	湯浅 タツエクラブ		
昭和57年 (1982)	一般男子複	戎野・戎野 八万クラブ	岡田・増金 八万クラブ		
	一般女子複	株本・湯浅 タツエクラブ	内輪・石川 阿波銀行		
	一般男子単	増金 徳島クラブ	戎野 八万クラブ		
	一般女子単	株本 タツエクラブ	内輪 阿波銀行		
昭和58年 (1983)	一般男子複	森・勢喜 八万クラブ・阿波銀行	戎野・戎野 八万クラブ		
	一般女子複	株本・山本 ﾀﾂｴｸﾗﾌﾞ・徳島文理大	中島・流 川内ク・青少年ｾﾝﾀｰ		
	一般男子単	増金 徳島クラブ	玉田 徳島クラブ		
	一般女子単	山本 徳島文理大	天羽 タツエクラブ		
昭和59年 (1984)	一般男子複	増金・玉田 徳島クラブ	小林・吉兼 日和佐クラブ		
	一般女子複	株本・天羽 タツエクラブ	中島・湯浅 川内ク・タツエクラブ		
	一般男子単	増金 徳島クラブ	玉田 徳島クラブ		
	一般女子単	山本 徳島文理大	二階 四国女子大		

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和60年 (1985)	一般男子複	玉田・福家 徳島クラブ	戎野・戎野 日和佐クラブ	藤本・竹内 渭北体協	
	一般女子複	市原・福岡 渭北体協	金森・米沢 八万クラブ	藤中・宮本 徳島商業高	
	一般男子単	増金 徳島クラブ	吉岡 城東高	福家 エイワ	
	一般女子単	山本 小松島西高	宮本 徳島商業高	吉井 金曜クラブ	
昭和61年 (1986)	一般男子複	玉田・福家 徳島クラブ・エイワ	増金・吉岡 渭東体協・城東高	株本・井上 タツエクラブ	
	一般女子複	株本・天羽 タツエクラブ	中飯・岡本 日和佐高	山本・鎌田 徳島商業高	
	一般男子単	福家 エイワ	玉田 徳島クラブ	吉岡 城東高	
	一般女子単	山本 小松島西高	株本 タツエクラブ	中飯 日和佐高	
昭和62年 (1987)	一般男子複	玉田・福家 徳島クラブ・エイワ	藤本・竹内 徳島クラブ	植田・小浜 タツエクラブ	
	一般女子複	株本・天羽 タツエクラブ	工藤・山本 徳島商業高	山縣・喜葉 小松島西高	
	一般男子単	福家 エイワ	玉田 徳島クラブ	浜松 八万クラブ	
	一般女子単	株本 タツエクラブ	浜口 金曜クラブ	山本 徳島商業高	
昭和63年 (1988)	一般男子複	玉田・福家 徳島クラブ・エイワ	増金・宮本 渭東体協・金曜クラブ	藤本・田中 徳島クラブ	
	一般女子複	宇田・河野 八万クラブ	福岡・橋口 徳島クラブ	春川・国見 日和佐高	
	一般男子単	福家 エイワ	増金 渭東体協	玉田 徳島クラブ	
	一般女子単	宇田 八万クラブ	春川 日和佐高	宮本 徳島文理大	
平成元年 (1989)	一般男子複	玉田・福家 徳島ク・八万ク	戎野・小林 日和佐	藤本・田中 徳島クラブ	
	一般女子複	宮本・野口 徳島文理大	福岡・橋口 徳島クラブ	内輪・中山 阿波銀行・徳島中	
	一般男子単	玉田 徳島クラブ	竹内 徳島クラブ	越後 徳島クラブ	
	一般女子単	中山 徳島中	宮本 徳島文理大	橋口 徳島クラブ	
平成2年 (1990)	一般女子複	宮本・山本 大塚化学・八万クラブ	株本・増金 八万クラブ・渭東体協	吉井・浜口 中央クラブ	
	一般男子単	神野 神崎製紙	増金 渭東体協	福家 エイワ	
	一般女子単	宮本 大塚化学	株本 大神子病院	岡本 日和佐	
平成3年 (1991)	一般男子複	神野・深瀬 神崎製紙・スポーツ振興	福家・田中 八万ク・徳島ク	戎野・戎野 日和佐	
	一般女子複	宮本・山本 大塚化学・八万クラブ	株本・古田 大神子病院	岡本・原西 八万クラブ・丸久	
	一般男子単	福家 エイワ	久次米 徳島クラブ	生田 八万クラブ	
	一般女子単	宮本 大塚化学	原西 八万クラブ	山本 八万クラブ	
平成4年 (1992)	一般男子複	吉岡・福家 大塚化学・エイワ	田中・輝尾 徳島クラブ	神野・中田 神崎製紙・トヨタ	
	一般女子複	宮本・山本 大塚化学・加茂名南	岡本・原西 八万クラブ・丸久	浜口・吉井 金曜クラブ	
	一般男子単	神野 神崎製紙	福家 エイワ	吉岡 大塚化学	
	一般女子単	宮本 大塚化学	八田 徳島商業高	株本 大神子病院	
平成5年 (1993)	一般男子複	神野・深瀬 神崎製紙・スポーツ振興	福家・吉岡 八万クラブ・渭東体協	森野・中田 渭東体協	
	一般女子複	宮本・山本 大塚化学・八万クラブ	株本・原西 八万クラブ	小西・南 阿南ク・那賀川ク	
	一般男子単	深瀬 スポーツ振興	吉岡 大塚化学	福家 エイワ	
	一般女子単	株本 八万クラブ	堤 城東高	宮本 大塚化学	

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成6年 (1994)	一般男子複	福家・玉田 エイワ・津田クラブ	浜松・橋本 八万クラブ	森野・中田 渭東体協	
	一般女子複	山本・岡本 八万クラブ	株本・原西 小松島病院・八万ク	増金・東 渭東体協	
	一般混合複	植田・株本 教員・八万	宮島・八田 徳島クラブ	橋本・浜口 八万・金曜クラブ	
	一般男子単	福家 エイワ	浜松 八万クラブ	橋本 徳島県庁	
	一般女子単	八田 徳島クラブ	株本 小松島病院	小西 阿南クラブ	
平成7年 (1995)	一般男子複	福家・浜松 エイワ・八万クラブ	増金・森野 渭東体協	橋本・生田 八万クラブ	
	一般女子複	株本・原西 小松島病院・八万ク	山本・岡本 八万クラブ	小西・南 阿南ク・那賀川ク	
	一般混合複	戎野・小西 日和佐・阿南	今出・八田 城ノ内ク・徳島ﾄﾗﾍﾞﾙ		
	一般男子単	深瀬 スポーツ振興	浜松 八万クラブ	福家 エイワ	
	一般女子単	宮本 大塚化学	原西 八万クラブ	株本 小松島病院	
平成8年 (1996)	一般男子複	山田・中田 阿南市役所・トヨタ	増金・橋本 渭東体協・八万クラブ	久次米・橋本 徳島クラブ・徳島県庁	
	一般女子複	増金・宮本 渭東体協・大塚化学	浜口・小泉 金曜クラブ	株本・原西 小松島病院・八万ク	
	一般混合複	福家・株本 エイワ・小松島	増金・増金 渭東体協	橋本・浜口 八万・金曜クラブ	
	一般男子単	増金 渭東体協	中田 トヨタ	立田 四国電力	
	一般女子単	宮本 大塚化学	久次米 徳島中	原西 八万クラブ	
平成9年 (1997)	一般男子複	福家・森野 エイワ・渭東体協	生田・橋本 富田中教・八万クラブ	中北・田中 大塚製薬・渭北体協	
	一般女子複	原西・浜口 八万クラブ・助任小教	福田・寒山 徳島文理大	小西・岸田 阿南クラブ・NTT徳島	
	一般混合複	福家・株本 エイワ・小松島	戎野・小西 阿南クラブ	生田・浜口 富田中・助任小	
	一般男子単	小高 徳島大	福家 エイワ	戎野 阿南クラブ	
	一般女子単	宮本 大塚化学	原西 八万クラブ	株本 小松島病院	
平成10年 (1998)	一般男子複	増金・東田 渭東体協	森野・中田 渭東体協	福家・吉岡 八万クラブ・大塚化学	
	一般女子複	久次米・蔭山 城東高	株本・谷 八万クラブ	原西・森中 八万クラブ	
	一般混合複	中北・中山 渭北体協	生田・浜口 富田中・助任小教	福家・株本 エイワ・大神子病院	
	一般男子単	吉岡 大塚化学	小高 徳島大	福家 八万クラブ	
	一般女子単	宮本 大塚化学	原西 八万クラブ	玉西 城東高	
平成11年 (1999)	一般男子複	吉岡・山田 大塚化学・神野クラブ	増金・東田 渭東体協	福家・谷 八万体協	
	一般女子複	森中・原西 八万体協	久次米・羽里 城東高	株本・浜口 TRYクラブ・八万体協	
	一般混合複	戎野・小西 阿南クラブ	坂本・株本 八万・TRYクラブ	八嶋・岸田 NTT四国	
	一般男子単	山田 神野クラブ	吉岡 渭北体協	谷 城東高	
	一般女子単	久次米 城東高	蔭山 城東高	原西 八万クラブ	
平成12年 (2000)	一般男子複	吉岡・山田 大塚化学・神野クラブ	福家・谷 八万体協	杉内・戎野 NTT四国	
	一般女子複	浜口・原西 八万体協	増金・北浦 渭東体協		
	一般男子単	福家 八万体協	吉岡 渭北体協	真鍋 エンドレス	
	一般女子単	羽里 藍住東中	鎌田 八万体協		

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成13年(2001)	一般男子複	真鍋・中田 ｴﾝﾄﾞﾚｽ・渭東体協	宮脇・小川 エンドレス	福家・谷 八万体協	福岡・芳田 加茂名体協・日和佐体協
	一般女子複	石井・久次米 渭北体協	浜口・原西 八万体協	岡本・谷 城東高	八田・小西 渭東体協・NTT四国
	一般混合複	真鍋・石井 ｴﾝﾄﾞﾚｽ・渭北体協	谷・横田 八万体協・城東高	小川・株本 ｴﾝﾄﾞﾚｽ・TRYｸﾗﾌﾞ	
	一般男子単	真鍋 エンドレス	中田 渭東体協	吉岡 渭北体協	森 渭北体協
	一般女子単	井村 徳島中	大阪 徳島中	株本 TRYクラブ	岡本 城東高
平成14年(2002)	一般男子複	吉岡・山田 渭北体協・神野ｸﾗﾌﾞ	真鍋・岡田 ｴﾝﾄﾞﾚｽ・渭東体協	谷・芳田 八万体協・日和佐体協	宮脇・井上 ｳﾙﾌﾊｯｸ・新野体協
	一般女子複	大阪・仁木 徳島中学校	石井・久次米 大島器械・徳島文理大学	宮本真・宮本直 渭北体協	湯原・大谷 八万体協・富岡西高
	一般混合複	南・久次米 渭北体協・徳島文理大	井上・大谷 新野体協・富岡西高	谷(圭)・谷(百) 八万体協	
	一般男子単	真鍋 エンドレス	吉岡 渭北体協	芳田 日和佐体協	杉本 徳島商業
	一般女子単	大阪 徳島中学校	石井 大島器械	遠藤 相生中学	久次米 徳島文理大学
平成15年(2003)	一般男子複	西岡・田中 渭北体協・健祥会	川島・武田 徳島商業	宮脇・小川 エンドレス	
	一般女子複	石井・宮本 大島器械・渭北体協	湯原・岡本 八万体協・渭北体協	大坂・米田 城東高校	
	一般男子単	西岡 渭北体協	田中 健祥会	岡佐古 渭北体協	杉本 徳島商業
	一般女子単	石井 大島器械	鏡 徳島北高	藤本 城東高	
平成16年(2004)	一般男子複	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	宮脇・谷 エンドレス・八万体協	坂本・福家 八万体協・城南高	吉岡・田中 渭北体協
	一般女子複	仁木・立川 城東高	松友・神原 徳島中	國安・水口 徳島中	北島・湯原 加茂名体協・八万体協
	一般男子単	真鍋 県漁連	西岡 渭北体協	武田 徳島商業高	
	一般女子単	松友 徳島中	仁木 城東高	藤本 城東高	
平成17年(2005)	一般男子複	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	宮脇・小川 ｱﾙﾎﾞﾚｯｸｽ・日亜化学	吉岡・田中 渭北体協	
	一般女子複	仁木・立川 城東高	井村・大谷 team B-UP・四国大	松友・久次米 城東高	
	一般男子単	武田 徳島商業高	真鍋 県漁連	西岡 渭北体協	
	一般女子単	松友 徳島中	仁木 城東高	井村 team B-UP	
平成18年(2006)	一般男子複	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	吉岡・山田 渭北体協・阿南市役所	岡田・谷 team B-UP・八万体協	
	一般女子複	小建・下川 日和佐体協	北島・庄野 パワーズ	蔭山・関本 八万体協	
	一般混合複	戎野・小西 NTT四国	堤・北島 パワーズ	谷・関本 八万体協	
	一般男子単	西岡 渭北体協	吉岡 渭北体協	鎌田 大塚製薬	
平成19年(2007)	一般男子複	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	谷・谷 八万体協	芳田・菖蒲 日和佐体協	鏡・吉成 徳島商業高
	一般女子複	水口・若田 城東高	北島・庄野 パワーズ	佐々木・宮崎 城東高	藤本・山本 徳島中
	一般混合複	谷・蔭山 八万体協	杉内・松友 八万体協・城東高	岡田・新居 team B-UP	
	一般男子単	鏡 徳島商業高	西岡 渭北体協	杉内 八万体協	谷 八万体協
	一般女子単	水口 城東高	藤本 徳島中	國安 徳島中	若田 城東高
平成20年(2008)	一般男子複	谷・杉本 八万体協・加茂名体協	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	宮脇・松原 徳島文理大・三洋電機	松田・佐幸 JR四国・日和佐体協
	一般女子複	水口・若田 城東高	松友・國安 Sugifami・城東高	後藤・庄野 パワーズ	佐々木・宮崎 城東高
	一般混合複	谷・庄野 八万体協・パワーズ	杉内・松友 Sugifami		
	一般男子単	谷 八万体協	鏡 徳島商業高	杉本 加茂名体協	西岡 渭北体協
	一般女子単	水口 城東高	藤本 徳島中	宮崎 城東高	若田 城東高

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成21年 (2009)	一般男子複	谷・杉本 八万体協・加茂名体協	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	井村・高橋 ジェイテクト	森本・鏡 ジェイテクト
	一般女子複	松友・若田 Sugifami	前里・小原 城東高	國安・山本 城東高	山本・坂井 城東高
	一般男子単	杉内 Sugifami	谷 八万体協	真鍋 県漁連	西岡 渭北体協
	一般女子単	金森 徳島中	前里 城東高	山本 城東高	山本 城東高
平成22年 (2010)	一般男子複	庄野・福家 徳島商業・城南高校	谷・谷 八万体協	西手・住友 八万体協	齋藤・浅野 徳島商業
	一般女子複	前里・小原 城東高	小川・宮崎 八万体協・徳島文理大学	山本・國安 城東高	植田・植田 四国大学
	一般混合複	庄野・庄野 徳島商業・パワーズ	斎藤・馬部 徳島商業	谷・関本 八万体協	鏡・植田 ジェイテクト・加茂名体協
	一般男子単	齋藤 徳島商業	福家 城南高校	小笠 城南高校	杉内 JA全農とくしま
	一般女子単	山本 城東高	塚本 城東高	樫山 徳島商業	宮崎 徳島文理大学
平成23年 (2011)	一般男子複	谷(耕)・福家 八万体協	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	斎藤・石井 徳島商業	谷(圭)・庄野 八万体協・西精工
	一般女子複	小川・宮崎 八万体協・徳島文理大学	樫山・前里 徳島商業・城東高校	小原・金澤 城東高校	篠原・野村 八万体協・徳島文理大
	一般男子単	福家 八万体協	斎藤 徳島商業高校	武田 日和佐体協	真鍋 県漁連
	一般女子単	小川 八万体協	宮崎 徳島文理大学	金澤 城東高校	四宮 城東高校
平成24年 (2012)	一般男子複	谷(耕)・福家 博愛記念病院・阿波銀行	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	井村・森本 ジェイテクト	谷(圭)・庄野 八万体協
	一般女子複	宮崎・松本 徳島文理大・四国大	岩崎・森 城東高校	四宮・小原 城東高校	京野・岩崎 徳島中学校
	一般男子単	福家 阿波銀行	谷(耕) 博愛記念病院	庄野 西精工	谷(圭) 八万体協
	一般女子単	岩崎 城東高校	岩崎 徳島中学校	小原 城東高校	京野 徳島中学校
平成25年 (2013)	一般男子複	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	平岡(耕)・福家 博愛記念病院・阿波銀行	三谷・三谷 阿南市役所	平岡(圭)・庄野 八万体協
	一般女子複	宮崎・松本 徳島文理大・八万体協	千田・磯田 城東高校	植田・植田 日亜化学・加茂名体協	羽里・羽里 teamB-UP
	一般混合複	平岡・宮崎 博愛記念病院・徳島文理大	平岡・松本 八万体協	松村・植田 日亜化学	福家・三谷 阿波銀行・八万体協
	一般男子単	福家 阿波銀行	武田 日和佐体協	谷(耕) 博愛記念病院	平岡(圭) 八万体協
	一般女子単	宮崎 徳島文理大学	松本 八万体協	磯田 城東高校	千田 城東高校
平成26年 (2014)	一般男子複	三谷・加藤 阿南市役所・JR四国	平岡・西岡 県森林組合連合会・渭北体協	川崎・谷川 徳島商業	山田・河野 渭北体協
	一般女子複	岩崎・山下 城東高校	松本・宮崎 八万体協・鳴門病院	永原・磯田 城東高校	千田・中瀬 城東高校
	一般男子単	川崎 徳島商業	西岡 渭北体協	平岡 県森林組合連合会	三谷 阿南市役所
	一般女子単	岩崎 城東高校	永原 城東高校	宮崎 鳴門病院	塚本 徳島大学

徳島県総合選手権大会(団体)

年度	種目	優　勝	準優勝	第3位	第3位
平成6年(1994)	男子団体	八万クラブ	徳島クラブ	渭東体協	
平成7年(1995)	男子団体	渭東体協	徳島クラブ		
平成9年(1997)	男子団体	八万クラブ	徳島クラブ	NTT四国	
	女子団体	八万クラブ	徳島文理大学	城東高校	
平成10年(1998)	男子団体	渭東体協	八万クラブ	四国大学	
平成11年(1999)	男子団体	八万体協	加茂名体協	城東高校	
	女子団体	城東高校	八万体協	徳島文理大学	
平成12年(2000)	男子団体	渭北体協	八万体協	渭東体協	
平成13年(2001)	男子団体	渭北体協	渭東体協	八万体協	徳島大学
平成14年(2002)	男子団体	渭北体協A	八万体協	渭東体協	渭北体協B
平成15年(2003)	男子団体	渭北体協A	渭東体協	徳島商業高校	八万体協
平成16年(2004)	男子団体	渭北体協	team B-UP	八万体協	
	女子団体	城東高校	TRYクラブ	鳴門教育大学	
平成18年(2006)	男子団体	渭北体協	team B-UP		
平成19年(2007)	男子団体	渭北体協	八万体協	team B-UP	
	女子団体	城東高校	徳島中学校	加茂名体協	
平成20年(2008)	男子団体	渭北体協	八万体協	徳島商業高校	
	女子団体	城東高校 A	徳島中学校OB	城東高校 B	
平成21年(2009)	男子団体	八万体協	渭北体協	ジェイテクト	
	女子団体	徳島中学校 A	城東高校 A		
平成22年(2010)	男子団体	徳島商業高校	ジェイテクト	八万体協	渭北体協
	女子団体	城東高校 A	八万体協	徳島商業高校	四国大学
平成23年(2011)	男子団体	八万体協	日和佐体協	渭北体協	松茂体協
	女子団体	城東高校	八万体協	城東高校･徳島商業	加茂名体協
平成24年(2012)	男子団体	八万体協	ジェイテクト	渭北体協	沖洲体協
	女子団体	城東高校A	八万体協	徳島中学校	城東高校 B
平成25年(2013)	男子団体	八万体協	徳島大学A	徳島大学B	城北高校
	女子団体	八万体協	徳島中学校	小松島中学校	
平成26年(2014)	男子団体	team 隼	徳島大学A	徳島大学B	鳴門教育大学
	女子団体				

徳島県会長杯(複)争奪バドミントン大会

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和58年(1983)	一般男子複	戎野・戎野 八万クラブ	岡田・増金 徳島クラブ		
	一般女子複	湯浅・天羽 タツエクラブ	浜口・石川 徳島大		
	一般混合複	今出・中島 川内クラブ	清水・清水 ﾀﾂｴｸﾗﾌﾞ・ﾊﾗｸﾗﾌﾞ		
昭和59年(1984)	一般男子複	戎野・戎野 八万クラブ	増金・福山 徳島クラブ		
	一般女子複	中島・湯浅 川内ク・タツエクラブ	株本・天羽 タツエクラブ		
	一般混合複	今出・中川 川内クラブ	西村・杉本 阿南クラブ		
昭和60年(1985)	一般男子複	増金・玉田 渭東体協・徳島クラブ	戎野・戎野 日和佐クラブ	西本・伊藤 タツエ	
	一般女子複	中島・湯浅 川内ク・タツエクラブ	増金・山本 渭東体協・小松島西高	藤中・宮本 徳島商業高	
	一般混合複	福家・米沢 八万クラブ	勢喜・千里 八万クラブ	小林・小林 日和佐	
昭和61年(1986)	一般男子複	増金・今出 渭東体協・加茂名	戎野・戎野 日和佐クラブ	株本・井上 タツエ	
	一般女子複	宮本・工藤 徳島商業高	鎌田・山本 徳島商業高	浜口・小泉 金曜クラブ	
	一般混合複	福家・米沢 八万クラブ	宮本・吉井 金曜クラブ	勢喜・千里 八万クラブ	
昭和62年(1987)	一般男子複	玉田・竹内 徳島クラブ	増金・森野 渭東体協・徳島市立高	勢喜・浜松 八万クラブ	
	一般女子複	吉井・内輪 金曜クラブ・阿波銀行	株本・天羽 タツエクラブ	山本・工藤 徳島商業高	
	一般混合複	福家・米沢 八万クラブ	藤本・猪木 徳島ク・藍住ｴﾝｼﾞｪﾙ	勢見・二階 八万クラブ	
昭和63年(1988)	一般男子複	福家・浜松 八万クラブ	玉田・竹内 徳島クラブ	上野・藤岡 徳島文理大	
	一般女子複	株本・宇田 タツエクラブ・八万ク	福岡・橋口 徳島クラブ	内輪・吉井 阿波銀行・金曜クラブ	
	一般混合複	増金・増金 渭東体協	湯浅・前野 金曜クラブ	生田・山本 八万クラブ	
平成元年(1989)	一般男子複	玉田・竹内 徳島クラブ	藤本・田中 徳島クラブ	芝・山下 大塚製薬	
	一般女子複	野口・宮本 徳島文理大	山本・喜葉 八万クラブ	福岡・橋口 徳島クラブ	
	一般混合複	増金・増金 渭東体協	勢喜・福家 八万クラブ	森・森 八万クラブ	
平成2年(1990)	一般男子複	福家・竹内 エイワ・徳島クラブ	田中・中川 徳島クラブ	藤本・輝尾 徳島クラブ	
	一般女子複	株本・吉井 八万ク・中央ク	宮本・山本 徳島ク・八万ク	上原・武智 徳島大	
	一般混合複	佃・岸田 NTT	横岑・中野 蔵本公園クラブ	戎野・秋月 日和佐	
平成3年(1991)	一般男子複	戎野・戎野 日和佐クラブ	浜谷・田口 徳島大	森脇・橋本 RSC	
	一般女子複	山本・中山 城東高	中野・坂本 城東高	藤田・東 渭東体協	
	一般混合複	八嶋・生田 新野体協	横岑・吉岡 蔵本公園クラブ	長尾・小西 阿南クラブ	
平成4年(1992)	一般男子複	増金・深瀬 渭東体協・ｽﾎｰﾂ振興	溝渕・山口 CLUB-B	久次米・橋本 徳島クラブ	
	一般女子複	宮本・山本 大塚化学・八万クラブ	岡本・原西 八万クラブ	浜口・吉井 金曜クラブ	
	一般混合複	福家・株本 エイワ・大神子病院	橋本・前野 八万ク・金曜ク	尾形・岡本 八万クラブ	
平成5年(1993)	一般男子複	増金・玉田 渭東体協・県協会	生田・浜松 八万クラブ	田中・久次米 徳島クラブ	
	一般女子複	株本・小西 小松島病院・阿南ク	山本・原西 八万クラブ	浜口・小泉 金曜クラブ	
	一般混合複	橋本・丸山 RSC	岩本・今川 RSC	浜田・山本 森ファミリー	

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成6年 (1994)	一般男子複	増金・玉田 渭東体協・津田クラブ	森野・中田 渭東体協・トヨタ	中川・安藤	小川・横川 徳島大
	一般女子複	原西・岡本 八万クラブ	小西・南 阿南ク・那賀川ク	増金・東 渭東体協	石井・山本 徳島大
	一般混合複	植田・株本 立江中学教・小松島病院	竹内・山本 徳島ク・八万ク	橋本・小泉 八万ク・金曜ク	
平成7年 (1995)	一般男子複	福家・浜松 エイワ・四電産業	吉岡・中北 大塚化学	増金・戎野 渭東体協・四電	
	一般女子複	株本・宮本 小松島病院・大塚化学	坂本・坂本 渭北体協・城東高	小西・南 阿南ク・那賀川ク	
	一般混合複	吉田・小泉 渭北体協・金曜クラブ	今出・高岡 城ノ内クラブ		
平成8年 (1996)	一般男子複	山田・立田 阿南市役所・四電	杉内・明野 NTT徳島	吉田・中北 四電・大塚製薬	
	一般女子複	原西・森中 八万クラブ	宮本・山本 大塚化学・八万クラブ	吉野・小椋 神野クラブ	
	一般混合複	福家・株本 エイワ・小松島病院	橋本・浜口 八万ク・金曜ク	久次米・斉藤 徳島クラブ	
平成9年 (1997)	一般男子複	福家・山田 八万ク・神野ク	吉岡・中北 大塚化学	杉内・戎野 NTT四国・阿南クラブ	
	一般女子複	森中・株本 八万クラブ	原西・浜口 八万ク・金曜ク	小西・南 阿南ク・那賀川ク	
	一般混合複	戎野・小西 阿南クラブ	久次米・斉藤 城ノ内クラブ	福家・株本 エイワ・小松島病院	
平成10年 (1998)	一般男子複	増金・森野 渭東体協	吉岡・中北 大塚化学	杉内・戎野 NTT四国・阿南クラブ	生田・橋本 八万クラブ
	一般女子複	中山・坂本 渭北体協	宮本・小西 大塚製薬・阿南クラブ	原西・森中 八万クラブ	株本・篠原 八万クラブ
	一般混合複	戎野・小西 阿南クラブ	福家・森中 エイワ・八万クラブ	生田・原西 富田中・八万ク	橋本・株本 八万ク・小松島病院
平成11年 (1999)	一般男子複	吉岡・山田 渭北体協	杉内・戎野 NTT四国・阿南クラブ	福家・谷 八万クラブ	
	一般女子複	中山・宮本 渭北体協・大塚化学	株本・浜口 TRYクラブ・八万クラブ	森中・斉藤 八万クラブ・TRYクラブ	
平成12年 (2000)	一般男子複	吉岡・山田 渭北体協・神野クラブ	真鍋・中田 渭東体協	福家・谷 八万体協	杉内・戎野 NTT四国・阿南クラブ
	一般女子複	宮本・小西 渭東体協・NTT四国	岩橋・宮本 パワーズ	栗田・森本 加茂名体協	村瀬・今川 加茂名体協
	一般混合複	川上・斉藤 エンドレス	坂本・株本 八万体協・TRYクラブ		
平成13年 (2001)	一般男子複	中田・真鍋 渭東体協・ｴﾝﾄﾞﾚｽ	吉岡・山田 渭北体協・神野クラブ	杉内・戎野 NTT四国	福家・谷 八万体協
	一般女子複	中山・石井 渭北体協	横田・谷 城東高	森・岡本 城東高	宮本・小西 渭東体協・NTT四国
平成14年 (2002)	一般男子複	吉岡・山田 渭北体協・神野クラブ	谷（圭）・芳田 八万体協・日和佐体協	宮脇・山川 エンドレス	正木・堤 ハワーズ
	一般女子複	石井・宮本 大島器械・渭北体協	八田・小西 渭東体協・NTT四国	湯原・篠原 八万体協・徳島北高	羽里・森 藍住東中
平成15年 (2003)	一般男子複	真鍋・西岡 ｴﾝﾄﾞﾚｽ・渭北体協	吉岡・山田 渭北体協・神野クラブ	田中・南 渭北体協	宮脇・谷 ｴﾝﾄﾞﾚｽ・八万体協
	一般女子複	石井・湯原 大島器械・八万体協	宮本・宮本 渭北体協	株本・大谷 TRYクラブ・富岡西高	八田・宮本 渭東体協・ハワーズ
平成16年 (2004)	一般男子複	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	谷・井上 八万体協・新野体協	田中・南 渭北体協	
	一般女子複	石井・湯原 大島器械・八万体協	仁木・立川 城東高	米田・大坂 城東高	
	一般混合複	増金・井村 team B-UP	戎野・小西 NTT四国	中川・八田 team B-UP	
平成17年 (2005)	一般男子複	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	小川・井上 日亜化学・新野体協	福家・谷 八万体協	
	一般女子複	石井・湯原 大島器械・八万体協	斉藤・大谷 エンドレス・四国大	山本・若田 城東中	
	一般混合複	増金・井村 team B-UP	戎野・小西 NTT四国	宮本・北島 ハワーズ	

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成18年 (2006)	一般男子複	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	吉岡・山田 渭北体協・阿南市役所	谷・福家 八万体協・城南高	
	一般女子複	松友・水口 徳島中	仁木・松友 城東高	立川・久次米 城東高	
	一般混合複	小川・北島 日亜化学・パワーズ	戎野・小西 NTT四国		
平成19年 (2007)	一般男子複	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	吉岡・山田 渭北体協・神野ク	岡田・谷 team B-UP・八万体協	南・中山 渭北体協
	一般女子複	福岡・植田 加茂名体協・鳴門教育大	蔭山・関本 八万体協	小建・下川 日和佐体協	北島・庄野 パワーズ
平成20年 (2008)	一般男子複	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	吉岡・山田 渭北体協・阿南市役所	岡田・力丸 team B-UP・パワーズ	南・中山 渭北体協
	一般女子複	松友・関本 Sugifami・八万体協	植田・植田 四国大		
平成21年 (2009)	一般男子複	谷(耕)・杉本 八万体協・加茂名体協	鏡・森本 ジェイテクト	吉岡・山田 渭北体協・阿南市役所	南・中山 渭北体協
	一般女子複	松友・大坂 Sugifami	関本・篠原 八万体協・加茂名体協	樫山・馬部 徳島商業高	
平成22年 (2010)	一般男子複	谷(耕)・杉本 八万体協・加茂名体協	谷(圭)・井村 八万体協・ジェイテクト	鏡・森本 ジェイテクト	佐幸・高橋 日亜化学・ジェイテクト
	一般女子複	山本(桜)・國安 城東高校	前里・小原 城東高校	関本・篠原 八万体協	小川・前田 八万体協・渭北体協
平成23年 (2011)	一般男子複	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	庄野・斎藤 西精工・徳島商業	谷・福家 八万体協	間・南 渭北体協
	一般女子複				
平成24年 (2012)	一般男子複	谷(耕)・福家 博愛記念病院・阿波銀行	南・中山 渭北体協	谷(圭)・東口 八万体協	井上・高橋 城南高校
	一般女子複	塚本・久田 城東高校	宮崎・松本 徳島文理大学・四国大学	篠原・野村 八万体協・徳島文理大学	金澤・山下 城東高校
平成25年 (2013)	一般男子複	谷(耕)・福家 博愛記念病院・阿波銀行	谷(圭)・庄野 八万体協	真鍋・西岡 県漁連・渭北体協	田村・野村 城東高校
	一般女子複	岩崎・金澤 城東高校	四宮・山下 城東高校	佐野・千田 城東高校	永原・磯田 城東高校
平成26年 (2014)	一般男子複	吉岡・船越 渭東体協	南・岡佐古 渭北体協	平岡・庄野 県森林組合連合会・JTEKT	新田・松下 城東高校
	一般女子複	岩崎・山下 城東高校	松本・宮崎 八万体協・鳴門病院	千田・中瀬 城東高校	永原・磯田 城東高校

徳島県会長杯(単)争奪バドミントン大会

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和49年 (1974)	一般男子単	勢喜 阿波銀行	小浜 ナショナル		
	一般女子単	詫間 徳島文理大	島田 名西高		
昭和50年 (1975)	一般男子単	山下 大塚製薬	森 森建材		
	一般女子単	詫間 徳島文理大	安藤 徳島文理大		
昭和51年 (1976)	一般男子単	山下 大塚製薬	勢喜 阿波銀行		
	一般女子単	菅原 徳島大	南 徳島商業高		
昭和52年 (1977)	一般男子単	山下 大塚製薬	勢喜 阿波銀行		
	一般女子単	菅原 徳島大	湯浅 小松島西高		
昭和53年 (1978)	一般男子単	勢喜 阿波銀行	山下 大塚製薬		
	一般女子単	菅原 徳島大	島本 徳島大		
昭和54年 (1979)	一般男子単	増金 八万クラブ	勢喜 阿波銀行		
	一般女子単	菅原 徳島大	天崎 四国女子大		
昭和55年 (1980)	一般男子単	増金 八万クラブ	勢喜 阿波銀行		
	一般女子単	菅原 タツエクラブ	内輪 阿波銀行		
昭和56年 (1981)	一般男子単	増金 八万クラブ	勢喜 阿波銀行		
	一般女子単	菅原 タツエクラブ	前田 タツエクラブ		
昭和57年 (1982)	一般男子単	増金 徳島クラブ	森 森建材		
	一般女子単	株本 タツエクラブ	内輪 阿波銀行		
昭和58年 (1983)	一般男子単	増金 徳島クラブ	戎野 八万クラブ		
	一般女子単	山本 徳島文理大	湯浅 タツエクラブ		
昭和59年 (1984)	一般男子単	増金 徳島クラブ	森 森建材		
	一般女子単	山本 徳島文理大	中島 川内クラブ		
昭和60年 (1985)	一般男子単	増金 徳島クラブ	湯浅 八万クラブ	福家 エイワ	
	一般女子単	山本 小松島西高	湯浅 タツエクラブ		
昭和61年 (1986)	一般男子単	増金 渭東体協	福家 エイワ	吉岡 城東高	
	一般女子単	山本 小松島西高	宮本 徳島商業高	佐々木 徳島市立高	
昭和62年 (1987)	一般男子単	福家 エイワ	玉田 徳島クラブ	竹内 徳島クラブ	
	一般女子単	株本 タツエクラブ	山本 小松島西高	福岡 徳島クラブ	
昭和63年 (1988)	一般男子単	玉田 徳島クラブ	福家 エイワ	浜松 八万クラブ	
	一般女子単	宮本 徳島商業高	株本 タツエクラブ	福岡 徳島クラブ	
平成元年 (1989)	一般男子単	玉田 徳島クラブ	増金 渭東体協	福家 エイワ	
	一般女子単	宮本 徳島文理大	福岡 徳島クラブ	吉井 信用保証協会	
平成2年 (1990)	一般男子単	神野 神崎製紙	福家 八万クラブ		
	一般女子単	宮本 徳島クラブ	株本 タツエクラブ	橋口 徳島クラブ	

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成3年 (1991)	一般男子単	深瀬 徳島県庁	福家 八万クラブ	森野 渭東体協	
	一般女子単	株本 八万クラブ	上原 徳島大	山本 八万クラブ	
平成4年 (1992)	一般男子単	吉岡 大塚化学	増金 渭東体協	森野 渭東体協	
	一般女子単	宮本 大塚化学	原西 八万クラブ	山本 加茂名南	
平成5年 (1993)	一般男子単	中川 徳島大	中田 トヨタ	橋本 RSC	
	一般女子単	宮本 大塚化学	原西 八万クラブ	八田 徳島クラブ	
平成6年 (1994)	一般男子単	山田 阿南市役所	深瀬 スポーツ振興財団	浜松 八万クラブ	
	一般女子単	宮本 大塚化学	原西 八万クラブ	八田 徳島トラベル	
平成7年 (1995)	一般男子単	神野 神野クラブ	福家 八万クラブ	浜松 八万クラブ	
	一般女子単	原西 八万クラブ	八田 徳島トラベル	増金 渭東体協	
平成8年 (1996)	一般男子単	福家 エイワ	増金 渭東体協	生田 新野中教	
	一般女子単	小西 阿南クラブ	株本 小松島病院	八田 徳島トラベル	
平成9年 (1997)	一般男子単	吉岡 大塚化学	森 四国大	生田 富田中教	
	一般女子単	株本 小松島病院	宮本 大塚化学	福田 徳島文理大	
平成10年 (1998)	一般男子単	福家 エイワ	中田 渭東体協	森野 渭東体協	
	一般女子単	原西 八万クラブ	株本 小松島病院	福田 徳島文理大	
平成11年 (1999)	一般男子単	山田 神野クラブ	吉岡 大塚化学	中田 渭東体協	
	一般女子単	中山 渭北体協	原西 八万クラブ	株本 TRYクラブ	
平成12年 (2000)	一般男子単	福家 八万体協	吉岡 渭北体協	酒井 渭北体協	真鍋 渭東体協
	一般女子単	中山 渭北体協	久次米 城東高	蔭山 城東高	井村 徳島中
平成13年 (2001)	一般男子単	吉岡 渭北体協	真鍋 エンドレス	中田 渭東体協	谷 八万体協
	一般女子単	横田 城東高	羽里 藍住東中	小西 NTT四国	森 城東高
平成14年 (2002)	一般男子単	吉岡 渭北体協	中田 渭東体協	谷 八万体協	杉内 城東高
	一般女子単	石井 大島器械	久次米 渭北体協	湯原 八万体協	岡本 城東高
平成15年 (2003)	一般男子単	西岡 渭北体協	吉岡 渭北体協	福家 八万体協	谷 八万体協
	一般女子単				
平成16年 (2004)	一般男子単	真鍋 エンドレス	川島 徳島商業高	吉岡 渭北体協	武田 徳島商業高
	一般女子単	石井 大島器械	仁木 城東高	藤本 城東高	羽里 藍住東中
平成17年 (2005)	一般男子単	武田 徳島商業高	谷 八万体協	西岡 渭北体協	福家 城南高
	一般女子単	井村 team B-UP	神原 徳島中	國安 徳島中	水口 徳島中
平成18年 (2006)	一般男子単	真鍋 県漁連	西岡 渭北体協	山田 阿南市役所	吉岡 渭北体協
	一般女子単	國安 城東高	若田 城東中	澤口 城東高	
平成19年 (2007)	一般男子単	真鍋 県漁連	西岡 渭北体協	谷 八万体協	山田 阿南市役所
	一般女子単	蔭山 八万体協	植田 鳴門教育大	植田 四国大	山口 徳島商業高

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成20年 (2008)	一般男子単	西岡 渭北体協	真鍋 県漁連	山田 阿南市役所	鏡 徳島商業高
	一般女子単	松友 Sugifami	植田 四国大		
平成21年 (2009)	一般男子単	西岡 渭北体協	齋藤 徳島商業高	杉内 Sugifami	谷 八万体協
	一般女子単	松友 Sugifami	馬部 徳島商業高	篠原 加茂名体協	樫山 徳島商業高
平成22年 (2010)	一般男子単	庄野 徳島商業高	井村 ジェイテクト	鏡 ジェイテクト	谷(耕) 八万体協
	一般女子単	小川 八万体協	前里 城東高	國安 城東高	小原 城東高
平成23年 (2011)	一般男子単	福家 八万体協	齋藤 徳島商業高	西岡 渭北体協	庄野 西精工
	一般女子単				
平成24年 (2012)	一般男子単	福家 阿波銀行	庄野 西精工	谷(耕) 八万体協	西岡 渭北体協
	一般女子単				
平成25年 (2013)	一般男子単	福家 阿波銀行	谷(耕) 博愛記念病院	庄野 JTEKT八万体協	野村 城東高校
	一般女子単	岩崎 城東高校	四宮 城東高校	永原 城東高校	千田 城東高校
平成26年 (2014)	一般男子単	平岡 博愛記念病院	庄野 JTEKT	畠中 鳴門教育大学	幸里 徳島科技高
	一般女子単	岩崎 城東高校	永原 城東高校	山下 城東高校	千田 城東高校

徳島県クラブ対抗バドミントン大会

年度	種目	優　勝	準優勝	第3位	第3位
昭和31年(1956)	男子団体	阿波銀行	裁判所	内町クラブ	
	女子団体	貯金局	城東クラブ	日和佐クラブ	
昭和32年(1957)	男子団体	阿波銀行	徳島市役所	日和佐	
	女子団体	渭北青年会	日和佐B	日和佐A3	
昭和33年(1958)	男子団体	阿波銀行	日和佐A	徳島市役所	日和佐B
	女子団体	渭北青年会	日和佐A	阿南市A	
昭和34年(1959)	男子団体	阿波銀行	日和佐A	徳島市役所	日和佐B
	女子団体	池田保健所	池田幼稚園	阿南市A	阿南市B
昭和35年(1960)	男子団体	阿波銀行A	日和佐A	徳島市役所	日和佐B
	女子団体	池田保健所	池田幼稚園	阿南市A	阿南市B
昭和36年(1961)	男子団体	阿波銀行	阿南市	徳島市役所	
	女子団体	阿南市	徳島大学	阿波銀行	
昭和37年(1962)	男子団体	阿波銀行	A・C・B	阿南市	大麻クラブ
	女子団体	阿南市	徳島大学	城東中学校	
昭和38年(1963)	男子団体	阿波銀行	日和佐	阿南市	徳島大学
	女子団体	日和佐高校A	阿南市	日和佐高校B	
昭和39年(1964)	男子団体	阿波銀行	日和佐高校A	徳島クラブ	日和佐クラブ
	女子団体	日和佐高校A	日和佐高校B	阿波商業高校	日和佐クラブ
昭和40年(1965)	男子団体	阿波銀行	徳島大学A	徳島大学B	日和佐A
	女子団体	日和佐A	日和佐B	徳島市立高校	阿南市
昭和41年(1966)	男子団体	徳島大学A	日和佐高校	阿南クラブ	徳島大学B
	女子団体	徳島大学A	日和佐高校A	日和佐高校B	徳島大学B
昭和42年(1967)	男子団体	徳島大学A	日和佐高校B	阿波銀行	阿南クラブ
	女子団体	日和佐高校A	富岡東高校	徳島大学	小松島高校A
昭和43年(1968)	男子団体	徳島大学A	日和佐高校A	小松島西高校	小松島高校A
	女子団体	日和佐高校A	小松島高校A	小松島西高校A	小松島高校B
昭和44年(1969)	男子団体	小松島高校A	小松島西高校A	小松島高校B	小松島西高校B
	女子団体	小松島西高校A	小松島西高校B	小松島高校A	小松島高校B
昭和45年(1970)	男子団体	日和佐高校	徳島大学A	小松島西高校A	小松島西高校B
	女子団体	日和佐高校A	小松島西高校A	徳島市立高校A	徳島市立高校B
昭和46年(1971)	男子団体	日和佐高校	徳島大学A	小松島西高校A	小松島西高校B
	女子団体	日和佐高校	小松島西高校A	徳島市立高校A	徳島市立高校B
昭和47年(1972)	男子団体	薬品会	小松島西高校	徳島大学	阿波銀行
	女子団体	阿波銀行	徳島大学B	徳島大学A	八万中学

年度	種目	優　勝	準優勝	第3位	第3位
昭和48年 (1973)	男子団体	薬品会	小松島西高校OB	徳島大学C	徳島商業高校B
	女子団体	阿波銀行	徳島大学A	徳島商業高校A	川内中学
昭和49年 (1974)	男子団体	薬品会	徳島大学A	徳島商業高校B	徳島大学OB
	女子団体	徳島文理大学A	徳島商業高校A	徳島商業高校B	徳島大学A
昭和50年 (1975)	男子団体	徳島商業高校A	阿波銀行	薬品会	徳島大学A
	女子団体	富岡東高校B	富岡東高校A	城北高校A	鴨島商業高校A
昭和51年 (1976)	男子団体	徳島大学OB	小松島西高校OB	阿波銀行	徳島大学A
	女子団体	徳島大学A	徳島商業高校A	松原クラブ	富岡東高校A
昭和52年 (1977)	男子団体	徳島商業高校A	阿波銀行	薬品会	阿波銀行
	女子団体	富岡東高校B	富岡東高校A	城北高校A	同好会
昭和53年 (1978)	男子団体	八万クラブ	阿波銀行	徳島大学A	富岡西高校OB
	女子団体	徳島大学A	小松島西高校A	阿南青年センターA	青少年センターA
昭和54年 (1979)	一般男子団体	八万クラブ	徳島大学OB	阿波銀行	城南高校
	一般女子団体	青少年センターA	城南高校A	徳島大学B	青少年センターC
昭和55年 (1980)	1部男子団体	八万クラブ	阿波銀行	城南高校	徳島大学OB
	1部女子団体	タツエクラブ	青少年センターB	青少年センターA	武知商事
昭和56年 (1981)	1部男子団体	八万クラブ	小松島クラブA	徳島大学A	阿波銀行
	1部女子団体	タツエクラブA	タツエクラブD	青少年センターB	青少年センターA
昭和57年 (1982)	1部男子団体	八万クラブ	徳島クラブ	徳島大学B	タツエクラブA
	1部女子団体	阿波銀行	四国女子大学A	徳島大学A	徳島クラブ
昭和58年 (1983)	1部男子団体	徳島クラブ	タツエクラブ	徳島大学A	阿南クラブ
	1部女子団体	四国女子大学	徳島大学A	徳島クラブ	阿南クラブ
昭和59年 (1984)	1部男子団体	徳島クラブ	タツエクラブA	松茂クラブ	徳島大学A
	1部女子団体	川内クラブ	タツエクラブA	四国女子大学	徳島クラブ
昭和61年 (1986)	1部男子団体	八万クラブ	徳島クラブ	大塚製薬A	徳大B
	1部女子団体	タツエクラブ	八万クラブ	金曜クラブ	
昭和62年 (1987)	1部男子団体	徳島クラブ	タツエクラブ	鳴門クラブ	八万クラブ
昭和63年 (1988)	1部男子団体	徳島クラブ	八万クラブ	金曜クラブ	徳島大学
	1部女子団体	八万クラブ	徳島クラブ		
平成元年 (1989)	1部男子団体	徳島クラブA	徳島クラブB	八万クラブ	
	1部女子団体	徳島文理大学	日和佐クラブ	阿南クラブ	
平成2年 (1990)	1部男子団体	八万クラブ	徳島クラブ	日和佐クラブ	
	1部女子団体	八万クラブ	阿南クラブ		

年度	種目	優　勝	準優勝	第3位	第3位
平成3年(1991)	1部男子団体	徳島クラブ	八万クラブ	日和佐クラブ	徳島大学A
	1部女子団体	八万クラブ	阿南クラブ		
平成4年(1992)		出場なし			
平成5年(1993)		出場なし			
平成6年(1994)	1部男子団体	八万クラブ	徳島大学A	渭東体協	徳島クラブ
	1部女子団体	八万クラブA	八万クラブB	那賀川クラブ	
平成7年(1995)	1部男子団体	渭東体協	渭北体協	徳島クラブ	
平成8年(1996)	1部男子団体	渭北体協	八万クラブ	徳島クラブ	
平成9年(1997)	1部男子団体	渭東体協	NTT四国	渭北体協	
	1部女子団体	八万クラブ	NTT四国		
平成10年(1998)	1部男子団体	八万クラブ	渭東体協		
	1部女子団体	八万クラブ	徳島文理大学		
平成11年(1999)	1部男子団体	八万クラブ	渭東体協		
	1部女子団体	八万クラブ	渭東体協		
平成12年(2000)	1部男子団体	渭北体協	NTT四国		
	1部女子団体	八万クラブ	NTT四国		
平成13年(2001)	1部男子団体	渭北体協	NTT四国		
	1部女子団体	八万クラブ	NTT四国		
平成14年(2002)	1部男子団体	八万体協	渭北体協A		
	1部女子団体	TRYクラブ	相生中学	渭東・パワーズ	
平成15年(2003)	1部男子団体	エンドレス	渭北体協	八万体協	バッカス
	1部女子団体	城東高校	TRYクラブ	パワーズ	加茂名体協
平成16年(2004)	1部男子団体	渭北体協	徳島商業高校		
	1部女子団体	城東高校	TRYクラブ	連合チーム	
平成17年(2005)	1部男子団体	渭北体協	team B-UP	パワーズ	
	1部女子団体	加茂名体協	パワーズ	バッカス	
平成18年(2006)	1部男子団体	team B-UP	日和佐体協	パワーズ	徳大医歯薬
	1部女子団体	パワーズ	team B-UP	八万体協	TRYクラブ
平成19年(2007)	1部男子団体	渭北体協	パワーズ	team B-UP	
	1部女子団体	城東高校A	四国大学	城東高校B	
平成20年(2008)	1部男子団体	渭北体協	八万体協		
	1部女子団体	城東高校A	四国大学		
平成21年(2009)	1部男子団体	八万体協	渭北体協		
	1部女子団体	城東高校A	城東高校B	四国大学	

年度	種目	優　勝	準優勝	第3位	第3位
平成22年 (2010)	1部男子団体	八万体協	JTEKT	渭北体協	松茂体協
	1部女子団体	八万体協	城東高校	四国大学	
平成23年 (2011)	1部男子団体	八万体協	徳島商業高校	JTEKT	渭北体協
	1部女子団体	八万体協	城東高校A	城東高校B	加茂名体協
平成24年 (2012)	1部男子団体	八万体協	渭北体協	城東高校	城北高校
	1部女子団体	城東高校A	八万体協	城東高校B	
平成25年 (2013)	1部男子団体	八万体協	JTEKT	渭北体協	バッカス
	1部女子団体	城東高校A	八万体協	城東高校B	
平成26年 (2014)	1部男子団体	八万体協	渭北体協	徳島商業A	沖洲体協
	1部女子団体	城東高校A	徳島商業高校		

高等学校の部

徳島県高等学校総合体育大会

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和38年（1963）	男子複	吉坂・流田 日和佐高	美馬・岡本 日和佐高		
	女子複	吉岡・中井 日和佐高			
	男子単	吉坂 日和佐高	流田 日和佐高		
	女子単	吉岡 日和佐高	中井 日和佐高		
昭和39年（1964）	男子複	美馬・秋田 日和佐高	岡本・井内 日和佐高		
	女子複	吉岡・中井 日和佐高	松坂・本田 日和佐高		
	男子単	美馬 日和佐高	岡本 日和佐高		
	女子単	吉岡 日和佐高	中井 日和佐高		
昭和40年（1965）	男子複	野村・吉坂 日和佐高	藤田・崎山 日和佐高		
	女子複	中井・多田 日和佐高	由岐中・橋本 日和佐高		
	男子単	藤田 日和佐高	秋田 日和佐高		
	女子単	中井 日和佐高	多田 日和佐高		
昭和41年（1966）	団体戦男子	日和佐高校	冨岡東高校	小松島高校	冨岡西高校
	団体戦女子	日和佐高校	冨岡東高校	冨岡西高校	徳島市立高校
	男子複	野村・吉坂 日和佐高	阿川・日高 富岡東高		
	女子複	由岐中・橋本 日和佐高	小久見・増田 富岡東高		
	男子単	吉坂 日和佐高	日高 富岡東高		
	女子単	由岐中 日和佐高	橋本 日和佐高		
昭和42年（1967）	団体戦男子	日和佐高校	冨岡東高校	小松島西高校	小松島高校
	団体戦女子	日和佐高校	冨岡東高校	小松島高校	冨岡西高校
	男子複	向井田・吉岡 日和佐高	阿川・日高 富岡東高		
	女子複	野田・片 日和佐高	桝田・田中 日和佐高		
	男子単	向井田 日和佐高	阿川 富岡東高		
	女子単	野田 日和佐高	小久見 富岡東高		
昭和43年（1968）	団体戦男子	小松島西高校	日和佐高校	小松島高校	徳島市立高校
	団体戦女子	日和佐高校	小松島高校	小松島西高校	徳島市立高校
	男子複	松原・米沢 日和佐高	戸摩・大久保 日和佐高		
	女子複	由岐中・片山 日和佐高	滝・高橋 小松島高		
	男子単	松原 小松島西高	米沢 小松島西高		
	女子単	由岐中 日和佐高	尾崎 小松島西高		
昭和44年（1969）	団体戦男子	日和佐高校	小松島高校	小松島西高校	阿南工業高校
	団体戦女子	小松島西高校	日和佐高校	小松島高校	城東高校
	男子複	吉本・福本 日和佐高	森吉・寺沢 小松島高		
	女子複	尾崎・平山 小松島西高	丸山・大西 日和佐高		
	男子単	勢喜 日和佐高	延原 日和佐高		
	女子単	丸山 日和佐高	大西 日和佐高		

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和45年(1970)	団体戦男子	日和佐高校	小松島高校	小松島西高校	富岡東高校
	団体戦女子	日和佐高校	小松島西高校	小松島高校	城東高校
	男子複	小浜・前島 日和佐高	富林・市村 小松島高	--	--
	女子複	吉岡・石川 日和佐高	山田・平岡 小松島西高	--	--
	男子単	森 徳島商業高	小浜 小松島西高	--	--
	女子単	宇都宮 小松島高	吉岡 日和佐高	--	--
昭和46年(1971)	団体戦男子	日和佐高校	徳島市立高校	小松島高校	小松島西高校
	団体戦女子	日和佐高校	小松島高校	富岡東高校	城東高校
	男子複	仁木・野村 日和佐高	杉内・和佐 日和佐高	--	--
	女子複	春木・小泉 日和佐高	伊勢・仁木 小松島高	--	--
	男子単	杉内 日和佐高	仁木 日和佐高	--	--
	女子単	春木 日和佐高	小泉 日和佐高	--	--
昭和47年(1972)	団体戦男子	日和佐高校	富岡西高校	富岡東高校	阿南工業高校
	団体戦女子	日和佐高校	小松島高校	徳島市立高校	城東高校
	男子複	杉内・和佐 日和佐高	杉本・森 徳島商業高	--	--
	女子複	中川・宮家 日和佐高	西崎・村居 小松島西高	--	--
	男子単	杉内 日和佐高	和佐 日和佐高	--	--
	女子単	中川 日和佐高	分木 小松島高	--	--
昭和48年(1973)	団体戦男子	日和佐高校	徳島商業高校	小松島西高校	富岡東高校
	団体戦女子	小松島西高校	日和佐高校	富岡東高校	小松島高校
	男子複	中林・吉兼 日和佐高	杉本・森 徳島商業高	--	--
	女子複	西崎・竹田 小松島西高	永井・橋本 日和佐高	--	--
	男子単	吉兼 日和佐高	杉本 徳島商業高	--	--
	女子単	西崎 小松島西高	永井 日和佐高	--	--
昭和49年(1974)	団体戦男子	阿南工業高校	日和佐高校	小松島西高校	徳島商業高校
	団体戦女子	日和佐高校	富岡東高校	小松島西高校	小松島高校
	男子複	戎野・亀井 日和佐高	岩雲・椎野 小松島西高	--	--
	女子複	松尾・中尾 城東高	橋本・馬見 日和佐高	--	--
	男子単	戎野 阿南工業	岩雲 小松島西高	--	--
	女子単	橋本 日和佐高	三ツ木 小松島高	--	--
昭和50年(1975)	団体戦男子	日和佐高校	徳島商業高校	富岡西高校	小松島高校
	団体戦女子	日和佐高校	小松島高校	富岡東高校	徳島商業高校
	男子複	平馬・津田 日和佐高	横岑・吉兼 日和佐高	--	--
	女子複	篠原・山下 日和佐高	灘・長井 日和佐高	--	--
	男子単	津田 日和佐高	横岑 日和佐高	--	--
	女子単	長井 日和佐高	灘 日和佐高	--	--
昭和51年(1976)	団体戦男子	徳島商業高校	日和佐高校	小松島西高校	徳島市立高校
	団体戦女子	日和佐高校	富岡東高校	徳島商業高校	小松島西高校
	男子複	吉兼・戎野 日和佐高	森・加村 徳島商業高	--	--
	女子複	寺上・井口 日和佐高	灘・長井 日和佐高	--	--
	男子単	吉兼 日和佐高	森 徳島商業高	--	--
	女子単	灘 日和佐高	長井 日和佐高	--	--

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和52年(1977)	団体戦男子	日和佐高校	小松島高校	阿南工業高校	徳島商業高校
	団体戦女子	日和佐高校	小松島西高校	小松島高校	富岡東高校
	男子複	戎野・別宮 日和佐高	武市・森 徳島商業高		
	女子複	井口・大地 日和佐高	篠原・磯野 富岡東高		
	男子単	戎野 日和佐高	山田 徳島市立高		
	女子単	井口 日和佐高	大地 日和佐高		
昭和53年(1978)	団体戦男子	小松島高校	日和佐高校	富岡西高校	阿南工業高校
	団体戦女子	日和佐高校	富岡東高校	徳島市立高校	小松島西高校
	男子複	井上・秋月 日和佐高	玉田・太田 富岡西高		
	女子複	磯野・河野 富岡東高	葭本・西崎 小松島西高		
	男子単	秋月 小松島高	井上 小松島高		
	女子単	大地 日和佐高	天羽 小松島高		
昭和54年(1979)	団体戦男子	富岡西高校	城南高校	日和佐高校	徳島商業高校
	団体戦女子	徳島商業高校	日和佐高校	富岡東高校	城南高校
	男子複	高鶴・四宮 日和佐高	秋月・戸田 小松島高		
	女子複	泉・増金 徳島商業高	浜・武田 日和佐高		
	男子単	秋月 小松島高	福山 徳島商業高		
	女子単	泉 徳島商業高	浜 日和佐高		
昭和55年(1980)	団体戦男子	徳島市立高校	日和佐高校	城南高校	城東高校
	団体戦女子	日和佐高校	富岡東高校	城東高校	徳島商業高校
	男子複	福家・浜松 日和佐高	小西・板東 徳島市立高		
	女子複	浜・武田 日和佐高	中川・北野 徳島商業高		
	男子単	福家 城南高	遠藤 徳島商業高		
	女子単	浜口 日和佐高	武田 日和佐高		
昭和56年(1981)	団体戦男子	徳島市立高校	城南高校	日和佐高校	小松島高校
	団体戦女子	日和佐高校	富岡東高校	小松島西高校	徳島市立高校
	男子複	土井・山本 日和佐高	清水・前山 日和佐高		
	女子複	原田・大山 日和佐高	泰地・大形 富岡東高		
	男子単	清水 日和佐高	浜松 城南高		
	女子単	原田 日和佐高	大形 富岡東高		
昭和57年(1982)	団体戦男子	日和佐高校	徳島商業高校	徳島市立高校	小松島西高校
	団体戦女子	富岡東高校	小松島西高校	城南高校	徳島市立高校
	男子複	山本・山口 日和佐高	後藤・藤本 徳島商業高		
	女子複	大形・杉本 富岡東高	岩橋・千里 富岡東高		
	男子単	山本 徳島市立高	吉岡 日和佐高		
	女子単	大形 富岡東高	市瀬 富岡東高		
昭和58年(1983)	団体戦男子	徳島市立高校	徳島商業高校	日和佐高校	富岡西高校
	団体戦女子	富岡西高校	富岡東高校	日和佐高校	小松島高校
	男子複	浜松・越後 日和佐高	栗田・原田 徳島市立高		
	女子複	森・中久 日和佐高	蛇目・森本 日和佐高		
	男子単	浜松 徳島商業高	栗田 徳島市立高		
	女子単	階 富岡東高	伊藤 富岡東高		

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和59年（1984）	団体戦男子	徳島商業高校	日和佐高校	徳島市立高校	城南高校
	団体戦女子	日和佐高校	徳島市立高校	小松島西高校	徳島商業高校
	男子複	浜松・越後 日和佐高	北堀・土井 徳島市立高	--	--
	女子複	正木・平馬 日和佐高	春兼・隅田 日和佐高	--	--
	男子単	浜松 徳島商業高	神野 富岡東高	--	--
	女子単	平馬 日和佐高	正木 日和佐高	--	--
昭和60年（1985）	団体戦男子	徳島商業高校	富岡東高校	徳島市立高校	城東高校
	団体戦女子	日和佐高校	徳島市立高校	富岡東高校	富岡西高校
	男子複	神野・橋本 日和佐高	木村・平山 徳島商業高	--	--
	女子複	平馬・春川 日和佐高	橋口・笹田 富岡東高	--	--
	男子単	神野 富岡東高	吉岡 城東高	平馬 日和佐高	--
	女子単	平馬 日和佐高	馬田 富岡西高	--	--
昭和61年（1986）	団体戦男子	徳島商業高校	日和佐高校	城東高校	城北高校
	団体戦女子	徳島商業高校	日和佐高校	徳島市立高校	富岡東高校
	男子複	木村・平山 日和佐高	吉岡・森吉 城東高	--	--
	女子複	藤中・宮本 徳島商業高	春川・中飯 日和佐高	--	--
	男子単	吉岡 城東高	木村 徳島商業高	--	--
	女子単	春川 日和佐高	宮本 徳島商業高	--	--
昭和62年（1987）	団体戦男子	日和佐高校	城東高校	徳島商業高校	徳島市立高校
	団体戦女子	徳島商業高校	日和佐高校	小松島西高校	城北高校
	男子複	清里・茂木 日和佐高	羽里・春兼 日和佐高	--	--
	女子複	片山・原西 日和佐高	宮本・工藤 徳島商業高	--	--
	男子単	多田 城東高	羽里 日和佐高	--	--
	女子単	宮本 徳島商業高	山本 小松島西高	--	--
昭和63年（1988）	団体戦男子	城東高校	富岡東高校	日和佐高校	富岡西高校
	団体戦女子	日和佐高校	徳島商業高校	富岡東高校	城東高校
	男子複	山田・小川 日和佐高	多田・上田 城東高	--	--
	女子複	工藤・山本 徳島商業高	原西・岡本 日和佐高	--	--
	男子単	多田 城東高	橋口 富岡東高	--	--
	女子単	原西 日和佐高	工藤 徳島商業高	--	--
平成元年（1989）	団体戦男子	徳島市立高校	徳島東工業高校	日和佐高校	城東高校
	団体戦女子	日和佐高校	富岡東高校	城南高校	富岡西高校
	男子複	森野・別宮 日和佐高	林・金田 城東高	--	--
	女子複	春川・岡本 日和佐高	小尻・南地 日和佐高	--	--
	男子単	森野 徳島市立高	別宮 徳島市立高	--	--
	女子単	春川 日和佐高	南地 日和佐高	--	--
平成2年（1990）	団体戦男子	徳島市立高校	城東高校	日和佐高校	小松島高校
	団体戦女子	日和佐高校	富岡東高校	徳島商業高校	新野高校
	男子複	別宮・永野 日和佐高	津田・中田 城東高	--	--
	女子複	岡本・小尻 日和佐高	富永・坂本 日和佐高	--	--
	男子単	別宮 徳島市立高	吉田 徳島市立高	--	--
	女子単	岡本 日和佐高	富永 日和佐高	--	--

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成3年（1991）	団体戦男子	日和佐高校	徳島商業高校	城南高校	徳島市立高校
	団体戦女子	城東高校	徳島商業高校	冨岡東高校	城南高校
	男子複	宮脇・河内 日和佐高	山本・庄野 徳島商業高		
	女子複	中山・坂本 城東高	中野・山本 城東高		
	男子単	中田 城東高	宮脇 日和佐高		
	女子単	八田 徳島商業高	中山 城東高		
平成4年（1992）	団体戦男子	城東高校	日和佐高校	徳島商業高校	徳島市立高校
	団体戦女子	城東高校	冨岡東高校	小松島高校	新野高校
	男子複	大持・菖蒲 日和佐高	芳川・井元 日和佐高		
	女子複	山本・中山 城東高	八田・天野 徳島商業高		
	男子単	井上 阿北高	宮崎 徳島市立高		
	女子単	八田 徳島商業高	山本 城東高		
平成5年（1993）	団体戦男子	城東高校	日和佐高校	冨岡東高校	冨岡西高校
	団体戦女子	城東高校	冨岡東高校	冨岡西高校	日和佐高校
	男子複	大西・西野 日和佐高	栗栖・上野 阿北高		
	女子複	宮本・堤 城東高	中山・坂本 城東高		
	男子単	尾形 城東高	大西 城東高		
	女子単	宮本 城東高	堤 城東高		
平成6年（1994）	団体戦男子	城東高校	城南高校	鳴門市立工業高校	小松島高校
	団体戦女子	城東高校	冨岡東高校	小松島高校	小松島西高校
	男子複	西野・山本 城東高	酒井・福本 城南高		
	女子複	宮本・赤岩 城東高	坂本・堤 城東高		
	男子単	西野 城東高	酒井 城南高		
	女子単	石井 城東高	宮本 城東高		
平成7年（1995）	団体戦男子	日和佐高校	小松島西高校	城南高校	城東高校
	団体戦女子	城東高校	冨岡東高校	徳島市立高校	城南高校
	男子複	藤江・雑賀 日和佐高	椎野・吉野 城東高		
	女子複	堤・坂本 城東高	石井・岡本 城東高		
	男子単	真鍋 小松島西高	椎野 城東高		
	女子単	石井 城東高	堤 城東高		
平成8年（1996）	団体戦男子	徳島商業高校	城東高校	城南高校	鳴門高校
	団体戦女子	城東高校	冨岡東高校	鳴門高校	徳島商業高校
	男子複	南・架場 日和佐高	宮本・福地 小松島高		
	女子複	石井・岡本 城東高	堤・勝瀬 城東高		
	男子単	谷本 日和佐高	吉野 城東高		
	女子単	石井 城東高	勝瀬 城東高		
平成9年（1997）	団体戦男子	城東高校	鳴門高校	徳島市立高校	三好高校
	団体戦女子	城東高校	徳島商業高校	冨岡西高校	小松島高校
	男子複	薩山・岡田 城東高	島・西野 城東高		
	女子複	枝元・玉西 城東高	味岡・矢野 城東高		
	男子単	薩山 城東高	藤川 城東高		
	女子単	味岡 城東高	枝元 城東高		

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成10年(1998)	団体戦男子	城東高校	城南高校	鳴門高校	徳島工業高校
	団体戦女子	城東高校	冨岡東高校	小松島西高校	徳島商業高校
	男子複	西岡・力丸 日和佐高	亀岡・松永 城東高	--	--
	女子複	小林・玉西 城東高	枝元・蔭山 城東高	--	--
	男子単	力丸 城東高	亀岡 城東高	--	--
	女子単	久次米 城東高	玉西 城東高	--	--
平成11年(1999)	団体戦男子	城東高校	城南高校	鳴門高校	徳島工業高校
	団体戦女子	城東高校	冨岡東高校	小松島西高校	徳島商業高校
	男子複	力丸・谷 日和佐高	正木・今村 徳島商業高	--	--
	女子複	玉西・枝元 城東高	久次米・蔭山 城東高	--	--
	男子単	谷 中央高	谷 城東高	--	--
	女子単	久次米 城東高	蔭山 城東高	--	--
平成12年(2000)	団体戦男子	城東高校	徳島商業高校	徳島東工業高校	徳島工業高校
	団体戦女子	城東高校	冨岡東高校	小松島西高校	城西高校
	男子複	正木・今村 日和佐高	谷・岡田 城東高	--	--
	女子複	久次米・蔭山 城東高	横田・羽里 城東高	--	--
	男子単	谷 城東高	正木 徳島商業高	--	--
	女子単	久次米 城東高	横田 城東高	--	--
平成13年(2001)	団体戦男子	城東高校	徳島市立高校	城西高校	徳島商業高校
	団体戦女子	城東高校	日和佐高校	冨岡東高校	徳島市立高校
	男子複	岡田・杉内 日和佐高	津田・小林 城東高	--	--
	女子複	横田・谷 城東高	森・岡本 城東高	--	--
	男子単	杉内 城東高	三谷 徳島市立高	--	--
	女子単	横田 城東高	森 城東高	--	--
平成14年(2002)	団体戦男子	城東高校	徳島市立高校	徳島商業高校	徳島東工業高校
	団体戦女子	城東高校	城北高校	徳島市立高校	城ノ内高校
	男子複	杉内・笠井 日和佐高	三谷・三谷 徳島市立高	--	--
	女子複	岡本・谷 城東高	宮沢・中田 富岡東高	--	--
	男子単	杉内 城東高	杉本 徳島商業高	--	--
	女子単	篠原 徳島北高	大谷 富岡西高	--	--
平成15年(2003)	団体戦男子	徳島商業高校	城南高校	城東高校	城北高校
	団体戦女子	徳島北高校	城東高校	冨岡東高校	冨岡西高校
	男子複	杉本・川島 日和佐高	鈴江・根来 城東高	--	--
	女子複	鏡・長田 徳島北高	篠原・植田 徳島北高	--	--
	男子単	杉本 徳島商業高	島 徳島商業高	--	--
	女子単	篠原 徳島北高	大谷 富岡西高	--	--
平成16年(2004)	団体戦男子	徳島商業高校	城南高校	城ノ内高校	徳島東工業高校
	団体戦女子	城東高校	徳島北高校	冨岡西高校	那賀高校
	男子複	川島・武田 日和佐高	島・吉成 徳島商業高	--	--
	女子複	仁木・立川 城東高	大坂・米田 城東高	--	--
	男子単	川島 徳島商業高	武田 徳島商業高	--	--
	女子単	仁木 城東高	日根野 徳島北高	--	--

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成17年(2005)	団体戦男子	徳島商業高校	城東高校	徳島北高校	徳島工業高校
	団体戦女子	城東高校	徳島北高校	那賀高校	徳島商業高校
	男子複	武田・松村 日和佐高	川田・中山 城東高		
	女子複	仁木・久次米 城東高	立川・松友 城東高		
	男子単	武田 徳島商業高	福家 徳島商業高		
	女子単	仁木 城東高	立川 城東高		
平成18年(2006)	団体戦男子	城南高校	徳島工業高校	徳島商業高校	城東高校
	団体戦女子	城東高校	徳島北高校	徳島商業高校	小松島高校
	男子複	浜西・井村 日和佐高	柳澤・吉岡 徳島工芸高		
	女子複	立川・久次米 城東高	仁木・松友 城東高		
	男子単	福家 城南高	鏡 徳島商業高		
	女子単	仁木 城東高	日根野 徳島北高		
平成19年(2007)	団体戦男子	徳島商業高校	城東高校	徳島工業高校	徳島市立高校
	団体戦女子	城東高校	富岡東高校	小松島西高校	徳島商業高校
	男子複	井村・鏡 日和佐高	吉成・弘田 徳島商業高		
	女子複	國安・水口 城東高	松友・久次米 城東高		
	男子単	鏡 徳島商業高	中山 城東高		
	女子単	水口 城東高	國安 城東高		
平成20年(2008)	団体戦男子	徳島商業高校	徳島市立高校	城南高校	徳島工業高校
	団体戦女子	城東高校	富岡東高校	那賀高校	徳島商業高校
	男子複	鏡・吉成 日和佐高	弘田・住友 徳島商業高		
	女子複	水口・若田 城東高	國安・宮崎 城東高		
	男子単	鏡 徳島商業高	土橋 板野高		
	女子単	水口 城東高	國安 城東高		
平成21年(2009)	団体戦男子	徳島商業高校	城南高校	徳島科学技術高校	城北高校
	団体戦女子	城東高校	那賀高校	徳島商業高校	富岡東高校
	男子複	庄野・齋藤 日和佐高	弘田・西手 徳島商業高		
	女子複	水口・若田 城東高	宮﨑・佐々木 城東高		
	男子単	齋藤 徳島商業高	福家 城南高		
	女子単	水口 城東高	若田 城東高		
平成22年(2010)	団体戦男子	徳島商業高校	城南高校	徳島科学技術高校	城東高校
	団体戦女子	城東高校	徳島商業高校	城北高校	徳島市立高校
	男子複	庄野・齋藤 日和佐高	福家・小笠 城南高		
	女子複	山本・國安 城東高	樫山・馬部 徳島商業高		
	男子単	齋藤 徳島商業高	福家 城南高		
	女子単	山本杏 城南高	小原 城東高		
平成23年(2011)	団体戦男子	徳島商業高校	城南高校	城東高校	徳島北高校
	団体戦女子	城東高校	徳島商業高校	城南高校	徳島市立高校
	男子複	齋藤・浅野 日和佐高	西岡・松﨑 城東高		
	女子複	樫山・馬部 徳島商業高	山本・國安 城東高		
	男子単	齋藤 徳島商業高	小笠 城南高		
	女子単	前里 城東高	山本 城東高		

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成24年(2012)	団体戦男子	城東高校	徳島商業高校	城北高校	城南高校
	団体戦女子	城東高校	徳島商業高校	城南高校	徳島市立高校
	男子複	松崎・野村 日和佐高	熊村・篠本 城東高	—	—
	女子複	塚本・久田 城東高	金澤・小原 城東高	—	—
	男子単	野村 城東高	松崎 城東高	—	—
	女子単	塚本 城東高	金澤 城東高	—	—
平成25年(2013)	団体戦男子	徳島商業高校	城東高校	城南高校	城北高校
	団体戦女子	城東高校	徳島商業高校	城南高校	鳴門高校
	男子複	笠原・福良 日和佐高	野村・田村 城東高	—	—
	女子複	四宮・志宇知 城東高	金澤・岩崎 城東高	—	—
	男子単	野村 城東高	樫山 徳島商業高	—	—
	女子単	岩崎 城東高	金澤 城東高	—	—
平成26年(2014)	団体戦男子	徳島商業高校	城東高校	徳島北高校	城南高校
	団体戦女子	城東高校	徳島商業高校	鳴門高校	城北高校
	男子複	樫山・川崎 徳島商業高	明井・竹治 徳島商業高		
	女子複	岩崎・山下 城東高	千田・四宮 城東高		
	男子単	川崎 徳島商業高	樫山 徳島商業高		
	女子単	岩崎 城東高	永原 城東高		

徳島県高等学校新人大会

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和44年（1969）	男子複	仁木・野村 日和佐高	富林・市村 小松島高		
	女子複	吉岡・西川 日和佐高	宇都宮・長木 小松島高		
	男子単	仁木 日和佐高	野村 －		
	女子単	吉岡 日和佐高	下村 －		
昭和52年（1977）	男子複	井上・秋月 日和佐高	横尾・井後 日和佐高		
	女子複	大地・照本 日和佐高	河野・幾野 富岡東高		
	男子単	井上 小松島高	秋月 小松島高		
	女子単	照本 日和佐高	天羽 小松島高		
昭和54年（1979）	団体戦男子	城東高校	徳島市立高校	城南高校	城北高校
	団体戦女子	日和佐高校	徳島商業高校	城南高校	小松島西高校
	男子複	遠藤・釆元 徳島商業高	小西・板東 徳島市立高		
	女子複	浜・武田 日和佐高	中川・北野 徳島商業高		
	男子単	福家 城南高	浜松 城南高		
	女子単	武田 日和佐高	湯浅 富岡東高		
昭和55年（1980）	団体戦男子	徳島市立高校	城南高校	徳島工業高校	日和佐高校
	団体戦女子	富岡東高校	小松島西高校	日和佐高校	徳島市立高校
	男子複	上井・山本 徳島市立高	角谷・繁芸 徳島市立高		
	女子複	内輪・西岡 徳島市立高	原田・大山 日和佐高		
	男子単	浜松 城南高	清水 日和佐高		
	女子単	原田 日和佐高	内輪 日和佐高		
昭和56年（1981）	団体戦男子	日和佐高校	徳島市立高校	阿南工業高校	小松島西高校
	団体戦女子	富岡東高校	小松島西高校	城東高校	小松島西高校
	男子複	山本・山口 徳島市立高	吉岡・伊達 日和佐高		
	女子複	大杉・杉本 富岡東高	野筒・河野 小松島西高		
	男子単	山本 徳島市立高	吉岡 日和佐高		
	女子単	大形 富岡東高	河野 小松島西高		
昭和57年（1982）	団体戦男子	徳島市立高校	富岡西高校	徳島商業高校	日和佐高校
	団体戦女子	日和佐高校	富岡東高校	小松島高校	城ノ内高校
	男子複	岩橋・浜松 徳島商業高	原田・粟田 徳島市立高		
	女子複	二階・伊藤 富岡東高	中久・森 日和佐高		
	男子単	浜松 徳島商業高	粟田 徳島市立高		
	女子単	田浦 徳島商業高	森 日和佐高		
昭和58年（1983）	団体戦男子	富岡東高校	徳島商業高校	富岡東高校	城南高校
	団体戦女子	日和佐高校	小松島高校	徳島商業高校	小松島西高校
	男子複	浜松・越後 徳島商業高	北堀・土井 徳島市立高		
	女子複	正木・平馬 日和佐高	春兼・隅田 日和佐高		
	男子単	浜松 徳島商業高	神野 富岡東高		
	女子単	平馬 日和佐高	春兼 日和佐高		

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和59年（1984）	団体戦男子	徳島市立高校	城東高校	日和佐高校	徳島東工業高校
	団体戦女子	日和佐高校	富岡東高校	徳島市立高校	城南高校
	男子複	神野・橋本 富岡東高	山口・土井 徳島市立高	--	--
	女子複	橋口・笹田 富岡東高	八木・蔵本 城南高	--	--
	男子単	神野 富岡東高	吉岡 城東高	--	--
	女子単	富士 日和佐高	平馬 日和佐高	--	--
昭和60年（1985）	団体戦男子	徳島商業高校	日和佐高校	城北高校	徳島東工業高校
	団体戦女子	日和佐高校	徳島商業高校	徳島市立高校	富岡東高校
	男子複	木村・平山 徳島商業高	吉岡・森吉 城東高	--	--
	女子複	春川・中飯 日和佐高	秋山・滝岩 日和佐高	--	--
	男子単	吉岡 城東高	木村 徳島商業高	--	--
	女子単	春川 日和佐高	山本 小松島西高	--	--
昭和61年（1986）	団体戦男子	城東高校	日和佐高校	徳島商業高校	徳島市立高校
	団体戦女子	日和佐高校	小松島西高校	徳島商業高校	富岡東高校
	男子複	高瀬・林 城東高	多田・上田 城東高	--	--
	女子複	宮本・工藤 徳島商業高	山本・山縣 小松島西高	--	--
	男子単	林 城東高	茂木 徳島市立高	--	--
	女子単	山本 小松島西高	府殿 小松島高	--	--
昭和62年（1987）	団体戦男子	富岡東高校	城東高校	小松島高校	富岡西高校
	団体戦女子	日和佐高校	小松島西高校	城東高校	富岡東高校
	男子複	橋口・山田 富岡東高	小川・福井 富岡東高	--	--
	女子複	原西・岡本 日和佐高	工藤・山本 徳島商業高	--	--
	男子単	山田 富岡東高	橋口 富岡東高	--	--
	女子単	岡本 日和佐高	春川 日和佐高	--	--
昭和63年（1988）	団体戦男子	徳島市立高校	城東高校	徳島東工高校	徳島商業高校
	団体戦女子	日和佐高校	富岡東高校	富岡西高校	小松島高校
	男子複	森野・別宮 徳島市立高	林・金田 城東高	--	--
	女子複	春川・小尻 日和佐高	岡本・南地 日和佐高	--	--
	男子単	森野 徳島市立高	林 城東高	--	--
	女子単	春川 日和佐高	南地 日和佐高	--	--
平成元年（1989）	団体戦男子	徳島市立高校	城東高校	小松島高校	徳島商業高校
	団体戦女子	日和佐高校	新野高校	富岡東高校	小松島西高校
	男子複	別宮・永野 徳島市立高	津田・中田 城東高	--	--
	女子複	坂本・冨永 日和佐高	岡本・小尻 日和佐高	--	--
	男子単	別宮 徳島市立高	中田 城東高	--	--
	女子単	岡本 日和佐高	小尻 日和佐高	--	--
平成2年（1990）	団体戦男子	日和佐高校	徳島市立高校	徳島商業高校	小松島高校
	団体戦女子	城東高校	日和佐高校	小松島高校	富岡東高校
	男子複	宮脇・河内 日和佐高	中田・鬼田 城東高		
	女子複	山本・中野 城東高	湯浅・吉野 富岡東高		
	男子単	宮脇 日和佐高	山本 徳島商業高		
	女子単	八田 徳島商業高	山本 城東高		

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成3年（1991）	団体戦男子	日和佐高校	城東高校	徳島商業高校	徳島市立高校
	団体戦女子	城東高校	富岡東高校	新野高校	小松島高校
	男子複	谷・鬼田 城東高	笹山・大西 城東高		
	女子複	山本・中山 城東高	中野・坂本 城東高		
	男子単	鬼田 城東高	宮崎 徳島市立高		
	女子単	山本 城東高	坂本 城東高		
平成4年（1992）	団体戦男子	城東高校	日和佐高校	富岡西高校	新野高校
	団体戦女子	城東高校	富岡東高校	日和佐高校	小松島高校
	男子複	大西・尾形 城東高	市川・西野 城東高		
	女子複	宮本・赤岩 城東高	陰藤・垣内 富岡東高		
	男子単	正木 徳島商業高	西野 城東高		
	女子単	宮本 城東高	鈴江 城東高		
平成5年（1993）	団体戦男子	城東高校	城南高校	小松島高校	富岡西高校
	団体戦女子	城東高校	鳴門高校	富岡東高校	小松島高校
	男子複	西野・市川 城東高	山本・椎野 城東高		
	女子複	坂本・堤 城東高	宮本・赤岩 城東高		
	男子単	西野 城東高	酒井 城南高		
	女子単	堤 城東高	宮本 城東高		
平成6年（1994）	団体戦男子	日和佐高校	城東高校	小松島西高校	鳴門高校
	団体戦女子	城東高校	富岡東高校	城南高校	徳島市立高校
	男子複	前田・谷本 日和佐高	椎野・西野 城東高		
	女子複	堤・坂本 城東高	石井・勝瀬 城東高		
	男子単	真鍋 小松島西高	椎野 城東高		
	女子単	坂本 城東高	石井 城東高		
平成7年（1995）	団体戦男子	小松島高校	城東高校	鳴門高校	城南高校
	団体戦女子	城東高校	富岡東高校	徳島商業高校	名西高校
	男子複	南・架場 徳島商業高	宮本・福地 小松島高		
	女子複	石井・岡本 城東高	堤・勝瀬 城東高		
	男子単	谷本 日和佐高	架場 徳島商業高		
	女子単	石井 城東高	岡本 城東高		
平成8年（1996）	団体戦男子	城東高校	鳴門高校	城南高校	徳島工業高校
	団体戦女子	城東高校	小松島高校	徳島商業高校	鳴門高校
	男子複	蔭山・岡田 城東高	藤川・島 城東高		
	女子複	味岡・矢野 城東高	龍田・宮本 富岡東高		
	男子単	蔭山 城東高	新名 徳島工業高		
	女子単	矢野 城東高	味岡 城東高		
平成9年（1997）	団体戦男子	城東高校	城南高校	富岡東高校	鳴門高校
	団体戦女子	城東高校	富岡東高校	徳島商業高校	小松島西高校
	男子複	西岡・力丸 城東高	亀岡・松永 城東高		
	女子複	小林・玉西 城東高	川崎・倉本 小松島西高		
	男子単	力丸 城東高	西岡 城東高		
	女子単	玉西 城東高	矢野 城東高		

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成10年(1998)	団体戦男子	城東高校	富岡東高校	徳島商業高校	鳴門高校
	団体戦女子	城東高校	富岡東高校	小松島西高校	徳島市立高校
	男子複	力丸・谷 城東高	佐藤・藤井 徳島東工業高		--
	女子複	玉西・枝元 城東高	久次米・蔭山 城東高	--	--
	男子単	谷 徳島中央高	力丸 城東高	--	--
	女子単	久次米 城東高	枝元 城東高	--	--
平成11年(1999)	団体戦男子	徳島商業高校	城東高校	日和佐高校	徳島工業高校
	団体戦女子	城東高校	富岡東高校	城西高校	小松島西高校
	男子複	正木・今村 徳島商業高	谷・岡田 城東高		--
	女子複	久次米・羽里 城東高	蔭山・横田 城東高	--	--
	男子単	谷 城東高	正木 徳島商業高	--	--
	女子単	久次米 城東高	蔭山 城東高	--	--
平成12年(2000)	団体戦男子	城東高校	徳島東工業高校	城北高校	城西高校
	団体戦女子	城東高校	日和佐高校	名西高校	富岡東高校
	男子複	笠井・杉内 城東高	岡田・津田 城東高		--
	女子複	羽里・横田 城東高	森本・坂西 徳島商業高	--	--
	男子単	笠井 城東高	岡田 城東高	--	--
	女子単	横田 城東高	森 城東高	--	--
平成13年(2001)	団体戦男子	城東高校	徳島市立高校	徳島東工業高校	徳島商業高校
	団体戦女子	城東高校	富岡東高校	城北高校	徳島市立高校
	男子複	杉内・笠井 城東高	三谷・三谷 城東高		--
	女子複	岡本・谷 城東高	山口・逢坂 城ノ内高	--	--
	男子単	笠井 城東高	杉内 城東高	--	--
	女子単	篠原 徳島北高	岡本 城東高	--	--
平成14年(2002)	団体戦男子	徳島商業高校	城南高校	城北高校	城東高校
	団体戦女子	富岡東高校	富岡西高校	徳島商業高校	徳島北高校
	男子複	杉本・川島 徳島商業高	森本・佐伯 城北高		--
	女子複	篠原・植田 徳島北高	大谷・喜田 富岡西高	--	--
	男子単	杉本 徳島商業高	川島 徳島商業高	--	--
	女子単	篠原 徳島北高	大谷 富岡西高	--	--
平成15年(2003)	団体戦男子	徳島商業高校	城南高校	徳島東工業高校	城ノ内高校
	団体戦女子	徳島北高校	城東高校	富岡西高校	那賀高校
	男子複	川島・武田 徳島商業高	吉成・松村 徳島商業高	--	--
	女子複	鏡・長田 徳島北高	井上・舛田 那賀高	--	--
	男子単	武田 徳島商業高	川島 徳島商業高	--	--
	女子単	鏡 徳島北高	藤本 城東高	--	--
平成16年(2004)	団体戦男子	徳島商業高校	徳島工業高校	城東高校	徳島北高校
	団体戦女子	城東高校	徳島北高校	富岡東高校	那賀高校
	男子複	武田・松村 徳島商業高	福家・藤川 城南高	--	--
	女子複	仁木・立川 城東高	長田・鏡 徳島北高	--	--
	男子単	武田 徳島商業高	松村 徳島商業高	--	--
	女子単	仁木 城東高	藤本 城東高	--	--

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成17年(2005)	団体戦男子	城南高校	城東高校	徳島工業高校	徳島商業高校
	団体戦女子	城東高校	徳島北高校	城北高校	徳島商業高校
	男子複	福家・藤川 城南高	浜西・井村 徳島商業高		
	女子複	仁木・立川 城東高	松友・久次米 城東高		
	男子単	福家 城南高	中山 城東高		
	女子単	仁木 城東高	松友 城東高		
平成18年(2006)	団体戦男子	徳島商業高校	城東高校	徳島市立高校	徳島工業高校
	団体戦女子	城東高校	富岡東高校	徳島商業高校	城北高校
	男子複	村田・中山 城東高	井村・鏡 徳島商業高		
	女子複	松友・久次米 城東高	國安・山本 城東高		
	男子単	鏡 徳島商業高	井村 徳島商業高		
	女子単	國安 城東高	松友 城東高		
平成19年(2007)	団体戦男子	徳島商業高校	徳島市立高校	徳島工業高校	城南高校
	団体戦女子	城東高校	富岡東高校	徳島商業高校	那賀高校
	男子複	鏡・吉成 徳島商業高	土橋・橘 板野高		
	女子複	水口・若田 城東高	山本・澤口 城東高		
	男子単	鏡 徳島商業高	吉成 徳島商業高		
	女子単	水口 城東高	山本 城東高		
平成20年(2008)	団体戦男子	徳島商業高校	城南高校	城北高校	徳島工業高校
	団体戦女子	城東高校	富岡東高校	那賀高校	小松島西高校
	男子複	弘田・西手 徳島商業高	福家・濱田 城南高		
	女子複	水口・若田 城東高	佐々木・宮崎 城東高		
	男子単	福家 城南高	庄野 徳島商業高		
	女子単	水口 城東高	若田 城東高		
平成21年(2009)	団体戦男子	徳島商業高校	城南高校	城東高校	徳島科技高校
	団体戦女子	城東高校	徳島商業高校	徳島市立高校	城北高校
	男子複	福家・小笠 城南高	庄野・齋藤 徳島商業高		
	女子複	山本・國安 城東高	前里・小原 城東高		
	男子単	福家 城南高	齋藤 徳島商業高		
	女子単	山本杏 城東高	樫山 徳島商業高		
平成22年(2010)	団体戦男子	徳島商業高校	城南高校	徳島北高校	城東高校
	団体戦女子	城東高校	徳島商業高校	徳島市立高校	城北高校
	男子複	齋藤・浅野 徳島商業高	石井・坪内 徳島商業高		
	女子複	前里・小原 城東高	山本・國安 城東高		
	男子単	齋藤 徳島商業高	小笠 城南高		
	女子単	前里 城東高	塚本 城東高		
平成23年(2011)	団体戦男子	城東高校	城南高校	徳島商業高校	城北高校
	団体戦女子	城東高校	徳島商業高校	徳島市立高校	城南高校
	男子複	松崎・野村 城東高	伊藤・井上 城南高		
	女子複	塚本・久田 城東高	金澤・小原 城東高		
	男子単	松崎 城東高	野村 城東高		
	女子単	塚本 城東高	金澤 城東高		

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成24年(2012)	団体戦男子	徳島商業高校	城東高校	城北高校	城南高校
	団体戦女子	城東高校	徳島商業高校	城北高校	城南高校
	男子複	野村・田村 城東高	笠原・福良 徳島商業高	--	--
	女子複	四宮・志宇知 城東高	金澤・小原 城東高	--	--
	男子単	野村 城東高	大前 徳島商業高	--	--
	女子単	岩﨑 城東高	金澤 城東高	--	--
平成25年(2013)	団体戦男子	徳島商業高校	城東高校	城南高校	徳島北高校
	団体戦女子	城東高校	徳島商業高校	城北高校	鳴門高校
	男子複	樫山・川﨑 徳島商業高	新田・植田 城東高	--	--
	女子複	岩﨑・山下 城東高	永原・千田 城東高	--	--
	男子単	川﨑 徳島商業高	新田 城東高	--	--
	女子単	岩﨑 城東高	永原 城東高	--	--
平成26年(2014)	団体戦男子	徳島商業高校	城北高校	城東高校	徳島科学技術高校
	団体戦女子	城東高校	城南高校	城北高校	鳴門高校
	男子複	川﨑・竹治 徳島商業高	佐藤・澁谷 徳島北高	--	--
	女子複	永原・磯田 城東高	四宮・森 城東高	--	--
	男子単	川﨑 徳島商業高	新田 城東高	--	--
	女子単	永原 城東高	磯田 城東高	--	--

四国高等学校大会

年度	大会名	種目/結果	氏名
昭和44年(1969)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子単 第3位	丸山(日和佐高校)
		女子単 第3位	大西(日和佐高校)
昭和46年(1971)	四国高等学校バドミントン選手権大会	男子団体 第3位	日和佐高校
昭和47年(1972)	四国高等学校バドミントン選手権大会	男子複 準優勝	杉内・和佐(日和佐高校)
		男子複 第3位	杉本・森(徳島商業高校)
昭和48年(1973)	四国高等学校バドミントン選手権大会	男子団体 第3位	日和佐高校
		男子単 第3位	吉兼(日和佐高校)
		女子単 第3位	西崎(小松島西高校)
		女子複 第3位	西崎・竹田(小松島西高校)
昭和50年(1975)	四国高等学校バドミントン選手権大会	男子団体 第3位	日和佐高校
		女子団体 第3位	日和佐高校
		女子複 第3位	篠原・山下(日和佐高校)
昭和51年(1976)	四国高等学校バドミントン選手権大会	男子団体 第3位	日和佐高校
		男子単 第3位	吉兼(日和佐局校)
		女子団体 優勝	日和佐高校
		女子複 優勝	寺上・井口(日和佐高校)
昭和52年(1977)	四国高等学校バドミントン選手権大会	男子団体 第3位	日和佐高校
		男子単 準優勝	戎野(日和佐高校)
		男子複 第3位	戎野・別宮(日和佐高校)
		女子複 第3位	井口・大地(日和佐高校)
昭和53年(1978)	四国高等学校バドミントン選手権大会	男子団体 第3位	小松島高校
		男子単 第3位	秋月(小松島高校)
		男子複 第3位	井上・秋月(小松島高校)
昭和54年(1979)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 第3位	徳島商業高校
昭和56年(1981)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 第3位	日和佐高校
昭和57年(1982)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 第3位	富岡東高校
昭和59年(1984)	高等学校選抜バドミントン大会	女子団体 準優勝	日和佐高校
昭和60年(1985)	四国高等学校バドミントン選手権大会	男子単 第3位	岩崎(徳島商業高校)
		男子単 第3位	中村(徳島商業高校)
		女子複 第3位	平島・春川 (日和佐高校)
昭和61年(1986)	四国高等学校バドミントン選手権大会	男子単 準優勝	吉岡(城東高校)
昭和63年(1988)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 第3位	日和佐高校
平成2年(1990)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 第3位	日和佐高校
平成3年(1991)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 第3位	城東高校
	高等学校選抜バドミントン大会	女子個人複 準優勝	山本・中山(城東高校)
平成4年(1992)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子単 第3位	八田(徳島商業高校)
平成5年(1993)	高等学校選抜バドミントン大会	女子団体 準優勝	城東高校

年度	大会名	種目/結果	氏名
平成6年 (1994)	四国高等学校バドミントン選手権大会	男子複 第3位	西野・山本(城東高校)
		女子団体 第3位	城東高校
	高等学校選抜バドミントン大会	女子団体 準優勝	城東高校
平成7年 (1995)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子単 準優勝	石井(城東高校)
		女子複 第3位	石井・岡本(城東高校)
平成8年 (1996)	高等学校選抜バドミントン大会	男子団体 準優勝	城東高校
		男子個人複 準優勝	蔭山・岡田(城東高校)
平成10年 (1998)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 第3位	城東高校
	高等学校選抜バドミントン大会	女子団体 準優勝	城東高校
平成11年 (1999)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 第3位	城東高校
	高等学校選抜バドミントン大会	女子団体 準優勝	城東高校
平成12年 (2000)	四国高等学校バドミントン選手権大会	男子単 第3位	谷(城東高校)
		女子複 第3位	久次米・蔭山(城東高校)
	高等学校選抜バドミントン大会	男子団体 準優勝	城東高校
平成15年 (2003)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 第3位	徳島北高校
平成16年 (2004)	高等学校選抜バドミントン大会	男子団体 準優勝	徳島商業高校
		男子個人複 準優勝	武田・松村(徳島商業高校)
		女子団体 準優勝	城東高校
		女子個人複 準優勝	仁木・立川(城東高校)
平成17年 (2005)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 第3位	城東高校
平成18年 (2006)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 第3位	城東高校
	高等学校選抜バドミントン大会	女子個人単 準優勝	國安(城東高校)
		女子個人複 優勝	松友・久次米(城東高校)
平成19年 (2007)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 優勝	城東高校
		女子単 準優勝	水口(城東高校)
		女子複 優勝	國安・水口(城東高校)
		女子複 第3位	松友・久次米(城東高校)
	高等学校選抜バドミントン大会	女子個人単 優勝	水口(城東高校)
		女子個人複 優勝	水口・若田(城東高校)
平成20年 (2008)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 第3位	城東高校
		女子単 優勝	水口(城東高校)
		女子単 第3位	若田(城東高校)
		女子複 優勝	水口・若田(城東高校)
	高等学校選抜バドミントン大会	女子団体 準優勝	城東高校
		女子個人単 優勝	水口(城東高校)
		女子個人複 優勝	水口・若田(城東高校)
平成21年 (2009)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 第3位	城東高校
		女子単 優勝	水口(城東高校)
		女子複 優勝	水口・若田(城東高校)
平成22年 (2010)	四国高等学校バドミントン選手権大会	男子複 準優勝	庄野・齋藤(徳島商業高校)
		女子団体 第3位	城東高校
	高等学校選抜バドミントン大会	男子団体 準優勝	徳島商業高校
		女子団体 優勝	城東高校
		男子個人単 優勝	齋藤(徳島商業高校)
		女子個人単 優勝	前里(城東高校)
		女子個人複 準優勝	前里・小原(城東高校)

年度	大会名	種目/結果	氏名
平成23年(2011)	四国高等学校バドミントン選手権大会	男子団体 第3位	徳島商業高校
		男子個人単 準優勝	齋藤(徳島商業高校)
		女子団体 準優勝	城東高校
		女子個人複 第3位	樫山・馬部(徳島商業高校)
	高等学校選抜バドミントン大会	女子団体 準優勝	城東高校
平成24年(2012)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 第3位	城東高校
	高等学校選抜バドミントン大会	女子団体 第3位	城東高校
		女子個人複 準優勝	四宮・志宇知(城東高校)
平成25年(2013)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 準優勝	城東高校
		女子個人単 第3位	岩﨑(城東高校)
		女子個人複 第3位	金澤・岩﨑(城東高校)
	高等学校選抜バドミントン大会	女子団体 第3位	城東高校
		女子個人複 準優勝	岩﨑・山下(城東高校)
		女子個人単 準優勝	岩﨑(城東高校)
平成26年(2014)	四国高等学校バドミントン選手権大会	女子団体 準優勝	城東高校
		女子個人単 優勝	岩﨑(城東高校)
		女子個人複 優勝	岩﨑・山下(城東高校)
	高等学校選抜バドミントン大会	女子個人単 準優勝	永原(城東高校)

中学生の部

徳島県中学校新人大会

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和61年(1986)	1年男子複	宮脇・桧 日和佐中	中村・浜崎 富田中	林・中田 富田中	河内・林田 日和佐中
	2年男子複	別宮・亀谷 城東中	吉田・原田 城東中	山田・永野 城東中	河野・西岡 城東中
	1年女子複	宮島・伊藤 徳島中	中元・久米川 徳島中	福田・原西 日和佐中	和佐・網干 日和佐中
	2年女子複	岡本・小尻 日和佐中	坂本・富永 日和佐中	南地・寺内 日和佐中	原田・山形 附属中
	1年男子単	茂木 城東中	宮脇 日和佐中	河内 日和佐中	浜崎 富田中
	2年男子単	永野 城東中	別宮 城東中	津田 富田中	原田 日和佐中
	1年女子単	宮島 徳島中	伊藤 徳島中	江渕 川内中	大原 富田中
	2年女子単	岩田 徳島中	寺内 日和佐中	岡本 日和佐中	小尻 日和佐中
昭和62年(1987)	1年男子複	中田・浜崎 富田中	竹内・亀谷 城東中	林・藤本 八万中	中村・山本 富田中
	2年男子複	鬼田・松岡 富田中	岩佐・藤井 八万中	正木・森西 八万中	山本・江渕 城東中
	1年女子複	中山・久米 徳島中	山本・田中 徳島中	中野・八田 城東中	辻・井上 川内中
	2年女子複	宮島・伊藤 徳島中	小林・岩見 徳島中	斉藤・大西 城東中	久保脇・大西 城東中
	1年男子単	鬼田 富田中	松岡 富田中	芳川 日和佐中	澤口 城東中
	2年男子単	宮脇 日和佐中	浜崎 富田中	浦川 城東中	河内 日和佐中
	1年女子単	中山 徳島中	山本 徳島中	田中 徳島中	辻 川内中
	2年女子単	宮島 徳島中	伊藤 徳島中	福田 日和佐中	小林(潤) 徳島中
昭和63年(1988)	1年男子複	稲田・正木 富田中	桝田・市塚 日和佐中	高見・広瀬 富田中	大西・西尾 富田中
	2年男子複	松岡・鬼田 富田中	江渕・沢口 城東中	藤井・岩佐 八万中	大持・小原 日和佐中
	1年女子複	中山・坂本 徳島中	淀・浜田 徳島中	東田・原田 日和佐中	野上・河野 川内中
	2年女子複	中山・山本 徳島中	中野・八田 城東中	岩朝・原田 川内中	品岡・谷本 日和佐中
	1年男子単	稲田 富田中	正木 富田中	市塚 富田中	桝田 日和佐中
	2年男子単	江渕 城東中	大持 日和佐中	芳川 日和佐中	山本 城東中
	1年女子単	中山 徳島中	坂本 徳島中	浜田 徳島中	淀 徳島中
	2年女子単	中山 徳島中	山本 徳島中	八田 城東中	中野 城東中
平成元年(1989)	1年男子複	西野・山本 富田中	福岡・井上 城東中	曽我井・市川 城東中	作田・高橋 八万中
	2年男子複	稲田・正木 富田中	市塚・久保 日和佐中	尾形・川上 八万中	大西・西尾 八万中
	1年女子複	宮本・赤岩 徳島中	山内・斉藤 城東中	天野・大村 徳島中	湯浅・田中 平谷中
	2年女子複	中山・坂本 徳島中	野上・河野 川内中	東田・原田 日和佐中	中山・浜田 城東中
	1年男子単	西野 富田中	作田 八万中	福岡 城東中	山本 富田中
	2年男子単	正木 富田中	稲田 富田中	市塚 日和佐中	大西 富田中
	1年女子単	赤岩 徳島中	宮本 徳島中	小椋 平谷中	斉藤 城東中
	2年女子単	中山 徳島中	坂本 徳島中	浜田 徳島中	中山 城東中

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成2年(1990)	1年男子複	真鍋・矢倉 城東中	椎野・林 富田中	桧・北村 日和佐中	
	2年男子複	福岡・曽我井 城東中	西野・山本 富田中	市川・藤坂 城東中	
	1年女子複	堤・坂本 徳島中	渕村・後藤 徳島中	越智・岩佐 徳島中	
	2年女子複	宮本・赤岩 徳島中	山内・川島 城東中	天野・神崎 徳島中	
	1年男子単	椎野 富田中	桧 日和佐中	真鍋 城東中	
	2年男子単	福岡 城東中	西野 富田中	山本 富田中	
	1年女子単	坂本 徳島中	堤 徳島中	渕村 徳島中	
	2年女子単	宮本 徳島中	赤岩 徳島中	小椋 平谷中	
平成3年(1991)	1年男子複	鏡・谷本 日和佐中	青山・矢野 八万中	西野・橋野 富田中	
	2年男子複	藤江・松本 富田中	前田・小原 日和佐中	松本・蔵田 日和佐中	
	1年女子複	石井・勝瀬 徳島中	宮本・浜尾 徳島中	宮本・堤 徳島中	
	2年女子複	堤・坂本 徳島中	土居・渕村 徳島中	岩佐・後藤 徳島中	
	1年男子単	鏡 日和佐中	谷本 日和佐中	吉野 城東中	
	2年男子単	真鍋 城東中	椎野 富田中	松本 富田中	
	1年女子単	石井 徳島中	宮本 徳島中	勝瀬 徳島中	
	2年女子単	坂本 徳島中	堤 徳島中	渕村 徳島中	
	団体戦男子	富田中学	日和佐中学A	日和佐中学B	城東中学
	団体戦女子	徳島中学A	徳島中学B	日和佐中学A	平谷中学
平成4年(1992)	1年男子複	板東・蔭山 城東中	西野・島 城東中	吉川・岡田 城東中	
	2年男子複	鏡・谷本 日和佐中	天野・吉坂 日和佐中	吉野・池田 城東中	
	1年女子複	武内・田村 平谷中	味岡・徳元 藍住中	株田・大田 平谷中	
	2年女子複	石井・勝瀬 徳島中	岡本・堤 徳島中	宮本・松前 徳島中	
	1年男子単	原田 文理中	西野 富田中	蔭山 富田中	
	2年男子単	鏡 日和佐中	谷本 日和佐中	天野 日和佐中	
	1年女子単	玉井 徳島中	武内 平谷中	味岡 藍住中	
	2年女子単	石井 徳島中	勝瀬 徳島中	堤 徳島中	
	団体戦男子	日和佐中学A	富田中学A	日和佐中学B	
	団体戦女子	徳島中学B	徳島中学A	平谷中学A	
平成5年(1993)	1年男子複	谷・近藤 八万中	山本・高橋 文理中	北川・菖蒲 日和佐中	
	2年男子複	蔭山・板東 富田中	吉川・岡田 城東中	鏡・大黒 日和佐中	
	1年女子複	松前・浜尾 徳島中	三原・鎌田 徳島中	田中・村田 平谷中	
	2年女子複	武内・田村 平谷中	味岡・徳元 藍住中	玉井・占部 徳島中	
	1年男子単	谷 八万中	今村 藍住中	北川 日和佐中	
	2年男子単	吉川 城東中	原田 文理中	岡田 城東中	
	1年女子単	浜尾 徳島中	松前 徳島中	三原 徳島中	
	2年女子単	玉井 徳島中	味岡 藍住中	武内 平谷中	
	団体戦男子	富田中学	日和佐中学A	城東中学	
	団体戦女子	徳島中学A	平谷中学	藍住中学	

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成6年(1994)	1年男子複	吉川・江頭 城東中	井上・日下 富田中	菊野・松本 富田中	
	2年男子複	松永・亀岡 城東中	谷・近藤 八万中	北川・菖蒲 日和佐中	
	1年女子複	西岡・枝元 徳島中	阿部・玉西 徳島中	村上・乾 徳島中	
	2年女子複	浜尾・松前 徳島中	三原・鎌田 徳島中	藤田・長谷川 城東中	
	1年男子単	宮井 城東中	井上 富田中	大坂 富田中	
	2年男子単	谷 八万中	力丸 文理中	今村 藍住中	
	1年女子単	西岡 徳島中	枝元 徳島中	村上 徳島中	
	2年女子単	矢野 藍住中	三原 徳島中	浜尾 徳島中	
	団体戦男子	城東中学	八万中学	日和佐中学A	
	団体戦女子	徳島中学A	徳島中学B	城東中学A	
平成7年(1995)	1年男子複	正木・小梯 藍住中	世戸・今村 藍住中	藤田・湯浅 城東中	
	2年男子複	今井・宮井 城東中	井上・大坂 富田中	江頭・佐藤 城東中	
	1年女子複	久次米・蔭山 徳島中	林・柳本 徳島中	泉・竹内 藍住中	
	2年女子複	西岡・玉西 徳島中	枝元・村上 徳島中	埴渕・多田 羽ノ浦中	
	1年男子単	正木 藍住中	今村 藍住中	谷 八万中	
	2年男子単	宮井 城東中	井上 富田中	日下 富田中	
	1年女子単	久次米 徳島中	柳本 徳島中	蔭山 徳島中	
	2年女子単	西岡 徳島中	枝元 徳島中	村上 徳島中	
	団体戦男子	藍住中学	城東中学A	富田中学A	
	団体戦女子	徳島中学A	徳島中学B	平谷中学	
平成8年(1996)	1年男子複	宮井・岡田 城東中	北川・浜名 由岐中	西川・白河 日和佐中	
	2年男子複	正木・小梯 藍住中	今村・世戸 藍住中	谷・本多 八万中	
	1年女子複	横田・森本 平谷中	青木・谷本 日和佐中	森・山田 藍住中	
	2年女子複	久次米・蔭山 徳島中	林・柳本 徳島中		
	1年男子単	宮井 城東中	岡田 城東中	粟飯原 城東中	
	2年男子単	正木 藍住中	谷 八万中	今村 藍住中	
	1年女子単	羽里 藍住中	森 藍住中	横田 平谷中	
	2年女子単	久次米 徳島中	阿部 徳島中	林 徳島中	
	団体戦男子	藍住中学	八万中学	城東中学	
	団体戦女子	徳島中学A	藍住東中学	平谷中学	
平成9年(1997)	1年男子複	小林・一堂 城東中	伊藤・喜多 富田中	大宗・真楽 加茂名中	
	2年男子複	宮井・岡田 城東中	増田・松原 八万中	宮本・中川 加茂名中	
	1年女子複	湯原・大鹿 平谷中	森本・大黒 日和佐中	谷・勝瀬 徳島中	
	2年女子複	横田・森本 平谷中	青木・谷本 日和佐中	林・富永 城東中	
	1年男子単	杉内 八万中	伊勢 富田中	小林 城東中	--
	2年男子単	宮井 城東中	岡田 城東中	宮本 加茂名中	--
	1年女子単	湯原 平谷中	森本 日和佐中	谷 徳島中	--
	2年女子単	森 藍住中	羽里 藍住東中	横田 平谷中	--
	団体戦男子	加茂名中学A	八万中学	城東中学B	
	団体戦女子	平谷中学	日和佐中学A	羽ノ浦中学A	藍住中学

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成10年(1998)	1年男子複	渡越・松島 藍住東中	伊勢・根来 富田中	杉本・山形見 加茂名中	
	2年男子複	小林・三谷(宣) 城東中	一堂・三谷(彰) 城東中	杉内・吉守 八万中	
	1年女子複	井村・大谷 相生中	井村・山口 徳島中	岡本・原 日和佐中	
	2年女子複	湯原・大鹿 平谷中	森本・大黒 日和佐中	谷・岡本 徳島中	
	1年男子単	渡越 藍住東中	佐伯 加茂名中	根来 富田中	
	2年男子単	笠井 加茂名中	杉内 八万中	小林 城東中	
	1年女子単	井村 徳島中	井村 相生中	山口 徳島中	
	2年女子単	湯原 平谷中	谷 徳島中	森本 日和佐中	
	団体戦男子	加茂名中学A	八万中学A	城東中学A	富田中学A
	団体戦女子	徳島中学A	平谷中学	藍住東中学A	日和佐中学A
平成11年(1999)	1年男子複	川島・島 日和佐中	大東・椎野 八万中	吉田・乗島 八万中	
	2年男子複	森本・山形(見) 加茂名中	松本・山形(一) 加茂名中	多田・天野 八万中	
	1年女子複	原野・兼市 日和佐中	松本・舛田 相生中	井村・麻植 徳島中	
	2年女子複	井村・山口 徳島中	井村・大谷 相生中	浦川・林 城東中	
	1年男子単	川島 日和佐中	吉成 川内中	近久 八万中	
	2年男子単	渡越 藍住東中	森本 加茂名中	杉本 加茂名中	
	1年女子単	原野 日和佐中	井村 徳島中	兼市 日和佐中	
	2年女子単	井村 徳島中	井村 相生中	篠原 藍住東中	
	団体戦男子	加茂名中学A	加茂名中学B	富田中学A	八万中学A
	団体戦女子	相生中学	徳島中学A	平谷中学A	城東中学A
平成12年(2000)	1年男子複	吉川・松村 板野中	丸田・宮本 富田中	川田・尼寺 富田中	
	2年男子複	川島・島 日和佐中	椎野・吉田 八万中	乗島・吉本 八万中	
	1年女子複	井上・桝田 相生中	羽里・鏡 藍住東中	小川・福田 相生中	
	2年女子複	舛田・松本 相生中	井村・麻植 徳島中	原野・兼市 日和佐中	
	1年男子単	武田 日和佐中	吉川 板野中	松村 板野中	
	2年男子単	川島 日和佐中	吉成 川内中	島 日和佐中	
	1年女子単	羽里 藍住東中	鏡 藍住東中	森 藍住東中	
	2年女子単	井村 徳島中	麻植 徳島中	舛田 相生中	
	団体戦男子	日和佐中学	八万中学	八万中学B	加茂名中学A
	団体戦女子	相生中学	日和佐中学A	徳島中学	藍住東中学A
平成13年(2001)	1年男子複	福家・藤川 八万中	三村・神木 八万中	笠井・柳沢 加茂名中	八幡・横井 川内中
	2年男子複	川田・尼寺 富田中	湊・小西 八万中	西田・木内 八万中	宮本・丸田 富田中
	1年女子複	大阪・仁木 徳島中	西・立川 徳島中	日根野・植田 藍住東中	遠藤・谷崎 相生中
	2年女子複	井上・小川 相生中	舛田・福田 相生中	長田・森 藍住東中	羽里・鏡 藍住東中
	1年男子単	大倉 藍住東中	福家 八万中	柳澤 加茂名中	笠井 加茂名中
	2年男子単	武田 日和佐中	木内 八万中	西田 八万中	濱 八万中
	1年女子単	大阪 徳島中	仁木 徳島中	遠藤 相生中	西 徳島中
	2年女子単	羽里 藍住東中	小川 相生中	井上 相生中	前田 徳島中
	団体戦男子	八万中学A	富田中学	加茂名中学A	八万中学B
	団体戦女子	相生中学	徳島中学A	藍住東中学A	日和佐中学A

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成14年 (2002)	1年男子複	中山・村田 川内中	井村・岩本 川内中	平石・野上 八万中	石川・日下 川内中
	2年男子複	福家・藤川 八万中	柳澤・井原 加茂名中	笠井・田中 加茂名中	横井・八幡 川内中
	1年女子複	松友・羽里 藍住東中	久次米・氏家 藍住東中	夏野・大平 日和佐中	植田・中川 相生中
	2年女子複	仁木・西 徳島中	大阪・立川 徳島中	遠藤・谷崎 相生中	米田・桑原 徳島中
	1年男子単	中山 川内中	神野 羽ノ浦中	村田 川内中	木原 加茂名中
	2年男子単	大倉 藍住東中	福家 八万中	柳澤 加茂名中	浜西 日和佐中
	1年女子単	羽里 藍住東中	松友 藍住東中	植田 相生中	氏家 藍住東中
	2年女子単	大阪 徳島中	仁木 徳島中	立川 徳島中	西 徳島中
	団体戦男子	川内中学A	富田中学	八万中学A	八万中学B
	団体戦女子	徳島中学	藍住東中学A	日和佐中学A	相生中学
平成15年 (2003)	1年男子複	森本・鏡 藍住東中	広田・吉成 川内中	四宮・豊田 藍住東中	上橋・橋本 藍住中
	2年男子複	中山・村田 川内中	平石・野上 八万中	三宅・中村 富田中	武田・玉垣 富田中
	1年女子複	國安・澤口 徳島中	丸山・林田 日和佐中	森本・谷本 日和佐中	山本・森 徳島中
	2年女子複	羽里・久次米 藍住東中	松友・氏家 藍住東中	植田・中川 相生中	夏野・大平 日和佐中
	1年男子単	森本 藍住東中	鏡 藍住東中	広田 川内中	四宮 藍住東中
	2年男子単	中山 川内中	神野 羽ノ浦中	平石 八万中	武田 富田中
	1年女子単	國安 徳島中	澤口 徳島中	林田 日和佐中	丸山 日和佐中
	2年女子単	羽里 藍住東中	久次米 藍住東中	日根野 藍住東中	松友 藍住東中
	団体戦男子	藍住東中学A	八万中学	不動中学A	富田中学A
	団体戦女子	藍住東中学A	徳島中学	日和佐中学B	日和佐中学A
平成16年 (2004)	1年男子複	金森・住友 川内中	山中・濱田 富田中	平岡・金子 藍住中	弘田・西手 藍住東中
	2年男子複	鏡・四宮 藍住東中	森本・豊田 藍住東中	吉成(晃)・堤 川内中	後藤・前田(翔) 八万中
	1年女子複	松友・神原 徳島中	水口・藤本 徳島中	樫栄・岸 相生中	若田・山本 城東中
	2年女子複	國安・澤口 徳島中	林田・丸山 日和佐中	谷本・森本 日和佐中	川西・松原 藍住東中
	1年男子単	金森 川内中	山中 富田中	弘田 藍住中	東口 城東中
	2年男子単	森本 藍住東中	土橋 藍住中	鏡 藍住東中	後藤 八万中
	1年女子単	神原 徳島中	水口 徳島中	若田 城東中	樫栄 相生中
	2年女子単	國安 徳島中	澤口 徳島中	山崎 日和佐中	森本 日和佐中
	団体戦男子	藍住東中学A	富田中学	八万中学	川内中学A
	団体戦女子	徳島中学	日和佐中学	相生中学	城東中学A
平成17年 (2005)	1年男子複	久保見・吉田 日和佐中	福家・岩橋 八万中	井原・中川 不動中	庄野・西村 城東中
	2年男子複	弘田・西手 藍住東中	東口・東田 城東中	浜田・山中 富田中	金森・長尾 川内中
	1年女子複	丸山・井田 日和佐中	関・戎野 日和佐中	大谷・渡守 上那賀中	馬部・松尾 城東中
	2年女子複	若田・草苅 城東中	宮崎・四宮 藍住東中	樫栄・富沢 相生中	藤本・多田 徳島中
	1年男子単	福家 八万中	庄野 城東中	吉田 日和佐中	久保見 日和佐中
	2年男子単	金森 川内中	弘田 藍住東中	山中 富田中	浜田 富田中
	1年女子単	山本 徳島中	丸山 日和佐中	井田 日和佐中	上橋 藍住中
	2年女子単	若田 城東中	藤本 徳島中	佐々木 藍住中	宮崎 藍住東中
	団体戦男子	城東中学	富田中学	藍住東中学	日和佐中学
	団体戦女子	徳島中学	相生中学	藍住東中学	日和佐中学

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成18年(2006)	1年男子複	齋藤・小笠 加茂名中	木村・折部 藍住中	吉成・西岡 川内中	福本・岡田 富田中
	2年男子複	福家・岩橋 八万中	庄野・西村 城東中	久保見・吉田 川内中	吉坂・各 加茂名中
	1年女子複	藤本・國安 徳島中	前里・樫山 城東中	馬部・小原 城東中	山本・田岡 徳島中
	2年女子複	井田・丸山 日和佐中	馬部・松尾 城東中	土橋・扶川 藍住中	坂井・樫本 坂野中
	1年男子単	木村 藍住中	齋藤 加茂名中	小笠 加茂名中	浅野 徳島中
	2年男子単	福家 八万中	庄野 城東中	久保見 日和佐中	岩橋 八万中
	1年女子単	藤本 徳島中	國安 徳島中	山本 徳島中	前里 城東中
	2年女子単	山本 徳島中	丸山 日和佐中	井田 日和佐中	土橋 藍住中
	団体戦男子	加茂名中学A	八万中学A	城東中学	日和佐中学
	団体戦女子	徳島中学A	城東中学A	坂野中学A	日和佐中学A
平成19年(2007)	1年男子複	横山・鳥澤 日和佐中	伊藤・五島 八万中	田中・町村 加茂名中	松崎・藤本 富田中
	2年男子複	齋藤・小笠 加茂名中	木村・折部 藍住中	西岡・吉成 川内中	福本・岡田 富田中
	1年女子複	金森・塚本 徳島中	斉藤・羽生 徳島中	多田・小松 徳島中	田上・久田 徳島中
	2年女子複	藤本・國安 徳島中	前里・樫山 城東中	山本・富峯 徳島中	小原・馬部 城東中
	1年男子単	横山 日和佐中	伊藤 八万中	五島 八万中	鳥澤 日和佐中
	2年男子単	齋藤 加茂名中	木村 藍住中	小笠 加茂名中	西岡 川内中
	1年女子単	金森 徳島中	塚本 徳島中	多田 徳島中	久田 徳島中
	2年女子単	藤本 徳島中	國安 徳島中	前里 城東中	山本 徳島中
	団体戦男子	加茂名中学A	藍住中学A	川内中学A	藍住東中学A
	団体戦女子	徳島中学A	城東中学A	八万中学A	徳島中学B
平成20年(2008)	1年男子複	栗木・高橋 加茂名中	井上・足達 八万中	古味・日下 加茂名中	佐藤・西 藍住東中
	2年男子複	伊藤・五島 八万中	横山・鳥澤 日和佐中	松崎・藤王 富田中	藤村・北野 川内中
	1年女子複	金澤・四宮 徳島中	桑原・庄司 徳島中	竹内・高橋 八万中	馬部・小原 城東中
	2年女子複	金森・田上 徳島中	塚本・久田 徳島中	相原・福永 八万中	多田・小松 徳島中
	1年男子単	水口 徳島中	井上 八万中	田中 川内中	佐藤 藍住東中
	2年男子単	五島 八万中	松崎 富田中	横山 日和佐中	伊藤 八万中
	1年女子単	金澤 徳島中	四宮 徳島中	桑原 徳島中	小原 城東中
	2年女子単	金森 徳島中	塚本 徳島中	齋藤 城東中	田上 徳島中
	団体戦男子	八万中学A	富田中学	川内中学	藍住東中学
	団体戦女子	徳島中学A	城東中学A	藍住中学A	八万中学A
平成21年(2009)	1年男子複	樫山・笹尾 城東中	吉岡・阿部 徳島中	植田・西堀 川内中	佐藤・藤木 八万中
	2年男子複	栗本・高橋 加茂名中	中川・田村 富田中	大前・笠原 加茂名中	佐藤・西 藍住東中
	1年女子複	鶴熊・森 徳島中	山下・武田 徳島中	露口・佐野 徳島中	田中・佐藤 藍住東中
	2年女子複	金澤・四宮 徳島中	桑原・庄司 徳島中	竹内・高橋 八万中	馬部・小原 城東中
	1年男子単	樫山 城東中	吉岡 徳島中	塚本 八万中	笹尾 城東中
	2年男子単	水口 徳島中	井上 八万中	佐藤 藍住東中	栗本 加茂名中
	1年女子単	鶴熊 徳島中	森 徳島中	山下 徳島中	武田 徳島中
	2年女子単	金澤 徳島中	四宮 徳島中	桑原 徳島中	小原 城東中
	団体戦男子	加茂名中学A	藍住東中学A	藍住中学A	藍住中学B
	団体戦女子	徳島中学A	徳島中学B	城東中学A	八万中学

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成22年(2010)	1年男子複	平岡・吉野 八万中	西・楠本 加茂名中	佐藤・森 藍住東中	川崎・元木 城東中
	2年男子複	吉岡・阿部 徳島中	塚本・藤木 八万中	大村・向 八万中	明井・幸里 八万中
	1年女子複	廣田・亀島 徳島中	磯田・千田 坂野中	中井・岡崎, 坂野中	中山・港 津田中
	2年女子複	鶴熊・森 徳島中	山下・露口 徳島中	斎藤・岡 城東中	田中・佐藤 藍住東中
	1年男子単	新田 徳島中	川崎 城東中	佐藤 藍住東中	平岡 八万中
	2年男子単	吉岡 徳島中	樫山 城東中	明井 八万中	林 藍住中
	1年女子単	廣田 徳島中	亀島 徳島中	千田 坂野中	磯田 坂野中
	2年女子単	森 徳島中	鶴熊 徳島中	岩崎 羽ノ浦中	山下 徳島中
	団体戦男子	城東中学	八万中学B	八万中学A	藍住東中学
	団体戦女子	徳島中学	坂野中学A	藍住中学A	羽ノ浦中学
平成23年(2011)	1年男子複	阿部・安芸 八万中	北内・白川 富田中	明井・藤木 八万中	中山・竹内 藍住東中
	2年男子複	丸岡・渡辺 富田中	西・楠本 加茂名中	平岡・吉野 八万中	渋谷・八木 鳴門二中
	1年女子複	岩崎・京野 徳島中	中瀬・森上 徳島中	高橋・本田 小松島中	猪井・植田 川内中
	2年女子複	磯田・千田 坂野中	廣田・亀島 徳島中	中井・岡崎 坂野中	井藤・鎌田 羽ノ浦中
	1年男子単	明井 八万中	藤木 八万中	阿部 八万中	北内 富田中
	2年男子単	新田 徳島中	川崎 城東中	佐藤 藍住東中	平岡 八万中
	1年女子単	岩崎 徳島中	京野 徳島中	森上 徳島中	中瀬 徳島中
	2年女子単	亀島 徳島中	廣田 徳島中	磯田 坂野中	千田 坂野中
	団体戦男子	八万中学A	加茂名中学	藍住東中学	城東中学A
	団体戦女子	徳島中学	坂野中学A	小松島中学A	羽ノ浦中学
平成24年(2012)	1年男子複	岡・八田 城東中	山口・田中 加茂名中	森・岩佐 川内中	射場・林 藍住中
	2年男子複	明井・阿部 八万中	藤木・安芸 八万中	大森・大持 八万中	岩見・西川 八万中
	1年女子複	佐藤・岡田 徳島中	田邊・大西 徳島中	山本・小賀野 城東中	吉見・高井 坂野中
	2年女子複	岩崎・森上 徳島中	京野・中瀬 徳島中	森・江崎 小松島中	十川・林 小松島中
	1年男子単	岡 城東中	八田 城東中	中西 富田中	泊 富田中
	2年男子単	明井 八万中	藤木 八万中	阿部 八万中	徳元 藍住中
	1年女子単	佐藤 徳島中	岡田 徳島中	田邊 徳島中	渡辺 藍住中
	2年女子単	岩崎 徳島中	京野 徳島中	中瀬 徳島中	森上 徳島中
	団体戦男子	八万中学A	八万中学B	川内中学A	藍住中学A
	団体戦女子	徳島中学A	徳島中学B	城東中学A	小松島中学A
平成25年(2013)	1年男子複	岡・八田 城東中	山口・田中 加茂名中	森・岩佐 川内中	射場・林 藍住中
	2年男子複	明井・阿部 八万中	藤木・安芸 八万中	大森・大持 八万中	岩見・西川 八万中
	1年女子複	佐藤・岡田 徳島中	田邊・大西 徳島中	山本・小賀野 城東中	吉見・高井 坂野中
	2年女子複	岩崎・森上 徳島中	京野・中瀬 徳島中	森・江崎 小松島中	十川・林 小松島中
	1年男子単	岡 城東中	八田 城東中	中西 富田中	泊 富田中
	2年男子単	明井 八万中	藤木 八万中	阿部 八万中	徳元 藍住中
	1年女子単	佐藤 徳島中	岡田 徳島中	田邊 徳島中	渡辺 藍住中
	2年女子単	岩崎 徳島中	京野 徳島中	中瀬 徳島中	森上 徳島中
	団体戦男子	八万中学A	八万中学B	川内中学A	藍住中学A
	団体戦女子	徳島中学A	徳島中学B	城東中学A	小松島中学A

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成26年(2014)	1年男子複	小藪・佐々木 北島中	猪井・河野 川内中	森本・西森 八万中	三浦・大塚 小松島中
	2年男子複	岡・八田 城東中	中西・青木 富田中	射場・林 藍住中	森・坂本 川内中
	1年女子複	阿部・高橋 小松島中	谷・上田 小松島中	山本・小縣 藍住東中	山田・森上 鳴門二中
	2年女子複	佐藤・岡田 徳島中	田邊・大西 徳島中	山内・中塩 徳島中	吉見・高井 坂野中
	1年男子単	小藪 北島中	西村 城東中	猪井 川内中	三浦 小松島中
	2年男子単	岡 城東中	中西 富田中	林 藍住中	八田 城東中
	1年女子単	高橋 小松島中	友成 徳島中	山本 藍住東中	阿部 小松島中
	2年女子単	佐藤 徳島中	岡田 徳島中	大西 徳島中	田邊 徳島中
	団体戦男子	城東中学	川内中学A	小松島中学	富田中学
	団体戦女子	徳島中学校	小松島中学A	藍住東中学A	鳴門二中
平成27年(2015)	1年男子複	井上・立石 城東中	堀口・友成 八万中	大西・山田 藍住中	林・山川 不動中
	2年男子複	西森・森本 八万中	猪井・河野 川内中	西村・中島 城東中	小藪・佐々木 北島中
	1年女子複	十川・吉本 城東中	板東・松下 藍住中	中川・漆原 北島中	田中・福永 上那賀中
	2年女子複	阿部・高橋 小松島中	谷・上田 小松島中	森上・山田 鳴門二中	山本・勝野 藍住東中
	1年男子単	吉岡 徳島中	堀口 八万中	立石 城東中	中川 北島中
	2年男子単	小藪 北島中	三浦 小松島中	西村 城東中	西森 八万中
	1年女子単	樋口 徳島中	十川 城東中	吉本 城東中	山本 城東中
	2年女子単	高橋 小松島中	阿部 小松島中	谷 小松島中	渡部 上板中
	団体戦男子	川内中学A	小松島中学	藍住中学A	
	団体戦女子	小松島中学A	城東中学A	北島中学A	藍住東中学

徳島県中学校総合体育大会

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和39年	団体戦男子	八万中学	小松島中学	徳島中学	
(1964)	団体戦女子	小松島中学A	八万中学B	徳島中学	城東中学B
昭和40年	団体戦男子	小松島中学	八万中学A	八万中学B	徳島中学
(1965)	団体戦女子	城東中学A	八万中学A	八万中学B	牟岐中学A
昭和41年	団体戦男子	八万中学A	徳島中学A	八万中学B	川内中学A
(1966)	団体戦女子	小松島中学B	八万中学B	小松島中学A	牟岐中学B
昭和42年	団体戦男子	八万中学	日和佐中学	阿南第一中学	徳島中学
(1967)	団体戦女子	八万中学	川内中学	城東中学	牟岐中学
昭和43年 (1968)	男子複	仁木・野村 日和佐中	杉内・川島 日和佐中	木曽・前坂 八万中	伊藤・明崎 八万中
	女子複	山崎・小浜 八万中	富野・手塚 城東中	森・坂本 城東中	前田・吉川 八万中
	男子単	仁木 日和佐中	野村 日和佐中	川島 日和佐中	木曽 八万中
	女子単	山橋 八万中	伊勢 川内中	小浜 八万中	岡田 川内中
	団体戦男子	日和佐中学	八万中学	小松島中学	川内中学
	団体戦女子	八万中学	城東中学	小松島中学	川内中学
昭和44年 (1969)	男子複	杉内・川島 日和佐中	桂・岡川 八万中	森・長谷川 徳島中	森・野口 八万中
	女子複	富野・杉本 城東中	前田・吉川 八万中	分木・橋本 小松島中	森・近藤 城東中
	男子単	川島 日和佐中	杉内 八万中	浜口 日和佐中	森 八万中
	女子単	富野 城東中	杉本 城東中	前田 八万中	中川 日和佐中
	団体戦男子	日和佐中学	八万中学	徳島中学	坂野中学
	団体戦女子	城東中学	八万中学	坂野中学	小松島中学
昭和45年 (1970)	男子複	杉本・森 八万中	岩田・藤本 八万中	渡辺・湯浅 徳島中	長谷川・大楠 徳島中
	女子複	香川・大西 城東中	中野・中瀬 川内中	森本・杉野 八万中	河野・城福 川内中
	男子単	森 八万中	杉本 八万中	藤本 八万中	岩田 八万中
	女子単	島田 八万中	中瀬 川内中	服部 城東中	松尾 川内中
	団体戦男子	八万中学	日和佐中学	坂野中学	徳島中学
	団体戦女子	城東中学	八万中学	川内中学	小松島中学
昭和46年 (1971)	男子複	井馬・戎野 日和佐中	藤本・明崎 八万中		
	女子複	村尾・中瀬 川内中	藤中・橋本 日和佐中		
	男子単	福永 八万中	藤本 八万中		
	女子単	安宅 川内中	中瀬 川内中		
	団体戦男子	八万中学	日和佐中学	徳島中学	
	団体戦女子	川内中学	八万中学	城東中学	小松島中学
昭和47年 (1972)	男子複	谷田・松村 八万中	宮内・木田 徳島中		
	女子複	泉・増金 城東中	前田・島田 八万中		
	男子単	滝 八万中	吉本 徳島中		
	女子単	泉 城東中	前田 八万中		
	団体戦男子	八万中学	徳島中学	日和佐中学	富田中学
	団体戦女子	城東中学	八万中学	富田中学	川内中学
昭和48年 (1973)	男子複	森・宮内 八万中	米田・山口 八万中		
	女子複	寺上・正木 日和佐中	灘・長井 日和佐中		
	男子単	山口 八万中	森 八万中		
	女子単	長井 日和佐中	灘 日和佐中		
	団体戦男子	八万中学	日和佐中学	徳島中学	富田中学
	団体戦女子	日和佐中学	城東中学	坂野中学	八万中学

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和49年 (1974)	男子複	笠井・吉成 八万中	浦口・戎野 日和佐中		
	女子複	増金・植田 城東中	石井・三橋 八万中		
	男子単	笠井 八万中	原 八万中		
	女子単	井口 日和佐中	浜田 城東中		
	団体戦男子	八万中学	徳島中学	富田中学	日和佐中学
	団体戦女子	城東中学	日和佐中学	八万中学	徳島中学
昭和50年 (1975)	男子複	名田・秋月 日和佐中	高井・伊藤 八万中		
	女子複	川口・浜 日和佐中	福田・照本 日和佐中		
	男子単	伊藤 八万中	高井 八万中		
	女子単	黒崎 城東中	大地 日和佐中		
	団体戦男子	八万中学	日和佐中学	富田中学	徳島中学
	団体戦女子	城東中学	徳島中学	日和佐中学	坂野中学
昭和51年 (1976)	男子複	名田・秋月 日和佐中	福山・笑井 八万中		
	女子複	増金・泉 城東中	三木・久保 城東中		
	男子単	秋月 日和佐中	笠井 八万中		
	女子単	増金 城東中	蔵田 八万中		
	団体戦男子	八万中学	徳島中学	日和佐中学	富田中学
	団体戦女子	城東中学	坂野中学	小松島中学	日和佐中学
昭和52年 (1977)	男子複	井上・田原 八万中	谷田・福家 八万中		
	女子複	武田・浜 日和佐中	中川・北野 川内中		
	男子単	田原 八万中	井上 八万中		
	女子単	浜 日和佐中	浜田 日和佐中		
	団体戦男子	八万中学	徳島中学	日和佐中学	富田中学
	団体戦女子	川内中学	富田中学	日和佐中学	坂野中学
昭和53年 (1978)	男子複	湯浅・沖 城東中	浜松・後藤 八万中		
	女子複	内輪・中島 川内中	吉田・村本 川内中		
	男子単	清水 日和佐体協	三木 城東中		
	女子単	内輪 川内中	阪田 城東中		
	団体戦男子	城東中学	日和佐中学	八万中学	徳島中学
	団体戦女子	川内中学	城東中学	徳島中学	日和佐中学
昭和54年 (1979)	男子複	藤本・川田 八万中	吉岡・伊達 日和佐中		
	女子複	大形・野筒 坂野中	渡辺・大橋 日和佐中		
	男子単	山本 徳島中	橋本 徳島中		
	女子単	河野 徳島中	魚野 徳島中		
	団体戦男子	徳島中学	城東中学	日和佐中学	八万中学
	団体戦女子	徳島中学	坂野中学	富田中学	津田中学
昭和55年 (1980)	男子複	岩橋・杉野 日和佐中	岡本・浜 日和佐中		
	女子複	田浦・篠原 川内中	木下・中西 川内中		
	男子単	杉山 徳島中	三木 城東中		
	女子単	篠原 川内中	田浦 川内中		
	団体戦男子	城東中学	八万中学	徳島中学	富田中学
	団体戦女子	川内中学	徳島中学	坂野中学	小松島中学

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和56年 (1981)	男子複	川原・公文 徳島中	谷本・八嶋 日和佐中		
	女子複	大橋・春兼 日和佐中	正木・中川 日和佐中		
	男子単	谷本 日和佐中	浜松 八万中		
	女子単	和泉 川内中	松波 川内中		
	団体戦男子	城東中学	富田中学	徳島中学	八万中学
	団体戦女子	城東中学	富田中学	坂野中学	日和佐中学
昭和57年 (1982)	男子複	山口・土井 城東中	井上・祖父江 八万中		
	女子複	平馬・馬田 日和佐中	富士・中川 日和佐中		
	男子単	土井 城東中	山口 城東中		
	女子単	平馬 日和佐中	松波 川内中		
	団体戦男子	城東中学	八万中学	富田中学	日和佐中学
	団体戦女子	川内中学	城東中学	日和佐中学	小松島中学
昭和58年 (1983)	男子複	嵐・沢田 日和佐中	吉岡・三木 徳島中		
	女子複	藤中・秋山 日和佐中	浜西・清原 日和佐中		
	男子単	江崎 城東中	嵐 日和佐中		
	女子単	浜西 日和佐中	藤中 日和佐中		
	団体戦男子	徳島中学	城東中学	八万中学	日和佐中学
	団体戦女子	日和佐中学	坂野中学	富田中学	城東中学
昭和59年 (1984)	男子複	西谷・清重 城東中	大原・川口 八万中		
	女子複	中飯・滝岩 日和佐中	宮本・鎌田 富田中		
	男子単	杉山 徳島中	高瀬 富田中		
	女子単	宮本 富田中	山本 城東中		
	団体戦男子	八万中学	城東中学	徳島中学	富田中学
	団体戦女子	富田中学	城東中学	日和佐中学	川内中学
昭和60年 (1985)	男子複	多田・山下 城東中	上野・篠野 城東中		
	女子複	岡本・国見 日和佐中	喜葉・小原 日和佐中		
	男子単	青木 日和佐中	石田 八万中		
	女子単	岡本 日和佐中	原西 日和佐中		
	団体戦男子	八万中学	日和佐中学	徳島中学	富田中学
	団体戦女子	城東中学	日和佐中学	富田中学	附属中学
昭和61年 (1986)	男子複	原河・林 富田中	向・原田 日和佐中	前野・左海 日和佐中	五島・小川 富田中
	女子複	浜野・春川 日和佐中	馬田・原西 日和佐中	葭本・吉田 川島中	長町・近藤 川島中
	男子単	原河 富田中	森野 徳島中	前野 日和佐中	山口 八万中
	女子単	浜野 日和佐中	葭本 川島中	原西 日和佐中	岡本 日和佐中
	団体戦男子	日和佐中学	八万中学	富田中学	文理中学
	団体戦女子	日和佐中学	城東中学	徳島中学	加茂名中学
昭和62年 (1987)	男子複	別宮・山田 城東中	吉田・原田 城東中	永野・亀谷 城東中	原田・宮脇 日和佐中
	女子複	岡本・小尻 日和佐中	宮島・伊藤 徳島中	岩田・中山 徳島中	富永・坂本 日和佐中
	男子単	別宮 城東中	永野 城東中	山田 城東中	亀谷 城東中
	女子単	岩田 徳島中	中山 徳島中	小尻 日和佐中	富永 日和佐中
	団体戦男子	城東中学	富田中学	日和佐中学	
	団体戦女子	徳島中学	日和佐中学	城東中学	附属中学

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和63年 (1988)	男子複	浜崎・中田 富田中	山本・中村 富田中	亀谷・竹内 城東中	桧・相川 日和佐中
	女子複	宮島・伊藤 徳島中	山本・中山(亜) 徳島中	和佐・福田 日和佐中	中山(佐)・岩見 徳島中
	男子単	宮脇 日和佐中	桧 日和佐中	亀谷 城東中	林 八万中
	女子単	中山(佐) 徳島中	宮島 徳島中	山本 徳島中	伊藤 徳島中
	団体戦男子	富田中学	日和佐中学	八万中学	城東中学
	団体戦女子	徳島中学	日和佐中学	城東中学	附属中学
平成元年 (1989)	男子複	沢口・江渕 城東中	稲田・正木 富田中	山岡・丸岡 城東中	市塚・桝田 日和佐中
	女子複	中山(佐)・天野 徳島中	山本・中山(亜) 徳島中	八田・中野 城東中	宮本・坂本 徳島中
	男子単	沢口 城東中	西田 富田中	稲田 富田中	江渕 城東中
	女子単	中山(佐) 徳島中	山本 徳島中	中野 徳島中	八田 城東中
	団体戦男子	城東中学	日和佐中学	富田中学	八万中学
	団体戦女子	徳島中学	城東中学	日和佐中学	平谷中学
平成2年 (1990)	男子複	市塚・桝田 日和佐中	久保・原西 日和佐中	尾形・川上 八万中	作田・高橋 八万中
	女子複	坂本(幸)・中山 徳島中	宮本・赤岩 徳島中	坂本(美)・堤 徳島中	東田・原田 日和佐中
	男子単	桝田 日和佐中	正木 富田中	森 富田中	市塚 日和佐中
	女子単	中山(佐) 徳島中	宮本 徳島中	坂本(幸) 徳島中	坂本(美) 徳島中
	団体戦男子	富田中学	八万中学	城東中学	文理中学
	団体戦女子	徳島中学	川内中学	城東中学	平谷中学
平成3年 (1991)	男子複	福岡・市川 城東中	西野・山本 富田中	早渕・山田 富田中	曽我井・藤坂 城東中
	女子複	宮本・赤岩 徳島中	坂井・石井 徳島中	堤・岡本 徳島中	天野・勝瀬 徳島中
	男子単	福岡 城東中	早渕 富田中	山本 富田中	西野 富田中
	女子単	宮本 徳島中	坂本 徳島中	赤岩 徳島中	小椋 平谷中
	団体戦男子	城東中学	富田中学	日和佐中学	八万中学
	団体戦女子	徳島中学	城東中学	川内中学	平谷中学
平成4年 (1992)	男子複	桧・前田 日和佐中	北村・小原 日和佐中	椎野・林 富田中	松本・藤江 富田中
	女子複	坂本・石井 徳島中	堤・勝瀬 徳島中	浜尾・岡本 徳島中	渕村・土井 徳島中
	男子単	真鍋 城東中	椎野 富田中	桧 日和佐中	宮城 八万中
	女子単	坂本 徳島中	石井 徳島中	堤 徳島中	勝瀬 徳島中
	団体戦男子	日和佐中学	富田中学	城東中学	八万中学
	団体戦女子	徳島中学	日和佐中学	小松島中学	平谷中学
平成5年 (1993)	男子複	鏡・谷本 日和佐中	天野・吉坂 日和佐中	岡田・吉川 城東中	吉野・池田 城東中
	女子複	石井・勝瀬 徳島中	岡本・堤 徳島中	宮本・松前 徳島中	久保・株田 平谷中
	男子単	谷本 日和佐中	鏡 日和佐中	天野 日和佐中	吉坂 日和佐中
	女子単	宮本 徳島中	石井 徳島中	岡本 徳島中	松前 徳島中
	団体戦男子	日和佐中学	富田中学	城東中学	八万中学
	団体戦女子	徳島中学	平谷中学	小松島中学	日和佐中学
平成6年 (1994)	男子複	岡田・吉川 城東中	蔭山・藤川 富田中	西野・島 富田中	金沢・野沢 城東中
	女子複	浜尾・西岡 徳島中	味岡・徳元 藍住中	村上・枝元 徳島中	富永・山沢 羽ノ浦中
	男子単	吉川 城東中	蔭山 富田中	藤川 富田中	西野 富田中
	女子単	西岡 徳島中	浜尾 徳島中	味岡 藍住中	占部 徳島中
	団体戦男子	城東中学	富田中学	日和佐中学	八万中学
	団体戦女子	徳島中学	藍住中学	平谷中学	羽ノ浦中学

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成7年 (1995)	男子複	木原・宮井 城東中	谷・近藤 八万中	松永・亀岡 城東中	今村・正木 藍住中
	女子複	西岡・三原 徳島中	浜尾・松前 徳島中	枝元・村上 徳島中	玉西・蔭山 徳島中
	男子単	谷 八万中	松永 城東中	今村 藍住中	正木 藍住中
	女子単	西岡 徳島中	枝元 徳島中	浜尾 徳島中	松前 徳島中
	団体戦男子	藍住中学	城東中学	富田中学	八万中学
	団体戦女子	徳島中学	平谷中学	羽ノ浦中学	城東中学
平成8年 (1996)	男子複	正木・今村 藍住中	小梯・世戸 藍住中	今井・宮井 城東中	江頭・佐藤 城東中
	女子複	枝元・村上 徳島中	玉西・久次米 徳島中	柳本・阿部 徳島中	泉・羽里 藍住東中
	男子単	正木 藍住中	谷 八万中	日下 富田中	今井 城東中
	女子単	枝元 徳島中	久次米 徳島中	林 徳島中	玉西 徳島中
	団体戦男子	藍住中学	城東中学	八万中学	富田中学
	団体戦女子	徳島中学	羽ノ浦中学	日和佐中学	川内中学
平成9年 (1997)	男子複	正木・今村 藍住中	宮井・岡田 城東中	谷・本多 八万中	小梯・世戸 藍住中
	女子複	蔭山・阿部 徳島中	泉・羽里 藍住東中	林・柳本 徳島中	小林・横田 平谷中
	男子単	正木 藍住中	谷 八万中	宮井 城東中	湯浅 城東中
	女子単	久次米 徳島中	林 徳島中	阿部 徳島中	柳本 徳島中
	団体戦男子	藍住中学	城東中学	加茂名中学	八万中学
	団体戦女子	徳島中学	平谷中学	羽ノ浦中学	藍住東中学
平成10年 (1998)	男子複	宮井・岡田 城東中	宮本・笠井 加茂名中	増田・松原 八万中	川越・津田 八万中
	女子複	横田・湯原 平谷中	井村(浩)・谷 徳島中	青木・森本 日和佐中	羽里・篠原 藍住東中
	男子単	宮井 城東中	岡田 城東中	笠井 加茂名中	宮本 加茂名中
	女子単	横田 平谷中	羽里 藍住東中	井村(浩) 徳島中	森 藍住中
	団体戦男子	城東中学	加茂名中学	富田中学	八万中学
	団体戦女子	平谷中学	藍住東中学	日和佐中学	徳島中学
平成11年 (1999)	男子複	小林・三谷 城東中	花岡・笠井 加茂名中	三谷・福島 城東中	松坂・橋本 日和佐中
	女子複	湯原・大鹿 平谷中	森本・原野 日和佐中	谷・井村(浩) 徳島中	井村・大谷 相生中
	男子単	笠井 加茂名中	杉内 八万中	三谷(宣) 城東中	渡越 藍住中
	女子単	井村(浩) 徳島中	篠原 藍住東中	井村(桂) 徳島中	湯原 平谷中
	団体戦男子	加茂名中学	城東中学	日和佐中学	八万中学
	団体戦女子	徳島中学	相生中学	藍住東中学	日和佐中学
平成12年 (2000)	男子複	杉本・大木 加茂名中	根来・伊勢 富田中	川島・島 日和佐中	鈴江・吉成 川内中
	女子複	井村・大谷 相生中	井村(浩)・井村(桂) 徳島中	山口・逢坂 徳島中	松本・舛田(和) 相生中
	男子単	渡越 藍住東中	杉本 加茂名中	鈴江 川内中	川島 日和佐中
	女子単	井村(浩) 徳島中	篠原 藍住東中	井村(桂) 徳島中	井村(幸) 相生中
	団体戦男子	加茂名中学	富田中学	日和佐中学	八万中学
	団体戦女子	相生中学	徳島中学	城東中学	藍住東中学
平成13年 (2001)	男子複	川島・島 日和佐中	吉田・乗島 八万中	矢部・椎野 八万中	三原・近久 八万中
	女子複	麻植・大阪 徳島中	松本・舛田(和) 相生中	井上・舛田(梢) 相生中	原野・兼市 日和佐中
	男子単	川島 日和佐中	武田 日和佐中	吉田 八万中	椎野 八万中
	女子単	井村(桂) 徳島中	大阪 徳島中	松本 相生中	羽里 藍住東中
	団体戦男子	八万中学	日和佐中学	城東中学	富田中学
	団体戦女子	徳島中学	相生中学	藍住東中学	日和佐中学

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成14年(2002)	男子複	西田・福家 八万中	木内・湊 八万中	川田・尼寺 富田中	吉川・松村 板野中
	女子複	井上・小川 相生中	仁木・西 徳島中	前田・大阪 徳島中	舛田・福多 相生中
	男子単	武田 日和佐中	大倉 藍住東中	川田 富田中	福家 八万中
	女子単	大阪 徳島中	小川 相生中	羽里 藍住東中	前田 徳島中
	団体戦男子	八万中学	富田中学	日和佐中学	川内中学
	団体戦女子	徳島中学	藍住東中学	日和佐中学	相生中学
平成15年(2003)	男子複	大倉・森本 藍住東中	福家・藤川 八万中	横井・中山 川内中	四宮・鏡 藍住東中
	女子複	仁木・西 徳島中	大阪・國安 徳島中	桑原・高井 徳島中	立川・米田 徳島中
	男子単	大倉 藍住東中	福家 八万中	四宮 藍住東中	森本 藍住東中
	女子単	大阪 徳島中	仁木 徳島中	遠藤 相生中	松友(仁) 藍住東中
	団体戦男子	藍住東中学	八万中学	加茂名中学	川内中学
	団体戦女子	徳島中学	藍住東中学	日和佐中学	相生中学
平成16年(2004)	男子複	鏡・四宮 藍住東中	井村・村田 川内中	日下・金森 川内中	平石・野上 八万中
	女子複	松友(仁)・久次米 徳島中	羽里・氏家 藍住東中	植田・樫栄 相生中	國安・神原 徳島中
	男子単	中山 川内中	森本 藍住東中	井村 川内中	鏡 藍住東中
	女子単	松友(美) 徳島中	羽里 藍住東中	神原 徳島中	水口 徳島中
	団体戦男子	藍住東中学	川内中学	八万中学	富田中学
	団体戦女子	徳島中学	藍住東中学	日和佐中学	相生中学
平成17年(2005)	男子複	森本・鏡 藍住東中	広田・吉成 川内中	平岡・小川 富田中	後藤・福家 八万中
	女子複	國安・神原 徳島中	若田・山本 城東中	樫栄・宮澤 相生中	山本・水口 徳島中
	男子単	森本 藍住東中	鏡 藍住東中	平岡 富田中	後藤 八万中
	女子単	松友(美) 徳島中	神原 徳島中	水口 徳島中	國安 徳島中
	団体戦男子	藍住東中学	川内中学	加茂名中学	富田中学
	団体戦女子	徳島中学	日和佐中学	城東中学	相生中学
平成18年(2006)	男子複	東田・東口 城東中	山中・濱田 富田中	弘田・西手 藍住中学中	武田・光森 富田中
	女子複	神原・水口 徳島中	樫栄・宮澤 相生中	藤本(香)・山本(杏) 徳島中	松友・藤本(陽) 徳島中
	男子単	金森 川内中	庄野 城東中	福家 八万中	弘田 藍住東中
	女子単	松友(美) 徳島中	水口 徳島中	樫栄 相生中	神原 徳島中
	団体戦男子	城東中学	富田中学	川内中学	藍住中学
	団体戦女子	徳島中学	相生中学	日和佐中学	城東中学
平成19年(2007)	男子複	福家・岩橋 八万中	庄野・西村 城東中	久保見・吉田 日和佐中	齋藤・小笠 加茂名中
	女子複	山本(杏)・國安 徳島中	藤本・金森 徳島中	丸山・井田 日和佐中	前田・小原 城東中
	男子単	福家 八万中	庄野 城東中	木村 藍住中	齋藤 加茂名中
	女子単	藤本(陽) 徳島中	金森 徳島中	前里 城東中	塚本 徳島中
	団体戦男子	加茂名中学	日和佐中学	八万中学	城東中学
	団体戦女子	徳島中学	城東中学	川内中学	日和佐中学
平成20年(2008)	男子複	齋藤・小笠 加茂名中	浅野・水口 徳島中	折部・木村 藍住中	福本・岡田 富田中
	女子複	藤本・金森 徳島中	國安・山本 徳島中	樫山・馬部 城東中	前里・小原(樹) 城東中
	男子単	齋藤 加茂名中	木村 藍住中	浅野 徳島中	水口 徳島中
	女子単	藤本(陽) 徳島中	金森 徳島中	山本 徳島中	國安 徳島中
	団体戦男子	加茂名中学	八万中学	藍住東中学	藍住中学
	団体戦女子	徳島中学	城東中学	藍住中学	川内中学

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成21年 (2009)	男子複	水口・吉岡 徳島中	伊藤・五島 八万中	横山・鳥澤 日和佐中	松崎・藤本 富田中
	女子複	金森・鶴熊 徳島中	塚本・久田 徳島中	金澤・四宮 徳島中	多田・田上 徳島中
	男子単	伊藤 八万中	水口 徳島中	五島 八万中	横山 日和佐中
	女子単	金森 徳島中	塚本 徳島中	森 徳島中	多田 徳島中
	団体戦男子	富田中学	加茂名中学	川内中学	八万中学
	団体戦女子	徳島中学	城東中学	小松島中学	八万中学
平成22年 (2010)	男子複	水口・吉岡 徳島中	栗本・高橋 加茂名中	大前・笠原 加茂名中	前田・藤川 藍住中
	女子複	四宮・山下 徳島中	鶴熊・森 徳島中	金澤・桑原 徳島中	小原・斎藤 城東中
	男子単	水口 徳島中	井上 八万中	樫山 城東中	栗本 加茂名中
	女子単	鶴熊 徳島中	金澤 徳島中	森 徳島中	四宮 徳島中
	団体戦男子	加茂名中学	徳島中学	富田中学	藍住東中学
	団体戦女子	徳島中学	城東中学	藍住東中学	八万中学
平成23年 (2011)	男子複	吉岡・新田 徳島中	樫山・川崎 城東中	佐藤・明井 八万中	林・橋本 藍住中
	女子複	森・山下 徳島中	磯田・千田 坂野中	鶴熊・京野 徳島中	露口・岩崎 徳島中
	男子単	吉岡 徳島中	新田 徳島中	樫山 城東中	川崎 城東中
	女子単	鶴熊 徳島中	岩崎 羽ノ浦中	森 徳島中	露口 徳島中
	団体戦男子	城東中学	八万中学	藍住東中学	藍住中学
	団体戦女子	徳島中学	坂野中学	藍住中学	羽ノ浦中学
平成24年 (2012)	男子複	川崎・岡 城東中	丸岡・渡辺 富田中	楠本・西 加茂名中	平岡・吉野 八万中
	女子複	岩崎・京野 徳島中	廣田・亀島 徳島中	中瀬・四宮 徳島中	磯田・千田 坂野中
	男子単	川崎 城東中	新田 徳島中	佐藤 藍住東中	平岡 八万中
	女子単	岩崎 徳島中	京野 徳島中	千田 坂野中	廣田 徳島中
	団体戦男子	加茂名中学	八万中学	城東中学	川内中学
	団体戦女子	徳島中学	坂野中学	羽ノ浦中学	小松島中学
平成25年 (2013)	男子複	明井・阿部 八万中	岡・八田 城東中	大森・大持 八万中	徳元・大寺 藍住中
	女子複	京野・岩崎 徳島中	佐藤・岡田 徳島中	中瀬・森上 徳島中	四宮・田邊 徳島中
	男子単	岡 城東中	小藪 北島中	阿部 八万中	明井 八万中
	女子単	京野 徳島中	岩崎 徳島中	佐藤 徳島中	中瀬 徳島中
	団体戦男子	八万中学	城東中学	藍住中学	川内中学
	団体戦女子	徳島中学	小松島中学	藍住中学	城東中学
平成26年 (2014)	男子複	西村・八田 城東中	河野・堀口 八万中	小藪・中川 北島中	林・射場 藍住中
	女子複	佐藤・友成 徳島中	田邊・岡田 徳島中	大西・山内 徳島中	高橋・阿部 小松島中
	男子単	岡 城東中	小藪 北島中	河野 八万中	堀口 八万中
	女子単	佐藤 徳島中	友成 徳島中	田邊 徳島中	阿部 小松島中
	団体戦男子	城東中学	小松島中学	川内中学	藍住東中学
	団体戦女子	徳島中学	小松島中学	藍住中学	城東中学

徳島県中学校選手権大会

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
昭和61年 (1986)	男子複	原河・林 富田中	左海・原田 日和佐中	前野・向 日和佐中	木田・金田 城東中
	女子複	浜野・春川 日和佐中	馬田・原西 日和佐中	寺内・南地 日和佐中	森崎・井上 城東中
	男子単	森野 徳島中	原河 富田中	林 富田中	原田 日和佐中
	女子単	浜野 日和佐中	葭本 川内中	岩田 徳島中	馬田 日和佐中
昭和62年 (1987)	男子複	永野・亀谷 城東中	別宮・山田 城東中	吉田・原田 城東中	内藤・日下 八万中
	女子複	岩田・中山 徳島中	宮島・伊藤 徳島中	富永・坂本 日和佐中	岡本・小尻 日和佐中
	男子単	別宮 城東中	永野 城東中	加藤 城東中	亀谷 城東中
	女子単	岩田 徳島中	中山 徳島中	南池 日和佐中	寺内 日和佐中
昭和63年 (1988)	男子複	山本・中村 富田中	亀谷・竹内 城東中	浜崎・中田 富田中	浦川・多田羅 城東中
	女子複	中山・山本 徳島中	宮島・伊藤 徳島中	政岡・江渕 川内中	和佐・福田 日和佐中
	男子単	宮脇 日和佐中	中田 富田中	亀谷 城東中	中村 富田中
	女子単	中山(佐) 徳島中	伊藤 徳島中	山本 徳島中	宮島 徳島中
平成元年 (1989)	男子複	鬼田・松岡 富田中	市塚・桝田 日和佐中	山本・伊月 城東中	沢口・江渕 城東中
	女子複	中山・天野 徳島中	山本・中山 徳島中	八田・中野 城東中	坂本・田中 徳島中
	男子単	沢口 城東中	江渕 城東中	山岡 城東中	鬼田 富田中
	女子単	中山(佐) 徳島中	山本 徳島中	中山(亜) 徳島中	中野 城東中
平成2年 (1990)	男子複	市塚・桝田 日和佐中	久保・原西 日和佐中	稲田・西野 富田中	
	女子複	坂本・中山 徳島中	宮本・赤岩 徳島中	坂本・堤 徳島中	
	男子単	桝田 日和佐中	市塚 日和佐中	正木 富田中	
	女子単	中山(佐) 徳島中	坂本 徳島中	宮本 徳島中	
平成3年 (1991)	男子複	福岡・市川 城東中	西野・山田 富田中	山本・早渕 富田中	
	女子複	宮本・赤岩 徳島中	坂本・石井 徳島中	天野・勝瀬 徳島中	
	男子単	福岡 城東中	西野 富田中	高橋 八万中	
	女子単	宮本 徳島中	赤岩 徳島中	坂本 徳島中	
平成4年 (1992)	男子複	桧・北村 日和佐中	前田・小原 日和佐中	谷本・鏡 日和佐中	
	女子複	坂本・勝瀬 徳島中	石井・岡本 徳島中	浜尾・堤 徳島中	
	男子単	真鍋 城東中	椎野 富田中	桧 日和佐中	
	女子単	勝瀬 徳島中	石井 徳島中	坂本 徳島中	
平成5年 (1993)	男子複	鏡・谷本 日和佐中	天野・桝田 日和佐中	古宇・吉坂 日和佐中	
	女子複	石井・勝瀬 徳島中	岡本・堤 徳島中	宮本・松前 徳島中	
	男子単	谷本 日和佐中	鏡 日和佐中	天野 日和佐中	
	女子単	石井 徳島中	勝瀬 徳島中	岡本 徳島中	

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成6年 (1994)	男子複	西野・島 富田中	吉川・岡田 城東中	鏡・大黒 日和佐中	
	女子複	西岡・浜尾 徳島中	味岡・徳元 藍住中	田仁・請田 日和佐中	
	男子単	吉川 城東中	藤川 富田中	西野 富田中	
	女子単	西岡 徳島中	浜尾 徳島中	味岡 藍住中	
平成7年 (1995)	男子複	今村(健)・正木 藍住中	谷(圭)・近藤 八万中	高木・日下 富田中	
	女子複	西岡・三原 徳島中	村上・枝元 徳島中	浜尾・松前 徳島中	
	男子単	力丸 南部中	谷(圭) 八万中	今村(健) 藍住中	
	女子単	西岡 徳島中	枝元 徳島中	三原 徳島中	
平成8年 (1996)	男子複	江藤・佐藤 城東中	正木・小梯 藍住中	今井・宮井 城東中	
	女子複	枝元・村上 徳島中	久次米・柳本 徳島中	林・阿部 徳島中	
	男子単	谷 八万中	井上 富田中	宮井 城東中	
	女子単	枝元 徳島中	村上 徳島中	蔭山 徳島中	
平成9年 (1997)	男子複	正木・今村 藍住中	小梯・世戸 藍住中	宮井・岡田 城東中	
	女子複	蔭山・阿部 徳島中	久次米・柳本 徳島中	泉・羽里 藍住東中	
	男子単	谷 八万中	正木 藍住中	今村 藍住中	
	女子単	久次米 徳島中	林 徳島中	阿部 徳島中	
平成10年 (1998)	男子複	宮井・岡田(昴) 城東中	増田・松原 八万中	宮本・中川 加茂名中	
	女子複	横田・湯原 平谷中	羽里・篠原 藍住東中	井村(浩)・谷 徳島中	
	男子単	宮井 城東中	笠井 加茂名中	宮本 加茂名中	
	女子単	横田 平谷中	森 藍住東中	井村(浩) 徳島中	
平成11年 (1999)	男子複	笠井・坂東 加茂名中	伊勢・喜多 富田中	小林・三谷(寛) 城東中	
	女子複	谷・井村(浩) 徳島中	大里・兼市 日和佐中	岡本・井村(桂) 徳島中	
	男子単	笠井 加茂名中	杉内 八万中	渡越 藍住東中	
	女子単	井村(浩) 徳島中	篠原 藍住東中	谷 徳島中	井村(桂) 徳島中
平成12年 (2000)	男子複	杉本・大木 加茂名中	川島・島 日和佐中	鈴江・吉成 川内中	森本・山形 加茂名中
	女子複	井村・大谷 相生中	井村(浩)・井村(桂) 徳島中	松本・舛田(和) 相生中	原野・兼市 日和佐中
	男子単	渡越 藍住東中	杉本 加茂名中	川島 日和佐中	鈴江 川内中
	女子単	井村(浩) 徳島中	篠原 藍住東中	井村 相生中	山口 徳島中
平成13年 (2001)	男子複	川島・島 日和佐中	椎野・吉田 八万中	吉成・中井 川内中	吉川・松村 板野中
	女子複	松本・舛田(和) 相生中	井村(桂)・麻植 徳島中	井上・舛田(梢) 相生中	小川・福多 相生中
	男子単	川島 日和佐中	島 日和佐中	武田 日和佐中	椎野 八万中
	女子単	井村(桂) 徳島中	大阪 徳島中	羽里 藍住東中	松本 相生中
平成14年 (2002)	男子複	吉川・松村 板野中	木内・小西 八万中	川田・尼寺 富田中	湊・西田 八万中
	女子複	大阪・仁木 徳島中	井上・小川 相生中	舛田(梢)・福多 相生中	羽里・森 藍住東中
	男子単	武田 日和佐中	大倉 藍住東中	福家 八万中	西田 八万中
	女子単	大阪 徳島中	小川 相生中	前田 徳島中	仁木 徳島中

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成15年(2003)	男子複	大倉・森本 藍住東中	福家・藤川 八万中	柳澤・井原 加茂名中	四宮・鏡 藍住東中
	女子複	大阪・立川 徳島中	仁木・西 徳島中	遠藤・谷崎 相生中	日根野・松友 藍住東中
	男子単	大倉 藍住東中	森本 藍住東中	中山 川内中	土橋 藍住中
	女子単	大阪 徳島中	立川 徳島中	日根野 藍住東中	國安 徳島中
平成16年(2004)	男子複	村田・井村 川内中	鏡・四宮 藍住東中	吉成・広田 川内中	中山・日下 川内中
	女子複	羽里・松友(仁) 藍住東中	久次米・氏家 藍住東中	澤口・水口 徳島中	松友(美)・神原 徳島中
	男子単	森本 藍住東中	中山 川内中	四宮 藍住東中	土橋 藍住中
	女子単	松友(美) 徳島中	松友(仁) 藍住東中	久次米 藍住東中	羽里 藍住東中
平成17年(2005)	男子複	森本・鏡 藍住東中	平岡・小川 富田中	広田・吉成(倫) 川内中	後藤・福家 八万中
	女子複	松友(美)・水口 徳島中	國安(香)・神原 徳島中	若田・山本 城東中	山本・澤口 徳島中
	男子単	森本 藍住東中	鏡 藍住東中	吉成(倫) 川内中	土橋 藍住中
	女子単	松友(美) 徳島中	國安 徳島中	水口 徳島中	神原 徳島中
平成18年(2006)	男子複	東口・東田 城東中	山中・濱田 富田中	武田・光森 富田中	金森・住友 川内中
	女子複	樫栄・宮澤 相生中	若田・草苅 城東中	水口・藤本(陽) 徳島中	藤本(香)・山本 徳島中
	男子単	金森 川内中	福家 八万中	浜田 富田中	弘田 藍住東中
	女子単	水口 徳島中	樫栄 相生中	佐々木 藍住中	若田 城東中
平成19年(2007)	男子複	福家・岩橋 八万中	庄野・西村 城東中	齋藤・小笠 加茂名中	久保見・吉田 日和佐中
	女子複	山本(杏)・國安 徳島中	井田・丸山 日和佐中	前里・樫山 城東中	藤本(香)・金森 徳島中
	男子単	福家 八万中	庄野 城東中	齋藤 加茂名中	木村 藍住中
	女子単	藤本 徳島中	山本(杏) 徳島中	金森 徳島中	山本(桜) 徳島中
平成20年(2008)	男子複	齋藤・小笠 加茂名中	木村・折部 藍住中	浅野・水口 徳島中	福本・岡田 富田中
	女子複	藤本・金森 徳島中	國安・山本(桜) 徳島中	樫山・馬部 城東中	前里・小原 城東中
	男子単	齋藤 加茂名中	木村 藍住中	水口 徳島中	浅野 徳島中
	女子単	藤本 徳島中	金森 徳島中	國安 徳島中	山本(桜) 徳島中
平成21年(2009)	男子複	伊藤・五島 八万中	横山・鳥澤 日和佐中	水口・吉岡 徳島中	松崎・藤本 富田中
	女子複	金森・鶴熊 徳島中	塚本・久田 徳島中	金澤・森 徳島中	多田・田上 徳島中
	男子単	水口 徳島中	井上 八万中	伊藤 八万中	田中 加茂名中
	女子単	金森 徳島中	塚本 徳島中	金澤 徳島中	久田 徳島中
平成22年(2010)	男子複	水口・吉岡 徳島中	栗本・高橋 加茂名中	笠原・大前 加茂名中	井上・佐藤 八万中
	女子複	鶴熊・森 徳島中	金澤・四宮 徳島中	桑原・山下 徳島中	馬部・斎藤 城東中
	男子単	水口 徳島中	井上 八万中	樫山 城東中	栗本 加茂名中
	女子単	鶴熊 徳島中	森 徳島中	金澤 徳島中	四宮 徳島中
平成23年(2011)	男子複	吉岡・新田 徳島中	樫山・川崎 城東中	佐藤・明井 八万中	林・橋本 藍住中
	女子複	鶴熊・亀島 徳島中	露口・山下 徳島中	廣田・中瀬 徳島中	京野・岩崎 徳島中
	男子単	吉岡 徳島中	新田 徳島中	樫山 城東中	佐藤 藍住東中
	女子単	鶴熊 徳島中	露口 徳島中	岩崎 羽ノ浦中	岩崎 徳島中

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成24年 (2012)	男子複	川崎・岡 城東中	丸岡・渡辺 富田中	佐藤・森 藍住東中	平岡・吉野 八万中
	女子複	京野・岩崎 徳島中	亀島・廣田 徳島中	中瀬・佐藤 徳島中	磯田・千田 坂野中
	男子単	川崎 城東中	新田 徳島中	佐藤 藍住東中	平岡 八万中
	女子単	岩崎 徳島中	廣田 徳島中	亀島 徳島中	京野 徳島中
平成25年 (2013)	男子複	岡・西村 城東中	明井・阿部 八万中	大持・大森 八万中	安芸・西川 八万中
	女子複	京野・岩崎 徳島中	佐藤・岡田 徳島中	森上・中瀬 徳島中	四宮・田邊 徳島中
	男子単	岡 城東中	明井 八万中	阿部 八万中	小藪 北島中
	女子単	岩崎 徳島中	京野 徳島中	中瀬 徳島中	四宮 徳島中
平成26年 (2014)	男子複	岡・八田 城東中	河野・堀口 八万中	小藪・中川 北島中	射場・林 藍住中
	女子複	佐藤・友成 徳島中	岡田・田邊 徳島中	大西・山内 徳島中	高橋・阿部 小松島中
	男子単	小藪 北島中	吉岡 徳島中	三浦 小松島中	林 藍住中
	女子単	佐藤 徳島中	岡田 徳島中	友成 徳島中	田邊 徳島中

四国中学校総合体育大会

年度	種目	優　勝	準優勝	第3位	第3位
平成元年 (1989)	団体戦男子 団体戦女子				
	男子複				
	女子複				
	男子単				
	女子単	中山佐知子 徳島中			
平成3年 (1991)	団体戦男子 団体戦女子		徳島中学校		
	男子複				
	女子複				宮本・赤岩 徳島中
	男子単				
	女子単				中山亜紀子 徳島中
平成4年 (1992)	団体戦男子 団体戦女子		徳島中学校		
	男子複				
	女子複				
	男子単				
	女子単				
平成7年 (1995)	団体戦男子 団体戦女子			徳島中学校	
	男子複				
	女子複				
	男子単				
	女子単			西岡 徳島中	
平成8年 (1996)	団体戦男子 団体戦女子			徳島中学校	
	男子複				
	女子複			玉西・久次米 徳島中	
	男子単				
	女子単				
平成9年 (1997)	団体戦男子 団体戦女子			徳島中学校	
	男子複				
	女子複			蔭山・阿部 徳島中	
	男子単				
	女子単				
平成10年 (1998)	団体戦男子 団体戦女子				
	男子複			宮本・笠井 加茂名中	
	女子複			横田・湯原 平谷中	
	男子単				
	女子単				

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成11年(1999)	団体戦男子				--
	団体戦女子			徳島中学校	
	男子複			--	--
	女子複			湯原・平野 平谷中	--
	男子単			--	--
	女子単			篠原 藍住中	--
平成12年(2000)	団体戦男子				--
	団体戦女子			徳島中学校	
	男子複			--	--
	女子複			井村・大谷 相生中	--
	男子単			--	--
	女子単			--	--
平成13年(2001)	団体戦男子			--	--
	団体戦女子	徳島中学校			
	男子複			--	--
	女子複		麻植・大阪 徳島中	--	--
	男子単		--	--	--
	女子単		--	--	--
平成14年(2002)	団体戦男子		--	--	--
	団体戦女子	徳島中学校			
	男子複	--	--	--	--
	女子複		井上・小川 相生中	--	--
	男子単	--	--	--	--
	女子単	大阪あや 徳島中	--	--	--
平成15年(2003)	団体戦男子		--	--	--
	団体戦女子	徳島中学校			
	男子複	--	--	--	--
	女子複	仁木・西 徳島中	--	--	--
	男子単	--	--	--	--
	女子単	大阪あや 徳島中	--	--	--
平成16年(2004)	団体戦男子		--	--	--
	団体戦女子	徳島中学校			
	男子複	--	--	--	--
	女子複	--	--	--	--
	男子単	--	--	--	--
	女子単	--	--	--	--
平成17年(2005)	団体戦男子		--	--	--
	団体戦女子	徳島中学校			
	男子複	--	森本・鏡 藍住東中	--	--
	女子複	國安・神原 徳島中	--	--	--
	男子単	--	--	--	--
	女子単	松友美佐紀 徳島中	--	--	--

年度	種目	優勝	準優勝	第3位	第3位
平成18年 (2006)	団体戦男子 団体戦女子	徳島中学校			
	男子複				
	女子複	神原・水口 徳島中	樫栄・宮澤 相生中		
	男子単				
	女子単	松友美佐紀 徳島中			
平成20年 (2008)	団体戦男子 団体戦女子	徳島中学校	城東中学校		
	男子複				
	女子複	國安・山本 徳島中			
	男子単				
	女子単	藤本香奈 徳島中	金森望 徳島中		
平成21年 (2009)	団体戦男子 団体戦女子		徳島中学校		
	男子複				
	女子複				塚本・久田 徳島中
	男子単				水口 徳島中
	女子単	金森望 徳島中			
平成22年 (2010)	団体戦男子 団体戦女子				
	男子複				
	女子複				四宮・山下 徳島中
	男子単	水口恭兵 徳島中			
	女子単				
平成23年 (2011)	団体戦男子 団体戦女子	徳島中学校			
	男子複			吉岡・新田 徳島中	
	女子複	森・山下 徳島中			
	男子単				
	女子単			岩崎遥香 羽ノ浦中	
平成24年 (2012)	団体戦男子 団体戦女子			徳島中学校	
	男子複				
	女子複		岩崎・京野 徳島中		
	男子単				
	女子単				
平成25年 (2013)	団体戦男子 団体戦女子				
	男子複				
	女子複	岩崎・京野 徳島中			
	男子単				
	女子単				

年度	種目	優 勝	準優勝	第3位	第3位
平成26年 (2014)	団体戦男子				
	団体戦女子				
	男子複				
	女子複			岡 田 ・ 田 邊 徳島中	
	男子単				
	女子単				

小学生の部

徳島県小学生バドミントン選手権大会

6年の部ダブルス

年度	優勝	準優勝	第三位	
平成9年度	井村 幸奈・大谷 恵 (平野スポーツ少年団)	渡越 総一郎・篠原 ちあき (藍住エンジェル)	中濱 千春・井村 浩子 (内町スポーツ少年団)	浦川・林 (福島同好会)
平成10年度	原野 安由美・兼市 加奈 (赤松スポーツ少年団)	松本 彩佳・舛田 和美 (平野スポーツ少年団)	正木 佑佳・羽里 華 (藍住エンジェル)	平川 則子・久保 礼香 (上那賀スポーツ少年団)
平成11年度	舛田 梢・井上 憂香 (平野スポーツ少年団)	羽里 華・鏡 奈保子 (藍住エンジェル)	森 茉由佳・長田 佳央梨 (藍住エンジェル)	松野 由紀子・小川 静香 (上那賀スポーツ少年団)
平成12年度	大阪 あや・仁木 純子 (内町ジュニア)	西 紗由美・立川 ゆかり (内町ジュニア)	青木 綾香・谷本 愛 (赤松スポーツ少年団)	上佐 亜由美・岡本 美佳 (赤松スポーツ少年団)
平成13年度	松友 仁美・羽里 直緒 (藍住エンジェル)	久次米佐和子・氏家由香利 (藍住エンジェル)	中山 慧・神野 裕也 (鳴門西Jr・相生スポ小)	夏野 優香・大平 真己 (赤松スポーツ少年団))
平成14年度	横田奈津美・松友美佐紀 (藍住エンジェル)	森本 亮・四宮 与寛 (藍住エンジェル)	鏡 裕樹・土橋 拓也 (藍住エンジェル)	林田 夏奈・丸山 詩織 (赤松スポーツ少年団)
平成15年度	松友 美佐紀・神原 靖奈 (藍住エンジェル)	水口 愛梨・藤本 香那 (藍住エンジェル)	樫栄 祥子・宮澤 沙季 (相生スポーツ少年団)	山本 みさり・若田 美沙 (福島ラビット)
平成16年度	丸山奈津実・井田みづき (赤松スポーツ少年団)	石本 美姫・戎野 文菜 (日和佐スポーツ少年団)	山本 杏子・浅野 孝介 (助任ジュニア)	福家 匠麻・木下 星羅 (八万ジュニア)
平成17年度	藤本 陽奈・木村 友輔 (藍住エンジェル)	國安 涼可・山本 桜子 (助任ジュニア)	前里 愛子・小原 樹 (福島ラビット)	樫山 実穂・馬部 美咲 (福島ラビット)
平成18年度	金森 望・水口 恭兵 (藍住エンジェル)	塚本 祥子・多田 菜南 (内町ジュニア)	羽生 紋佳・斎藤春菜 (福島ラビット)	新田 真子・渡辺 理香 (藍住エンジェル)
平成19年度	藤本 英・佐藤 和哉 (藍住エンジェル)	水口 恭兵・田中 玲央 (藍住エンジェル)	井上 大和・木下 七星 (八万ジュニア)	四宮 詩織・庄司 真由 (内町ジュニア)
平成20年度	樫山 哲也・川崎 右京 (福島ラビット)	鶴熊 美樹・佐藤 夕乃 (藍住エンジェル)	吉岡 和真・武田 佳奈 (助任ジュニア)	森 隆子・露口 有香 (内町ジュニア)
平成21年度	新田 将大・佐藤 侑紀 (藍住エンジェル)	川崎 右京・岡 蒼太 (福島ラビット)	千田 侑里美・磯田 美咲 (小松島ジュニア)	岡崎 未来・中井 寧々 (小松島ジュニア)
平成22年度	長町 夏実・岩崎 楓由 (八万ジュニア)	京野 沙耶・中瀬 朱里 (藍住エンジェル)	植田 菜月・猪井 美沙 (助任ジュニア)	四宮 菜帆・岡田 彩衣 (内町ジュニア)
平成23年度	佐藤 実花・渡辺 佳奈 (藍住エンジェル)	山本 光来・小賀野 結香 (福島ラビット)	数藤 夏帆・大西 映美 (小松島ジュニア)	田辺 梨子・春本 ゆき (助任ジュニア)
平成24年度	谷 歩夏・友成 花音 (小松島ジュニア)	高橋 奈那・阿部 栞 (小松島ジュニア)	山本 仁子・京野 由依 (藍住エンジェル)	西村 祐哉・小薮 翔真 (北島Bambi)

平成25年度より男女別
男子6年生以下ダブルス

平成25年度	吉岡 壮馬・雑賀 稔弥 (助任ジュニア)	堀口 桂吾・日下 悠大 (小松島ジュニア)	井上 拓海・立石 陽向 (福島ラビットB. C)	西川 諒・大西 陸翔 (藍住エンジェル)

女子6年生以下ダブルス

平成25年度	山本 麻由・十川 望 (福島ラビットB. C)	庄野 若葉・井上 京香 (相生B. C)	松下 華子・冨田 夢奈 (藍住エンジェル)	川原 みなみ・足立 遥海 (助任ジュニア)

6年生以下ダブルス

平成26年度	岡本 悠伶・井上 怜嗣 (藍住エンジェル)	増本 光莉・森上 真央 (林崎ジュニア)	森上 依嗣・長原 稔 (上板レインボーズ)	三木 都萌・久次米 愛 (藍住エンジェル)

5年の部ダブルス

平成9年度	舛田 和美・松本 彩佳 (平野スポーツ少年団)	久保・的場 (海川スポーツ少年団)	正木 佑佳・内田 順子 (藍住エンジェル)	川島 誠悟・野張 茜 (日和佐スポーツ少年団)
平成10年度	武田 直也・喜和田 幸 (日和佐スポーツ少年団)	井上 憂香・福多 奈緒 (平野スポーツ少年団)	小川 静香・松野 由紀子 (上那賀スポーツ少年団)	森 茉由佳・鏡 奈保子 (藍住エンジェル)
平成11年度	大倉 弘樹・日根野 圭恵 (藍住エンジェル)	岡本 美佳・上佐 亜由美 (赤松スポーツ少年団)	遠藤 友美・谷崎 香織 (平野スポーツ少年団)	西 紗由美・大阪 あや (内町ジュニア)
平成12年度	松友 仁美・羽里 直緒 (藍住エンジェル)	久次米佐和子・猪木 智恵 (藍住エンジェル)	植田 佳奈・中川 雪絵 (平野スポーツ少年団)	日根野光恵・氏家由香利 (藍住エンジェル)
平成13年度	松友美佐紀・横田奈津実 (藍住エンジェル)	森本 亮・鏡 裕樹 (藍住エンジェル)	四宮 与寛・土橋 拓弥 (藍住エンジェル)	丸山 詩織・林田 夏奈 (赤松スポーツ少年団)
平成14年度	神原 靖奈・金森 優太 (藍住エンジェル)	水口 愛梨・藤本 香那 (藍住エンジェル)	四宮 千照・宮崎 友望 (藍住エンジェル)	宮沢 沙季・樫栄 祥子 (相生スポーツ少年団)
平成15年度	丸山奈津実・井田みづき (赤松スポーツ少年団)	福家 匠麻・木下 星羅 (八万ジュニア)	石本 美姫・戎野 文菜 (日和佐スポーツ少年団)	山本 杏子・浅野 孝介 (助任ジュニア)
平成16年度	國安 涼可・山本 桜子 (助任ジュニア)	樫山 実穂・馬部 美咲 (福島ラビット)	齋藤 裕進・小笠 宙生 (加茂名ジュニア)	中 鈴佳・桜田 里咲子 (桜谷スポーツ少年団)
平成17年度	金森 望・三好 映理香 (藍住エンジェル)	羽生紋佳・油谷 彩子 (福島ラビット)	高岡 謙伍・田上 智美 (桜谷スポーツ少年団)	塚本 祥子・多田 菜南 (内町ジュニア)
平成18年度	金澤 加奈・桑原 未彩 (助任ジュニア)	井上 大和・木下 七星 (八万ジュニア)	藤本 英・佐藤 和哉 (藍住エンジェル)	小原 美咲・馬部 美花 (福島ラビット)

年度	優勝	準優勝	第三位	
平成19年度	吉岡 和真・武田 佳奈 (助任ジュニア)	鶴熊 美樹・田中 里佳 (藍住エンジェル)	樫山 哲也・川崎 右京 (福島ラビット)	佐藤 夕乃・山口 美史 (藍住エンジェル)
平成20年度	新田 将大・佐藤 侑紀 (藍住エンジェル)	岸 菜々海・多田 早希 (内町ジュニア)	中井 寧々・千田 侑里美 (小松島ジュニア)	亀島 珠美・植田 菜月 (助任ジュニア)
平成21年度	長町 夏実・岩崎 楓由 (八万ジュニア)	京野 沙耶・中瀬 朱里 (藍住エンジェル)	植田 菜月・猪井 美沙 (助任ジュニア)	北村 菜摘・山本 光来 (福島ラビット)
平成22年度	佐藤 実花・渡辺 佳奈 (藍住エンジェル)	大西 映美・数藤 夏帆 (小松島ジュニア)	小賀野 結香・山本 麻由 (福島ラビット)	春本 ゆき・田辺 梨子 (助任ジュニア)
平成23年度	小薮 翔真・西村 祐哉 (北島Bambi)	友成 花音・高橋 奈那 (小松島ジュニア)	谷 歩夏・阿部 栞 (小松島ジュニア)	蔵本 理沙子・横田 百香 (内町ジュニア)
平成24年度	吉岡 壮馬・雑賀 稔弥 (助任ジュニア)	中川 怜・井上 拓海 (北島Bambi)	板東 輝星・松下 華子 (藍住エンジェル)	十川 望・吉本 妃那 (福島ラビット)

平成25年度より男女別
男子5年生以下ダブルス

平成25年度	岡本 悠伶・井上 怜嗣 (藍住エンジェル)	中塩 佑哉・川原 光騎 (助任ジュニア)	佃 康平・松原 佳彗 (助任ジュニア)	齋藤 裕大・井上 克海 (福島ラビット)

女子5年生以下ダブルス

平成25年度	美濃 汀・原 心夏 (北島Bambi)	中田 杏優・伊豫谷 好葉 (助任ジュニア)	井本 有香・味上 凜 (桜谷スポーツ少年団)	三木 都萌・滝口 真央 (藍住エンジェル)

5年生以下ダブルス

平成26年度	西川 由香乃・金澤 志歩 (藍住エンジェル)	田辺 陸人・川原 光騎 (助任ジュニア)		

4年の部ダブルス

平成9年度	井上 愛香・舛田 梢 (平野スポーツ少年団)	羽里 華・森 茉由佳 (藍住エンジェル)	松野 由起子・株田 彬代 (海川スポーツ少年団)	小川 静香・平瀬 春香 (桜谷スポーツ少年団)
平成10年度	上佐 亜由美・谷本 愛 (赤松スポーツ少年団)	岡本 美佳・青木 綾香 (赤松スポーツ少年団)	谷崎 香織・遠藤 友美 (平野スポーツ少年団)	松友 仁美・羽里 華 (藍住エンジェル)
平成11年度	松友 仁美・羽里 直緒 (藍住エンジェル)	日根野 光恵・久次米佐和子 (藍住エンジェル)	遊亀 渚紗・喜和田 咲季 (日和佐スポーツ少年団)	夏野 優香・上佐 友希 (赤松スポーツ少年団)
平成12年度	松友美佐紀・横田奈津実 (藍住エンジェル)	丸山 詩織・林田 夏奈 (赤松スポーツ少年団)	國安 香好・澤口 朋美 (助任ジュニア)	森 万希子・宮内 瑞希 (内町ジュニア)
平成13年度	神原 靖奈・藤本 香那 (藍住エンジェル)	金森 優太・宮崎 友望 (藍住エンジェル)	水口 愛梨・四宮 千照 (藍住エンジェル)	大西 絵梨・山本 杏子 (助任ジュニア)
平成14年度	井田 みづき・丸山 奈津実 (赤松スポーツ少年団)	福家 匠麻・庄野 正博 (八万ジュニア)	國安 涼可・山本 桜子 (助任ジュニア)	馬部 美希・前里 愛子 (福島ラビット)
平成15年度	國安 涼可・山本 桜子 (助任ジュニア)	藤本 陽奈・金森 望 (藍住エンジェル)	桜田 里咲子・中 鈴佳 (桜谷スポーツ少年団)	前里 愛子・門脇 茉美 (福島ラビット)
平成16年度	金森 望・三好 映理香 (藍住エンジェル)	羽生 紋佳・油谷 彩子 (福島ラビット)	小松 亜依・塚本 祥子 (内町ジュニア)	水口 恭兵・藤本 英 (藍住エンジェル)
平成17年度	水口 恭兵・藤本 英 (藍住エンジェル)	四宮 詩織・森 隆子 (内町ジュニア)	井上 大和・木下 七星 (八万ジュニア)	金澤 加奈・桑原 未彩 (助任ジュニア)
平成18年度	樫山 哲也・斎藤 菜美 (福島ラビット)	吉岡 和真・武田 佳奈 (助任ジュニア)	鶴熊 美樹・田中 里佳 (藍住エンジェル)	森 隆子・露口 有香 (内町ジュニア)
平成19年度	新田 将大・佐藤 侑紀 (藍住エンジェル)	貴虎 世奈・亀島 珠美 (助任ジュニア)	高岡 怜多・渡守 未来 (桜谷スポーツ少年団)	廣田 美柚・佐藤 実花 (藍住エンジェル)
平成20年度	四宮 菜帆・岡田 彩衣 (内町ジュニア)	長町 夏実・岩崎 楓由 (八万ジュニア)	猪井 美沙・森上 紗衣 (助任ジュニア)	京野 沙耶・中瀬 朱里 (藍住エンジェル)
平成21年度	佐藤 実花・廣田 健 (藍住エンジェル)	大西 映美・畠山 美南 (小松島ジュニア)	小賀野 結香・山本 麻由 (福島ラビット)	春本 ゆき・田辺 梨子 (助任ジュニア)
平成22年度	植田 真以・猪井 翔吾 (助任ジュニア)	友成 花音・谷 歩夏 (小松島ジュニア)	高橋 奈那・堀口 桂吾 (小松島ジュニア)	山本 仁子・小縣 藍 (藍住エンジェル)
平成23年度	吉岡 壮馬・雑賀 稔弥 (助任ジュニア)	十川 望・吉本 妃那 (福島ラビット)	西川 諒・切原 美月 (上板レインボーズ)	庄野 若葉・井上 京香 (相生B. C)
平成24年度	岡本 悠伶・三木 都萌 (藍住エンジェル)	美濃 汀・井上 克海 (北島Bambi)	濵本 優里・原 心夏 (北島Bambi)	原 彩月・西川由香乃 (上板レインボーズ)

平成25年度より男女別
男子4年生以下ダブルス

平成25年度	田辺 陸人・蛯原 健心 (助任ジュニア)	藤田 恵輔・戸田 直也 (加茂名ジュニア)		

女子4年生以下ダブルス

平成25年度	久次米 愛・西川 由香乃 (藍住エンジェル)	高橋 采也・森本 花奈 (北島Bambi)		

4年生以下ダブルス

平成26年度	樋口 未羽・田頭 望乃加 (藍住エンジェル)	西川 友貴・郡 楓真 (藍住エンジェル)	日下 椋太・三浦 惟貴 (小松島ジュニア)	後藤 大智・原 大純 (北島Bambi)

3年の部ダブルス（平成18年度より新設）

年度	優勝	準優勝	第三位	
平成18年度	新田 将大・佐藤 侑紀 （藍住エンジェル）	貴虎 世奈・岸 菜々海 （助任ジュニア）	中井 寧々・磯田 美咲 （小松島ジュニア）	中野 飛騎・中元 裕 （鷲敷ジュニア）
平成19年度	四宮 菜帆・岡田 彩衣 （内町ジュニア）	中野 飛騎・中野 萌々 （鷲敷ジュニア）	廣田 健・久次米 みなみ （藍住エンジェル）	長町 夏実・岩崎 楓由 （八万ジュニア）
平成20年度	佐藤 実花・廣田 健 （藍住エンジェル）	大西 映美・畠山 美南 （小松島ジュニア）	渡辺 佳奈・久次米 みなみ （藍住エンジェル）	
平成21年度	植田 真以・吉岡 壮馬 （助任ジュニア）	猪井 翔吾・雑賀 稔弥 （助任ジュニア）	高橋 奈那・谷 歩夏 （小松島ジュニア）	京野 由依・石田 藍子 （藍住エンジェル）
平成22年度	吉岡 壮馬・雑賀 稔弥 （助任ジュニア）	福田 治紀・砂川 晃士朗 （福島ラビット）	山本 麻由・十川 望 （福島ラビット）	京野 由依・岡本 悠伶 （藍住エンジェル）
平成23年度	三木 都萌・久次米 愛 （藍住エンジェル）	岡本 悠伶・井上 怜嗣 （藍住エンジェル）	西川 友貴・長原 稔 （上板レインボーズ）	中内 佑哉・田辺 陸人 （助任ジュニア）
平成24年度	井上 怜嗣・久次米 愛 （藍住エンジェル）	長原 稔・西川 友貴 （上板レインボーズ）	金澤 志歩・郡 楓真 （藍住エンジェル）	田辺 陸人・蛯原 健心 （助任ジュニア）

平成25年度より男女別

男子3年生以下ダブルス

平成25年度	西川 友貴・郡 楓真 （藍住エンジェル）	後藤 大智・原 大純 （北島Bambi）	日下 椋太・三浦 惟貴 （小松島ジュニア）	田頭 侑也・西川 佳吾 （藍住エンジェル）

女子3年生以下ダブルス

平成25年度	金澤 志歩・田頭 望乃加 （藍住エンジェル）	古林 優華・大西 彩愛 （藍住エンジェル）	舛田 愛実・白石 和 （藍住エンジェル）	古林 愛華・三浦 彩音 （藍住エンジェル）

3年生以下ダブルス

平成26年度	田頭 侑也・西川 佳吾 （藍住エンジェル）	曽我井 優斗・原 奏心 （北島Bambi）	蔵本 奈央・柏木 香乃 （内町ジュニア）	両徳 優莉・岩崎 加恵 （八万ジュニア）

6年の部シングルス

平成9年度	井村 浩子 （内町スポーツ少年団）	篠原 ちあき （藍住エンジェル）	渡越 総一郎 （藍住エンジェル）	井村 幸奈 （平野スポーツ少年団）
平成10年度	井村 佳子 （内町バドミントンクラブ）	川島 誠悟 （日和佐スポーツ少年団）	兼市 加奈 （赤松スポーツ少年団）	原野 安由美 （赤松スポーツ少年団）
平成11年度	羽里 華 （藍住エンジェル）	武田 直也 （日和佐スポーツ少年団）	井上 憂香 （平野スポーツ少年団）	松野 由紀子 （上那賀）
平成12年度	大阪 あや （内町ジュニア）	大倉 弘樹 （藍住エンジェル）	上佐 亜由美 （赤松スポーツ少年団）	仁木 純子 （内町ジュニア）
平成13年度	松友 仁美 （藍住エンジェル）	羽里 直緒 （藍住エンジェル）	久次米 佐和子 （藍住エンジェル）	植田 佳奈 （相生スポーツ少年団）
平成14年度	松友 美佐紀 （藍住エンジェル）	森本 亮 （藍住エンジェル）	國安 香好 （助任ジュニア）	四宮 与寛 （藍住エンジェル）
平成15年度	松友 美佐紀 （藍住エンジェル）	神原 靖奈 （藍住エンジェル）	金森 優太 （藍住エンジェル）	水口 愛梨 （藍住エンジェル）
平成16年度	福家 匠麻 （八万ジュニア）	山本 杏子 （助任ジュニア）	井田 みづき （赤松スポーツ少年団）	丸山 奈津実 （赤松スポーツ少年団）
平成17年度	藤本 陽奈 （藍住エンジェル）	前里 愛子 （福島ラビット）	國安 涼可 （助任ジュニア）	山本 桜子 （助任ジュニア）
平成18年度	水口 恭兵 （藍住エンジェル）	金森 望 （藍住エンジェル）	小松 亜依 （内町ジュニア）	田上 智美 （桜谷スポーツ少年団）
平成19年度	水口 恭兵 （藍住エンジェル）	金澤 加奈 （助任ジュニア）	木下 七星 （八万ジュニア）	四宮 詩織 （内町ジュニア）
平成20年度	鶴熊 美樹 （藍住エンジェル）	森 隆子 （内町ジュニア）	山下 華奈 （八万ジュニア）	武田 佳奈 （助任ジュニア）
平成21年度	新田 将大 （藍住エンジェル）	川崎 右京 （福島ラビット）	廣田 美柚 （藍住エンジェル）	佐藤 侑紀 （藍住エンジェル）
平成22年度	長町 夏実 （八万ジュニア）	岩崎 楓由 （八万ジュニア）	京野 沙耶 （藍住エンジェル）	中瀬 朱里 （藍住エンジェル）
平成23年度	佐藤 実花 （藍住エンジェル）	岡 蒼太 （福島ラビット）	岡田 彩衣 （内町ジュニア）	渡辺 佳奈 （藍住エンジェル）
平成24年度	高橋 奈那 （小松島ジュニア）	友成 花音 （小松島ジュニア）	西村 祐哉 （北島Bambi）	小薮 翔真 （北島Bambi）

男子6年生以下シングルス

平成25年度	吉岡 壮馬 （助任ジュニア）	堀口 桂吾 （小松島ジュニア）	中川 怜 （北島Bambi）	井上 拓海 （福島ラビットB．C）
平成26年度	岡本 悠伶 （藍住エンジェル）	綿谷 拓真 （上板ジュニア）		

女子6年生以下シングルス

平成25年度	山本 麻由 （福島ラビットB．C）	中川 乙花 （北島Bambi）	吉本 妃那 （福島ラビットB．C）	川原 みなみ （助任ジュニア）
平成26年度	中田 杏優 （助任ジュニア）	三木 都萌 （藍住エンジェル）	美濃 汀 （北島Bambi）	増本 光莉 （林崎ジュニア）

5年の部シングルス

年度	優勝	準優勝	第三位	
平成9年度	原野 安由美 （赤松スポーツ少年団）	井村 桂子 （内町スポーツ少年団）	平川 則子 （桜谷スポーツ少年団）	兼市 加奈 （赤松スポーツ少年団）
平成10年度	羽里 華 （藍住エンジェル）	武田 直也 （日和佐スポーツ少年団）	前田 梨香子 （内町バドミントンクラブ）	川井 文哉 （内町バドミントンクラブ）
平成11年度	上佐 亜由美 （赤松スポーツ少年団）	仁木 純子 （内町ジュニア）	青木 綾香 （赤松スポーツ少年団）	大倉 弘樹 （藍住エンジェル）
平成12年度	松友 仁美 （藍住エンジェル）	羽里 直緒 （藍住エンジェル）	久次米 佐和子 （藍住エンジェル）	猪木 智恵 （藍住エンジェル）
平成13年度	松友 美佐紀 （藍住エンジェル）	四宮 与寛 （藍住エンジェル）	森本 亮 （藍住エンジェル）	横田 奈津実 （藍住エンジェル）
平成14年度	神原 靖奈 （藍住エンジェル）	水口 愛梨 （藍住エンジェル）	宮沢 沙季 （相生スポーツ少年団）	金森 優太 （藍住エンジェル）
平成15年度	福家 匠麻 （八万ジュニア）	山本 杏子 （助任ジュニア）	丸山 奈津実 （赤松スポーツ少年団）	石本 美姫 （日和佐スポーツ少年団）
平成16年度	藤本 陽奈 （藍住エンジェル）	國安 涼可 （助任ジュニア）	前里 愛子 （福島ラビット）	山本 桜子 （助任ジュニア）
平成17年度	金森 望 （藍住エンジェル）	三好 映理香 （藍住エンジェル）	田上 智美 （桜谷スポーツ少年団）	小松 亜依 （内町ジュニア）
平成18年度	四宮 詩織 （内町ジュニア）	金澤 加奈 （助任ジュニア）	井上 大和 （八万ジュニア）	小原 美咲 （福島ラビット）
平成19年度	森 隆子 （内町ジュニア）	鶴熊 美樹 （藍住エンジェル）	吉岡 和真 （助任ジュニア）	樫山 哲也 （福島ラビット）
平成20年度	新田 将大 （藍住エンジェル）	川崎 右京 （福島ラビット）	廣田 美柚 （藍住エンジェル）	佐藤 侑紀 （藍住エンジェル）
平成21年度	長町 夏実 （八万ジュニア）	四宮 菜帆 （内町ジュニア）	京野 沙耶 （藍住エンジェル）	岩崎 楓由 （八万ジュニア）
平成22年度	佐藤 実花 （藍住エンジェル）	岡 蒼太 （福島ラビット）	岡田 彩衣 （内町ジュニア）	大西 映美 （小松島ジュニア）
平成23年度	西村 祐哉 （北島Bambi）	友成 花音 （小松島ジュニア）	高橋 奈那 （小松島ジュニア）	猪井 翔吾 （助任ジュニア）
平成24年度	吉岡 壮馬 （助任ジュニア）	堀口 桂吾 （小松島ジュニア）	山本 麻由 （福島ラビット）	十川 望 （福島ラビット）

男子5年生以下シングルス

平成25年度	岡本 悠伶 （藍住エンジェル）	綿谷 拓真 （上板Jr.）	森上 依嗣 （上板レインボーズ）	中塩 佑哉 （助任ジュニア）
平成26年度	井上 怜嗣 （藍住エンジェル）	田辺 陸人 （助任ジュニア）	長原 稔 （上板レインボーズ）	

女子5年生以下シングルス

平成25年度	増本 光莉 （林崎ジュニア）	美濃 汀 （北島Bambi）	三木 都萌 （藍住エンジェル）	中田 杏優 （助任ジュニア）
平成26年度	久次米 愛 （藍住エンジェル）	西川 由香乃 （藍住エンジェル）	高橋 采也 （北島Bambi）	

4年の部シングルス

平成9年度	武田 直也 （日和佐スポーツ少年団）	井上 憂香 （平野スポーツ少年団）	羽里 華 （藍住エンジェル）	宮沢 和己 （平野スポーツ少年団）
平成10年度	種目なし			
平成11年度	松友 仁美 （藍住エンジェル）	羽里 直緒 （藍住エンジェル）	遊亀 渚紗 （日和佐スポーツ少年団）	大平 真己 （赤松スポーツ少年団）
平成12年度	松友 美佐紀 （藍住エンジェル）	四宮 与寛 （藍住エンジェル）	國安 香好 （助任ジュニア）	上佐 友希 （赤松スポーツ少年団）
平成13年度	神原 靖奈 （藍住エンジェル）	水口 愛梨 （藍住エンジェル）	金森 優太 （藍住エンジェル）	森本 祐多 （パワーズ）
平成14年度	福家 匠麻 （八万ジュニア）	國安 涼可 （助任ジュニア）	山本 杏子 （助任ジュニア）	丸山 奈津実 （赤松スポーツ少年団）
平成15年度	國安 涼可 （助任ジュニア）	藤本 陽奈 （藍住エンジェル）	山本 桜子 （助任ジュニア）	前里 愛子 （福島ラビット）
平成16年度	金森 望 （藍住エンジェル）	三好 映理香 （藍住エンジェル）	水口 恭兵 （藍住エンジェル）	田上 智美 （桜谷スポーツ少年団）
平成17年度	水口 恭兵 （藍住エンジェル）	四宮 詩織 （内町ジュニア）	木下 七星 （八万ジュニア）	金澤 加奈 （助任ジュニア）
平成18年度	鶴熊 美樹 （藍住エンジェル）	森 隆子 （内町ジュニア）	田中 里佳 （藍住エンジェル）	樫山 哲也 （福島ラビット）
平成19年度	新田 将大 （藍住エンジェル）	佐藤 侑紀 （藍住エンジェル）	廣田 美柚 （藍住エンジェル）	川崎 右京 （福島ラビット）

年度	優勝	準優勝	第三位	
平成20年度	長町 夏実 (八万ジュニア)	四宮 菜帆 (内町ジュニア)	京野 沙耶 (藍住エンジェル)	京野 里咲 (藍住エンジェル)
平成21年度	岡 蒼太 (福島ラビット)	佐藤 実花 (藍住エンジェル)	岡田 彩衣 (内町ジュニア)	廣田 健 (藍住エンジェル)
平成22年度	植田 真以 (助任ジュニア)	猪井 翔吾 (助任ジュニア)	友成 花音 (小松島ジュニア)	山本 仁子 (藍住エンジェル)
平成23年度	吉岡 壮馬 (助任ジュニア)	堀口 桂吾 (小松島ジュニア)	十川 望 (福島ラビット)	山本 麻由 (福島ラビット)
平成24年度	岡本 悠伶 (藍住エンジェル)	増本 光莉 (林崎ジュニア)	美濃 汀 (北島Bambi)	綿谷 拓真 (上板レインボーズ)

男子4年生以下シングルス

平成25年度	井上 怜嗣 (藍住エンジェル)	田辺 陸人 (助任ジュニア)	長原 稔 (上板レインボーズ)	井上 克海 (福島ラビットB. C)
平成26年度	川原 光騎 (助任ジュニア)	西川 友貴 (藍住エンジェル)		

女子4年生以下シングルス

平成25年度	久次米 愛 (藍住エンジェル)	西川 由香乃 (藍住エンジェル)	田中 麻衣香 (福島ラビットB. C)	高橋 采也 (北島Bambi)
平成26年度	金澤 志歩 (藍住エンジェル)	樋口 未羽 (藍住エンジェル)	平岡 倖音 (助任ジュニア)	田頭 望乃加 (藍住エンジェル)

3年の部シングルス(平成18年度より新設)

平成18年度	新田 将大 (藍住エンジェル)	佐藤 侑紀 (藍住エンジェル)	廣田 美柚 (藍住エンジェル)	中野 飛騎 (鷲敷ジュニア)
平成19年度	中野 飛騎 (鷲敷ジュニア)	長町 夏実 (八万ジュニア)	四宮 菜帆 (内町ジュニア)	岡田 彩衣 (内町ジュニア)
平成20年度	岡田 彩衣 (内町ジュニア)	岡 蒼太 (福島ラビット)	佐藤 実花 (藍住エンジェル)	廣田 健 (藍住エンジェル)
平成21年度	植田 真以 (助任ジュニア)	吉岡 壮馬 (助任ジュニア)	高橋 奈那 (小松島ジュニア)	猪井 翔吾 (助任ジュニア)
平成22年度	吉岡 壮馬 (助任ジュニア)	山本 麻由 (福島ラビット)	堀口 桂吾 (小松島ジュニア)	福田 治紀 (福島ラビット)
平成23年度	増本 光莉 (林崎ジュニア)	岡本 悠伶 (藍住エンジェル)	井上 怜嗣 (藍住エンジェル)	三木 都萌 (藍住エンジェル)
平成24年度	久次米 愛 (藍住エンジェル)	井上 怜嗣 (藍住エンジェル)	田辺 陸人 (助任ジュニア)	井上 克海 (北島Bambi)

男子3年生以下シングルス

平成25年度	川原 光騎 (助任ジュニア)	西川 友貴 (藍住エンジェル)	郡 楓真 (藍住エンジェル)	日下 椋太 (小松島ジュニア)
平成26年度	田頭 侑也 (藍住エンジェル)	西川 佳吾 (藍住エンジェル)		

女子3年生以下シングルス

平成25年度	金澤 志歩 (藍住エンジェル)	樋口 未羽 (北島Bambi)	平岡 倖音 (助任ジュニア)	樋口 吹羽 (北島Bambi)
平成26年度	金澤 志歩 (藍住エンジェル)	樋口 未羽 (藍住エンジェル)	平岡 倖音 (助任ジュニア)	田頭 望乃加 (藍住エンジェル)

徳島県小学生バドミントン選手権大会

5年生以下ダブルス

年度	優勝	準優勝	第三位	
平成9年度	松本 彩佳・舛田 和美 (平野スポーツ少年団)	原野 安由美・兼市 加奈 (赤松スポーツ少年団)	正木 佑佳・内田 順子 (藍住エンジェル)	野張 茜・大城 結佳 (日和佐スポーツ少年団)
平成10年度	井上 憂香・舛田 和美 (平野スポーツ少年団)	松野 由紀子・小川 静香 (上那賀スポーツ少年団)	川井 文哉・前田 梨香子 (内町バドミントンクラブ)	羽里 華・長田 佳央梨 (藍住エンジェル)
平成11年度	仁木 純子・大阪 あや (内町ジュニア)	西 紗由美・立川 ゆかり (内町ジュニア)	上佐 亜由美・岡本 美佳 (赤松スポーツ少年団)	大倉 弘樹・日根野 圭恵 (藍住エンジェル)
平成12年度	松友 仁美・羽里 直緒 (藍住エンジェル)	植田 佳奈・中川 雪絵 (平野スポーツ少年団)	久次米佐和子・日根野光恵 (藍住エンジェル)	
平成13年度	横田 奈津実・松友 美佐紀 (藍住エンジェル)	森本 亮・土橋 拓弥 (藍住エンジェル)	國安 香好・澤口 朋未 (助任ジュニア)	森田 真秀子・森 万希子 (内町ジュニア)
平成14年度	松友 美佐紀・水口 愛梨 (藍住エンジェル)	神原 靖奈・藤本 香那 (藍住エンジェル)	宮崎 友望・佐々木 遙香 (藍住エンジェル)	宮沢 沙希・樫栄 祥子 (相生スポーツ少年団)
平成15年度	丸山 奈津実・井田 みずき (赤松スポーツ少年団)	土橋 美保・藤本 陽奈 (藍住エンジェル)	福家 匠麻・木下 星羅 (八万ジュニア)	山本 杏子・浅野 孝介 (助任ジュニア)
平成16年度	國安涼可・山本 桜子 (助任ジュニア)	樫山 実穂・馬部 美咲 (福島ラビット)	木村 友輔・浅野 孝介 (藍住エンジェル)	藤本 陽奈・折部 雄太 (藍住エンジェル)
平成17年度	金森 望・三好 映理香 (藍住エンジェル)	羽生 紋佳・油谷 彩子 (福島ラビット)	塚本 祥子・小松 亜依 (内町ジュニア)	田上 智美・大谷 伊純 (桜谷スポーツ少年団)
平成18年度	水口 恭兵・藤本 英 (藍住エンジェル)	金澤 加奈・桑原 未彩 (助任ジュニア)	小原 美咲・馬部 美花 (福島ラビット)	四宮 詩織・庄司 真由 (内町ジュニア)
平成19年度	森 隆子・露口 有香 (内町ジュニア)	武田 佳奈・吉岡 和真 (助任ジュニア)	鶴熊 美樹・田中 里佳 (藍住エンジェル)	樫山 哲也・斎藤 菜美 (福島ラビット)
平成20年度	新田 将大・佐藤 侑紀 (藍住エンジェル)	岸 菜々海・多田 早希 (内町ジュニア)	亀島 珠美・植田 菜月 (助任ジュニア)	川崎 右京・岡 蒼太 (福島ラビット)
平成21年度	長町 夏実・岩崎 楓由 (八万ジュニア)	四宮 菜帆・岡田 彩衣 (内町ジュニア)	京野 沙耶・中瀬 朱里 (藍住エンジェル)	北村 菜摘・岡 蒼太 (福島ラビット)
平成22年度	小賀野 結香・山本 麻由 (福島ラビット)	岡 蒼太・福田 治紀 (福島ラビット)	佐藤 実花・渡辺 佳奈 (藍住エンジェル)	大西 映美・数藤 夏帆 (小松島ジュニア)
平成23年度	友成 花音・谷 歩夏 (小松島ジュニア)	高橋 奈那・阿部 琹 (小松島ジュニア)	渡部 遥・切原 文梨 (上板レインボーズ)	西村 祐哉・小薮 翔真 (北島Bambi)
平成24年度	吉岡 壮馬・雑賀 稔弥 (助任ジュニア)	十川 望・山本 麻由 (福島ラビット)	京野 由依・板東 輝星 (藍住エンジェル)	中川 怜・井上 拓海 (北島Bambi)
平成25年度	岡本 悠伶・三木 都萌 (藍住エンジェル)	増本 光莉・森上 真央 (林崎ジュニア)	中田 杏優・伊豫谷 好葉 (助任ジュニア)	中塩 佑哉・松原 佳慧 (助任ジュニア)

4年生以下ダブルス

平成9年度	井上 憂香・舛田 梢 (平野スポーツ少年団)	羽里 華・森 茉由香 (藍住エンジェル)	武田 直也・喜和田 幸 (日和佐スポーツ少年団)	松野 由起子・株田 彬代 (海川バドミントン)
平成10年度	上佐 亜由美・岡本 美佳 (赤松スポーツ少年団)	仁木 純子・西 紗由美 (内町バドミントンクラブ)	松友 仁美・羽里 華 (藍住エンジェル)	大倉 弘樹・日根野 圭恵 (藍住エンジェル)
平成11年度	松友 仁美・羽里 直緒 (藍住エンジェル)	久次米佐和子・松友 美佐紀 (藍住エンジェル)	大平 真己・夏野 優香 (赤松スポーツ少年団)	日根野 光恵・氏家 由香利 (藍住エンジェル)
平成12年度	松友 美佐紀・横田 奈津実 (藍住エンジェル)	國安 香好・澤口 朋未 (助任ジュニア)	丸山 詩織・林田 夏奈 (赤松スポーツ少年団)	
平成13年度	宮沢 沙季・樫栄 祥子 (相生スポーツ少年団)	藤本 香那・水口 愛梨 (藍住エンジェル)	金森 優太・宮崎 友望 (藍住エンジェル)	大西 絵梨・山本 杏子 (助任ジュニア)
平成14年度	土橋 美保・藤本 陽奈 (藍住エンジェル)	丸山 奈津実・井田 みずき (赤松スポーツ少年団)	前里 愛子・馬部 美咲 (福島ラビット)	國安 涼可・山本 桜子 (助任ジュニア)
平成15年度	國安 涼可・山本 桜子 (助任ジュニア)	門脇 茉美・樫山 実穂 (福島ラビット)	木村 友輔・水口 恭兵 (藍住エンジェル)	金森 望・三好 映理香 (藍住エンジェル)
平成16年度	金森 望・三好 映理香 (藍住エンジェル)	水口 恭兵・藤本 英 (藍住エンジェル)	油谷 彩子・斎藤 春菜 (福島ラビット)	小松 亜依・塚本 祥子 (内町ジュニア)
平成17年度	水口 恭兵・藤本 英 (藍住エンジェル)	井上 大和・木下 七星 (八万ジュニア)	金澤 加奈・桑原 未彩 (助任ジュニア)	小原 美咲・馬部 美花 (福島ラビット)
平成18年度	吉岡 和真・武田 佳奈 (助任ジュニア)	森 隆子・露口 有香 (内町ジュニア)	樫山 哲也・川崎 右京 (福島ラビット)	鶴熊 美樹・田中 里佳 (藍住エンジェル)
平成19年度	新田 将大・佐藤 侑紀 (藍住エンジェル)	川崎 右京・岡 蒼太 (福島ラビット)	岸 菜々海・多田 早希 (内町ジュニア)	中井 寧々・千田 侑里美 (小松島ジュニア)
平成20年度	長町 夏実・岩崎 楓由 (八万ジュニア)	四宮 菜帆・岡田 彩衣 (内町ジュニア)	京野 沙耶・中瀬 朱里 (藍住エンジェル)	
平成21年度	佐藤 実花・廣田 健 (藍住エンジェル)	渡辺 佳奈・福良 里奈 (藍住エンジェル)	小賀野 結香・山本 麻由 (福島ラビット)	大西 映美・数藤 夏帆 (小松島ジュニア)
平成22年度	友成 花音・高橋 奈那 (小松島ジュニア)	谷 歩夏・堀口 桂吾 (小松島ジュニア)	猪井 翔吾・植田 真以 (助任ジュニア)	蔵本 理沙子・横田 百香 (内町ジュニア)
平成23年度	吉岡 壮馬・雑賀 稔弥 (助任ジュニア)	山本 麻由・吉本 妃那 (福島ラビット)	井上 拓海・中川 怜 (北島Bambi)	板東 輝星・井上 怜南 (藍住エンジェル)
平成24年度	美濃 汀・井上 克海 (北島Bambi)	岡本 悠伶・三木 都萌 (藍住エンジェル)	中田 杏優・若山 千夏 (助任ジュニア)	原 心夏・廣瀬 あい (北島Bambi)
平成25年度	久次米 愛・西川 由香乃 (藍住エンジェル)	田辺 陸人・川原 光騎 (助任ジュニア)	高橋 采也・森本 花奈 (北島Bambi)	井上 怜嗣・西川 友貴 (藍住エンジェル)

3年生以下ダブルス（平成18年度より新設）

年度	優勝	準優勝	第三位	
平成18年度	新田 将大・佐藤 侑紀 （藍住エンジェル）	中野 飛騎・中元 裕 （鷲敷ジュニア）	高岡 怜多・渡守 未来 （桜谷スポーツ少年団）	貴虎 世奈・岸 菜々海 （助任ジュニア）
平成19年度	四宮 菜帆・岡田 彩衣 （内町ジュニア）	長町 夏実・岩崎 楓由 （八万ジュニア）	西原 和馬・林 芙由香 （加茂名ジュニア）	佐藤 実花・廣田 健 （藍住エンジェル）
平成20年度	佐藤 実花・廣田 健 （藍住エンジェル）	大西 映美・畠山 美南 （小松島ジュニア）		
平成21年度	植田 真以・吉岡 壮馬	猪井 翔吾・雑賀 稔弥	山本 麻由・砂川 晃士朗	
平成22年度	山本 麻由・十川 望 （福島ラビット）	吉岡 壮馬・雑賀 稔弥 （助任ジュニア）	福田 治紀・砂川 晃士朗 （福島ラビット）	庄野 若葉・井上 京香 （相生B.C）
平成23年度	岡本 悠伶・井上 怜嗣 （藍住エンジェル）	三木 都萌・久次米 愛 （藍住エンジェル）	長原 稔・西川 友貴 （上板レインボーズ）	中内 佑哉・田辺 陸人 （助任ジュニア）
平成24年度	井上 怜嗣・久次米 愛 （藍住エンジェル）	田辺 陸人・蛯原 健心 （助任ジュニア）	日下 椋太・三浦 惟貴 （小松島ジュニア）	高橋 采也・森本 花奈 （北島Bambi）
平成25年度	金澤 志歩・田頭 望乃加 （藍住エンジェル）	樋口 未羽・林 真央 （北島Bambi）	後藤 大智・原 大純 （北島Bambi）	三浦 惟貴・日下 椋太 （小松島ジュニア）

5年生以下シングルス

平成9年度	井村 桂子 （内町スポーツ少年団）	平川 則子 （桜谷スポーツ少年団）	松本 彩佳 （平野スポーツ少年団）	兼市 加奈 （赤松スポーツ少年団）
平成10年度	武田 直也 （日和佐スポーツ少年団）	羽里 華 （藍住エンジェル）	川井 益美 （内町バドミントンクラブ）	鏡 奈保子 （藍住エンジェル）
平成11年度	大阪 あや （内町ジュニア）	仁木 純子 （内町ジュニア）	西 紗由美 （内町ジュニア）	大倉 弘樹 （藍住エンジェル）
平成12年度	松友 仁美 （藍住エンジェル）	羽里 直緒 （藍住エンジェル）	久次米 佐和子 （藍住エンジェル）	
平成13年度	森本 亮 （藍住エンジェル）	松友 美佐紀 （藍住エンジェル）	鏡 裕樹 （藍住エンジェル）	四宮 与寛 （藍住エンジェル）
平成14年度	松友 美佐紀 （藍住エンジェル）	神原 靖奈 （藍住エンジェル）	金森 優太 （藍住エンジェル）	水口 愛梨 （藍住エンジェル）
平成15年度	福家 匠麻 （八万ジュニア）	山本 杏子 （助任ジュニア）	丸山 奈津実 （赤松スポーツ少年団）	井田 みずき （赤松スポーツ少年団）
平成16年度	國安涼可 （助任ジュニア）	藤本 陽奈 （藍住エンジェル）	齋藤 裕進 （加茂名ジュニア）	木村 友輔 （藍住エンジェル）
平成17年度	金森 望 （藍住エンジェル）	田上 智美 （桜谷スポーツ少年団）	三好 映理香 （藍住エンジェル）	羽生 紋佳 （福島ラビット）
平成18年度	水口 恭兵 （藍住エンジェル）	四宮 詩織 （内町ジュニア）	小原 美咲 （福島ラビット）	金澤 加奈 （助任ジュニア）
平成19年度	森 隆子 （内町ジュニア）	鶴熊 美樹 （藍住エンジェル）	山下 華奈 （八万ジュニア）	樫山 哲也 （福島ラビット）
平成20年度	新田 将大 （藍住エンジェル）	川崎 右京 （福島ラビット）	佐藤 侑紀 （藍住エンジェル）	廣田 美柚 （藍住エンジェル）
平成21年度	長町 夏実 （八万ジュニア）	岩崎 楓由 （八万ジュニア）	四宮 菜帆 （内町ジュニア）	京野 沙耶 （藍住エンジェル）
平成22年度	佐藤 実花 （藍住エンジェル）	岡 蒼太 （福島ラビット）	岡田 彩衣 （内町ジュニア）	大西 映美 （小松島ジュニア）
平成23年度	西村 祐哉 （北島Bambi）	小藪 翔真 （北島Bambi）	高橋 奈那 （小松島ジュニア）	友成 花音 （小松島ジュニア）
平成24年度	吉岡 壮馬 （助任ジュニア）	堀口 桂吾 （小松島ジュニア）	井上 拓海 （北島Bambi）	十川 望 （福島ラビット）

平成25年度より男女別

男子5年生以下シングルス

平成25年度	岡本 悠伶 （藍住エンジェル）	森上 依嗣 （上板レインボーズ）	松原 佳慧 （助任ジュニア）	中塩 佑哉 （助任ジュニア）

女子5年生以下シングルス

平成25年度	三木 都萌 （藍住エンジェル）	増本 光莉 （林崎ジュニア）	美濃 汀 （北島Bambi）	中田 杏優 （助任ジュニア）

4年生以下シングルス

平成9年度	武田 直也 （日和佐スポーツ少年団）	羽里 華 （藍住エンジェル）	小川 静香 （桜谷スポーツ少年団）	井上 愛香 （平野スポーツ少年団）
平成10年度	青木 綾香 （赤松スポーツ少年団）	上佐 亜由美 （赤松スポーツ少年団）	遠藤 友美 （平野スポーツ少年団）	日根野 圭恵 （藍住エンジェル）
平成11年度	松友 仁美 （藍住エンジェル）	羽里 直緒 （藍住エンジェル）	喜和田 咲季 （日和佐スポーツ少年団）	遊亀 渚紗 （日和佐スポーツ少年団）
平成12年度	松友 美佐紀 （藍住エンジェル）	横田 奈津実 （藍住エンジェル）	鏡 裕樹 （藍住エンジェル）	
平成13年度	神原 靖奈 （藍住エンジェル）	水口 愛梨 （藍住エンジェル）	藤本 香那 （藍住エンジェル）	金森 優太 （藍住エンジェル）
平成14年度	福家 匠麻 （八万ジュニア）	山本 杏子 （助任ジュニア）	井田 みづき （赤松スポーツ少年団）	丸山 奈津実 （赤松スポーツ少年団）

年度	優勝	準優勝	第三位	
平成15年度	國安 涼可 （助任ジュニア）	藤本 陽奈 （藍住エンジェル）	山崎 瞳 （赤松スポーツ少年団）	山本 桜子 （助任ジュニア）
平成16年度	金森 望 （藍住エンジェル）	水口 恭兵 （藍住エンジェル）	田上 智美 （桜谷スポーツ少年団）	小松 亜依 （内町ジュニア）
平成17年度	水口 恭兵 （藍住エンジェル）	金澤 加奈 （助任ジュニア）	四宮 詩織 （内町ジュニア）	木下 七星 （八万ジュニア）
平成18年度	森 隆子 （内町ジュニア）	樫山 哲也 （福島ラビット）	鶴熊 美樹 （藍住エンジェル）	吉岡 和真 （助任ジュニア）
平成19年度	新田 将大 （藍住エンジェル）	佐藤 侑紀 （藍住エンジェル）	川崎 右京 （福島ラビット）	廣田 美柚 （藍住エンジェル）
平成20年度	長町 夏実 （八万ジュニア）	四宮 菜帆 （内町ジュニア）	京野 沙耶 （藍住エンジェル）	岩崎 楓由 （八万ジュニア）
平成21年度	佐藤 実花 （藍住エンジェル）	岡 蒼太 （福島ラビット）	岡田 彩衣 （内町ジュニア）	廣田 健 （藍住エンジェル）
平成22年度	植田 真衣 （助任ジュニア）	谷 歩夏 （小松島ジュニア）	西村 祐哉 （北島Bambi）	高橋 奈那 （小松島ジュニア）
平成23年度	吉岡 壮馬 （助任ジュニア）	堀口 桂吾 （小松島ジュニア）	十川 望 （福島ラビット）	山本 麻由 （福島ラビット）
平成24年度	増本 光莉 （林崎ジュニア）	岡本 悠伶 （藍住エンジェル）	三木 都萌 （藍住エンジェル）	綿谷 拓真 （上板レインボーズ）

平成25年度より男女別
男子4年生以下シングルス

平成25年度	井上 怜嗣 （藍住エンジェル）	田辺 陸人 （助任ジュニア）	井上 克海 （福島ラビットB. C）	長原 稔 （上板レインボーズ）

女子4年生以下シングルス

平成25年度	久次米 愛 （藍住エンジェル）	西川 由香乃 （藍住エンジェル）	高橋 采也 （北島Bambi）	原 愛美 （上板Jr. ）

3年生以下シングルス（平成18年度より新設）

平成18年度	新田 将大 （藍住エンジェル）	佐藤 侑紀 （藍住エンジェル）	高岡 怜多 （桜谷スポーツ少年団）	廣田 美柚 （藍住エンジェル）
平成19年度	岡田 彩衣 （内町ジュニア）	四宮 菜帆 （内町ジュニア）	佐藤 実花 （藍住エンジェル）	西原 和馬 （加茂名ジュニア）
平成20年度	岡 蒼太 （福島ラビット）	岡田 彩衣 （内町ジュニア）	佐藤 実花 （藍住エンジェル）	廣田 健 （藍住エンジェル）
平成21年度	植田 真衣 （助任ジュニア）	吉岡 壮馬 （助任ジュニア）	猪井 翔吾 （助任ジュニア）	高橋 奈那 （小松島ジュニア）
平成22年度	吉岡 壮馬 （助任ジュニア）	堀口 桂吾 （小松島ジュニア）	福田 治紀 （福島ラビット）	山本 麻由 （福島ラビット）
平成23年度	岡本 悠伶 （藍住エンジェル）	井上 怜嗣 （藍住エンジェル）	久次米 愛 （藍住エンジェル）	増本 光莉 （林崎ジュニア）
平成24年度	井上 怜嗣 （藍住エンジェル）	久次米 愛 （藍住エンジェル）	田辺 陸人 （助任ジュニア）	金澤 志歩 （藍住エンジェル）
平成25年度				

平成25年度より男女別
男子3年生以下シングルス

平成25年度	川原 光騎 （助任ジュニア）	西川 友貴 （藍住エンジェル）	三浦 惟貴 （小松島ジュニア）	日下 椋太 （小松島ジュニア）

女子3年生以下シングルス

平成25年度	金澤 志歩 （藍住エンジェル）	樋口 未羽 （北島Bambi）	田頭 望乃加 （藍住エンジェル）	平岡 倖音 （助任ジュニア）

全国大会成績

年度	大会名	種目/結果	氏名
平成10年(1998)	第3回全国小学生都道府県対抗バドミントン大会	女子団体 第3位	徳島県(井村 桂子、兼市 加奈、原野 安由美)
平成11年(1999)	第15回若葉カップ全国小学生バドミントン大会	女子の部 第3位	藍住エンジェル
平成12年(2000)	第1回全国小学生ABCバドミントン大会	女子Aの部 第5位	大阪 あや(内町ジュニア)
		女子Bの部 第5位	松友 美佐紀(藍住エンジェル)
	第9回全国小学生バドミントン選手権大会	6年生以下女子単 第3位	大阪 あや(内町ジュニア)
		4年生以下女子複 第3位	丸山 詩織・林田 夏奈(赤松スポーツ少年団)
平成13年(2001)	第17回若葉カップ全国小学生バドミントン大会	女子の部 優勝	藍住エンジェル
	第2回全国小学生ABCバドミントン大会	女子Bの部 優勝	松友 美佐紀(藍住エンジェル)
	第10回全国小学生バドミントン選手権大会	4年生以下女子単 優勝	松友 美佐紀(藍住エンジェル)
		4年生以下女子複 準優勝	水口 愛梨・藤本 香那(藍住エンジェル)
		6年生以下女子複 第5位	松友 仁美・羽里 直緒(藍住エンジェル)
平成14年(2002)	第3回全国小学生ABCバドミントン大会	女子Aの部 第5位	松友 美佐紀(藍住エンジエル)
	第11回全国小学生バドミントン選手権大会	5年生以下女子単 優勝	松友 美佐紀(藍住エンジェル)
		5年生以下女子単 準優勝	神原 靖奈(藍住エンジェル)
		5年生以下女子複 第5位	水口 愛梨・藤本 香那(藍住エンジェル)
平成15年(2003)	第19回若葉カップ全国小学生バドミントン大会	女子の部 優勝	藍住エンジェル
	第4回全国小学生ABCバドミントン大会	女子Aの部 優勝	松友　美佐紀(藍住エンジェル)
		女子Aの部 準優勝	神原　靖奈(藍住エンジェル)
	第12回全国小学生バドミントン選手権大会	女子団体 優勝	徳島県 (松友　美佐紀、神原　靖奈、水口　愛梨、藤本　香那、宮崎　友望、田上　祐子)
		6年生以下女子単 優勝	松友　美佐紀(藍住エンジェル)
		6年生以下女子複 第3位	水口　愛梨・藤本　香那(藍住エンジェル)
平成20年(2008)	第9回全国小学生ABCバドミントン大会	女子Aの部 第5位	森 隆子(内町ジュニア)
平成26年(2014)	第16回全国小学生ABCバドミントン大会	女子Cの部 優勝	樋口 吹羽(藍住エンジェル)

四国大会成績

年度	大会名	種目/結果	氏名
平成10年（1998）	第7回四国小学生バドミントン選手権大会	6年生女子単 準優勝	井村 桂子(内町バドミントンクラブ)
		5年生女子単 準優勝	羽里 華(藍住エンジェル)
		6年生女子複 優勝	原野 安由美・兼市 加奈(赤松スポーツ少年団)
		6年生女子複 準優勝	松本 彩佳・舛田 和美(平野スポーツ少年団)
		5年生女子複 第3位	井上 憂香・舛田 梢(平野スポーツ少年団)
平成11年（1999）	第8回四国小学生バドミントン選手権大会	6年生女子単 第3位	羽里 華(藍住エンジェル)
		5年生男子単 第3位	大倉 弘樹(藍住エンジェル)
		5年生女子単 第3位	仁木 純子(内町バドミントンクラブ)
		6年生女子複 準優勝	井上 憂香・舛田 梢(平野スポーツ少年団)
		5年生女子複 準優勝	青木 綾香・岡本 美佳(赤松スポーツ少年団)
平成12年（2000）	第9回四国小学生バドミントン選手権大会	6年生男子単 第3位	大倉 弘樹(藍住エンジェル)
		6年生女子単 準優勝	大阪 あや(内町ジュニア)
		6年生女子単 第3位	仁木 純子(内町ジュニア)
		4年生女子単 優勝	松友 美佐紀(藍住エンジェル)
		4年生女子単 第3位	横田 奈津実(藍住エンジェル)
		6年生女子複 第3位	遠藤 友美・谷崎 香織(平野スポーツ少年団)
		5年生女子複 優勝	松友 仁美・羽里 直緒(藍住エンジェル)
		5年生女子複 準優勝	久次米 佐和子・猪木 智恵(藍住エンジェル)
		4年生女子複 優勝	丸山 詩織・林田 夏奈(赤松スポーツ少年団)
		4年生女子複 準優勝	森 万希子・宮内 瑞季(内町ジュニア)
		4年生女子複 第3位	谷本 早紀・森本 華佳(赤松スポーツ少年団)
平成13年（2001）	第10回四国小学生バドミントン選手権大会	6年生女子単 第3位	久次米 佐和子(藍住エンジェル)
		5年生女子単 準優勝	横田 奈津実(藍住エンジェル)
		4年生男子単 優勝	金森 優太(藍住エンジェル)
		4年生女子単 優勝	松友 美佐紀(藍住エンジェル)
		6年生女子複 優勝	松友 仁美・羽里 直緒(藍住エンジェル)
		6年生女子複 準優勝	氏家 由香利・日根野 光恵(藍住エンジェル)
		5年生女子複 優勝	丸山 詩織・林田 夏奈(赤松スポーツ少年団)
		5年生女子複 準優勝	國安 香好・澤口 朋未(助任ジュニア)
		5年生女子複 第3位	谷本 早紀・森本 華佳(赤松スポーツ少年団)
		4年生女子複 優勝	水口 愛梨・藤本 香那(藍住エンジェル)
		4年生女子複 準優勝	宮澤 沙季・樫栄 祥子(相生スポーツ少年団)
		4年生女子複 第3位	四宮 千照・宮崎 友望(藍住エンジェル)
平成14年（2002）	第11回四国小学生バドミントン選手権大会	6年生男子単 第3位	森本 亮(藍住エンジェル)
		6年生女子単 第3位	横田 奈津実(藍住エンジェル)
		5年生男子単 準優勝	金森 優太(藍住エンジェル)
		5年生女子単 優勝	松友 美佐紀(藍住エンジェル)
		5年生女子単 準優勝	神原 靖奈(藍住エンジェル)
		6年生女子複 優勝	林田 夏奈・丸山 詩織(赤松スポーツ少年団)
		6年生女子複 準優勝	國安 香好・津口 朋未(助任ジュニア)
		6年生女子複 第3位	森本 華佳・谷本 早紀(赤松スポーツ少年団)
		5年生女子複 優勝	水口 愛梨・藤本 香那(藍住エンジェル)
		5年生女子複 準優勝	宮澤 沙季・樫栄 祥子(相生スポーツ少年団)
		4年生女子複 第3位	國安 涼可・山本 桜子(助任ジュニア)

年度	大会名	種目/結果	氏名
平成15年 (2003)	第12回四国小学生バドミントン選手権大会	6年生女子単 優勝	松友 美佐紀(藍住エンジェル)
		6年生女子単 準優勝	神原 靖奈(藍住エンジェル)
		6年生女子複 優勝	水口 愛梨・藤本 香那(藍住エンジェル)
		6年生女子複 第3位	山本 みさり・若田 美沙(福島ラビット)
		5年生女子複 第3位	丸山 奈津実・井田 みづき(赤松スポーツ少年団)
		4年生女子単 準優勝	藤本 陽奈(藍住エンジェル)
		4年生女子複 準優勝	國安 涼可・山本 桜子(助任ジュニア)
平成16年 (2004)	第13回四国小学生バドミントン選手権大会	6年生女子単 第3位	山本 杏子(助任ジュニア)
		6年生女子複 第3位	丸山 奈津実・井田 みづき(赤松スポーツ少年団)
		5年生女子単 準優勝	藤本 陽奈(藍住エンジェル)
		5年生女子複 優勝	國安 涼可・山本 桜子(助任ジュニア)
		4年生男子単 第3位	水口 恭平(藍住エンジェル)
		4年生女子単 第3位	羽生 紋佳(福島ラビット)
平成17年 (2005)	第14回四国小学生バドミントン選手権大会	6年生以下女子単 優勝	藤本 陽奈(藍住エンジェル)
		6年生以下女子複 優勝	國安 涼可・山本 桜子(助任ジュニア)
		6年生以下女子複 準優勝	樫山 実穂・馬部美咲(福島ラビット)
		5年生以下女子単 準優勝	金森 望(藍住エンジェル)
		4年生以下男子単 準優勝	水口 恭平(藍住エンジェル)
平成18年 (2006)	第15回四国小学生バドミントン選手権大会	6年生以下女子単 準優勝	金森 望(藍住エンジェル)
		6年生以下女子複 第3位	塚本 祥子・多田 菜南(内町ジュニア)
		5年生以下男子単 準優勝	水口 恭平(藍住エンジェル)
		5年生以下男子複 準優勝	藤本 英・佐藤 和哉(藍住エンジェル)
		4年生以下男子単 第3位	樫山 哲也(福島ラビット)
		4年生以下男子複 準優勝	新田 将大・佐藤 侑紀(藍住エンジェル)
		4年生以下女子単 第3位	鶴熊 美樹(藍住エンジェル)
平成19年 (2007)	第16回四国小学生バドミントン選手権大会	6年生以下男子単 準優勝	水口 恭平(藍住エンジェル)
		5年生以下男子単 優勝	樫山 哲也(福島ラビット)
		5年生以下女子単 準優勝	鶴熊 美樹(藍住エンジェル)
		4年生以下男子複 優勝	新田 将大・佐藤 侑紀(藍住エンジェル)
平成20年 (2008)	第17回四国小学生バドミントン選手権大会	6年生以下女子単 第3位	鶴熊 美樹(藍住エンジェル)
		5年生以下男子複 優勝	新田 将大・佐藤 侑紀(藍住エンジェル)
		5年生以下女子単 第3位	廣田 美柚(藍住エンジェル)
		4年生以下女子複 優勝	四宮 菜帆・岡田 彩衣(内町ジュニア)
平成21年 (2009)	第18回四国小学生バドミントン選手権大会	5年生以下女子単 準優勝	長町　夏実(八万ジュニア)
		4年生以下男子単 第3位	岡 蒼太(福島ラビット)
		6年生以下男子複 準優勝	新田 将大・佐藤 侑紀(藍住エンジェル)
		5年生以下女子複 第3位	四宮 菜帆・岡田 彩衣(内町ジュニア)
平成22年 (2010)	第19回四国小学生バドミントン選手権大会	6年生以下女子単 第3位	長町　夏実(八万ジュニア)
平成23年 (2011)	第20回四国小学生バドミントン選手権大会	4年生以下男子単 第3位	吉岡　壮馬(助任ジュニア)
平成24年 (2012)	第21回四国小学生バドミントン選手権大会	5年生以下男子単 第3位	吉岡　壮馬(助任ジュニア)
		4年生以下女子単 第3位	久次米 愛(藍住エンジェル)
		4年生以下男子複 準優勝	綿谷 拓真・長原 稔(上板レインボーズ)

年度	大会名	種目/結果	氏名
平成25年 (2013)	第22回四国小学生バドミントン選手権大会	6年生以下男子単 第3位	吉岡　壮馬(助任ジュニア)
		4年生以下男子単 第3位	井上　怜嗣(藍住エンジェル)
平成26年 (2014)	第23回四国小学生バドミントン選手権大会	5年生以下男子単 準優勝	井上　怜嗣(藍住エンジェル)
		4年生以下男子単 第3位	川原 光騎(助任ジュニア)
		4年生以下男子複 第3位	西川 友貴・田頭　侑也(藍住エンジェル)
		4年生以下女子複 優勝	金澤 志保・樋口未羽(藍住エンジェル)

歴代会長	初代(平成9年度)	藤本　孝彰
	平成23年度から	牛川　　務
歴代理事長	初代(平成9年度)	植田　宏和
	平成16年度から	藤本　　伸

徳島県バドミントン協会 規約

昭和34年４月１日制定

第一章 総 則

第一条 本協会は、徳島県バドミントン協会と称し、事務所は会長の定めるところに置く。

第二章 目的及び事業

第二条 本協会は、会員の中枢機関となり、本県のバドミントン競技を統括代表し、本競技の進歩発展を図り併せて県民の体位向上、明朗融和の精神を養い、県民相互の親善に寄与することを目的とする。

第三条 本協会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

一 県下選手権大会並びにその他の競技会の開催
二 国民体育大会への参加
三 競技の普及指導
四 その他本協会の目的達成に必要な事項

第三章 役 員

第四条 本協会は次の役員をおく。

一 会　　長　　一名
二 副 会 長　若干名
三 理 事 長　　一名
四 副理事長　若干名
五 理　　事　若干名
六 代 議 員　若干名
七 監　　事　　三名
八 会　　計　　一名
九 上記役員のほかに、名誉会長、顧問、参与を若干名おくことができる。

第五条 役員は、すべて総会において選出する。

第六条 会長は、本協会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長の事故あるときは、その会務を代行する。

第七条 理事長は、会長の命を受け、会務を執行する。

2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長の事故あるときは、その会務を代行する。

第八条 理事は、常務を掌理する。

2 理事の内半数以内を常任とする。

第九条 代議員は、加盟団体を代表し、事業運営に関する事項を審議する。

2 代議員は、加盟団体において一名選出する。

3 加盟団体とは、団体登録を行った団体をいう。

第十条 監事は、会計事務を監査し、会計は、経理を司る。

第十一条 役員の任期は二年とするも再任を妨げない。

2 補充役員の任期は、前任者の残任期間とする。

第四章　会　議

第十二条　本協会の会議は、総会、常任理事会及び理事会とする。

第十三条　総会は、全役員によって構成され、次の事項を審議する。

一　事業並びに収支決算報告
二　役員の選任
三　事業計画並びに予算編成
四　規約の改正
五　登録料、参加料の決定
六　その他

第十四条　理事会は理事長、副理事長及び理事で構成され、本協会の事業の運営を審議する。

2　常任理事会は理事長、副理事長及び常任理事で構成され、総会及び理事会において議決された事項に則り、本協会の事業を執行する。

第十五条　会議は、全て会長が招集し、出席者の過半数で決する。

第五章　組　織

第十六条　目的及び事業達成のため、総務と専門部をおく。

第十七条　総務は各専門部の会務を総括する。

第十八条　専門部は、競技審判部及び強化普及部とする。

第六章　登　録

第十九条　本協会の登録は、会員登録及び団体登録とする。

第二十条　本協会の主催する競技会及びそれに準ずる大会の出場は登録を必要とする。

第七章　会　計

第二十一条　本協会の経理は、登録料、参加料、寄付金、その他の収入をもってする。

第二十二条　本協会の会計年度は、四月一日から始まり翌年三月三十一日に終わる。

附　則

1　本規約は、昭和三十年四月一日から施行する。

附　則

1　本規約は、昭和六十三年四月一日から施行する。

附　則

1　本規約は、平成二年四月一日から施行する。

附　則

1　本規約は、平成三年四月一日から施行する。

附　則

1　本規約は、平成十一年四月一日から施行する。

徳島県バドミントン協会役員名簿

平成26年3月31日現在

顧問	黒川　勉　新見　泰志　西谷　功
参与	江川　正治　久次米慶二　近藤　治郎　森　茂行　泉　理彦 吉田　泰造　増金　秀行　牛川　務　福山　雅史
会長	西野　昌明
副会長	藤本　孝彰　後東　俊博　河野　幸男　森田　茂
理事長	杉内　邦弘
副理事長	伊藤　浩二　吉岡　努　戸崎　義　桒原　孝司
常任理事	福家　秋男　井貝　辰男　岡佐古拓也　佃　善博　澤田　慎也 高田由紀江　大阪真智子　松田めぐみ　山田　博文　加藤　真人 藤本　伸　橋本　浩志　植田　宏和　山田　佳弘
理事	岡田　知大　國安　寿昭　松下　幸介　鎌倉　準　吉田　格 中山　久美　笠井　雅子　橋本　敏紹　森本　政美　豊富　恵子 桂　由美　村田　留美　吉野　伸俊　小寺　由香　眞鍋　和也 西岡　宏記　杉内　一浩　三谷　宜弘　藤本ひとみ　輝尾　明人 多田　巧
監事	中山　良男　吉田　榮助　生田　泰之

編集後記

徳島県バドミントン協会創立55周年の記念誌発刊については、平成26年３月の総会において、西野会長から、「創立60周年の節目に記念誌を発刊したい」との強い要望がありました。

このため、昭和61年の素晴らしい「30年誌」に次ぐ、２回目の記念誌作成となることから、急ぎ、各傘下団体をはじめ、役員の中から編集委員を募り、編纂作業を始めることにいたしました。

しかし、全員仕事を持ちながらの素人編集委員であることから企画段階での全体構成・60年の歴史・資料等をどのようなものを載せたらよいか、どのような形式で表したらよいか等々なかなか企画案がまとまらず皆様の期待に添うようなものに仕上がったか心配しております。

やっとの思いで企画案ができ、原稿依頼となりましたが、短期間にもかかわらず多くの方々からご快諾をいただき、心からお礼申し上げます。

実質１年という編集作業のため、資料の収集・確認・分析を十分に行うことができませんでした。特に、資料収集が不十分であり、記録が空白になっている部分もあり心残りです。

今後の記念誌編集のためにも、当時の資料等がありましたら編集委員までご一報いただければ幸甚です。

終わりになりましたが、お忙しい中、ご祝辞、ご寄稿、資料提供など、ご協力をいただきました多くの皆様方にお礼申し上げます。

編集顧問　西野　昌明

編集委員長　吉岡　　努

編集委員　大阪真智子　岡佐古拓也　岡田　知大　桒原　孝司

寺内　智子　戸崎　　義　橋本　浩志　松田めぐみ